



JUNTENDO UNIVERSITY  
SHIZUOKA HOSPITAL

# 順天堂大学医学部附属 静岡病院 年報



2022年度版



2022 年度版静岡病院年報発刊に寄せて

順天堂大学医学部附属静岡病院院長 佐藤浩一

2022 年度も新型コロナウイルス感染症は猛威を振るい、第 7 波に至っては感染患者の激増から、当院でも 8 月に入り既存の即応病床数 12 床から 4C 病棟に 30 床を増床し、合計 42 床で運用を開始しました。その後、感染患者は減少と増加を繰り返しながら、11 月には 18 床の運用となりました。2023 年 1 月には総合周産期母子医療センターのベッド 3 床を妊婦の感染患者用に運用しました。3 月に入り、感染患者は減少し感染状況もフェーズ 1 となったことにより即応病床 12 床で対応しております。また当院は静岡県より静岡県ワクチン大規模接種会場に指定され、地域住民への新型コロナワクチン接種を施行して参りましたが、11 月 17 日からは乳幼児（生後 6 ヶ月～4 歳）のコロナワクチン接種も開始しました。

2022 年 3 月 22 日、新棟に完成したハイブリッド手術室でいよいよ経カテーテル弁置換術（TAVI）が開始されました。循環器内科、心臓血管外科が合同で行い、また本院の循環器内科、心臓血管外科のご協力も頂き、大きな合併症も無く、2022 年度の実績は 58 件と順調に症例を重ねております。静岡県東部には高齢者で大動脈弁狭窄症を有する多くの患者さんが潜在的に存在すると考えられています。こうした患者さんに低侵襲である TAVI の技術を使って治療していきたいと考えております。

2021 年、地域医療連携推進法人として静岡県より認定を受け、静岡県東部メディカルネットワークが誕生しました。開設当初、参加法人は順天堂大学医学部附属静岡病院、慈広会記念病院、リハビリテーション中伊豆温泉病院、長岡リハビリテーション病院の 4 病院でしたが、9 月 1 日には伊豆赤十字病院、2023 年 4 月 1 日には三島総合病院に参加して頂き 6 病院となり、規模も少しずつ大きくなって参りました。また慈広会記念病院より 56 床の病床融通を受け、静岡県より 633 床の許可病床を頂いておりますが、主に看護師不足が原因でフルオープンが出来ず、しかしながら何とかやり繰りし、5 月 1 日より稼働病床が 577 床から 603 床になっております。今後は 633 床での運用を目指して、職員の獲得や既存棟の改修に務めていきたいと思っております。

10 月 1 日、静岡県を主会場とした大規模災害時医療訓練（政府訓練）への参加および連動して院内災害訓練を行いました。当院の位置する静岡県東部は、南海トラフ大地震、台風による風水害、富士山噴火など常に大きな災害に見舞われる可能性があります。災害拠点病院である静岡病院は、これらの大災害に備え十分な訓練を積み重ねていく所存であります。

# 行事写真



新入職員講習会



看護師特定行為研修 開講式



大規模災害時胃医療訓練



東部周産期研究会



看護師特定行為研修 修了式



臨床研修医修了証書授与式

# ミニレクチャー(動画 WEB 配信)

WEB 配信

## コロナ禍の 心の反応とケア について

講師  
当院 メンタルクリニック  
ひろせ やすこ  
臨床心理士 廣瀬 寧子

第8回ミニレクチャー動画  
順天堂大学医学部附属静岡病院

配信期間  
2022年 4月1日(金) ~ 4月30日(土)

- ◆約15分間のミニレクチャー動画
- ◆視聴無料・申込不要



左のQRコードから動画視聴専用ページへ移行します。



【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話:055-948-3111  
病院ホームページ: <https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

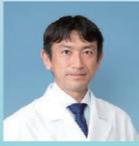
順天堂大学医学部附属静岡病院  
第9回ミニレクチャー動画

WEB 配信

## あなたの胃に ピロリ菌はいますか?

配信期間  
2022.6.1[wed]-6.30[thu]

- ◆約10分間のミニレクチャー動画
- ◆視聴無料・申込不要



講師  
消化器内科 准教授  
嶋田 裕慈 医師



上記QRコードから動画視聴専用ページへ移行します。

【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話:055-948-3111  
病院ホームページ: <https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院  
第10回ミニレクチャー動画 WEB配信

## 薬のハテナ



講師 きのした ふみかず  
木下 史一  
当院 薬剤師

-配信期間-  
2022年 8/1(月) >> 8/31(水)

- ◆視聴無料・申込不要
- ◆約10分間のミニレクチャー動画



左のQRコードから動画視聴専用ページへ移行します。

【お問合せ】  
順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話:055-948-3111  
病院ホームページ: <https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

Web配信

順天堂大学医学部附属静岡病院  
第11回 ミニレクチャー動画

## 『体を動かして元気を保つ』

【配信期間】  
10月1日(土) ~ 10月31日(月)



講師 リハビリテーション科 准教授  
田沼 明 医師



- ◆視聴無料・申込不要
- ◆約10分間のミニレクチャー動画



左のQRコードから動画視聴専用ページへ移行します。

【お問い合わせ】  
順天堂大学医学部附属静岡病院  
地域医療連携室 TEL 055-948-3111  
病院HP <https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院  
第12回ミニレクチャー動画

## 『医療ソーシャルワーカー』 って何？

講師

医療福祉相談室

医療ソーシャルワーカー

ソーシャルワーカーの業務に関するご説明や、私たちが日頃取り扱うことの多い社会保障制度についてご案内させていただきます。



WEB配信

- ◆約10分間のミニレクチャー動画
- ◆視聴無料・申込不要

配信期間

12月1日(木) » 12月30日(金)



左のQRコードから  
動画視聴専用ページへ  
移行します。

【お問い合わせ】  
順天堂大学医学部附属静岡病院  
地域医療連携室 電話：055-948-3111  
病院HP：https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/



順天堂大学医学部附属静岡病院  
第13回ミニレクチャー動画

## 関節リウマチ について知ろう

配信期間

2023年2月1日(水) » 2月28日(火)

WEB配信



講師

膠原病・リウマチ内科

岡田 隆 医師

- ◆約10分間のミニレクチャー動画
- ◆視聴無料・申込不要



左のQRコードから  
動画視聴専用ページへ  
移行します。

【お問い合わせ】  
順天堂大学医学部附属静岡病院  
地域医療連携室 電話：055-948-3111  
病院HP：https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/

# 目次

## 1. 病院概要

1-1	基本理念・基本方針・施設概要 .....	3
1-2	組織機構図 .....	4
1-3	所属長一覧 .....	5
1-4	医師名簿 .....	6
1-5	職員数 .....	7
1-6	各種委員会 .....	8
1-7(1)	活動報告 .....	10
1-7(2)	講演会 .....	12
1-8	社会貢献・地域交流活動 .....	13
1-9	指定・認定・許可事項 .....	14

## 2. 診療科報告

2-1	膠原病・リウマチ内科 .....	19
2-2	血液内科 .....	21
2-3	消化器内科 .....	24
2-4	呼吸器内科 .....	27
2-5	腎臓内科 .....	29
2-6	糖尿病・内分泌内科 .....	31
2-7	循環器内科 .....	33
2-8	小児科 .....	44
2-9	小児外科 .....	47
2-10	一般外科 .....	51
2-11	脳神経外科 .....	56
2-12	整形外科 .....	61
2-13	脳神経内科 .....	66
2-14	心臓血管外科 .....	70
2-15	呼吸器外科 .....	74
2-16	形成外科 .....	76
2-17	眼科 .....	78
2-18	耳鼻咽喉科 .....	83
2-19	麻酔科・ペインクリニック .....	85
2-20	放射線科 .....	87
2-21	メンタルクリニック .....	88
2-22	皮膚・アレルギー科 .....	90
2-23	泌尿器科 .....	93
2-24	産婦人科・総合周産期母子医療センター .....	98
2-25	救急診療科 .....	102
2-26	病理診断科 .....	109
2-27	リハビリテーション科 .....	111
2-28	臨床検査科 .....	114

### 3. 部門報告

3-1	薬剤科	117
3-2	栄養科	120
3-3	放射線室	122
3-4	検査室	126
3-5	手術室	128
3-6	血液浄化センター	129
3-7	臨床工学室	131
3-8	輸血室	133
3-9(1)	看護部	135
3-9(2)	看護総務課	141
3-9(3)	看護外来業務課	145
3-9(4)	看護教育課	147
3-10	救命救急センター	155
3-11	ドクターヘリ運航対策室	154
3-12	新生児センター	160
3-13	がん治療センター	162
3-14	予防医学センター	164
3-15	GCPセンター	167
3-16	臨床研修センター	169
3-17	看護師特定行為研修センター	173
3-18	こどものこころのケアセンター	180
3-19(1)	地域医療連携室	181
3-19(2)	医療福祉相談室	182
3-19(3)	入退院支援室(退院支援看護師)	183
3-19(4)	患者・看護相談室	185
3-19(5)	受診相談・総合案内	186
3-20	医療安全管理室	187
3-21	感染対策室	189
3-22	健康安全推進センター	192

### 4. 統計

4-1.2	病床利用率・在院日数	196
4-3	診療科別延患者数(外来)	197
4-4	診療科別延患者数(入院)	198
4-5	新患者数(外来)	199
4-6	新患者数(入院)	200
4-7	退院患者数	201
4-8.9	年齢別延患者数(外来・入院)	202
4-10	地区別延患者数(外来)	203
4-11	地区別延患者数(入院)	204

# 1. 病院概要



## 1-1 基本理念

1. 学是「仁」の精神で人々の生命を尊重する
2. 「不断前進」の理念で創造的な前進と改革を進める
3. 大学医学部附属病院として、診療・教育・研究の充実を計る

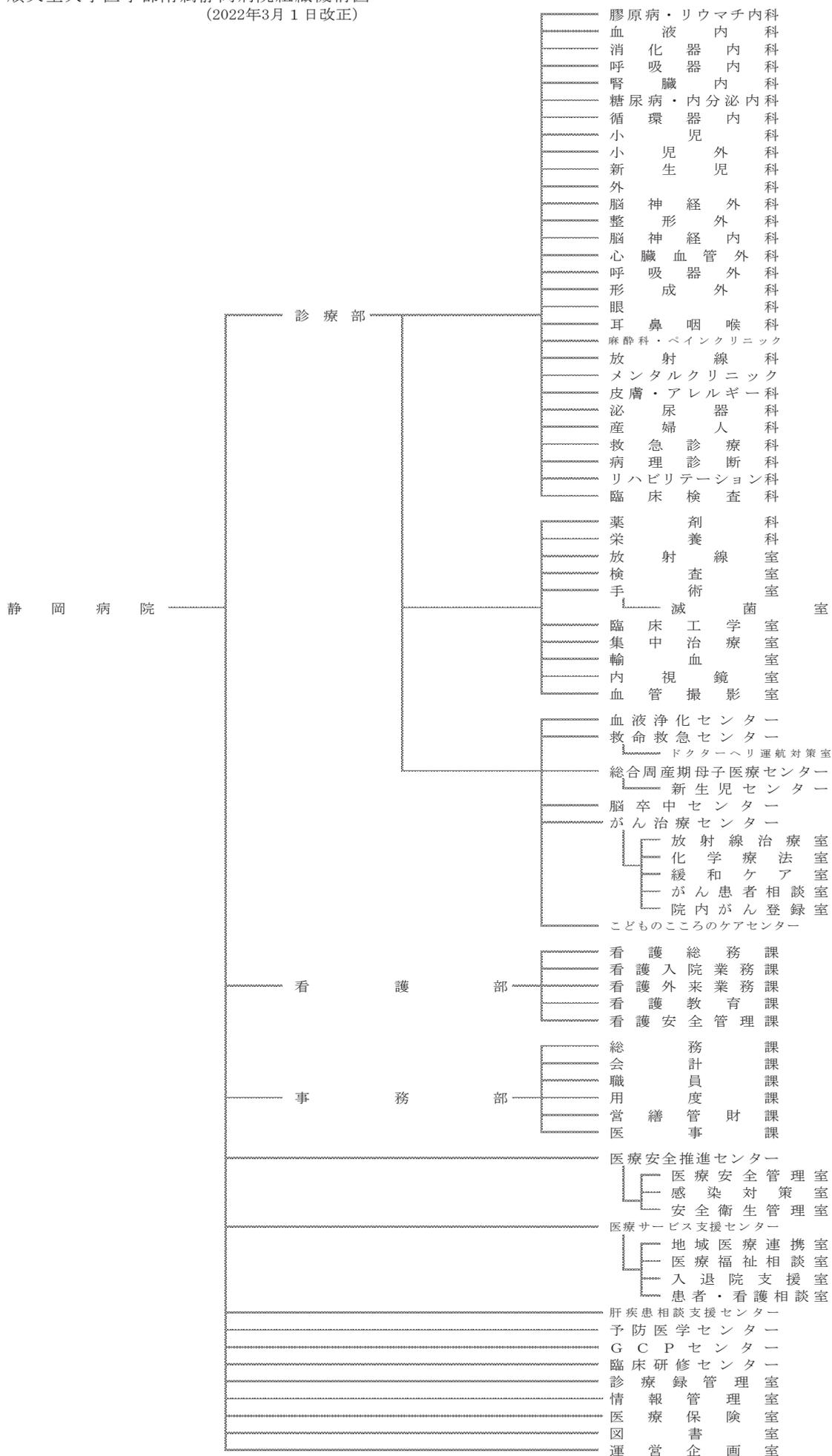
## 1-2 基本方針

1. 患者さん一人一人に、安全で根拠に基づく高い質の医療を提供する
2. 患者さんに満足していただける、きめ細かい手作りの看護をおこなう
3. 快適な療養生活ができる環境を提供する
4. 医療安全対策、病病・病診連携に取り組む
5. 最新の医療情報の提供に努める

## 1-3 施設概要

名称	:	順天堂大学医学部附属静岡病院
所在地	:	〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡 1129
電話番号	:	055-948-3111(代表)
FAX	:	055-948-5088
敷地面積	:	27,122.83 平方メートル
病床数	:	633 床(稼働病床 602 床) ※2022.3.31 現在

順天堂大学医学部附属静岡病院組織機構図  
(2022年3月1日改正)



### 1-3 所属長一覧

令和5年3月31日現在

部 署	責 任 者	部 署	責 任 者
院長	佐藤 浩一	看護部長	田中 ひとみ
副院長	藤田 和彦	看護総務課	矢田 みどり
副院長	諏訪 哲	看護入院業務課	野澤 陽子
院長補佐	岩神 真一郎	看護外来業務課	濱口 真知子
院長補佐	山本 拓史	看護教育課	堀込 克代
診療部長	山本 拓史	看護安全管理課	荻島 真弓
膠原病・リウマチ内科	片桐 彰	事務部長	小野 隆宏
血液内科	高野 弥奈	総務課	小池 直樹
消化器内科	玄田 拓哉	会計課	小野 隆宏
呼吸器内科	岩神 真一郎	職員課	阿部 幸雄
腎臓内科	清水 芳男	用度課	尾崎 治之
糖尿病・内分泌内科	野見 山崇	営繕管財課	小野 隆宏
循環器内科	諏訪 哲	医事課	萩原 賛泰
小児科	馬場 洋介	救命救急センター	柳川 洋一
新生児科	大川 夏紀	ドクターヘリ運航対策室	柳川 洋一
小児外科	瀬尾 尚吾	新生児センター	大川 夏紀
外科	前川 博	総合周産期母子医療センター	田中 利隆
脳神経外科	山本 拓史	脳卒中センター	山本 拓史
整形外科	大林 治	がん治療センター	田中 顕一郎
脳神経内科	野田 和幸	放射線治療室	川本 晃史
心臓血管外科	梶本 完	化学療法室	高野 弥奈
呼吸器外科	市之川 英臣	緩和ケア室	三澤 恭平
形成外科	荻部 綾香	がん患者相談室	金田 容秀
眼科	太田 俊彦	院内がん登録室	田中 顕一郎
耳鼻咽喉科	楠 威志	こどものこころのケアセンター	桐野 衛二
麻酔科・ペインクリニック	尾前 毅	肝疾患相談支援センター	玄田 拓哉
放射線科	入江 隆介	予防医学センター	清水 芳男
メンタルクリニック	桐野 衛二	GCPセンター	玄田 拓哉
皮膚・アレルギー科	長谷川 敏男	臨床研修センター	中尾 保秋
泌尿器科	藤田 和彦	診療録管理室	大林 治
産婦人科	田中 利隆	情報管理室	中尾 保秋
救急診療科	柳川 洋一	医療安全推進センター	藤田 和彦
病理診断科	和田 了	医療安全管理室	藤田 和彦
臨床検査科	田内 一民	感染対策室	岩神 真一郎
薬剤科	玄田 拓哉	安全衛生管理室	桐野 衛二
栄養科	前川 博	医療サービス支援センター	櫻田 睦
放射線室	入江 隆介	地域医療連携室	櫻田 睦
検査室	和田 了	医療福祉相談室	櫻田 睦
手術室	尾前 毅	入退院支援室	櫻田 睦
滅菌室	尾前 毅	患者・看護相談室	櫻田 睦
リハビリテーション科	田沼 明	医療保険室	山本 拓史
血液浄化センター	清水 芳男	図書室	諸橋 達
臨床工学室	尾前 毅	運営企画室	小野 隆宏
集中治療室	久米村 正輝		
輸血室	岩尾 憲明		
内視鏡室	伊藤 智彰		
血管撮影室	諏訪 哲		

1-4 医師名簿

□併任 令和5年3月31日現在

膠原病・リウマチ内科	小児科	諸橋達	洪景都	病理診断科
片桐彰	馬場洋介	糸井秀一	山崎翔	和田了
津島浩	島田姿野	守屋秀一	久米村正輝	山下淳史
岡田隆	宮林和紀	分島智子	櫻庭園子	臨床検査科
古澤星子	羽根将之	古城智也	岩佐美	田内一民
血液内科	江原尚弘	塩原崇生	太田正孝	臨床研修医
高野弥奈	石田翔二	中井一輝	川口幹裕	阿部央聖
小池道明	木村寛太郎	富澤杏奈	吉武翔太郎	飯田優輝
岩尾憲明	秋庭崇人	森川嵩大	中村萌	遠藤翼
三澤恭平	松田慎平	木原航	木本香純	大久保樹
本田匡宏	新生児科	山本悠矢	廣瀬友基	大塚隆弘
森洋輔	大川夏紀	今津範純	八子一	喜古博之
築島健介	磯武史	布谷茉莉香	尾村有己	北田裕樹
消化器内科	高岡優里	リハビリテーション科	放射線科	栗山充
玄田拓哉	栗田健太郎	田沼明	入江隆介	後藤直
嶋田裕慈	高橋誉弘	口大林治	川本晃史	藤田千佳
佐藤俊輔	谷本亮輔	脳神経内科	池之内穰	坂本怜
村田礼人	富田紗也佳	野田和幸	橋本怜	佐野永輝
佐藤祥	渡邊晶子	大熊泰之	浅利雄介	佐野瑞樹
巖理華	岩原可名人	藤巻基紀	底押秀明	四藏祥吾
西村安梨沙	松田明奈	石黒雄太	メンタルクリニック	鈴木雄大
池田裕至	小児外科	新山竣一	桐野衛二	高橋旭翔
内田涼太	瀨尾尚吾	大澤彬慈	島田隆史	武田尚明
呼吸器内科	中島秀明	心臓血管外科	永井康仁	長井浩二
岩神真一郎	池上満智彰	梶本完	皮膚・アレルギー科	中森惟人
岩神直子	外科学科	畑博明	長谷川敏男	根上拓也
早川乃介	佐藤浩一	大石淳実	生玉梨紗	橋川武史
吉田隆司	前川博	小田遼馬	加藤芙未	深瀬裕之
渡邊敬康	田中顕一郎	松井友紀	宗田昂己	宮谷和樹
岡島耀史	櫻田睦	呼吸器外科	石原俊太郎	山田瑛文
早川瑛梨	櫛田知志	市之川英臣	村松海人	池谷紗瑛
腎臓内科	伊藤智彰	鈴木未希	泌尿器科	今村達哉
清水芳男	上田脩平	曾和嵩	藤田和彦	太田広天
若林啓一	加藤永記	形成外科	長屋直哉	小野田雄介
長澤肇	山本陸	荻部綾香	中島晶子	切明大
中井公美	小泉明博	東名怜	三好悠斗	崔美善
池田尚基	村井勇太	山本はる	永島優生	田代大地
鈴木魁	小池周一	眼科	成田周一郎	檀聡
糖尿病・内分泌内科	秋間龍之介	太田俊彦	三好美穂	鳥沢規子
野見山崇	野萩薫子	土至田宏	古屋匡史	永合浩己
佐藤元律	渡邊武大	朝岡聖子	産婦人科	成田遼
山崎望	上川祐輝	杉田丈夫	田中利隆	野田健斗
東村奎	渡邊ゆきの	の平井麻紀	金田容秀	花川翔太
長嶋春樹	脳神経外科	大谷洋揮	田中里美	黄奔達
安田晴菜	山本拓史	小森翼	矢田昌太郎	保高哲人
武藤麗奈	中尾保秋	市川浩平	保田歩	前川ちひろ
循環器内科	眞上俊亮	石川千尋	九鬼紗葵	松原颯
諏訪哲	中嶋伸太郎	菊池遥太	岩垣杏奈	水川結貴
荻田学	高木悠輝	桐山雅通	平井みつ子	山口哲朗
和田英樹	足立知司	岩崎有真	伊地知航司	山口征大
塩澤知之	牧野健作	諸岡裕城	瀬山理恵	横地郁哉
谷津翔一朗	山高元暉	耳鼻咽喉科	救急診療科	吉田華
設樂準	藤田修英	楠威志	柳川洋一	吉松孝彦
高野信太郎	室伏敬介	本間博友	大森一彦	
園田健人	池村涼吾	城所淑信	石川浩平	
真優スレーショナル	植木泰仁	佐藤将盛	大坂裕通	
阿部圭希	整形外科	榊原万佑	竹内郁人	
小野里匠也	大林治	麻酔科	村松賢一	
中村優	最上敦彦	尾前毅	太田宗一郎	
	神田章男	長谷川陽子	藤田航	

# 1-5 職員数

令和5年3月31日現在

職 種	正規職員		パート		小計	派遣・委託		小計	合計
	男	女	男	女		男	女		
看護師	106	561		6	673			0	673
助産師		36			36			0	36
准看護師		7			7			0	7
介護福祉士	6	11		1	18			0	18
助手	1	2		7	10	1	88	89	99
中材・滅菌						5	29	34	34
事務員		1			1		17	17	18
小計	113	618	0	14	745	6	134	140	885
薬剤師	24	9		5	38			0	38
薬剤科事務員					0		12	12	12
診療放射線技師	29	6	1		36			0	36
放射線室助手					0			0	0
放射線室事務員					0		4	4	4
臨床検査技師	8	23	1	5	37			0	37
検査室看護師		2		5	7			0	7
検査室事務員					0		11	11	11
理学療法士	16	6			22			0	22
作業療法士	3	3			6			0	6
言語聴覚士	1	2			3			0	3
リハビリテーション科事務員					0		1	1	1
管理栄養士	2	4		1	7			0	7
栄養士	1	1		1	3			0	3
調理師	13	2			15			0	15
栄養科助手	2	2			4	10	39	49	53
栄養科事務員				1	1			0	1
視能訓練士	2	4			6			0	6
臨床工学技士	10	2		1	13			0	13
臨床心理士		2			2			0	2
メンタルクリニック助手		1			1			0	1
小計	111	69	2	19	201	10	67	77	278
事務員	48	27		8	83	11	179	190	273
社会福祉士	4	3			7				7
保育士		6			6				6
技術・労務・警備・施設	3				3	66	49	115	118
助手					0		17	17	17
医局秘書				4	4				4
小計	55	36	0	12	103	77	245	322	425
医療安全管理者		1			1			0	1
感染管理者		2			2			0	2
患者看護相談室 看護師・准看護師		1			1			0	1
医療福祉相談室 看護師・准看護師		3			3			0	3
入退院支援室 看護師・准看護師		7			7			0	7
がん治療センター 看護師・准看護師		8			8			0	8
小計	0	22	0	0	22	0	0	0	22
医 師	特任教授	4			4			0	4
	教授	15			15			0	15
	先任准教授	2			2			0	2
	先任准教授(臨床)	6	1		7			0	7
	准教授(大学院)	1			1			0	1
	准教授(講座)	6			6			0	6
	准教授(診療)	7	1		8			0	8
	准教授(実習)	3			3			0	3
	准教授(教育)	6			6			0	6
	講師		1		1			0	1
	助教	34	8		42			0	42
	助手	54	24		78			0	78
	専攻生	11	3		14			0	14
大学院生	15	5		20			0	20	
シニアレジデント	5	2		7			0	7	
非常勤助手				0			0	0	
臨床研修医	40	7		47			0	47	
小計	209	52	0	0	261	0	0	0	261
合計	488	797	2	45	1,332	93	446	539	1,871

## 1-6 各種委員会

2022年4月1日時点

委員会名	委員長名	委員会名	委員長名
病院運営委員会	佐藤 浩一	運営協議会	佐藤 浩一
診療会議	山本 拓史	管理会議	小野 隆宏
医療安全・危機管理委員会	藤田 和彦	感染対策委員会	岩神 真一郎
災害対策委員会	柳川 洋一	救命救急センター運営会議	柳川 洋一
褥瘡対策委員会	荻部 綾香	静岡病院安全衛生委員会	桐野 衛二
放射線安全委員会	川本 晃史	放射線治療品質管理委	川本 晃史
放射線被ばく安全委員会	川本 晃史	CPC・CRC・デスカンファレンス委員会	和田 了
臨床倫理委員会	玄田 拓哉	倫理審査委員会	玄田 拓哉
治験審査委員会	玄田 拓哉	医療保険委員会	山本 拓史
施設基準委員会	山本 拓史	薬事委員会	楠 威志
資材委員会	諏訪 哲	機種選定委員会	佐藤 浩一
クリニカルパス委員会	神田 章男	DPC コーディング委員会	山本 拓史
内視鏡運営委員会	伊藤 智彰	輸血療法委員会	岩尾 憲明
手術室運営委員会	尾前 毅	病棟利用・外来対策委員会	山本 拓史
臨床検査適正化委員会	和田 了	予防医学センター運営委員会	清水 芳男
医療情報システム委員会	中尾 保秋	広報委員会	最上 敦彦
脳死・臓器移植委員会	野田 和幸	虐待対策委員会	島田 姿野
がん治療センター運営委員会	田中 颯一郎	がん診療委員会	田中 颯一郎
栄養管理委員会	前川 博	医療機器保守委員会	諏訪 哲
廃棄物管理委員会	和田 了	医療ガス安全管理委員会	長谷川 陽子
看護師特定行為研修管理委員会	太田 俊彦	看護師特定行為業務管理委員会	石川 浩平
勤務環境改善委員会	山本 拓史	業務委託委員会	藤田 和彦
礼儀・接遇マナー向上委員会	山本 拓史	ご来院皆様の声検討委員会	櫻田 睦
人権委員会	佐藤 浩一	診療録管理委員会	大林 治
図書管理委員会	諸橋 達	透析機器安全管理委員会	清水 芳男

病院運営委員会	佐藤浩一	運営協議会	佐藤浩一
静岡病院専門研修医プログラム委員会	太田俊彦	臨床研修センター会議	中尾保秋
研修管理委員会	佐藤浩一		

## 1-7(1) 活動報告

年月日	会議・行事実施事項
4. 4. 1	新入職員オリエンテーション
〃	看護師特定行為研修開講式
5. 16	褥瘡対策研修会（～6月30日 eラーニング）
6. 6	春季健康診断（～17日）
17	ドクターヘリ事後検証会
7. 5	医療安全研修会（～2月28日 DVD）
9. 1	感染対策研修会（～2月28日 eラーニング）
26	ドクターヘリ事後検証会
10. 1	大規模地震時医療活動政府訓練、院内訓練
11. 30	東部保健所病院立入書面検査
12. 6	秋季健康診断（～10日）
9	ドクターヘリ事後検証会
19	静岡県東部ドクターヘリ運航調整委員会（書面開催）
21	消防図上訓練（12/21、2/20）
5. 1. 5	賀詞交歓会
20	洪水・土砂災害避難訓練
2. 1	抗菌薬研修会（～2月28日 eラーニング）
3. 16	臨床研修医修了証書授与式
〃	看護師特定行為研修修了式
17	ドクターヘリ事後検証会
上記のほか毎月定例として開催される会議	
第1火曜日	薬事委員会、治験審査委員会、がん診療委員会
第1木曜日	管理会議
第2月曜日	資材委員会
第2水曜日	診療会議、医療情報システム委員会（奇数月）
第3火曜日	業務委託委員会
第3水曜日	クリニカルパス委員会（奇数月及び4月）、救命救急センター運営会議（奇数月）

第3木曜日	栄養管理委員会（奇数月及び4月）
第3金曜日	医療安全危機管理委員会
第4月曜日	運営協議会
第4水曜日	静岡病院安全衛生委員会
第4木曜日	褥瘡対策委員会、がん治療センター運営委員会（奇数月）
第4金曜日	感染対策委員会
最終水曜日	施設基準委員会、医療保険委員会
毎月1回	病院運営委員会
隔月1回	輸血療法委員会、内視鏡運営委員会、災害対策委員会
3ヶ月に1回	コーディング委員会、臨床研修センター会議、診療録管理委員会、放射線安全委員会、 広報委員会

## 1-7(2). 講演会

年 月 日	講 座 名 ・ テ ー マ
4. 4. 1	ミニレクチャー動画配信<動画配信> (～4月 30 日) 「コロナ禍の心の反応とケアについて」
6. 1	ミニレクチャー動画配信<動画配信> (～6月 30 日) 「あなたの胃にピロリ菌はいますか？」
7. 14	第 48 回 東部周産期研究会 「超音波でわかる胎児期の腹部外科疾患」 「新生児に対する内視鏡手術」
8. 1	ミニレクチャー動画配信<動画配信> (～8月 31 日) 「薬のハテナ」
10. 1	ミニレクチャー動画配信<動画配信> (～10月 31 日) 「体を動かして元気を保つ」
12. 1	ミニレクチャー動画配信<動画配信> (～12月 30 日) 「『医療ソーシャルワーカー』って何？」
12. 22	第 49 回 東部周産期研究会 「妊婦の血糖管理」 「見逃してはならない新生児の低血糖」
5. 2. 1	ミニレクチャー動画配信<動画配信> (～2月 28 日) 「関節リウマチについて知ろう」
3. 9	第 50 回 東部周産期研究会 「コロナ禍での周産期メンタルヘルスの重要性とその対応」 「新生児科から見た妊産婦のメンタルヘルスケア」

## 1-8. 社会貢献・地域交流活動

年 月 日	活 動 名
4. 4. 1	市民公開講座ミニレクチャー動画「コロナ禍の心の反応とケアについて」(Web 配信～4月30日)
6. 1	市民公開講座ミニレクチャー動画「あなたの胃にピロリ菌はいますか？」(Web 配信～6月30日)
27	静岡県立伊豆総合高校 職業講和 (講師派遣)
8. 1	市民公開講座ミニレクチャー動画「薬のハテナ」(Web 配信～8月31日)
18	加藤学園高等学校 職業講和 (講師派遣)
10. 1	市民公開講座ミニレクチャー動画「体を動かして元気を保つ」(Web 配信～10月31日)
11. 1	伊豆市立修善寺中学校 「職業人に話を聞く会」(講師派遣)
12. 1	市民公開講座ミニレクチャー動画「『医療ソーシャルワーカー』って何？」(Web 配信～12月30日)
13	静岡県立伊豆中央高校 職業講和 (講師派遣)
17	静岡県看護連盟主催 東部地区支部講習会「家族看護の基本を学ぶ ～家族の持っている力を引き出す関り～」(講師派遣)
5. 1. 28	青陵中学校高等学校 職業講和 (講師派遣)
2. 1	市民公開講座ミニレクチャー動画「関節リウマチについて知ろう」(Web 配信～2月28日)
3	静岡県東部保健所主催 病院と地域医療・介護の連携のための研修会 (講師派遣)
20	医療と福祉の多職種勉強会 (講師派遣)
27	卒業生と在学生との懇談会 (聖隷クリストファー大学) (講師派遣)
3. 16	静岡県立富士宮西高等学校 職業講和 (講師派遣)

## 1-9 指定・認定・許可事項

指 定 事 項	指 定 年 月 日
救命救急センター 40床	昭和56年11月1日
新生児センター 30床	昭和57年4月1日
エイズ拠点病院	平成8年5月20日
災害拠点病院	平成8年11月26日
日本医療機能評価機構認定病院	平成16年3月15日(初回認定日)
静岡県東部ドクターヘリ基地病院	平成16年3月17日
臨床研修指定病院	平成16年4月1日
地域がん診療連携拠点病院	平成19年1月31日
総合周産期母子医療センター	平成20年8月1日
静岡県肝疾患診療連携拠点病院	平成21年3月10日
DPC 対象病院	平成23年4月1日
災害派遣医療チーム静岡 DMAT 指定病院	平成24年3月1日
指定小児慢性特定疾病医療機関	平成27年1月1日
難病法に係る難病指定医療機関	平成27年1月1日
静岡県アレルギー疾患医療拠点病院	平成30年10月1日
肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関	平成30年12月1日
地域医療支援病院	令和2年1月7日
特定行為研修指定研修機関	令和2年2月26日

診療科名	学会認定
呼吸器内科	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
消化器内科	日本消化器病学会認定施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本消化管学会胃腸科指導施設
膠原病・リウマチ内科	日本リウマチ学会教育施設
血液内科	日本血液学会血液研修施設
腎臓内科	日本透析医学会教育関連施設
	日本腎臓学会研修施設
糖尿病・内分泌内科	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本内分泌学会認定教育施設

循環器科	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本循環器学会循環器専門医研修施設
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
	日本循環器学会トランスサイレチン型心アミドースに対するビンダケル導入施設認定
循環器科	補助人工心臓治療関連学会協議会
	IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
外科	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本胃癌学会認定施設
	日本食道学会全国登録認定施設
	日本外科学会外科専門医制度修練施設
	日本消化器外科学会専門医修練施設
	日本大腸肛門病学会関連施設
	日本乳癌学会関連施設
	日本乳癌学会認定施設
	日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設
	日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設
	日本膵臓学会認定指導施設
麻酔科・ペインクリニック	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
	日本専門医機構麻酔科専門研修プログラム認定
	日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
	日本ペインクリニック学会指定研修施設
脳神経外科	日本脳卒中学会研修教育施設
	日本脳神経外傷学会研修施設認定
	日本専門医機構脳神経外科専門医研修プログラム認定
	一般社団法人 National Clinical Database 施設会員
	日本脳卒中学会一次脳卒中センター
整形外科	日本整形外科学会専門医制度研修施設
	日本手外科学会研修施設
	日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
心臓血管外科	関連 10 学会構成 ステントグラフト実施基準管理委員会 腹部ステントグラフト実施施設
	関連 10 学会構成 日本ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部ステントグラフト実施施設
	下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設

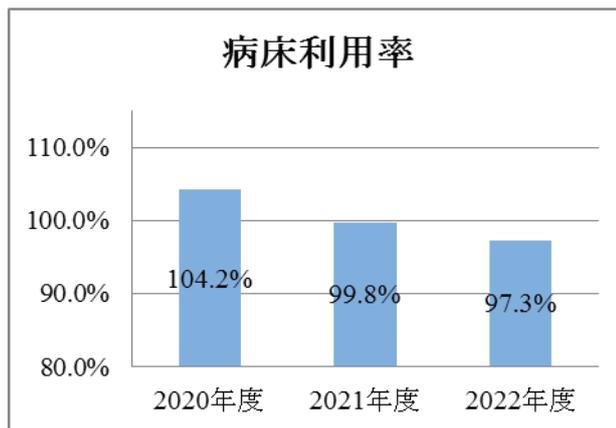
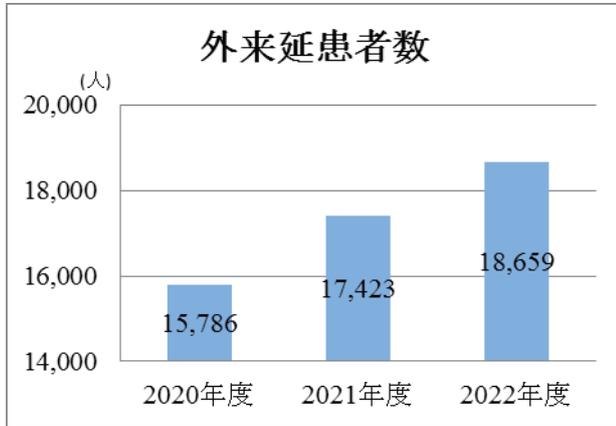
新生児科	日本周産期・新生児医学会周産期専門医（新生児）認定施設 （基幹施設）
小児科	日本小児科学会小児科専門医研修施設
	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
眼科	日本眼科学会専門医制度研修施設
	日本角膜学会羊膜移植実施施設
耳鼻咽喉科	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
脳神経内科	日本神経学会教育施設
	日本臨床神経生理学会認定施設
皮膚・アレルギー科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
泌尿器科	日本泌尿器科学会専門医教育施設
産婦人科	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
	日本周産期・新生児医学会認定施設
	静岡県医師会母体保護法指定医師研修機関
	日本産科婦人科学会専門研修連携施設
	日本超音波医学会超音波専門医制度研修施設
	日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
	日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
メンタルクリニック	日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
	日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
呼吸器外科	呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設
放射線科	日本医学放射線学会専門医総合修練機関
救急診療科	日本航空医療学会認定施設
	日本救急医学会救急科専門医指定施設
	日本外傷学会外傷専門医研修認定施設
病理診断科	日本病理学会研修認定施設
リハビリテーション科	日本リハビリテーション医学会研修施設
救命救急センター	日本集中治療医学会専門医研修施設
栄養科	日本病態栄養学会栄養管理・NST 実地施設
	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
薬剤科	日本病院薬剤師会プレアボイド報告施設
がん治療センター	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本緩和医療学会認定研修施設

## 2. 診療科報告



## 2-1 膠原病内科・リウマチ科

### 診療実績



### 研究・教育活動

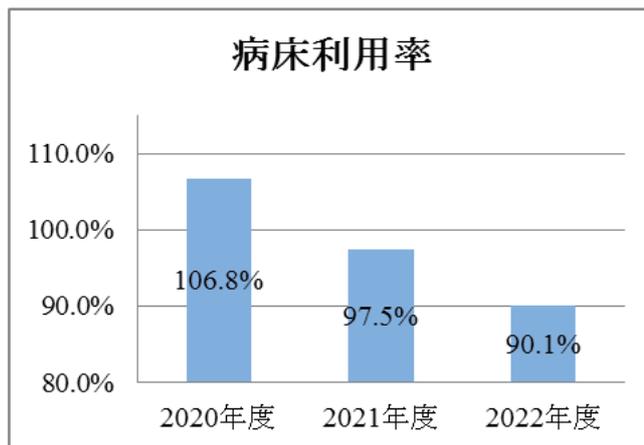
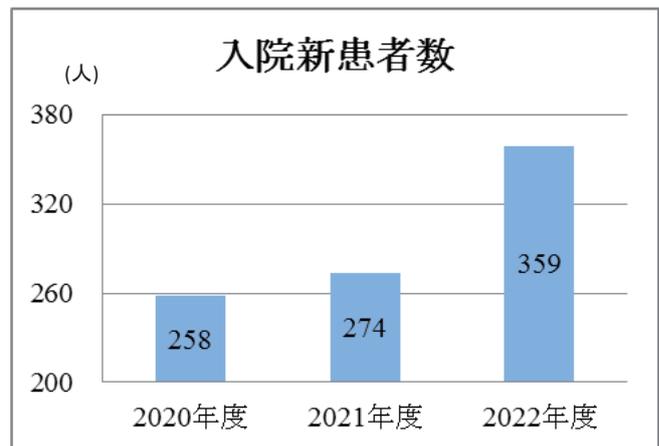
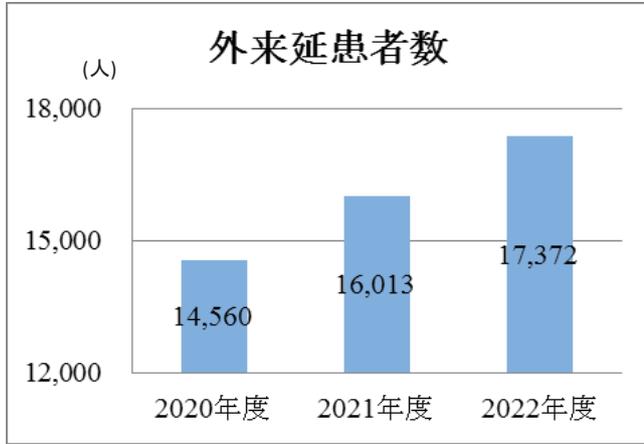
1. 東村奎、斎藤拓海、竹内幹、津島浩、岡田隆、片桐彰、山路健、田村直人「好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の経過中に両側尿結石嵌頓による急性腎不全をきたした一例」第66回日本リウマチ学会総

会 2022年4月27日

2. 松下雅和、小笠原倫大、多田久里守、草生真規雄、箕輪健太郎、阿部能之、塚原隆伊、森本真司、梁広石、天野浩文、野澤和久、松平蘭、片桐彰、山路健、田村直人「全身性エリテマトーデス患者における生活の質、骨密度、睡眠時間に関する検討：順天堂 SLE 前向きレジストリ研究（JUNP study）より」第66回日本リウマチ学会総会 2022年4月27日

## 2-2 血液内科

### 診療実績



## 2022年度 症例件数

白血病	41 件
悪性リンパ腫	94 件 (再発 21 件)
骨髄異形成症候群	44 件
多発性骨髄腫	21 件
再生不良性貧血	7 件
特発性血小板減少性紫斑病	27 件
溶血性貧血	1 件

## 研究、研究活動

### 原著

Misawa K, Yasuda H, Matsuda H, Hara M, Ochiai T, Koyama D, Takano H, Iwao N, Koike M, Development of Acute Adult T-cell Leukemia Following PD-1 Blockade Therapy for Lung Cancer. *Internal Medicine* 2022, 61,3421

Edahiro Y, Koike M, Nojiri S, Harada Y, Gotoh A, Fujibayashi Y, Yanagisawa N, Takaku T, Nitta H, Tsukune Y, Misawa K, Kobayashi H, Komatsu N. A pilot study examine the efficacy of hochnekkito for improving quality of life in patients with myeloproliferative neoplasms. *Jpn J Clin Oncol*,2022, 52, 880

Kyohei Misawa, Hajime Yasuda, Daisuke Koyama, Tadaaki Inano, Akemi Inoguchi, Chinami Shirasu, Hina Takano, Noriaki Iwao, Miki Ando, Michiaki Koike, Adult paroxysmal cold hemoglobinuria following mRNA COVID-19 vaccination *eJHaem*. 2022, 3, 992

Naoki Watanabe , Hideaki Kitahara, Tadahiro Honda, Hisayo Iwasaki, Noriaki Iwao, Norio Komatsu, Michiaki Koike , High incidence of disseminated intravascular coagulation and acute cerebral infarction in acute myeloid leukemia with cup-like nuclei *J Clin Exp Hematol*, 2022 , 62 ,249

### 和文原著

福田泰隆、枝廣陽子、高久智生、古屋智帆、白根脩一、浜野康晴、小池道明、

小松則夫、

TP0受容体作動薬の併用により多剤併用化学療法を施行しえた再生不良性貧血合併悪性リンパ腫, 臨床血液, 2022, 63, 20

## 発表

第84回日本血液学会学術集会 2022年10月15日

mRNA COVID-19ワクチン接種後に発症した発作性寒冷ヘモグロビン尿症の一例

三澤恭平1)、安田肇2)、小山大輔3)、稲野資明2)、岩尾憲明1)、高野弥奈1)、小池道明

第84回日本血液学会学術集会, 福岡, 2022年10月15日

稲野 資明、三澤 恭平、岩尾 憲明、大田 泰徳、小池 道明、急性リンパ芽球性リンパ腫への形質転換を呈したメソトレキセート関連リンパ増殖性腫瘍

日本血液学会第11回東海地方会2022年6月19日

放射線照射およびMTX-CHOP療法で寛解し得たPTCL-NOS馬尾浸潤の一例

山名智人1)、原田早希子1)、高野弥奈1)、稲野資明1)、三澤恭平1)、鶴上浩規2)、糸井陽2)、岩尾憲明1)、小池道明1)

第247回内科地方会東海地方会2022年6月26日

原発不明がん骨髄転移に伴って骨髄壊死をきたした一例

泉宜秀、高野弥奈、原田早希子、三澤恭平、稲野資明、岩男憲明、小池道明

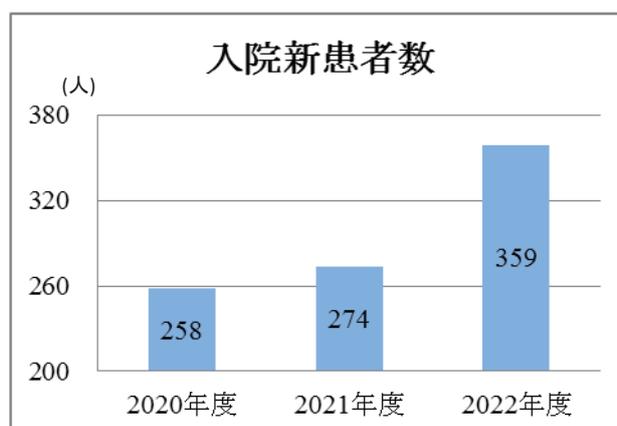
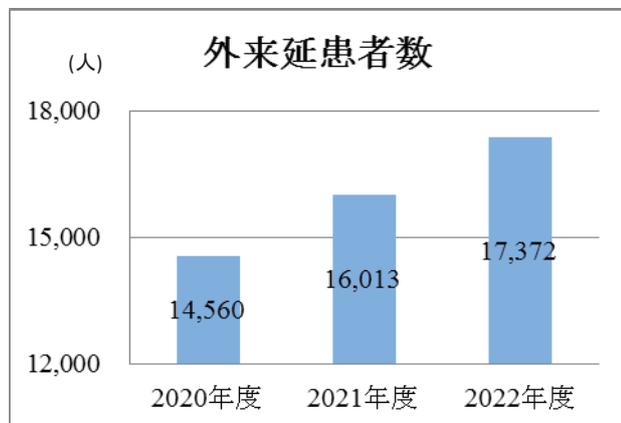
静岡県病院薬剤師会東部支部例会、沼津、2022年12月21日

血球減少における化学療法～造血器腫瘍に対する化学療法の続行、減量、中止の判断について～

高野弥奈

## 2-3 消化器内科

### 診療実績



### 研究・教育活動

#### 【原著（英文）】

1. Ohira H, ..., Genda T, et al. Clinical practice guidelines for autoimmune hepatitis. *Hepatol Res.* 2022; 52: 571-585.

2. Mochida S, ..., Genda T, et al. Diagnostic criteria for acute-on-chronic liver failure and related disease conditions in Japan. *Hepatol Res.* 2022; 52: 417-421.
3. Murata A, Angata K, Sogabe M, Sato S, Ichida T, Narimatsu H, Genda T. Serum O-glycosylated hepatitis B surface antigen levels in patients with chronic hepatitis B during nucleos(t)ide analog therapy. *BMC Gastroenterol.* 2022; 22: 270.
4. Genda T, et al. Allograft liver failure awaiting liver transplantation in Japan. *J Gastroenterol.* 2022; 57: 495-504.
5. Takehara T, ..., Genda T, et al. Sofosbuvir-velpatasvir in adults with hepatitis C virus infection and compensated cirrhosis in Japan. *Hepatol Res.* 2022; 52: 833-840.
6. Korenaga M, ..., Genda T, et al. No increased risk of hepatocellular carcinoma after eradication of hepatitis C virus by direct-acting antivirals, compared with interferon-based therapy. *Glob Health Med.* 2022; 4: 216-224.
7. Shimada Y, Hojo M, Kita Y, Ikeda Y, Sato S, Murata A, Sato S, Matsumoto K, Akazawa Y, Takeda T, Ueda K, Ueyama H, Shibuya T, Genda T, Nagahara A. Comparison of the Degree of Gastric Mucosal Injury between Patients Who Are Receiving Dual Antiplatelet Therapy or Single Antiplatelet Therapy. *Diagnostics (Basel).* 2022; 12: 2364.
8. Kumagai K, ..., Genda T, et al. Early-phase prothrombin time-international normalized ratio in acute liver injury indicates the timing of therapeutic intervention and predicts prognostic improvement. *Hepatol Res.* 2023; 53: 160-171.
9. Sato S, Kawai H, Sato S, Iwasaki H, Omori M, Kita Y, Ikeda Y, Awatsu T, Murata A, Taniguchi G, Shimada Y, Genda T. Hypertension and diabetes mellitus are associated with high FIB-4 index in a health checkup examination cohort without known liver disease. *BMC Gastroenterol.* 2022; 22: 478.

### 【原著（和文）総説】

1. 玄田拓哉. 肝移植の実態と課題. *消化器・肝臓内科*, 2022年12巻5号 p579-585.
2. 玄田拓哉. 肝移植 Up-to-date. 2022年度日本肝臓学会後期教育講演会テキスト. P101-113.

### 【学会発表(国際)】

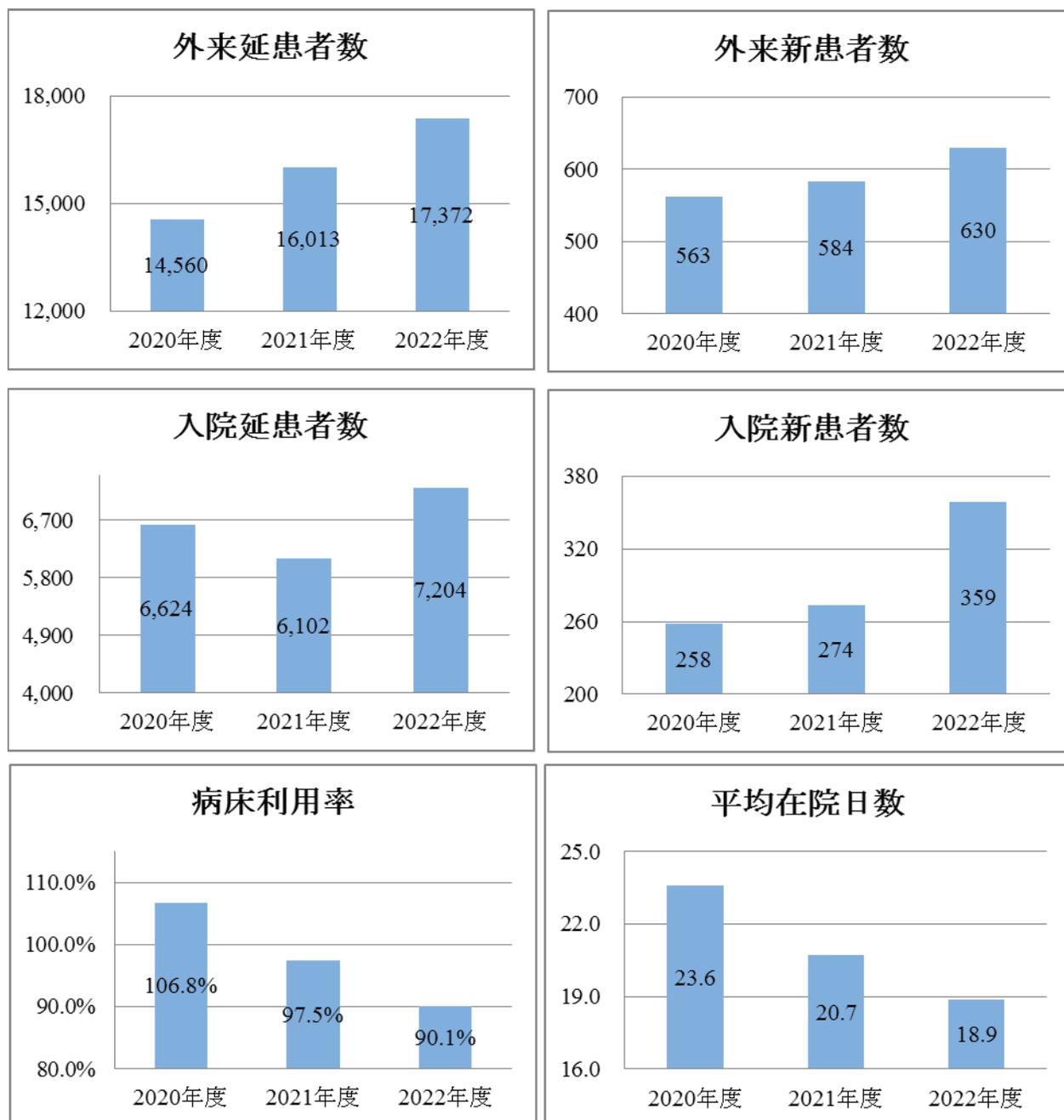
1. Shimada Y, et al. The difference of gastric mucosal injuries between patients taking aspirin alone, clopidogrel alone and both agents (dual antiplatelet therapy: DAPT). *DDW, (San Diego, USA), May 21-24, 2022.*
2. Sato S, et al. Hypertension and diabetes mellitus are associated with high FIB-4 index in a health checkup examination cohort without known liver disease. *International Liver Congress 2022, London, June 22-26, 2022.*
3. Shimada Y, et al. Can concomitant use of H2RA play an important role in preventing the gastric mucosal injuries like P-CAB or PPI in patients taking aspirin?. *UEG Week virtual 2022, (Vienna, Austria), October 8-11, 2022.*
4. Sato S, et al. Determination of the frequency of non-obese fatty liver disease and metabolic factors associated with liver steatosis and fibrosis. *APASL annual meeting, Taipei, February 15-19, 2023.*

## 【学会発表(国内)】

1. 嶋田裕慈、他. アスピリン単剤、クロピドグレル単剤、併用 (DAPT) の違いが胃粘膜傷害にはどの程度の差となりうるか. 第 109 回日本消化器病学会総会, 東京, 2022 年 4 月 21-23 日.
2. 佐藤俊輔, 他. 肝性腹水に対するトルバプタンの効果・予後予測因子に関する検討. 第 29 回日本門脈圧亢進症学会, 大阪, 2022 年 5 月 8-9 日.
3. 嶋田裕慈、他. アスピリン内服者の胃粘膜傷害はP-CABやPPIでなくH2RAでも予防しうるのか. 第 103 回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 2022 年 5 月 13-15 日.
4. 佐藤俊輔, 他. 一般人口における脂肪肝および肝線維化進展の頻度と臨床的特徴. 第 95 回日本超音波医学会総会, 名古屋, 2022 年 5 月 20-22 日
5. 佐藤俊輔, 他. 明らかな肝疾患を合併しない一般人口における FIB-4 index 高値の頻度と特徴, 第 58 回日本肝臓学会総会, 横浜, 2022 年 6 月 2-3 日.
6. 佐藤俊輔, 他. 明らかな肝疾患を合併しない一般人口において糖尿病が脂肪肝に与えるインパクト, 第 8 回肝臓と糖尿病・代謝研究会, 奈良, 2022 年 6 月 25 日
7. 嶋田裕慈、他. アスピリン内服者における *Helicobacter pylori* 感染と胃粘膜傷害度との関係. 第 28 回日本ヘリコバクター学会学術総会, 西宮, 2022 年 6 月 24-26 日.
8. 嶋田裕慈、他. DAPT に用いる P2Y12 受容体拮抗薬の違いによる胃粘膜傷害の違いークロピドグレル vs プラスグレルー. JDDW 2022, 福岡, 2022 年 10 月 27-30 日.
9. 池田裕至, 他. 免疫関連有害事象との鑑別が困難だった肺腺癌びまん性肝転移の一例. 第 248 回日本内科学会東海地方会, 浜松, 2022 年 10 月 9 日
10. 佐藤俊輔, 他. 当科における肝硬変合併門脈血栓症の現状と治療成績. 第 44 回日本肝臓学会東部会, 仙台, 2022 年 11 月 25-26 日.
11. 有井 新, 他. 核酸アナログの再活性化予防投与にもかかわらずリツキシマブ投与後早期に致死的な HBV 再活性化を来した 1 例 第 44 回日本肝臓学会東部会, 仙台, 2022 年 11 月 25-26 日
12. 池田裕至, 他. アテゾリズマブ・ベバシズマブ投与後に異時性に irAE 関連関節炎と ACTH 単独欠損症を認めた一例. 第 27 回日本肝がん分子標的治療研究会, 大阪, 2023 年 1 月 13-14 日

## 2-4 呼吸器内科

### 診療実績



### 研究・教育活動

#### 英文原著

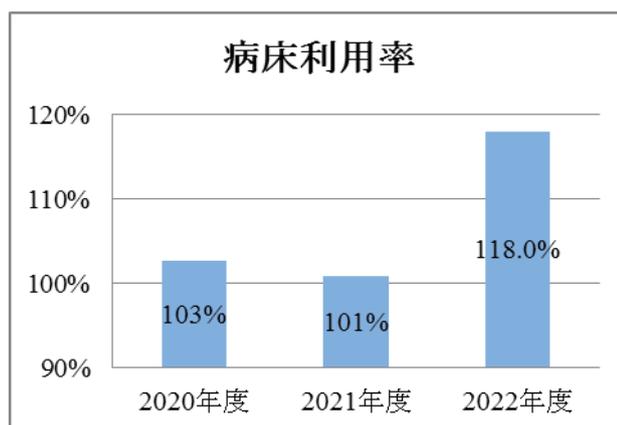
1. Sumiyoshi I, Iwakami S, Hara M, Matsuda H, Takahashi K. Solitary brain tuberculoma without active pulmonary lesions in an elderly patient; A case report. *Geriatr Gerontol Int.* 6: 490-491, 2022 PMID: 35396911, 09 April 2022 <https://doi.org/10.1111/ggi.14386>

#### 和文報告その他

1. 小松亜里紗、渡邊敬康、片山勇魚、松田浩成、岩神直子、原宗央、岩神真一郎：非アルコール性脂肪肝炎の経過観察中に肝肺症候群を来した一例。 第 121 回日本呼吸器学会東海地方学会 2022 年 5 月 22 日 WEB 開催
2. 片山勇魚、原宗央、小松亜里紗、渡邊敬康、松田浩成、岩神直子、岩神真一郎：大量胸水を契機に診断された縦隔内臍仮性嚢胞の一例。 第 121 回日本呼吸器学会東海地方学会 2022 年 5 月 22 日 WEB 開催
3. 渡邊敬康、小松亜里紗、片山勇魚、吉田隆司、早川乃介、岩神直子、岩神真一郎：Mycobacterium porcinum による菌血症の 1 例。 第 122 回日本呼吸器学会東海地方学会 2022 年 11 月 12 日 三重県医師会館
4. 小松亜里紗、岩神真一郎、渡邊敬康、片山勇魚、吉田隆司、早川乃介、岩神直子：IgG4 関連呼吸器疾患の増悪に対してステロイド不応であった一剖検例。 第 122 回日本呼吸器学会東海地方学会 2022 年 11 月 12 日 三重県医師会館

## 2-5 腎臓内科

### 診療実績



## 研究・教育活動

### 論文 英文・原著

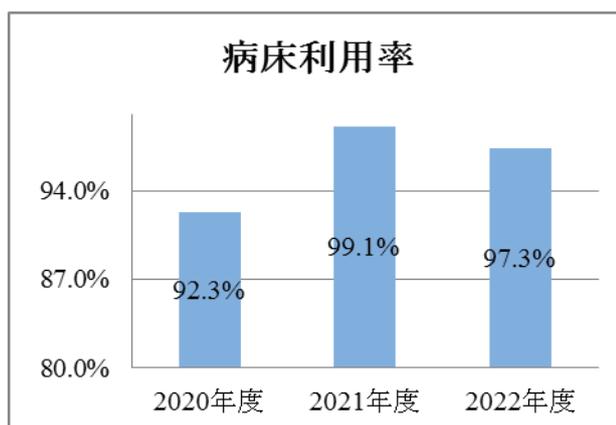
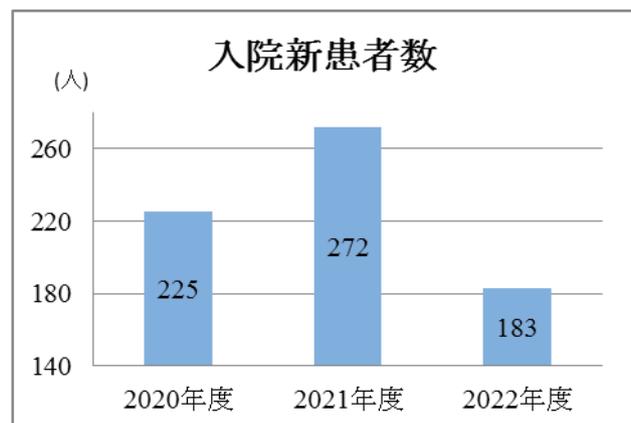
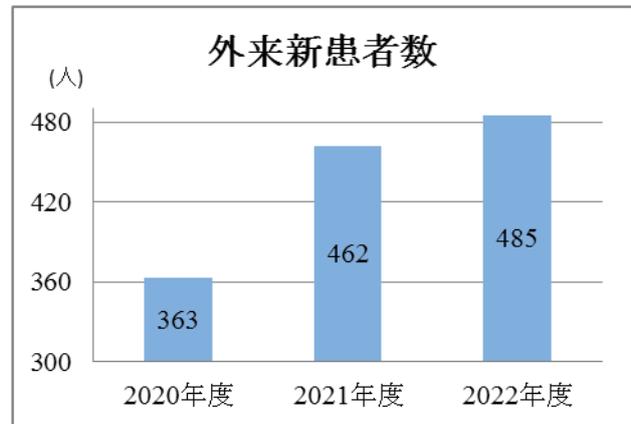
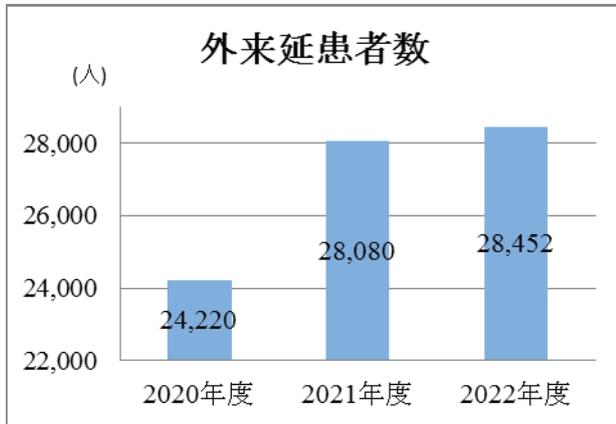
1. Shimizu Y, Wakabayashi K, Nakata J, Io H, Hamada C, Tomino Y, Suzuki Y. The influence of an Unexpected Switch of Hemodialysis Facilities on the Quality of Life (QOL) in Hemodialysis Patients. *Int J Nephrol Renovasc Dis* 2022;15: 151-160.
2. Higo M, Shimizu Y, Wakabayashi K, Nakano T, Tomino Y, Suzuki Y. Post-Operative Kidney Function Using Deep Hypothermic Circulatory Arrest (DHCA) in Aortic Arch Operation. *Int J Nephrol Renovasc Dis* 2022; 15: 239-252.
3. 清水芳男. (4)MRSA 関連糸球体腎炎. 別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ No. 24 腎臓症候群 (第3版) -その他の腎臓疾患を含めて-II, 日本臨床社, 2022; 304-7
4. 清水芳男. 尿の色調に異常をきたす疾患にはどのようなものがありますか? CKD 診療テキスト かかりつけ医と専門医の連携のために第2版, 中外医学社, 監修: 富野康日己, 編集: 鈴木祐介, 船曳和彦, 2022; 12-14
5. 清水芳男. 尿の濁りや泡、独特な臭いをきたす疾患にはどのようなものがありますか? CKD 診療テキスト かかりつけ医と専門医の連携のために第2版, 中外医学社, 監修: 富野康日己, 編集: 鈴木祐介, 船曳和彦, 2022;14-16
6. 清水芳男. ③抗凝固薬、抗血小板薬 (抗血栓薬), 歯科におけるくすりの使い方 2023-2025, デンタルダイヤモンド社, 編集: 金子明寛, 富野康日己, 小林真之, 北川善政, 篠原光代, 2022; 358-63

### 学会発表・国内

1. 清水芳男、若林啓一、安部憲一郎、平沢智美、加藤有紗、鈴木祐介. 味覚に着目したマウス蓄尿法の開発 (第2報), 第65回日本腎臓学会学術総会, 神戸国際会議場, 2022年6月10日-12日
2. 清水芳男、加藤有紗、小笠智美、若林啓一、鈴木祐介. 血液透析患者の痒みと視神経乳頭周囲所見の関連. 第67回日本透析医学会学術集会・総会, パシフィコ横浜, 2022年7月1日-3日
3. 池田尚基、若林啓一、加藤有紗、小笠智美、安部憲一郎、清水芳男、鈴木祐介. 膿瘍を伴う化膿性大胸筋炎を契機に CKD の急性増悪を来した糖尿病性腎症の一例. 第52回日本腎臓学会東部学術大会, 東京(虎ノ門ヒルズフォーラム), 2022年10月22日-23日
4. 安部憲一郎、若林啓一、清水芳男、上田誠二、合田朋仁、鈴木祐介. 慢性腎不全の透析移行期に肺結核症の診断に至った1例. 第52回日本腎臓学会東部学術大会, 東京(虎ノ門ヒルズフォーラム), 2022年10月22日-23日
5. 長澤肇、大塚智之、大熊輝之、福原佳奈子、森一祥、海部久美子、松下訓、若林啓一、清水芳男、上田誠二、鈴木祐介. シリアル食品 (フルグラ) の腎不全食としての可能性. 第60回静岡腎不全研究会, グランシップ・静岡市, 2022年10月2日
6. 平沢智美、加藤有紗、池田尚基、若林啓一、清水芳男. 診断に苦慮した Tubulointerstitial nephritis uveitis (TINU) syndrome の一例. 第64回静岡腎セミナー, 2022年3月12日, Web.
7. 福原佳奈子、安部憲一郎、森一祥、長澤肇、若林啓一、清水芳男. 初回から9年後の repeating biopsy にて診断しえた IgA 腎症. 第65回静岡腎セミナー, 2022年9月10日, Web.

## 2-6 糖尿病・内分泌内科

### 診療実績



## 研究・教育活動

### 学会発表

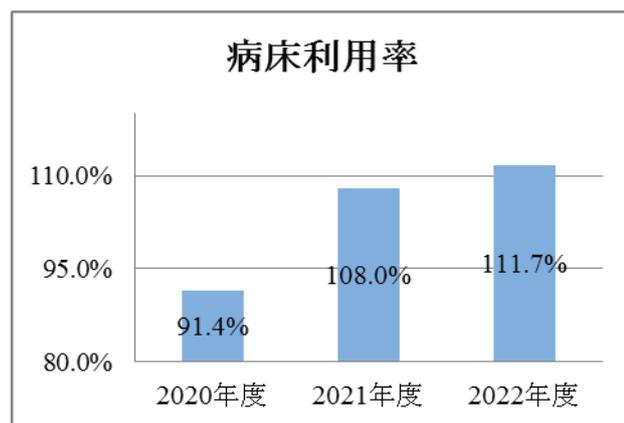
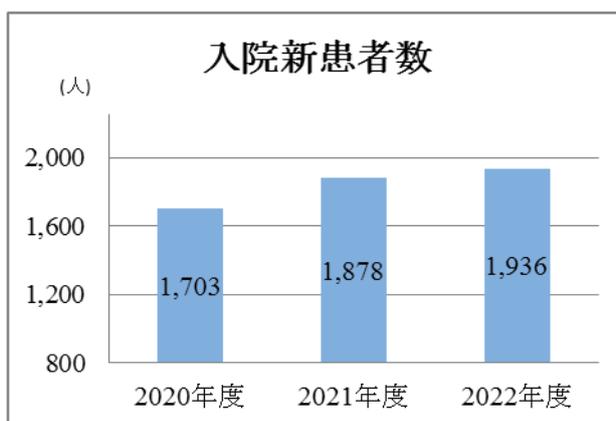
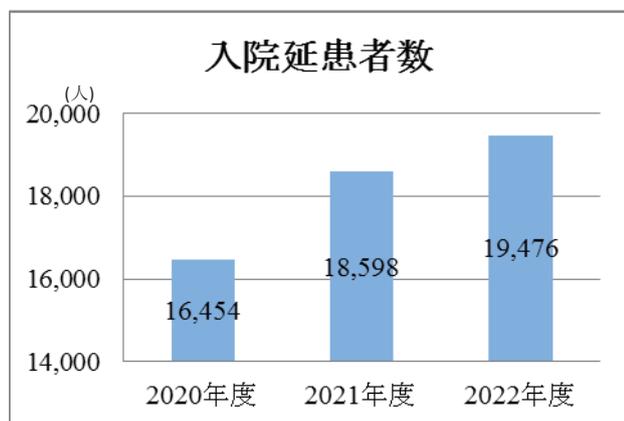
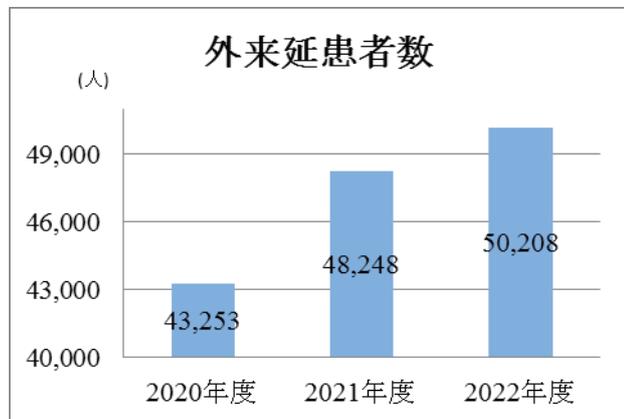
1. 高本偉碩, 石井智也, 小暮晃一郎, 永瀬晃正, 桂善也, 野見山崇, 野田光彦: 高度肥満・糖尿病を呈し、転倒入院を契機に 51 歳で発見されたクラインフェルター症候群. 第 680 回日本内科学会関東地方会, 東京都(日本), 2022/9/24, 講演
2. 長嶋春樹, 佐藤元律, 保田都, 笹原紘佳, 荻原健: 治療抵抗性の腎性貧血を契機に HIF-PH 阻害薬ロキサデュスタットによる中枢性甲状腺機能低下が疑われた一例. 第 65 回日本甲状腺学会, 大阪府(日本), 2022/11/1-3, 講演
3. 古屋翔子, 長嶋春樹, 池田恒基, 佐藤元律, 荻原健, 野見山崇: シックデイに SGLT2 阻害薬を服薬し糖尿病性ケトアシドーシスに至った 1 型糖尿病の 1 例. 第 249 回日本内科学会東海地方会, 愛知県(日本), 2022/2/19, 講演
4. 池田尚基, 池田恒基, 長嶋春樹, 古屋翔子, 佐藤元律, 荻原健, 野見山崇: 健康診断の低血糖を契機に診断されたインスリノーマの 1 例. 第 249 回日本内科学会東海地方会, 愛知県(日本), 2022/2/19, 講演
5. 野見山崇: 糖尿病患者の未来を護る～アドボカシーと GLP-1 受容体作動薬～. 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会, 兵庫県(日本), 2022/5/12-14, 講演
6. 野見山崇: 糖のながれのその先へ～未来を護るベストチョイス～. 第 2 回人間ドック健診専門医研修会, 千葉県(日本), 2022/9/3, 講演
7. 野見山崇: 糖尿病患者の未来を護る～アドボカシーと GLP-1～. 第 72 回日本体質医学会総会, 和歌山県(日本), 2022/10/1-2, 講演
8. 野見山崇: 糖尿病併存症を見据えた治療ストラテジー. 第 37 回日本糖尿病合併症学会, 京都府(日本), 2022/10/21-22, 講演

### 和文著書

1. 野見山崇: 糖尿病にまつわる薬の説, インスリン注射をすると太る説. 糖尿病ケアプラス. メディカ出版, 2022、19 巻 3 号, 98-100
2. 野見山崇: 糖尿病にまつわる薬の説, 糖尿病治療薬と健康食品・市販薬・サプリメントを併用したら危ない説. 糖尿病ケアプラス. メディカ出版, 2022、19 巻 4 号, 86-88
3. 野見山崇: 糖尿病にまつわる薬の説, 漢方薬だけで血糖コントロールがうまくいく説. 糖尿病ケアプラス. メディカ出版, 2022、19 巻 5 号, 106-107
4. 野見山崇: 糖尿病にまつわる薬の説, メトホルミン塩酸塩は抗がん薬にもなる説. 糖尿病ケアプラス. メディカ出版, 2022、19 巻 6 号, 114-116
5. 野見山崇: 糖尿病にまつわる薬の説, SGLT2 阻害薬を服用すると甘いものが欲しくなる説. 糖尿病ケアプラス. メディカ出版, 2023、20 巻 1 号, 134-136
6. 野見山崇: 糖尿病にまつわる薬の説, インスリン製剤を打ち始めたらほかの糖尿病治療薬は止めたほうがよい説. 糖尿病ケアプラス. メディカ出版, 2023、20 巻 2 号, 122-124
7. 野見山崇: 【Crosslink basic リハビリテーションテキスト生理学】第 1 章⑩代謝・栄養、メジカルビュー社, 2022 年 12 月 30 日第 1 版第 1 刷発行, 261-269

## 2-7 循環器内科

### 診療実績



### 研究・教育活動

#### 英文論文 (原著・総説)

1. Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Natsuaki M, Yamaji K, Ogita M, Suwa S, Isawa T, Domei T, Ando K, Tatsushima S, Watanabe H, Oya M, Kadota K, Tokuyama H, Tada

2. T, Sakamoto H, Mori H, Suzuki H, Nishikura T, Wakabayashi K, Kimura T for the STOPDAPT-2 ACS Investigators.  
Prevalence and effects of high-intensity statins for Japanese patients presenting with acute coronary syndrome – a post hoc secondary analysis of STOPDAPT-2 ACS-.Circ J. 2022 (Online ahead of print)
3. Yamaji K, Shiomi H, Morimoto T, Matsumura-Nakano Y, Ehara N, Sakamoto H, Takeji Y, Yoshikawa Y, Yamamoto K, Kato ET, Imada K, Tada T, Taniguchi R, Nishikawa R, Tada T, Uegaito T, Ogawa T, Yamada M, Takeda T, Eizawa H, Tamura N, Tambara K, Suwa S, Shirotni M, Tamura T, Inoko M, Nishizawa J, Natsuaki M, Sakai H, Yamamoto T, Kanemitsu N, Ohno N, Ishii K, Marui A, Tsuneyoshi H, Terai Y, Nakayama S, Yamazaki K, Takahashi M, Tamura T, Esaki J, Miki S, Onodera T, Mabuchi H, Furukawa Y, Tanaka M, Komiya T, Soga Y, Hanyu M, Domei T, Ando K, Kadota K, Minatoya K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Investigators.  
Modifiers of the Risk of Diabetes for Long-Term Outcomes After Coronary Revascularization: CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry.  
JACC Asia. 2022 Apr 12;2(3):294-308.
4. Sasahara H, Yatsu S, Wada H, Sai E, Moriya S, Miyazaki S, Kajimoto K, Ogita M, Suwa S.  
Multiple Imaging and Surgical Characteristics in Cardiac Metastasis from Undifferentiated Uterine Sarcoma.  
Case Rep Cardiol. 2022 Nov 11;2022:6025354.
5. Optimal target of LDL cholesterol level for statin treatment: challenges to monotonic relationship with cardiovascular events.  
Sakuma M, Iimuro S, Shinozaki T, Kimura T, Nakagawa Y, Ozaki Y, Iwata H, Miyauchi K, Daida H, Suwa S, Sakuma I, Nishihata Y, Saito Y, Ogawa H, Matsuzaki M, Ohashi Y, Taguchi I, Toyoda S, Inoue T, Nagai R.  
Optimal target of LDL cholesterol level for statin treatment: challenges to monotonic relationship with cardiovascular events.  
BMC Med. 2022 Nov 14;20(1):441.
6. Yamashiro K, Tanaka R, Miyazaki S, Miyauchi K, Hayashi H, Nishizaki Y, Nojiri S, Suwa S, Sumiyosi M, Nakazato Y, Urabe T, Hattori N, Minamino T, Daida H.  
Comparison of primary and secondary stroke prevention in patients with nonvalvular atrial fibrillation: Results from the RAFFINE registry.  
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2022 Dec;31(12):106871.
7. Takeji Y, Morimoto T, Shiomi H, Kato ET, Imada K, Yoshikawa Y, Matsumura-Nakano Y, Yamamoto K, Yamaji K, Toyota T, Tada T, Tazaki J, Yamamoto E, Nakatsuma K, Suwa S, Ehara N, Taniguchi R, Tamura T, Watanabe H, Toyofuku M, Yamamoto T, Shinoda E, Mabuchi H, Inoko M, Onodera T, Sakamoto H, Inada T, Ando K, Furukawa Y, Sato Y, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T.  
Sex Differences in Clinical Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention.

Circ J. 2022 Nov 8. doi: 10.1253/circj.CJ-22-0517. Online ahead of print.

8. Yoshikawa Y, Shiomi H, Morimoto T, Takeji Y, Matsumura-Nakano Y, Yamamoto K, Yamamoto E, Kato ET, Watanabe H, Saito N, Domei T, Tada T, Nawada R, Onodera T, Suwa S, Tamura T, Ishii K, Ando K, Furukawa Y, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-2 and Cohort-3 Investigators.  
Stent-Related Adverse Events as Related to Dual Antiplatelet Therapy in First- vs Second-Generation Drug-Eluting Stents.  
JACC Asia. 2021 Nov 23;1(3):345-356.
9. Watanabe H, Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T, Kato E, Matsumura Y, Nakatsuma K, Takeji Y, Yaku H, Yamamoto E, Yamashita Y, Yoshikawa Y, Fuki M, Yamaji K, Ehara N, Sakamoto H, Imada K, Tada T, Taniguchi R, Nishikawa R, Tada T, Uegaito T, Ogawa T, Yamada M, Takeda T, Eizawa H, Tamura N, Tambara K, Suwa S, Shirodani M, Tamura T, Inoko M, Nishizawa J, Natsuaki M, Sakai H, Yamamoto T, Kanemitsu N, Ohno N, Ishii K, Marui A, Tsuneyoshi H, Terai Y, Nakayama S, Yamazaki K, Takahashi M, Tamura T, Esaki J, Miki S, Onodera T, Mabuchi H, Furukawa Y, Tanaka M, Komiya T, Soga Y, Hanyu M, Ando K, Kadota K, Minatoya K, Nakagawa Y, Kimura T; On behalf the CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators.  
Percutaneous coronary intervention using new-generation drug-eluting stents versus coronary arterial bypass grafting in stable patients with multi-vessel coronary artery disease: From the CREDO-Kyoto PCI/CABG registry Cohort-3.  
PLoS One. 2022 Sep 29;17(9):e0267906.
10. Toyota T, Morimoto T, Iimuro S, Fujita R, Iwata H, Miyauchi K, Inoue T, Nakagawa Y, Nishihata Y, Daida H, Ozaki Y, Suwa S, Sakuma I, Furukawa Y, Shiomi H, Watanabe H, Yamaji K, Saito N, Natsuaki M, Ohashi Y, Matsuzaki M, Nagai R, Kimura T.  
Low-Density Lipoprotein Cholesterol Levels on Statins and Cardiovascular Event Risk in Stable Coronary Artery Disease - An Observation From the REAL-CAD Study.  
Circ J. 2022 Sep 14. doi: 10.1253/circj.CJ-22-0168. Online ahead of print.
11. Sakagami A, Soeda T, Saito Y, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Suwa S, Fujimoto K, Dai K, Morita T, Shimizu W, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Mano T, Wake M, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Uemura S, Tobaru T, Saku K, Oshima S, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M; J-MINUET investigators.  
Clinical impact of beta-blockers at discharge on long-term clinical outcomes in patients with non-reduced ejection fraction after acute myocardial infarction.  
J Cardiol. 2023 Jan;81(1):83-90.

12. Iso T, Matsue Y, Mizukami A, Tokano T, Isoda K, Suwa S, Miyauchi K, Yanagisawa N, Okumura Y, Minamino T.  
Daprodustat for anaemia in patients with heart failure and chronic kidney disease: A randomized controlled study.  
ESC Heart Fail. 2022 Aug 18. doi: 10.1002/ehf2.14109. Online ahead of print.
  
13. Obayashi Y, Shiomi H, Morimoto T, Tamaki Y, Inoko M, Nishikawa R, Kaneda K, Yamamoto K, Takeji Y, Komasa A, Yamaji K, Shizuta S, Tada T, Nagao K, Suwa S, Tamura T, Sakamoto H, Inada T, Matsuda M, Sato Y, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators.  
Stroke Risk Stratification With the CHADS<sub>2</sub> Score in Patients Without Atrial Fibrillation Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention.  
Am J Cardiol. 2022 Oct 15;181:9-17.
  
14. Natsuaki M, Morimoto T, Iimuro S, Fujita R, Iwata H, Miyauchi K, Inoue T, Nakagawa Y, Nishihata Y, Daida H, Ozaki Y, Suwa S, Sakuma I, Furukawa Y, Shiomi H, Watanabe H, Yamaji K, Saito N, Matsuzaki M, Nagai R, Kimura T; REAL-CAD Investigators.  
Thrombotic Risk Stratification and Intensive Statin Therapy for Secondary Prevention of Coronary Artery Disease - Insights From the REAL-CAD Study.  
Circ J. 2022 Aug 25;86(9):1416-1427.
  
15. Obayashi Y, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Natsuaki M, Domei T, Yamaji K, Suwa S, Isawa T, Watanabe H, Yoshida R, Sakamoto H, Akao M, Hata Y, Morishima I, Tokuyama H, Yagi M, Suzuki H, Wakabayashi K, Suematsu N, Inada T, Tamura T, Okayama H, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Morino Y, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T; STOPDAPT-2 and STOPDAPT-2 ACS Investigators.  
Clopidogrel Monotherapy After 1-Month Dual Antiplatelet Therapy in Percutaneous Coronary Intervention: From the STOPDAPT-2 Total Cohort.  
Circ Cardiovasc Interv. 2022 Aug;15(8):e012004.
  
16. Yamamoto MH, Kondo S, Mizukami T, Yasuhara S, Wakabayashi K, Kobayashi N, Sambe T, Hibi K, Nanasato M, Sugiyama T, Kakuta T, Kondo T, Mitomo S, Nakamura S, Takano M, Yonetsu T, Ashikaga T, Dohi T, Yamamoto H, Kozuma K, Yamashita J, Yamaguchi J, Ohira H, Mitsumata K, Namiki A, Kimura S, Honye J, Kotoku N, Higuma T, Natsumeda M, Ikari Y, Sekimoto T, Mori H, Suzuki H, Otake H, Isomura N, Ochiai M, Suwa S, Shinke T; TACTICS investigators.  
Rationale and design of the TACTICS registry: Optical coherence tomography guided primary percutaneous coronary intervention for patients with acute coronary syndrome.  
J Cardiol. 2022 Dec;80(6):505-510. doi: 10.1016/j.jjcc.2022.07.002. Epub 2022 Jul 2

17. Ishihara M, Asakura M, Hibi K, Okada K, Shimizu W, Takano H, Suwa S, Fujii K, Okumura Y, Mano T, Tsujita K, Igeta M, Okamoto R, Suna S.  
Evoocumab for prevention of microvascular dysfunction in patients undergoing percutaneous coronary intervention: the randomised, open-label EVOCATION trial.  
EuroIntervention. 2022 Oct 7;18(8):e647-e655.
18. Miyazaki S, Miyauchi K, Hayashi H, Yamashiro K, Tanaka R, Nishizaki Y, Nojiri S, Suwa S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Urabe T, Hattori N, Minamino T, Daida H.  
Trends of anticoagulant use and outcomes of patients with non-valvular atrial fibrillation: Findings from the RAFFINE registry.  
J Cardiol. 2022 Jul;80(1):41-48
19. Watanabe H, Morimoto T, Natsuaki M, Yamamoto K, Obayashi Y, Ogita M, Suwa S, Isawa T, Domei T, Yamaji K, Tatsushima S, Watanabe H, Ohya M, Tokuyama H, Tada T, Sakamoto H, Mori H, Suzuki H, Nishikura T, Wakabayashi K, Hibi K, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Morino Y, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T; STOPDAPT-2 ACS Investigators.  
Comparison of Clopidogrel Monotherapy After 1 to 2 Months of Dual Antiplatelet Therapy With 12 Months of Dual Antiplatelet Therapy in Patients With Acute Coronary Syndrome: The STOPDAPT-2 ACS Randomized Clinical Trial.  
JAMA Cardiol. 2022 Apr 1;7(4):407-417.
20. Yamamoto K, Natsuaki M, Morimoto T, Shiomi H, Takeji Y, Yamaji K, Matsumura-Nakano Y, Yoshikawa Y, Yamamoto E, Fuki M, Kato E, Yamashita Y, Yaku H, Nakatsuma K, Watanabe H, Matsuda M, Tamura T, Inoko M, Mabuchi H, Shirodani M, Eizawa H, Ishii K, Inada T, Onodera T, Shinoda E, Yamamoto T, Toyofuku M, Takahashi M, Sakamoto H, Miki S, Aoyama T, Suwa S, Sato Y, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T; Credo-Kyoto PCI/CABG Registry Investigators.  
Coronary Artery Disease Without Standard Cardiovascular Risk Factors.  
Am J Cardiol. 2022 Feb 1;164:34-43.
21. Differences in mortality and causes of death between STEMI and NSTEMI in the early and late phases after acute myocardial infarction.  
Takeji Y, Shiomi H, Morimoto T, Yamamoto K, Matsumura-Nakano Y, Nagao K, Taniguchi R, Yamaji K, Tada T, Kato ET, Yoshikawa Y, Obayashi Y, Suwa S, Inoko M, Ehara N, Tamura T, Onodera T, Watanabe H, Toyofuku M, Nakatsuma K, Sakamoto H, Ando K, Furukawa Y, Sato Y, Nakagawa Y, Kadota K, Kimura T; CREDO-Kyoto AMI Registry Wave-2 Investigators.  
Differences in mortality and causes of death between STEMI and NSTEMI in the early and late phases after acute myocardial infarction.  
PLoS One. 2021 Nov 17;16(11):e0259268.

22. Obayashi Y, Shiomi H, Morimoto T, Tamaki Y, Inoko M, Yamamoto K, Takeji Y, Tada T, Nagao K, Yamaji K, Kaneda K, Suwa S, Tamura T, Sakamoto H, Inada T, Matsuda M, Sato Y, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO - Kyoto AMI Registry Wave -2 Investigators.  
Newly Diagnosed Atrial Fibrillation in Acute Myocardial Infarction.  
J Am Heart Assoc. 2021 Sep 21;10(18):e021417.
23. Natsuaki M, Morimoto T, Shiomi H, Yamamoto K, Yamaji K, Watanabe H, Uegaito T, Matsuda M, Tamura T, Taniguchi R, Inoko M, Mabuchi H, Takeda T, Domei T, Shirotani M, Ehara N, Eizawa H, Ishii K, Tanaka M, Inada T, Onodera T, Nawada R, Shinoda E, Yamada M, Yamamoto T, Sakai H, Toyofuku M, Tamura T, Takahashi M, Tada T, Sakamoto H, Tada T, Kaneda K, Miki S, Aoyama T, Suwa S, Sato Y, Ando K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-Investigators.  
Bleeding Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention in the Past Two Decades in Japan - From the CREDO-Kyoto Registry Cohort-2 and Cohort-3.  
Circ J. 2022 Apr 25;86(5):748-759.
24. Asakura M, Hibi K, Shimizu W, Fujii K, Suwa S, Okumura Y, Mano T, Igeta M, Okamoto R, Ishihara M.  
Design and rationale of the EVOCATION trial: A prospective, randomized, exploratory study comparing the effect of evolocumab on coronary microvascular function after percutaneous coronary intervention in patients with stable coronary artery disease.  
J Cardiol. 2022 Jan;79(1):105-109.
25. Goto C, Yatsu S, Wada H, Suwa S.  
Venous thrombosis via pulmonary arteriovenous malformation causing acute myocardial infarction in a relatively young female patient.  
BMJ Case Rep. 2022 Feb 28;15(2):e247846.
26. Moriya S, Wada H, Iwata H, Endo H, Doi S, Ogita M, Dohi T, Okazaki S, Suwa S, Miyauchi K, Daida H, Minamino T.  
Red Cell Distribution Width Predicts Long-Term Cardiovascular Outcomes in Patients with Chronic Coronary Syndrome.  
Int Heart J. 2022;63(6):1041-1047.
27. Nishiyama H, Funamizu T, Iwata H, Endo H, Chikata Y, Doi S, Wada H, Naito R, Ogita M, Kato Y, Okai I, Dohi T, Kasai T, Isoda K, Okazaki S, Miyauchi K, Minamino T.  
Low apolipoprotein A1 was associated with increased risk of cancer mortality in patients following percutaneous coronary intervention: A 10-year follow-up study.  
Int J Cancer. 2022 Nov;151(9):1482-1490

28. Sonoda T, Wada H, Ogita M, Takahashi D, Nishio R, Yasuda K, Takeuchi M, Yatsu S, Shitara J, Tsuboi S, Dohi T, Suwa S, Miyauchi K, Minamino T.  
Clinical features and predictors of outcome in patients with acute myocardial infarction complicated by out-of-hospital cardiac arrest.  
BMC Cardiovasc Disord. 2022 Apr 19;22(1):185..
29. Ando H, Yamaji K, Kohsaka S, Ishii H, Wada H, Yamada S, Sawano M, Inohara T, Numasawa Y, Ikari Y, Amano T; J-PCI Registry Investigators.  
Japanese Nationwide PCI (J-PCI) Registry Annual Report 2019: patient demographics and in-hospital outcomes.  
Cardiovasc Interv Ther. 2022 Apr;37(2):243-247.
30. Takahashi D, Wada H, Ogita M, Yasuda K, Nishio R, Takeuchi M, Shitara J, Tsuboi S, Dohi T, Suwa S, Miyauchi K, Daida H, Minamino T.  
Impact of Lipoprotein(a) as a Residual Risk Factor in Long-Term Cardiovascular Outcomes in Patients With Acute Coronary Syndrome Treated With Statins.  
Am J Cardiol. 2022 Apr 1;168:11-16.
31. Yamaji K, Kohsaka S, Inohara T, Numasawa Y, Ando H, Wada H, Ishii H, Amano T, Miyata H, Ikari Y; J-PCI Registry Investigators.  
Percutaneous coronary intervention during the COVID-19 pandemic in Japan: Insights from the nationwide registration data.  
Lancet Reg Health West Pac. 2022 Mar;22:100434
32. Chikata Y, Iwata H, Miyosawa K, Koike T, Yasuda H, Funamizu T, Doi S, Endo H, Wada H, Naito R, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Isoda K, Okazaki S, Miyauchi K, Minamino T.  
Dipeptidyl peptidase-4 inhibitors reduced long-term cardiovascular risk in diabetic patients after percutaneous coronary intervention via insulin-like growth factor-1 axis. Sci Rep. 2022 Mar;12(1):5129
33. Ito T, Yamaji K, Kohsaka S, Ishii H, Wada H, Amano T, Fujita H, Seo Y, Ikari Y.  
Effect of Procedural Volume on In-Hospital Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Chronic Kidney Disease (from the Japanese National Clinical Data [J-PCI Registry]).  
Am J Cardiol. 2022 Feb;165:12-18.
34. Funamizu T, Iwata H, Chikata Y, Doi S, Endo H, Wada H, Naito R, Ogita M, Kato Y, Okai I, Dohi T, Kasai T, Isoda K, Okazaki S, Miyauchi K, Minamino T.  
A Prognostic Merit of Statins in Patients with Chronic Hemodialysis after Percutaneous Coronary Intervention-A 10-Year Follow-Up Study.  
J Clin Med. 2022 Jan;11(2):390

35. Ueki Y, Kuramitsu S\*, Saigusa T, Senda K, Matsuo H, Horie K, Takashima H, Terai H, Kikuta Y, Ishihara T, Sakamoto T, Suematsu N, Shiono Y, Asano T, Tsujita K, Masamura K, Doijiri T, Sasaki Y, Ogita M, Kurita T, Matsuo A, Harada K, Yaginuma K, Kanemura N, Sonoda S, Yokoi H, Tanaka N; J-CONFIRM Investigators.  
Long-Term Outcomes in Elderly Patients After Deferral of Coronary Revascularization Guided by Fractional Flow Reserve.  
Circ J. 2022 Mar 12. doi: 10.1253/circj.CJ-21-1024.
36. Shiono Y, Kuramitsu S\*, Matsuo H, Horie K, Takashima H, Terai H, Kikuta Y, Ishihara T, Saigusa T, Sakamoto T, Suematsu N, Asano T, Tsujita K, Masamura K, Doijiri T, Toyota F, Ogita M, Kurita T, Matsuo A, Harada K, Yaginuma K, Sonoda S, Tanaka A, Yokoi H, Tanaka N; J-CONFIRM Registry Investigators.  
Thrombotic Risk and Cardiovascular Events in Patients With Revascularization Deferral After Fractional Flow Reserve Assessment.  
JACC Cardiovasc Interv. 2022 Feb 28;15(4):427-439.
37. Kuramitsu S\*, Matsuo H, Shinozaki T, Horie K, Takashima H, Terai H, Kikuta Y, Ishihara T, Saigusa T, Sakamoto T, Suematsu N, Shiono Y, Asano T, Tsujita K, Masamura K, Doijiri T, Toyota F, Ogita M, Kurita T, Matsuo A, Harada K, Yaginuma K, Sonoda S, Yokoi H, Tanaka N; J-CONFIRM Investigators.  
Five-Year Outcomes After Fractional Flow Reserve-Based Deferral of Revascularization in Chronic Coronary Syndrome: Final Results From the J-CONFIRM Registry.  
Circ Cardiovasc Interv. 2022 Feb;15(2):e011387.
38. Ishii M, Kuramitsu S\*, Yamanaga K, Matsuo H, Horie K, Takashima H, Terai H, Kikuta Y, Ishihara T, Saigusa T, Sakamoto T, Suematsu N, Shiono Y, Asano T, Masamura K, Doijiri T, Toyota F, Ogita M, Kurita T, Matsuo A, Harada K, Yaginuma K, Kanemura N, Sonoda S, Yokoi H, Tanaka N, Tsujita K; J- CONFIRM Registry Investigators.  
Association of Guideline-Directed Medical Therapy Adherence with Outcomes After Fractional Flow Reserve-Based Deferral of Revascularization.  
Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother. 2022 Feb 2 (Online ahead of print).

## 和文著書

守屋 壮志、藤田 航、中村 優、真 優スレーシュワル、石川 剛、安田 健太郎、園田 健人、設樂 準、高野 信太郎、和田 英樹、塩澤 知之、荻田 学、諏訪 哲. 当院における 12 誘導心電図伝送システムに対するこれまでの取り組み.ICU と CCU vol.46 2022 年 8 月

## 国際学会（発表）

1. Wada H, Miyauchi K, Yasuda S, Kaikita K, Akao M, Ako J, Matoba T, Nakamura M, Hagiwara N, Hirayama A, Matsui K, Ofawa H.  
Antithrombotic and proton pump inhibitor co-therapy in patients with atrial fibrillation and stable coronary disease: a post hoc analysis of the AFIRE trial  
ESC2022, 2022/8/26-8/29
2. Singh YS, Wada H, Ogita M, Nakamura Y, Moriya S, Ishikawa G, Yasuda K, Shitara J, Suwa S, Miyauchi K, Minamino T.  
Standard modifiable cardiovascular risk factors and long-term clinical outcomes among patients with ST-elevation myocardial infarction.  
AHA2022, 2022/11/05-11/07
3. Wada H, Miyauchi K, Suwa S, Miyazaki S, Hayashi H, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Minamino M, Daida H.  
Impact of atrial fibrillation type (paroxysmal vs. non-paroxysmal) on long-term clinical outcomes: The RAFFINE registry subanalysis.  
AHA2022, 2022/11/05-11/07

## 国内学会（招聘講演）

1. 塩澤 知之 ICD・CRT の適応と最近の特殊機能に関して.  
第 46 回 CVIT 東海北陸地方会、2022/5/27-28 (Web 開催)
2. 荻田 学 冠動脈疾患における抗血栓薬のマネジメント～最近の知見を踏まえて～.  
第 46 回 CVIT 東海北陸地方会、2022/5/27-28 (Web 開催)

## 国内学会（発表）

1. Hideki Wada, Katsumi Miyauchi, Satoru Suwa, Sakiko Miyazaki, Hidenori Hayashi, Ryota Tanaka, Shuko Nojiri, Miyazaki Tadashi, Masataka Sumiyoshi, Yuji Nakazato, Takao Urabe, Nobutaka Hattori, Tohru Minamino, Hiroyuki Daida. Impact of Atrial Fibrillation Type (Paroxysmal vs. Non-paroxysmal) on Long-term Clinical Outcomes: The RAFFINE Registry Subanalysis. 第 86 回日本循環器学会、2022/3/11-3/13(Web 開催)
2. 中村 優 膝窩動脈瘤内の血栓により閉塞を来した急性下肢虚血の 1 例.  
第 46 回 CVIT 東海北陸地方会、2022/5/27-28 (Web 開催)
3. 小田 遼馬、大石 淳実、上川 祐輝、中村 優、設樂 準、高野 信太郎、和田 英樹、塩澤 知之、荻田 学、諏訪 哲、梶本 完. 亜急性心筋梗塞加療中に突如出現した左室内巨大血栓に対して内視鏡下血栓除去術を施行した 1 例. 第 159 回日本循環器学会東海

地方会、2022/6/4

4. 石川剛、和田英樹、藤田航、中村優、真優スレーシュワル、設楽準、高野信太郎、塩澤知之、荻田学、諏訪哲. うっ血性心不全が疑われ加療を行うも卵巣腫瘍摘出後に改善した Meigs 症候群の一例. 日本内科学会第 247 回東海地方会 2022/6/26 (Web 開催)
5. 和田英樹、宮内克己ら. (口演) 心房細動を合併した安定冠動脈疾患患者における抗凝固薬とプロトンポンプ阻害薬併用の有用性について; AFIRE 研究サブ解析 第 70 回日本心臓病学会学術集会 2022/9/24
6. 藤田航、和田英樹、阿部圭希、真優スレーシュワル、中村優、設楽準、高野信太郎、塩澤知之、荻田学、諏訪哲、梶本完. 可動性弓部大動脈内血栓症の 1 例. 日本循環器学会 第 160 回東海・第 145 回北陸合同地方会、2022/10/15-16
7. 設楽準. オレキシン受容体拮抗薬が不眠症を有する心不全患者の睡眠呼吸障害と血行動態に与える影響に関する検討 第 26 回日本心不全学会学術集会 2022/10/22-10/23

#### 研究費（公的資金）

1. 和田英樹 研究代表者 急性心筋梗塞二次予防における遠隔医療の有用性の解明 日本学術振興会 若手研究 2022 年～2024 年

#### 研究費（治験）モニタリング・監査・審査料・手数料等・製造販売後調査を含む

1. 日本新薬(株) ウプトラビ錠 0.2mg・0.4mg 特定使用成績調査(長期使用に関する調査)
2. 興和(株) パルモディア錠 0.1mg 長期使用に関する特定使用成績調査
3. ヤンセンファーマ(株) オプスミット錠 10mg 特定使用成績調査(長期使用)
4. 小野薬品工業(株) オノアクト®一般使用成績調査〔生命に危険のある下記の不整脈で難治性かつ緊急を要する場合：心室細動、血行動態不安定な心室頻拍〕
5. (株)生命科学インスティテュート ST 上昇型急性心筋梗塞患者を対象とした CL2020 の検証的試験
6. CRL ベーリング(株) 急性冠症候群患者を対象とした CSL112 の有効性及び安全性を検討する多施設共同二重盲検無作為化プラセボ対照並行群間比較第 3 相臨床試験
7. ラボコープ・ディベロップメント・ジャパン(株) EMPACT-MI：急性心筋梗塞患者の心不全による入院及び死亡に対するエンパグリフロジンの効果を評価する効率化、多施設共同、ランダム化、並行群間、二重盲検、プラセボ対照、優越性

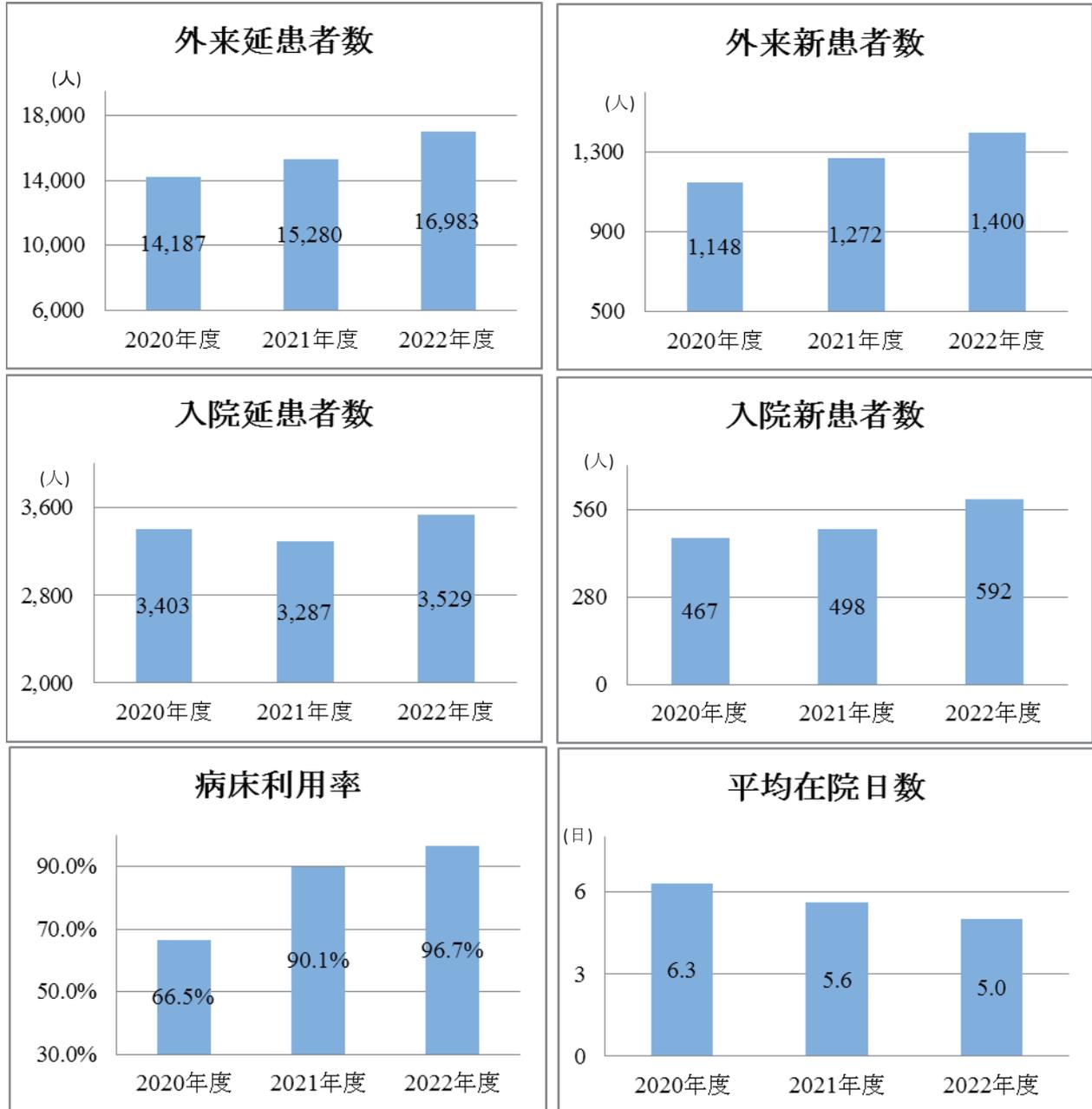
8. ノバルティス ファーマ(株) 心血管疾患の既往を有する患者を対象として、TQJ230のリポ蛋白(a)低下作用が主要な心血管系イベント に対してもたらず影響を評価する、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同試験

### 研究費（受託・共同研究）

1. 兵庫医科大学病院 経皮的冠動脈形成術施行患者におけるエボロクマブの周術期微小循環障害に対する軽減効果を検討する【EVOCATION】
2. 一般財団法人 生産開発科学研究所 エベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板療法をP2Y12阻害薬単剤とすることの安全性を評価する研究【STOPDAPT】
3. 一般財団法人 生産開発科学研究所 実地臨床におけるバイオリムス溶出性ステントとエベロリムス溶出性ステントの有効性および安全性についての多施設前向き無作為化オープンラベル比較試験：長期追跡試験【NEXT Trial: Extended Follow-up Study】
4. 一般財団法人 生産開発科学研究所 慢性冠動脈疾患患者におけるイコサペント酸エチルの二次予防効果の検討【RESPECT-EPA】
5. 一般財団法人 生産開発科学研究所 至適な血管内超音波ガイド経皮的冠動脈インターベンションの複雑性病変における臨床経過を評価する前向き観察研究【OPTIVUS】
6. シー・ブイ・クエスト(株) 複雑病変を有する冠動脈をゾタロリムス溶出ステントで治療した症例の複数施設による登録研究【ARCADIA ZERO】
7. 昭和大学医学部内科講座循環器内科学部門 光干渉断層映像法による急性冠症候群の発症メカニズムの解明と予後に関する研究【TACTICS】
8. 昭和大学医学部内科講座循環器内科学部門 光干渉断層映像法ガイド下血行再建術の患者背景に関する研究【TACTICS background registry】

## 2-8 小児科

### 診療実績



### 研究・教育活動

#### 総説

1. 馬場洋介. 【小児患者でよくある症候の対応】子どもの発疹 -重要な疾患を見逃さないためのアプローチ-. レジデントノート 23:2549-2557. 2022

#### 講演

1. 馬場洋介. 小児アトピー性皮膚炎の病態と新規治療薬のターゲット. アトピー性皮膚炎を考える in お茶の水, 東京. 2022.4.2

2. 馬場洋介. アレルギー疾患と小児の発達. しずおかこども医療研修会, 静岡. 2022.6.8
3. 馬場洋介. 小児アトピー性皮膚炎の管理と拠点病院の役割. 第3回静岡県アレルギー拠点病院カンファレンス, 静岡. 2022.10.14
4. 馬場洋介. 小児アトピー性皮膚炎治療の今後の展望. こどものアレルギーカンファレンス in Shizuoka, 浜松. 2022.10.22
5. 島田姿野. 重症心身障害児者 診断治療の現状. 令和4年度在宅重症心身障害児者多職種連携研修, ハイブリッド開催 (伊豆). 2022.11.12
6. 島田姿野. 重症心身障害児者 診断治療の現状. 令和4年度在宅重症心身障害児者多職種連携研修, ハイブリッド開催 (伊東). 2022.11.13

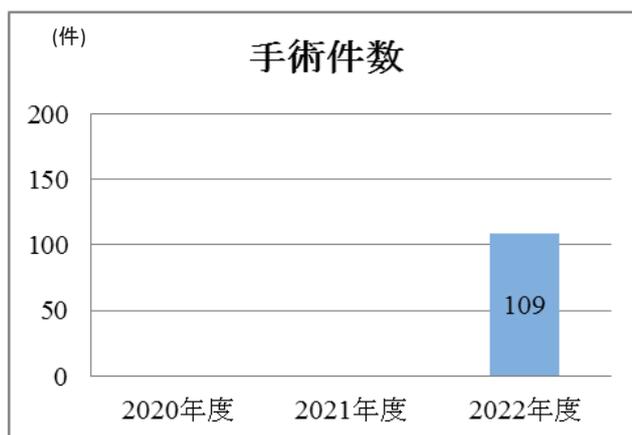
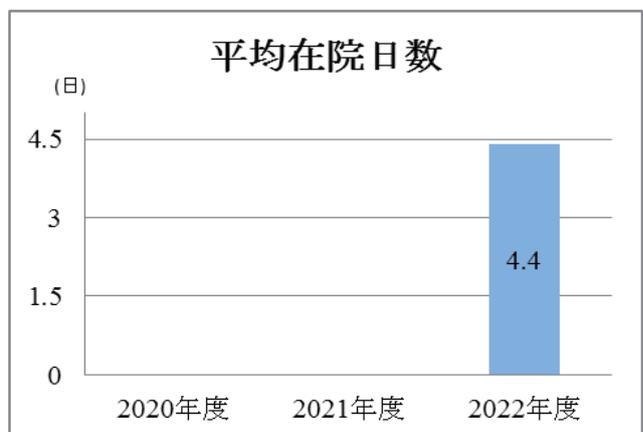
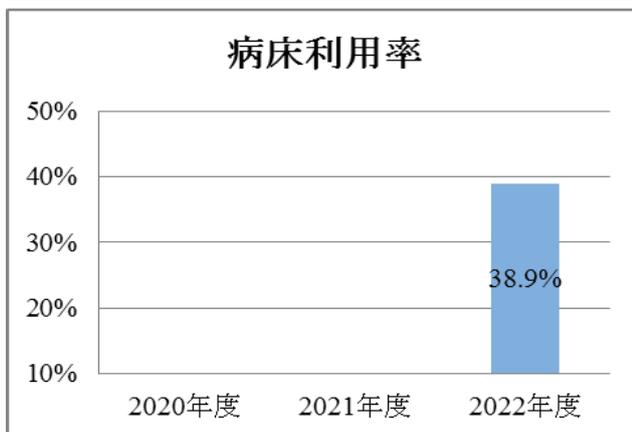
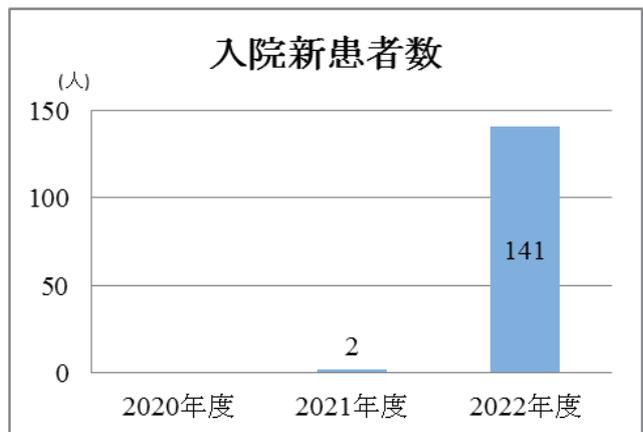
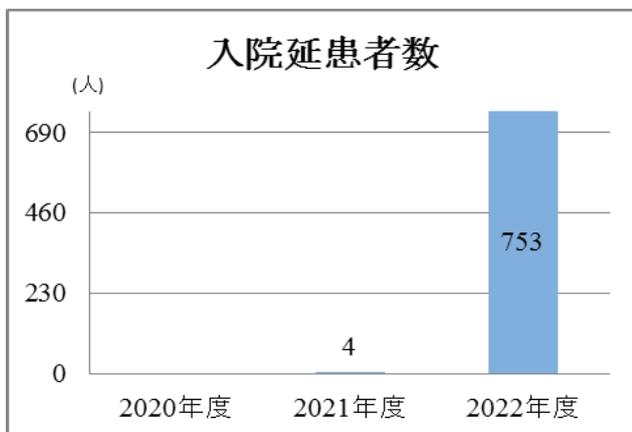
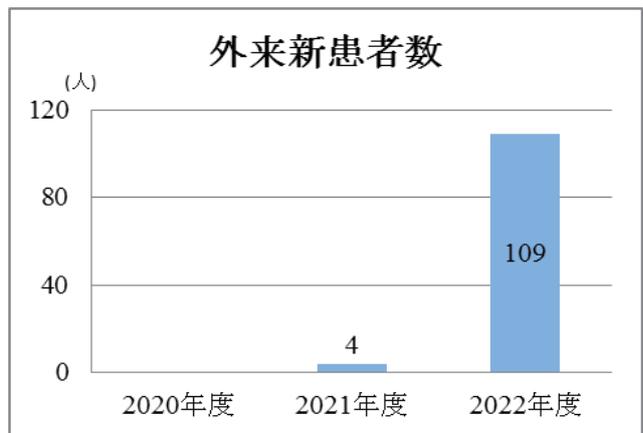
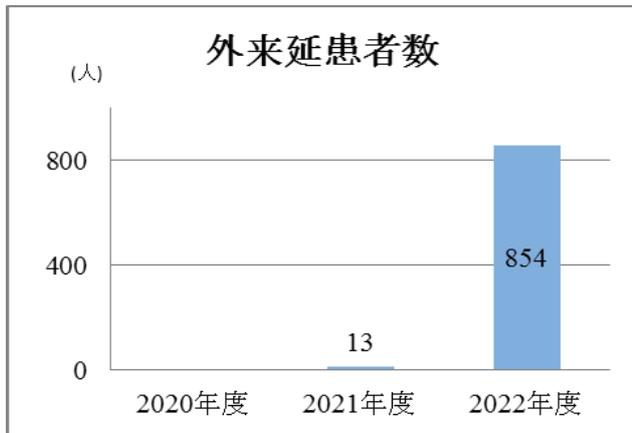
#### 学会発表

1. Shimada S, Ng BG, White AL, Nickander KK, Lam CT, Font-Montgomery E, Lourenco CM, He M, Umana LA, Haynes D, Nickerson DA, Byers HM, Sachdev R, Malone S, Scheffer IE, Adams DR, Gahl WA, Malicdan MCV, Raymond KM, Freeze HH, Wolfe LA. Clinical, biochemical and genetic characteristics of MOGS-CDG: a rare congenital disorder of glycosylation. 日本人類遺伝学会第67回大会, 横浜. 2022.12.17
2. 馬場洋介. 乳児期の皮膚炎と食物アレルギーの発症. 第10回静岡アトピー研究会, 静岡. 2022.3.3
3. 宮林和紀, 島田姿野, 秋庭崇人, 富田紗也佳, 松田慎平, 石田翔二, 江原尚弘, 馬場洋介, 大川夏紀. 当院における児童虐待症例の検討. 第47回静岡県小児保健協会学術集会, Web開催. 2022.12.11
4. 江原尚弘, 馬場洋介, 高岡優里, 羽根将之, 石田翔二, 宮林和紀, 小嶋まゆき, 山田啓迪, 米山俊之, 田中裕子, 山崎晋, 本庄明日香, 稲毛英介, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明. 消化管アレルギー 食物蛋白誘発胃腸炎と新生児期サイトメガロウイルス感染症に関する検討. 第71回日本アレルギー学会学術大会, ハイブリット開催 (東京). 2022.10.7
5. 石田翔二, 馬場洋介, 高岡優里, 羽根将之, 江原尚弘, 宮林和紀, 稲毛英介, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明. 小児アトピー性皮膚炎に対するデュピルマブ投与の効果. 第46回日本小児皮膚科学会学術集会, 浦安. 2022.7.2
6. 石田翔二, 馬場洋介, 高岡優里, 大石賢司, 鳥海俊, 羽根将之, 松本恵, 宮林和紀, 山田啓迪, 米山俊之, 山崎晋, 本庄明日香, 稲毛英介, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明. 小児における加熱卵黄による食物蛋白誘発胃腸炎の後方視的検討. 第59回日本小児アレルギー学会学術大会, ハイブリッド開催 (那覇). 2022.11.13
7. 羽根将之, 高岡優里, 石田翔二, 江原尚弘, 宮林和紀, 馬場洋介. Baked milk による少量食物経口負荷試験の予後. 第81回東海小児アレルギー懇話会, Web開催. 2022.2.26
8. 羽根将之, 馬場洋介, 高岡優里, 大石賢司, 鳥海俊, 松本恵, 石田翔二, 宮林和紀, 山田啓迪, 米山俊之, 山崎晋, 本庄明日香, 稲毛英介, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明. 当科における Baked milk 少量食物経口負荷試験3年後の後方視的研究. 第59回日本小児アレルギー学会学術大会, ハイブリッド開催 (那覇). 2022.11.12
9. 高岡優里, 馬場洋介, 鳥海俊, 石田翔二, 江原尚弘, 大石賢司, 宮林和紀, 小嶋まゆき,

- 山田啓迪, 米山俊之, 山崎晋, 本庄明日香, 稲毛英介, 大塚宜一, 清水俊明. 小児のアレルギー患者における, 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)抗体保有状況の後方視的研究. 第125回日本小児科学会学術集会, ハイブリッド開催(郡山). 2022.4.15
10. 松田慎平, 島田姿野, 富田紗也佳, 谷本亮輔, 石田翔二, 江原尚弘, 宮林和紀, 馬場洋介. 左眼瞼下垂から重症筋無力症が疑われた1歳8か月の男児例. 第78回静岡小児神経研究会, Web開催. 2022.11.26
11. 松田慎平, 島田姿野, 富田紗也佳, 谷本亮輔, 石田翔二, 江原尚弘, 宮林和紀, 馬場洋介. 交代性眼瞼下垂で発症し診断的治療を行った若年性重症筋無力症疑いの一例. 第78回静岡小児神経研究会, ハイブリッド開催(静岡). 2022.11.26
12. 富田紗也佳, 松田慎平, 島田姿野, 秋庭崇人, 谷本亮輔, 石田翔二, 江原尚弘, 宮林和紀, 馬場洋介. 静岡県東部におけるCOVID-19関連痙攣の臨床的特徴. 第47回静岡県小児保健協会学術集会, Web開催 2022.12.11
13. 成田知聡, 谷本亮輔, 松田慎平, 石田翔二, 江原尚弘, 宮林和紀, 島田姿野, 馬場洋介. 乳児用調整粉乳および固形卵黄によって生じた食物蛋白誘発胃腸炎の1例. 第154回日本小児科学会静岡地方会, 静岡. 2022.6.12

## 2-9 小児外科

### 診療実績



## 研究・教育活動

### 国際学会発表

1	Ikegami M, Takahashi T, Shiojima S, Yoshizawa Y, Kimata M, Konno H, Ikari M, Taira Y	A novel surgical intervention using transvaginal endoscopic ultrasonography for the children with OHVIRA syndrome.	35th International Symposium on Pediatric Surgical Research, October. 23, 2022
2	Ikegami M, Seo S, Ochi T, Suda K, Miyake Y, Koga H, Lane GJ, Yamatoka A	Selecting a urethroplasty technique based on physical features effectively reduces urethral stricture and urethrocutaneous fistula in proximal hypospadias repair patients.	35th International Symposium on Pediatric Surgical Research, October. 23, 2022
3	Nakajima H, Tsukui T, Kosaka S, Koga H, Ochi T, Seo S, Yamataka A	Hybrid robotic-retroperitoneoscopic pyeloplasty repair of failed laparoscopic pyeloplasty for ureteropelvic junction obstruction using traction-aligned suturing	International Pediatric Endosurgery Group (IPEG)'s Annual Congress for Endosurgery in Children, Miami, FL, USA, Jun. 1-3, 2022 (Live online conference)
4	Nakajima H, Ikari M, Kosaka S, Koga H, Ochi T, Seo S, Yamatoka A	Ureteroplasty with tapered descending colon after two failed pyeloplasties for ureteropelvic junction stenosis	24th European Pediatric Surgeons' Association (EUPSA) Annual Congress, Tel Avive, Israel, Jun. 29 - Jul. 2, 2022

### 国内学会発表

1	池上満智, 高橋俊明, 山田裕之, 山田俊介, 碓真雄, 平良ゆりな	尿管管開存と高位鎖肛を合併した臍帯ヘルニアの1例-梶川第2法による臍形成-	第8回 日本小児へそ研究会, 熊本, 2022年4月15日
2	池上満智彰, 高橋俊 明, 宮木祐一郎, 浜 野孝, 平良ゆりな, 中野雄介	外側内膀胱上窩ヘルニアへ迷入した誤飲磁石を腹腔鏡手術にて安全に摘出し得た一例	第20回日本ヘルニア学会学術集会, 横浜, 2022年6月4日

3	池上満智彰, 高橋俊明, 塩島聡, 芳澤社, 木全政晴, 今野寛子, 碓真雄, 平良ゆりな	OHVIRA 症候群に対し EUS とレゼクトスコープを併用する安全な経膈的内視鏡手術の経験	第 31 回 日本小児泌尿器科学会, 東京, 2022 年 7 月 22 日
4	池上満智彰, 高橋俊明, 塩島聡, 芳澤社, 木全政晴, 今野寛子, 碓真雄, 平良ゆりな	OHVIRA 症候群に対して経膈的内視鏡にて治療し得た 2 例	第 59 回 日本小児外科学会学術集会, 東京, 2022 年 5 月 19 日
5	池上満智彰, 瀬尾尚吾, 越智崇徳, 須田一人, 三宅優一郎, 古賀寛之, Geoffrey J Lane, 山高篤行	近位尿道下裂における亀頭形態に応じた尿道形成についての検討	第 59 回 日本小児外科学会学術集会, 東京, 2022 年 5 月 19 日
6	池上満智彰, 高橋俊明, 塩島聡, 芳澤社, 木全政晴, 今野寛子, 碓真雄, 平良ゆりな	EUS とレゼクトスコープを併用し安全な経膈的内視鏡手術にて治療し得た OHVIRA 症候群の 1 例	第 122 回 日本外科学会定期学術集会, 熊本, 2022 年 4 月 14 日
7	池上満智彰, 高橋俊明, 宮木祐一郎, 浜野孝, 平良ゆりな	外側内膀胱上窩ヘルニアへ迷入した誤飲磁石を腹腔鏡手術にて安全に摘出し得た一例	静岡県外科医会 第 246 回 集談会, 熱海, 2022 年 9 月 17 日
8	山高篤行, 中島秀明, 古賀寛之, 越智崇徳, 瀬尾尚吾, 宮野剛, 田中圭一朗, 岡崎任晴, 浦尾正彦	小児におけるロボット支援下腎盂形成術: 後腹膜アプローチ	第 14 回日本ロボット外科学会学術集会, Web, 2022 年 2 月 27 日
9	中島秀明, 津久井崇文, 小坂征太郎, 古賀寛之, 越智崇徳, 瀬尾尚吾, 山高篤行	腎盂尿管移行部狭窄の術後再狭窄に対する手術 5 例報告	第 59 回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2022 年 5 月 19 日
10	中島秀明, 碓真雄, 小坂征太郎, 古賀寛之, 越智崇徳, 瀬尾尚吾, 山高篤行	腎盂尿管移行部狭窄の術後再々狭窄に対して結腸利用尿管再建を行った 1 例	第 119 回東京小児外科研究会, 東京, 2022 年 6 月 7 日
11	小坂征太郎, 中島秀明, 越智崇徳, 古賀寛之, 山高篤行	(CCIS) 胎児診断された両側高度水腎症: 最適な治療法の検討	第 31 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 東京, 2022 年 7 月 21 日

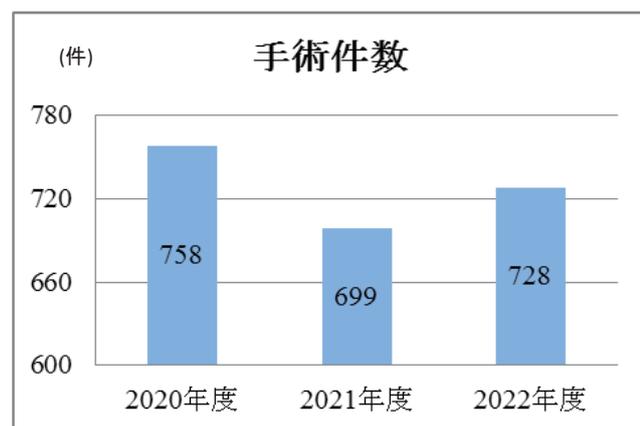
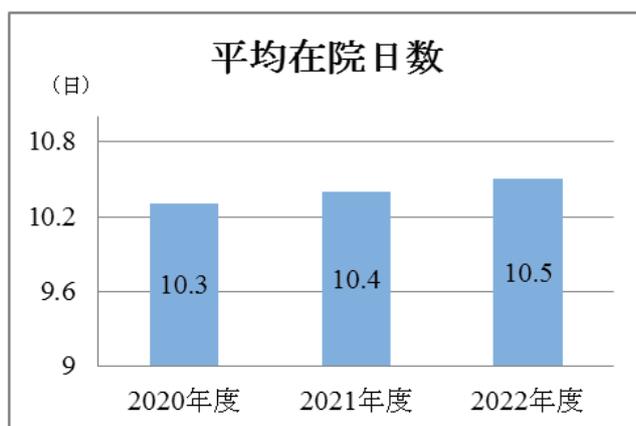
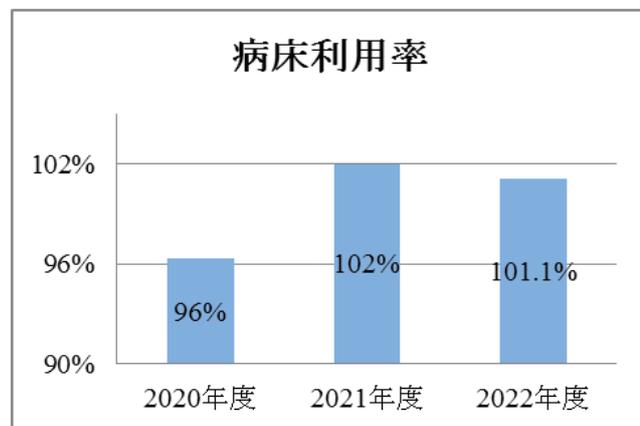
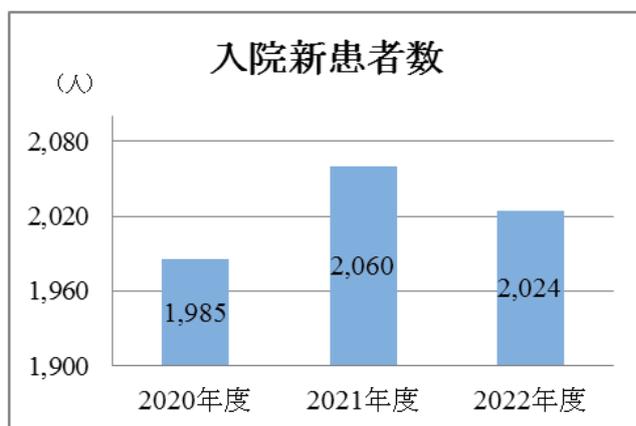
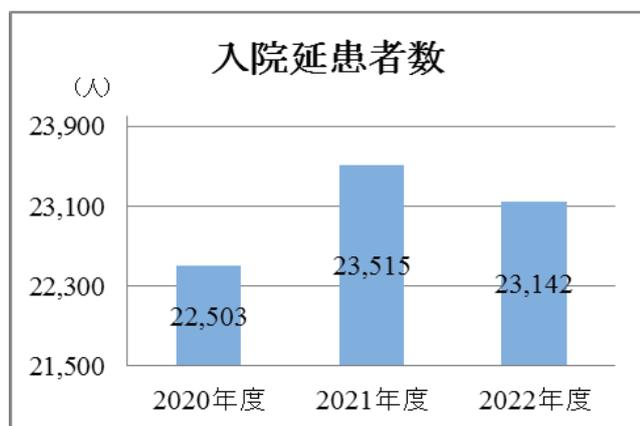
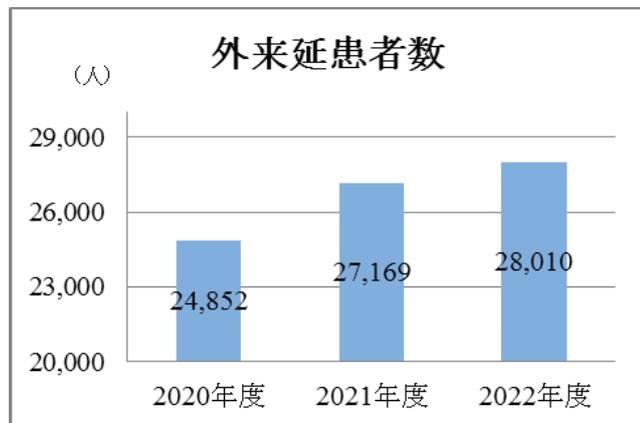
12	中島秀明, 碓真雄, 小坂征太郎, 古賀寛之, 越智崇徳, 瀬尾尚吾, 山高篤行	腎盂尿管移行部狭窄の術後再々狭窄に対して結腸利用尿管置換を行った1例	第31回日本小児泌尿器科学会 総会・学術集会, 東京, 2022 年7月22日
13	中島秀明, 古賀寛之, 碓真雄, 越智崇徳, 山高篤行	左腎盂尿管移行部狭窄の術後再狭窄において結腸間置による尿管再建を行った1例	第38回日本小児外科学会秋季 シンポジウム, 岡山, 2022年 10月29日
14	中島秀明, 古賀寛之, 小坂征太郎, 津久井 崇文, 瀬尾尚吾, 山 高篤行	腎盂尿管移行部狭窄の術後再狭窄に対する 後腹膜鏡下/ロボット支援後腹膜鏡下腎盂形 成術: 2例報告	第35回日本内視鏡外科学会総 会, 名古屋, 2022年12月9日
15	瀬尾尚吾, 越智崇徳, 須田一人, 三宅優一 郎, 古賀寛之, 山高篤 行	近位尿道下裂における亀頭形状に応じた尿 道形成についての検討	第59回日本小児外科学会学術 集会 2022年5月19-21日
16	瀬尾尚吾, 越智崇徳, 須田一人, 三宅優一 郎, 古賀寛之, 山高篤 行	近位尿道下裂における亀頭形状に応じた尿 道形成についての検討	第31回日本小児泌尿器科学会 学術集会 2022年7月20-22日

#### 和文著書

1	池上満智彰, 瀬尾 尚吾, 山高篤行	外性器の異常	周産期医学, 東京医学社, 52(8):1426-1430, 2022
---	-----------------------	--------	--

## 2-10 一般外科

### 診療実績



## 研究・教育活動

### 英文著書

- 1、 Ito Tomoaki, Tomoyuki Kushida, Mutsumi Sakurada, Kenichiro Tanaka, Koichi Sato, Hiroshi Maekawa: “Complete wedge resection for duodenal gastrointestinal stromal tumour: A case series of three patients” International Journal of Surgery Case Reports Volume90, Science Direct, <https://doi.org/10.1016/j.ijscr.2021.106674>, January 2022
- 2、 Ito T, Kushida T, Sakurada M, Tanaka K, Sato K, Maekawa H: Complete wedge resection for duodenal gastrointestinal stromal tumour: A case series of three patients. Int J Surg Case Rep. 90, 106674, 2022

### 和文著書

- 1、 村井勇太、伊藤智彰、上田脩平、櫻庭駿介、櫛田知志、櫻田睦、田中顕一郎、前川博、田中利隆、佐藤浩一：「緊急帝王切開術の施行にて救命しえた妊娠合併急性膵炎の一例」日外科系連会誌 47（4）：578-583、2022
- 2、 櫻庭駿介、伊藤智彰、櫛田知志、櫻田睦、前川博、佐藤浩一：経皮心嚢穿刺ドレナージにより治癒し得た特発性食道潰瘍心嚢穿通の一例。日本外科系連合学会誌 47（5）：622-629、2022

### 国内学会発表

- 1、 村井勇太、伊藤智彰、小池周一、牛山裕美子、板倉萌、仁平高朔、渡邊武大、小泉明博、巾匡洋、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、櫻田睦、櫛田知志、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一：「Segmental arterial mediolysisによる左胃大網動脈瘤破裂に対してカテーテル的動脈塞栓治療で治癒し得た1例」発表（web）第58回腹部救急外科学会 2022. 3. 24
- 2、 渡邊武大、小池周一、牛山裕美子、板倉萌、仁平高朔、小泉明博、村井勇太、巾匡洋、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、伊藤智彰、櫻田睦、櫛田知志、田中顕一郎、前川博、佐藤浩一：「治療に難渋した宿便による閉塞性大腸炎の一例」発表（web）第58回腹部救急外科学会 2022. 3. 2

- 3、 村井勇太、岩澤卓弥、伊藤智彰、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、櫻田睦、  
櫛田知志、田中颯一郎、前川博、佐藤浩一：「低栄養及びグルタミンによる大腸癌の  
抗がん剤治療への影響」発表 (web) 日本薬学会第 142 年会 2022. 3. 26
- 4、 田中颯一郎、牛山裕美子、板倉萌、小池周一、仁平高朔、渡邊武大、小泉明博、村  
井勇太、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、伊藤智彰、櫻田睦、櫛田知志、  
田中颯一郎、前川博、佐藤浩一：「高齢者と若年者乳癌の増殖能に違いについて」発  
表 (web)  
第 122 回日本外科学会定期学術集会 ホテル日航熊本 2022. 4. 14
- 5、 伊藤智彰：「当院における 80 歳以上の高齢胃癌手術患者の短期・長期成績の検討 発  
表 (web) 第 122 回日本外科学会定期学術集会 ホテル日航熊本 2022. 4. 15
- 6、 上田脩平：「緑茶による大腸がん細胞 Caco2 に対する細胞増殖抑制作用」  
ポスター発表 (web) 第 122 回日本外科学会定期学術集会 ホテル日航熊本  
2022. 4. 14
- 7、 加藤永記：「急性虫垂炎に対する回盲部切除の検討」ポスター発表 (web) 第 122 回  
日本外科学会定期学術集会 ホテル日航熊本 2022. 4. 14
- 8、 山本陸：「当科での待機的結腸癌手術における縫合不全の検討」ポスター発表 (web)  
第 122 回日本外科学会定期学術集会 ホテル日航熊本 2022. 4. 14
- 9、 小泉明博：「当院における腹腔鏡下幽門側胃切除 ART 吻合導入前後の短期成績の検  
討」ポスター発表 (web) 第 122 回日本外科学会定期学術集会 第 14 会場ホテル日  
航熊本 2022. 4. 15
- 10、 小池周一：「当院における超高齢者に対する腹部手術症例の検討」ポスター発表 (web)  
第 122 回日本外科学会定期学術集会 第 14 会場ホテル日航熊本 2022. 4. 16
- 11、 田中颯一郎、吉田翼、仙波遼子、小池周一、仁平高朔、渡邊武大、小泉明博、村井  
勇太、加藤永記、山本陸、上田脩平、伊藤智彰、櫻田睦、櫛田知志、前川博、佐藤  
浩一：「乳房全切除術後の局所再発を契機に診断された遺伝性乳癌卵巣癌症候群  
(HBOC) の一例」ポスター発表 (web) 第 28 回日本遺伝性腫瘍学会集会 2022. 6. 17
- 12、 田中颯一郎、吉田翼、仙波遼子、小池周一、仁平高朔、渡邊武大、小泉明博、村井  
勇太、加藤永記、山本陸、上田脩平、伊藤智彰、櫻田睦、櫛田知志、前川博、佐藤  
浩一：「高齢乳癌のみの集団；リンパ球絶対数と好中球/リンパ球比でエリブリン投  
与の予後予測は可能か？」第 30 回日本乳癌学会、パシフィコ横浜ノース、2022. 6. 30
- 13、 仙波遼子：「当院で経験した他癌からの乳房転移症例 3 例」第 30 回日本乳癌学会、  
パシフィコ横浜ノース、2022. 6. 30
- 14、 仁平高朔：「遠隔地からの進行乳癌症例を医療連携で治療し得た一例」第 30 回日本  
乳癌学会、パシフィコ横浜ノース、2022. 6. 30

- 15、 小池周一：「アベマシクリブの副作用マネジメントにビデオブックが有効であった一例」第30回日本乳癌学会、パシフィコ横浜ノース、2022. 6. 30
- 16、 加藤永記：「A Case of B-cell Hyperplasia showed convulsion with hypoglycemia」発表、第26回国際膵臓学会&第53回日本膵臓学会大会、国立京都国際会館、2022. 7. 9
- 17、 伊藤智彰：当院の胃癌手術患者における年齢調整チャールソン併存疾患指数による術後合併症予測の検討. 第77回日本消化器外科学会総会 2022. 7. 22 横浜
- 18、 加藤永記：「Relationship between preoperative biliary tract infection and postoperative intraperitoneal infection in pancreaticoduodenectomy」発表(web), 第77回日本消化器外科学会総会、パシフィコ横浜、2022. 7. 20
- 19、 吉田翼、仙波遼子、田中颯一郎、前川博、佐藤浩一、齊藤光江：「当院で経験した乳癌との鑑別を要した海綿状血管腫の一例」発表、第19回日本乳癌学会中部地方会、web, 2022, 9. 3
- 20、 村井勇太、伊藤智彰、小池周一、牛山裕美子、板倉萌、仁平高朔、渡邊武大、小泉明博、巾匡洋、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、櫻田睦、櫛田知志、田中颯一郎、前川博、佐藤浩一：「腹部大動脈溜破裂による腹部コンパートメント症候群をきたし3期的に閉腹した1例」発表、静岡県外科医会、起雲閣、2022. 9. 17
- 21、 櫛田知志：「当院における胸腔鏡下食道切除術の長期成績」発表、第76回日本食道学会学術集会、京王プラザホテル東京、2022. 9. 24
- 22、 伊藤智彰：「腹腔鏡下幽門胃切除における Augmented Rectoangle Technique: ART 吻合後の吻合部浮腫性狭窄の1例」発表、第52回 胃外科・術後障害研究会、沼津プラザヴェルデ、2022. 11. 18
- 23、 田中颯一郎、野萩薫子、渡邊ゆきの、小池周一、仁平高朔、渡邊武大、小泉明博、村井勇太、加藤永記、山本陸、上田脩平、伊藤智彰、櫻田睦、櫛田知志、前川博、佐藤浩一：「乳がん術後、在宅リハビリテーションの新たな試み」発表、第84回日本臨床外科学会総会、福岡国際会議場、2022. 11. 26
- 24、 伊藤智彰：「地域における大学附属病院の外科医に役割」発表、第84回日本臨床外科学会総会、福岡国際会議場、2022. 11. 25
- 25、 小泉明博：「当院での外傷性腹腔内損傷症例治療の現状」発表、第84回日本臨床外科学会総会、福岡国際会議場、2022. 11. 25
- 26、 村井勇太、伊藤智彰、小池周一、牛山裕美子、板倉萌、仁平高朔、渡邊武大、小泉明博、巾匡洋、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、櫻田睦、櫛田知志、田中颯一郎、前川博、佐藤浩一：「当院における大腸手術腸管前処置方変更に伴う縫合不全の発症推移」発表、第84回日本臨床外科学会総会、福岡国際会議場、2022. 11. 24
- 27、 渡邊武大：「術前 mapping biopsy が有用であった肛門管癌 pagetoid spread の一例」発表、第84回日本臨床外科学会総会、福岡国際会議場、2022, 11. 2

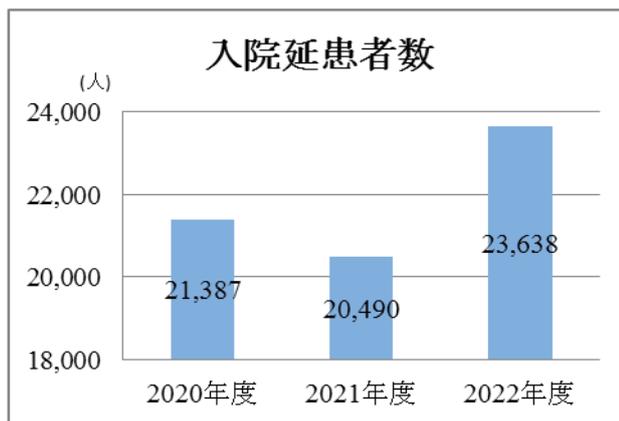
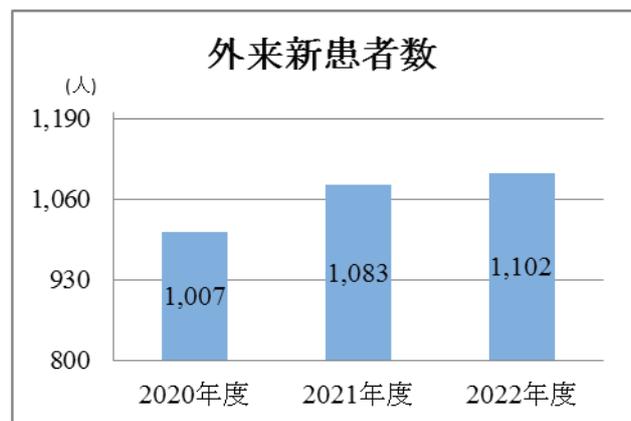
- 28、 小池周一：「炎症反応高値であることを契機に診断された G-CSF 賛生胆嚢癌の一例」  
発表、第 84 回日本臨床外科学会総会、福岡国際会議場, 2022, 11, 24
- 29、 野萩薫子：「Secretory carcinoma の 1 例」発表、第 18 回日本乳癌学会関連地方会、  
東京ビックサイト, 2022. 12. 3
- 30、 伊藤智彰：「当院での腹腔鏡下幽門側胃切除術症例の術前サルコペニアが術後に与え  
る影響」ポスター発表、第 35 回日本内視鏡外科学会総会、ポートメッセなご  
や, 2022. 12. 10
- 31、 渡邊武大：「外腸骨血管浸潤を伴う側方リンパ節転移の直腸 NET に対して計画的 2 期  
的な低侵襲な手術を行った一例」第 35 回内視鏡外科学会総会、ポートメッセなご  
や, 2022. 12. 10

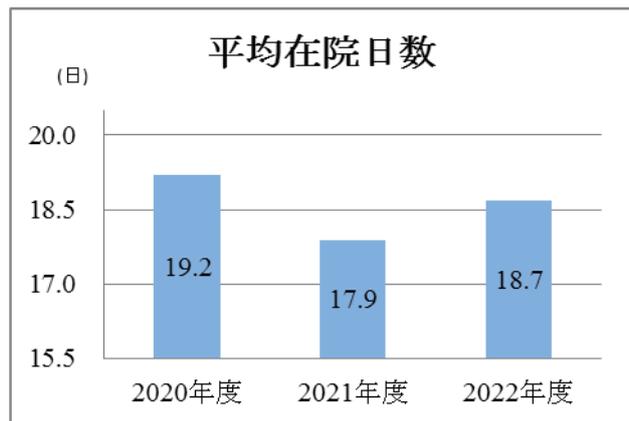
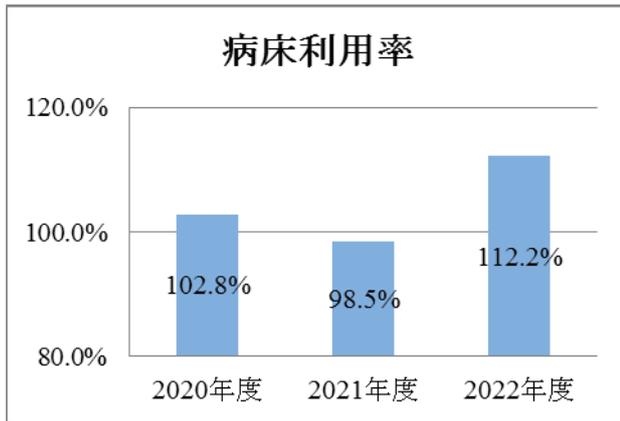
## 2-11 脳神経外科

### 診療実績

病床数	58 床
外来新患者数	1,102 人
年間入院数	1,189 人
手術総数	603 件
腫瘍（脳、脊髄、眼窩）	49
動脈瘤（開頭術/血管内治療）	57
AVM	6
血行再建術（CEA/CAS/バイパス術）	24
外傷	141
感染症	6
脊髄・脊椎疾患	6
機能外科	7
血栓溶解/血栓回収術	61
緊急手術数	303（50.2%）
集光照射	24

（グラフ：年度（4月～翌3月）集計）





## 研究実績

### 和文原著

1. 山本拓史：脳室内出血および脳出血後水頭症の病態と急性期治療．脳神経外科, Vol.50 No.2 : 419-428, 2022
2. 山本拓史：脳卒中の栄養療法．神経治療, Vol.39 No.1 : 18-21, 2022
3. 山川功太、吉田浩貴、赤須 功、田中将大、松崎肅統、北川 亮、酒井 淳、沼澤真一、伊藤康信、渡邊貞義、山本拓史、豊岡輝繁、和田孝次郎、森健太郎：前交通動脈瘤クリッピング術における rectal gyrus の一部切除は術後認知障害の原因となり得るか．脳卒中の外科, Vol.50 : 101-106, 2022
4. 中嶋伸太郎、三島有美子、矢富謙治、寺西功輔、近藤聡英、大石英則：当院における Doble-layer micromesh stent (CASPER)の初期使用成績．日本血管内治療学会誌, Vol. 23 1号 : 1-6, 2022

### 症例報告

1. 池村涼吾、上野英明、足立知司、中尾保秋、山本拓史：片麻痺で発症したアルコール性低カリウム血症性ミオパチーの1例．脳卒中, Vol.44 No.5 : 530-533, 2022
2. 池村涼吾、山高元暉、牧野健作、植木泰仁、眞上俊亮、中尾保秋、山本拓史：軽微な転倒外傷による脳幹挫傷の1例．神経外傷, Vol.45 66-69, 2022

## 和文著書

1. 山本拓史：脳卒中急性期の低栄養。Nice！特集：脳卒中急性期の患者さんの食事支援, Vol. 17, 2022
2. 山本拓史：開頭血腫除去術 適応と内視鏡手術。脳神経外科ザ・ベーシック, (編) 大宅宗一, メジカルビュー社 400-404, 2023

## 学会発表

1. 足立知司, 上野英明, 吉田昂平, 高木悠輝, 渡邊碧音, 杉山裕紀, 植木泰仁, 池村涼吾, 児玉琢磨, 新井晶, 中嶋伸太郎, 北村高之, 眞上俊亮, 長谷川浩, 中尾保秋, 山本拓史：80 歳以上高齢の脳主幹動脈閉塞における機械的血栓回収療法の意義の検討。第 35 回日本老年脳神経外科学会, WEB 開催, Apl. 2022
2. 山本拓史：脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～。第 8 回日本脳神経血管内治療学会近畿地方会, 奈良, Sep. 3, 2022
3. 室伏敬介, 中嶋伸太郎, 高木悠輝, 池村涼吾, 藤田修英, 足立知司, 中尾保秋, 山本拓史：内視鏡下脈絡叢焼灼術にて進行性脳室拡大を停止した脈絡叢過形成の一例。第 102 回日本脳神経外科学会中部支部会, ハイブリッド開催, Sep. 2022
4. 山本拓史：IoT 時代の複合型新素材を用いた頭蓋骨形成術の有効性と長期成績。日本脳神経外科学会第 81 回学術総会, WEB 開催, Sep. 2022
5. 足立知司：80 歳以上高齢の脳主幹動脈閉塞における機械的血栓回収療法の意義検討。日本脳神経外科学会第 81 回学術総会, WEB 開催, Sep. 2022
6. 眞上俊亮：トルソー症候群における回収された血栓の病理学的検討。日本脳神経外科学会第 81 回学術総会, WEB 開催, Sep. 2022
7. 中嶋伸太郎：当院における急性期主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法の治療成績。日本脳神経外科学会第 81 回学術総会, WEB 開催, Sep. 2022
8. 児玉琢磨：頭蓋内病変と腸管虚血。日本脳神経外科学会第 81 回学術総会, WEB 開催, Sep. 2022
9. 高木悠輝：皮質下出血発症後、短時間で発症し致死的となった胸部大動脈解離の 1 例。日本脳神経外科学会第 81 回学術総会, WEB 開催, Sep. 2022
10. 山高元暉：局所再発と脊髄腔内への drop metastasis を認めた choroid plexus papilloma の 1 例。日本脳神経外科学会第 81 回学術総会, WEB 開催, Sep. 2022
11. 室伏敬介：Chiari 奇形に合併したくも膜下出血後癒着性くも膜炎により発症した遅発性脊髄空洞症の 1 例。日本脳神経外科学会第 81 回学術総会, WEB 開催, Sep. 2022
12. 中嶋伸太郎：軟性鏡、硬性鏡併用による脈絡叢焼灼術が有効であった脈絡叢過形成の一例。第 29 回日本神経内視鏡学会, 長野, Nov. 3, 2022
13. 眞上俊亮：医原性椎骨動脈損傷に対する脳血管内治療。第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪, Nov. 2022
14. 中嶋伸太郎：当院における急性期主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法の治療成績。第 38 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術集会, 大阪 Nov. 2022
15. 池村涼吾, 足立知司, 室伏敬介, 高木悠輝, 中嶋伸太郎, 藤田修英, 中尾保秋, 山本拓史：蝶形骨洞髄膜脳瘤による特発性髄液鼻漏。第 50 回日本頭痛学会総会, 東京, Nov. 2022
16. 山本拓史：Cranial PSI 新複合素材によるカスタムメイド人工骨をもちいた頭蓋骨形成術～手術手

- 技の実際と長期成績. 第 46 回日本脳神経 CI 学会総会ランチョンセミナー, 千葉, Jan. 20, 2023
17. 高木悠輝: 頸椎損傷に伴う鈍的椎骨動脈損傷の 1 例. 第 28 回日本脳神経外科救急学会, 和歌山, Feb. 17, 2023
  18. 池村涼吾: 急性硬膜下血腫に対する減圧開頭術の適応因子に関する研究. 第 46 回日本脳神経外傷学会, 岡山, Feb. 25, 2023
  19. 山本拓史: 内視鏡下血腫除去術の可能性-RICH-trend から見えてくる有効性と限界-. STROKE2023 シンポジウム, 神奈川, Mar. 16, 2023
  20. 山本拓史: くも膜下出血における全身管理と栄養療法の意義. STROKE2023 シンポジウム, 神奈川, Mar. 16, 2023
  21. 山本拓史: 高タンパク経腸栄養剤を用いた脳卒中急性期栄養プロトコールの実践. STROKE2023 シンポジウム, 神奈川, Mar. 18, 2023
  22. 足立知司: 80 歳以上高齢の脳主幹動脈閉塞における機械的血栓回収療法の意義の検討. STROKE2023, 神奈川, Mar. 17, 2023
  23. 眞上俊亮: 頸椎損傷による鈍的椎骨動脈損傷から小脳梗塞を呈した 3 例. STROKE2023, 神奈川, Mar. 17, 2023
  24. 中嶋伸太郎: 当院における急性期主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法の治療成績. STROKE2023, 神奈川, Mar. 18, 2023
  25. 高木悠輝: 視床出血脳室穿破に対する内視鏡下脳室内血腫除去について. STROKE2023, 神奈川, Mar. 18, 2023
  26. 山高元暉: COVID-19 感染関連の脳卒中の現状について. STROKE2023, 神奈川, Mar. 16, 2023

## 講演会

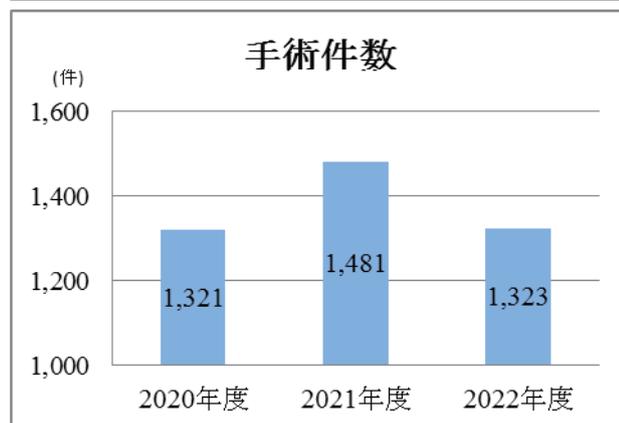
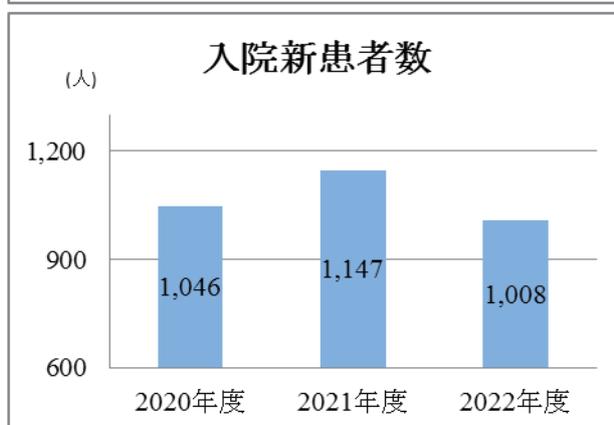
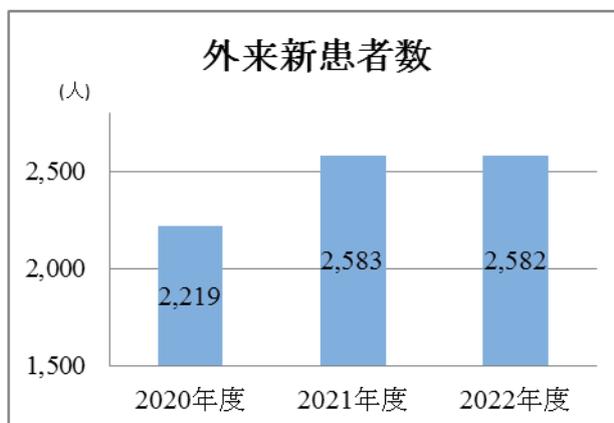
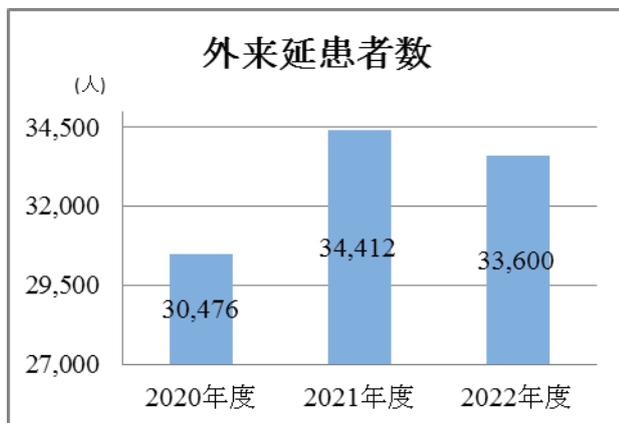
1. 児玉琢磨: 中枢神経原発悪性リンパ腫のこれまでとこれから. 第 327 回東部 NS 会, Jun. 14, 2022
2. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 脳卒中後てんかんの病態と薬物療法を考える, Jun. 16, 2022
3. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 鶴舞てんかんカンファレンス, Jun. 22, 2022
4. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 脳卒中周術期のでんかん診療を考える会, Jun. 27, 2022
5. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 君津木更津脳卒中連携フォーラム, Jul. 13, 2022
6. 児玉琢磨: 当院における脳血管収縮の治療. SAH ネットワーク Expert Meeting in Numazu ・ Izu, Jul. 2022
7. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 脳卒中後てんかん診療セミナー in 八戸, Aug. 29, 2022
8. 山本拓史: 脳卒中における脂質代謝異常の実際～急性期から維持期の脂質管理～. Kowa Web Conference, Sep. 5, 2022
9. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 脳卒中関連

てんかんセミナーin 郡山, Sep. 12, 2022

10. 足立知司: グリオーマ患者における当院でのペランパネル使用経験. 静岡グリオーマ Web セミナー, Sep. 14, 2022
11. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 脳卒中関連 てんかん Up to date, Oct. 26, 2022
12. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. Post Stroke Epilepsy in 北九州, Nov. 14, 2022
13. 山本拓史: 脳卒中の栄養療法～急性期・回復期・維持期の栄養管理について～. Abbott Nutrition Web Seminar ～Meet the Expert～, Nov. 16, 2022
14. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 周術期マネジメントセミナーin 豊橋, Dec. 5, 2022
15. 足立知司: グリオーマ患者における当院でのペランパネル使用経験. ペランパネル特別講演 東部 NS 会 (第 328 回), Dec. 14, 2022
16. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. てんかん診療セミナーin 青森, Dec. 16, 2022
17. 山本拓史: エルガルティとレイボアの登場による頭痛治療 Up to Date～脳過敏症候群を含めて～. 片頭痛治療 Web Seminar～急性期・予防治療を考える～, Jan. 24, 2023
18. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 信州脳卒中後てんかん Web セミナー, Jan. 31, 2023
19. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 脳卒中関連 てんかんマネジメント Digital Conference, Feb. 7, 2023
20. 眞上俊亮: 脳血管攣縮予防治療の変化 (クラブセンタンナトリウム導入後のリアルワールド). SAH Network Seminar in FUJI・IZU, Mar. 7, 2023
21. 山本拓史: 脳神経領域における疼痛管理. 高齢者トータルケアセミナー, Mar. 8, 2023
22. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. STROKE 手術手技セミナー, Mar. 13, 2023
23. 山本拓史: 脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 脳神経外科医のためのてんかんセミナー, Mar. 29, 2023

## 2-12 整形外科

### 診療実績



## 研究・教育活動

### 英文原著

- Youichi Yanagawa, Hiroki Nagasawa, Kouhei Ishikawa, Shunki Hirayama, Akira Itoi, Atsuhiko Mogami. "Penetrating aortic injury due to broken ribs and preventive measures." *AORTA* 10.05 (2022): 249-252.
- Akira Itoi, Hidetoshi Nojiri, Takahisa Ogawa, Osamu Obayashi. "Posterior Insertion of a Lateral Lumbar Interbody Fusion Cage for the Treatment of Osteoporotic Vertebral Fracture with Kyphotic Deformity: A Case Report." *Journal of Orthopaedic Case Reports* 12.4 (2022): 75.

### 和文原著

1. 相庭 温臣, 門田 領, 望月 真人, 糸井 陽. 頸椎変性疾患に対する前方除圧術後に生じる嚥下障害のリスク因子(原著論文) *Journal of Spine Research*(1884-7137)13 卷2 号 Page102-109(2022. 02)
2. 波多江文俊, 神田章男, 諸橋達, 最上敦彦. 同側大腿骨骨幹部骨折に合併した大腿骨頸部骨折に対するシヨートステム optimys の有用性. *Hip Joint* 48 卷 Page589-593(2022. 08)

### 国内学会発表

1. 神田章男  
重力加速度計を用いた簡易ポ-ダブルレベ-ション(HipAlign)と手術中透視画像による設置角精度誤差の検討  
Monoblock press-fit cup(RM cup vitamys)の初期固定力  
第52回日本人工関節学会 京都 2022年2月25日-26日
2. 諸橋達  
第52回日本人工関節学会 京都 2022年2月25日-26日
3. 最上敦彦  
四肢再建に必要な骨接合の知識~プレート固定と髓内釘の基本~髓内釘編 第35回日本四肢再建・創外固定  
学術集会 奈良 2022年3月11日-12日
4. 田代 憲 神田 章男 諸橋 達 最上 敦彦 大林 治  
副甲状腺腺腫による大腿骨骨幹部 Brown 腫瘍と大腿骨頸部脆弱性骨折を合併した1例  
第197回静岡県整形外科医会集談会 2022年3月12日 静岡
5. 最上 敦彦  
上肢骨折の髓内釘治療-Smart naililing-  
第95回日本整形外科学会学術総会 2022年5月19日-22日 兵庫
6. 諸橋 達  
DT00, LT0 への髓内釘による固定  
第95回日本整形外科学会学術総会 2022年5月19日-22日 兵庫
7. 神田 章男  
重力加速度計を用いた簡易ポ-ダブルレベ-ションの設置角度精度と測定誤差を生じる原因  
第95回日本整形外科学会学術総会 2022年5月19日-22日 兵庫
8. 最上 敦彦  
守・破・離-上腕骨近位端骨折治療の極意  
第48回日本骨折治療学会 2022年6月23日-25日 神奈川

9. 分島 智子

寛骨臼後壁骨折は上手に整復してもやはり予後不良なのか

第48回日本骨折治療学会 2022年6月23日-25日 神奈川

10. 守屋 秀一 最上 敦彦

Snowmansuture法を用いた鎖骨骨折に対する前方プレート固定法

第48回日本骨折治療学会 2022年6月23日-25日 神奈川

11. 波多江 文俊

高齢者の大腿骨近位部骨折後の同側大腿骨骨折に対する治療の工夫

第48回日本骨折治療学会 2022年6月23日-25日 神奈川

12. 久木原 由華

ビスホスホネート製剤内服中に生じた両側非定型尺骨骨幹部骨折の症例

第48回日本骨折治療学会 2022年6月23日-25日 神奈川

13. 田代 憲

異所性副甲状腺腫による大腿骨頸部脆弱性骨折と大腿骨骨幹部Brown腫瘍を合併した一例

第48回日本骨折治療学会 2022年6月23日-25日 神奈川

14. 古城 智也 諸橋 達 神田 章男 最上 敦彦 大林 治

当院におけるSPO(寛骨臼移動術)の短期成績

第198回静岡県整形外科医会集談会 2022年7月9日 静岡

15. 東 浩輔 分島 智子 守屋 秀一 神田 章男 諸橋 達 最上 敦彦 大林 治

肩関節におけるpseudodislocationの1例

第198回静岡県整形外科医会集談会 2022年7月9日 静岡

16. 高岡 宏行

骨軟部に発生した高リン酸性間葉系腫瘍による腫瘍性骨軟化症の2例

第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会 2022年7月14日-15日 東京

17. 糸井 陽

経皮的椎弓根スクリューのロッドヘントを容易にする簡素なポッドシステム 開発初期の臨床経験

第29回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会 2022年9月2日-3日 大分

18. 塩原 崇生

TemporaryFixationとして腸骨内側からDualIliacScrewを挿入したTrance Iliac Rod FixationとSpino pelvic fixationを併用SPF-TIRF法の1例

第29回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会 2022年9月2日-3日 大分

19. 最上 敦彦

整形外傷医を志す君へ

第8回日本重度四肢外傷シンポジウム 2022年9月30日-10月1日 北海道

20. 守屋 秀一 最上 敦彦 大林 治 石島 旨章

高齢者上腕骨近位端3/4part骨折に対する治療戦略

第49回日本肩関節学会学術集会 2022年10月7日-8日 神奈川

21. 波多江 文俊 守屋 秀一 最上 敦彦 大林 治 石島 旨章

Scorpion NEOを用いた鎖骨遠位端骨折術後の肩鎖関節脱臼のついて

第49回日本肩関節学会学術集会 2022年10月7日-8日 神奈川

22. 最上 敦彦

骨折/寛骨臼骨折治療の最前線

第49回日本股関節学会学術集会 2022年10月28日-29日 山形

23. 諸橋 達

変形性股関節症に対する Spherical Periacetabular Osteotomy の短期成績

第 49 回日本股関節学会学術集会 2022 年 10 月 28 日-29 日 山形

24. 神田 章男

ペルス様扁平骨頭に対する大腿骨外反・伸展・減捻骨切り術

併用偏心性寛骨臼回転骨切り術(ERA0)の短期成績

第 49 回日本股関節学会学術集会 2022 年 10 月 28 日-29 日 山形

25. 諸橋 達

趾節間外反母趾の評価-立位正面像と 3D-CT の関係-

第 47 回日本足の外科学会学術集会 2022 年 11 月 3 日-4 日 愛媛

26. 糸井 陽

「頸椎頸髄損傷の Evidence へのアンチセ」 1 骨折型からの治療戦略 2 牽引性脊髄損傷-受傷動画から-

第 57 回日本脊髄障害医学会 2022 年 11 月 17 日-18 日 神奈川

27. 山本 悠矢 分島 智子 守屋 秀一 神田 章男 糸井 陽 諸橋 達 最上 敦彦 大林 治  
腫瘍嵌頓による関節伸展制限で発症した膝関節内限局型腱滑膜巨細胞腫の 1 例

第 199 回静岡県整形外科医会集談会 2022 年 11 月 19 日 静岡

28. 松原 颯 分島 智子 守屋 秀一 糸井 陽 神田 章男 諸橋 達 最上 敦彦 大林 治  
鎖骨近位端骨折に対して骨縫合を行った 1 例

第 199 回静岡県整形外科医会集談会 2022 年 11 月 19 日 静岡

29. 中井 一輝

治療に難渋した腰仙移行部化膿性脊椎炎に対してナビゲーション下に側方進入前方自家腓骨移植を行った脊椎固定の 1 例

第 31 回日本脊椎インスルメンテーション学会 2022 年 11 月 25 日-26 日 大阪

**特別講演・招待講演**

1. 大林 治

高齢者の非上皮悪性腫瘍について

第 43 回静岡骨軟部腫瘍研究会 2022 年 3 月 26 日 静岡

2. 大林 治

膝で寝たきりにならにために

SBS ラジオサンデークリニック 2022 年 6 月 19 日 静岡

3. 大林 治

新しい膝 OA の保存療法の限界について

令和 4 年度静岡県臨床整形外科医会「夏の研修会」 2022 年 7 月 2 日 静岡

4. 大林 治

整形外科医でも出来てしまう最新の骨粗鬆症治療

富士整形外科医師会学術講演会 2022 年 10 月 21 日 静岡

5. 最上 敦彦

髓内釘を極める～至適選択と知的戦略～

第 9 回黒潮整形外科外傷カンファレンス 2022 年 3 月 26 日 高知

6. 最上 敦彦

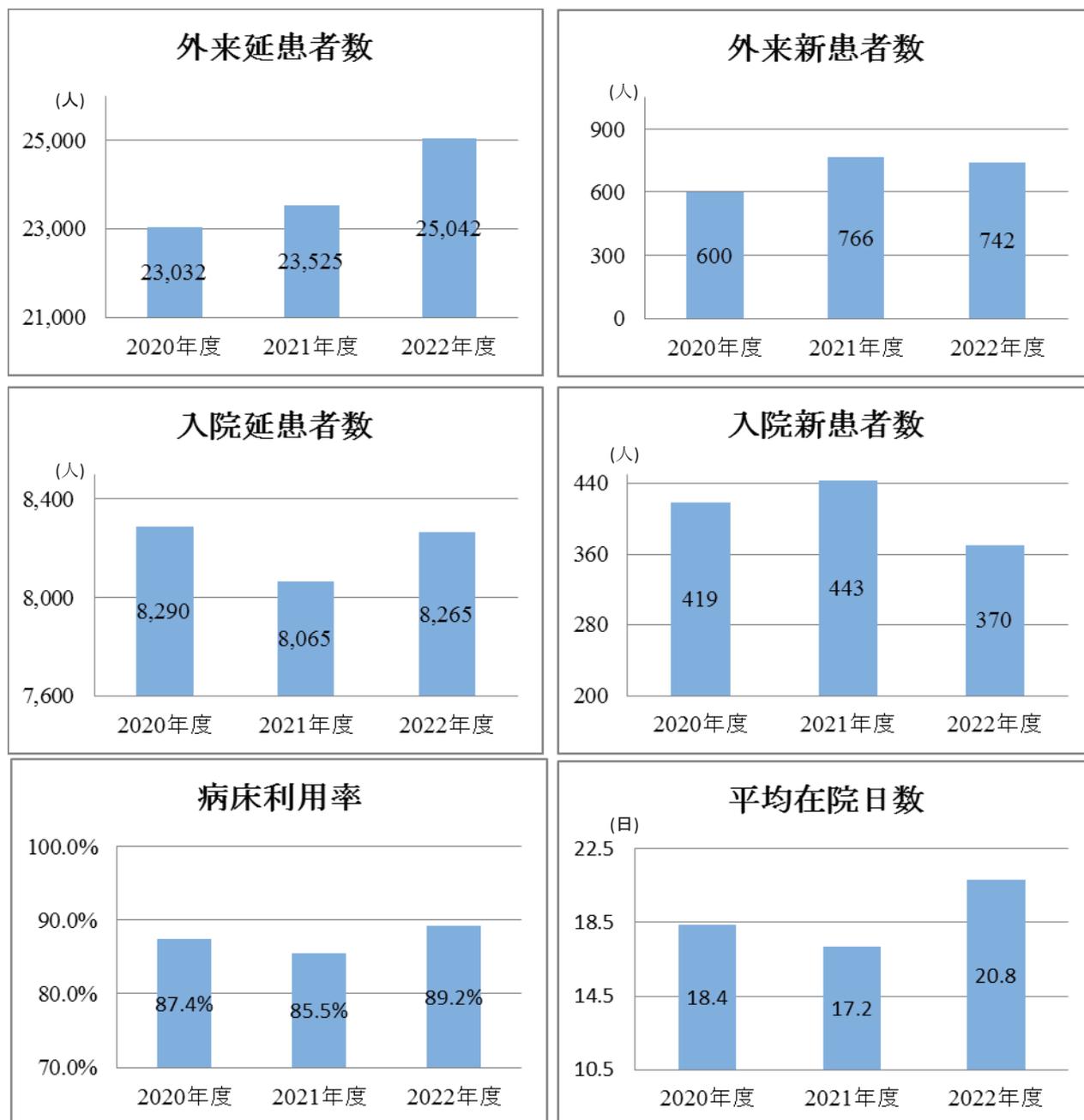
四肢骨折治療における髓内釘を極める～至適選択と知的戦略～

第 34 回兵庫骨骨折治療研究会

7. 最上 敦彦  
The 3rd Fragility Fracture Symposium 2022年5月28日 ハイブリット形式
8. 分島 智子  
順天堂大学静岡病院における骨粗鬆症治療  
旭化成ファーマ社内教育講演会 2022年6月1日 静岡
9. 最上 敦彦  
Critical Thinking 骨折治療～髄内釘を駆使した骨接合術～  
第38回奈良骨研究会
10. 神田 章男  
血友病性関節症について学ぶ  
中外製薬株式会社 社内研修会 2022年7月6日 静岡
11. 最上 敦彦  
ARISUTOのポイント  
MDM社内講演会 2022年9月1日
12. 最上 敦彦  
骨折治療 UpToDate ～適切な労災加療の道標～  
静岡労災指定医協会 医学講習会 2022年9月17日 静岡
13. 分島智子  
重度四肢外傷てらこや  
第8回日本重度四肢外傷シンポジウム 2022年9月30日-10月1日 北海道
14. 最上 敦彦  
上腕骨近位部骨折-各種治療法の選択基準について-  
上腕骨近位部骨折RSAセミナー IN KUMAMOTO-関節外科医と外傷整形外科医の立場から-  
2022年10月15日 熊本
15. 神田 章男  
股関節骨切り患者の術式  
第18回JAリハビリテーション中伊豆温泉病院理学療法法研修会 2022年11月9日 静岡
16. 神田 章男  
血友病患者における関節診療の現状と課題  
静岡中部血友病『関節診療』連携カンファレンス. 2022年11月18日 静岡
17. 神田 章男  
血友病患者における関節診療の現状と課題. 医学教育会  
医学教育会(血友病性関節症) 2022年11月30日 静岡

## 2-13 脳神経内科

### 診療実績



### 【はじめに】

2022年度の静岡病院脳神経内科では、新型コロナウイルスの蔓延の中、医局員の先生方共々、忙しい日々を送ってまいりましたが、大きな問題もなく順調な運営に協力して頂き感謝申し上げます。

当科は引き続き、静岡県東部地区の数少ない神経内科専門の診療科の使命を全うすべく、以下の点に注意し診療活動を行っております。外来診療では、初診や紹介患者は来院してから待ち時間を

最小限にするよう、可及的速やかな初期対応を継続しております。外来患者数も徐々に増加傾向であります。入院患者の診療でも医師同士の連携を密に行い、私も1日1回は必ず病棟を自分で回診するなどのサポートを継続し、医療安全の面でも最善を尽くして参ります。

研究面では、恵まれた環境を生かして約18年の間1度も欠かさず地方会発表を継続し、発表例を含め、臨床上意義のある症例は論文として発表して参りました。少しずつ論文化を継続しております。

初期研修医の教育も重要です。静岡病院は1ヶ月ずつのローテーションなので、まず神経学のエッセンシャルを吸収していただければと思います。1年目に脳内をローテーションして興味を持ち、2年目にも選択してくれる研修医も出てきて、大変ありがたいことであると感じます。2020年は、静岡病院への学生さん（M4からM5）のローテーションがなく、残念でしたが、来年度以降のラウンドでは、教育をしっかり行い、静岡病院の初期研修医を増やし、さらには神経学教室への入局者増加に貢献したいと考えております。

当科の人事ですが、藤巻基紀と石黒 雄太医師らが中核として、診療及び教育にリーダーシップを発揮してくれています。藤巻医師は、留学の経験を活かし後進の指導及び静岡病院の各科と緊密に連携しリーダーシップを発揮しております。石黒医師は、医局の中心として診療のみならずローテーションの医師、研修医の指導を熱心に行っております。これまでの歴代教授・医局長・教室の諸先生のご理解に感謝するとともに、今後とも一層のご指導・ご支援を賜ればありがたく存じます。

### 【スタッフ (R5年3月現在)】

野田和幸 (科長 先任准教授)、大熊泰之 (教授)、藤巻基紀 (医局長・助教)、石黒雄太 (病棟医長・助手)、2名の助手はローテーションで、卒後3-5年目の各先生が3ヶ月ごとに2名ずつ勤務し、病棟・救急外来等で活躍してくれました。

### 【診療データ】

当科はパーキンソン病を含め、すべての神経疾患に対して診療を行っており、適切な診断と治療を常に心がけております。例年通り沼津、三島、伊豆半島全域をはじめ、熱海、湯河原、御殿場、裾野、富士、富士宮などから通院しておられます。静岡市、東京都、山梨県からもパーキンソン病や運動障害の患者さんが通院されました。富士市の池辺クリニック、静岡市の城西クリニック、富士宮市の東静岡神経センター、三島市の森本神経内科クリニックといった、当科出身の諸先生方からも随時ご紹介頂き、大変光栄に思います。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

【週間外来表（5年3月現在）】

	曜日	月	火	水	木	金	土
午前	1診	藤巻	野田	石黒	野田	藤巻	交代制
	2診	初診医	石黒	初診医 (野田)	大熊	大熊	第4遠隔診療 (野田)
午後	1診	藤巻		石黒	野田	藤巻	
		ボトックス			藤巻 (筋電図)		

病棟は4B病棟で眼科と脳神経内科の2科体制であります。看護師さんらスタッフも眼科は動ける患者さんが多いものの入退院が激しく、脳神経内科は介護度が高く大変だと思いますが、慣れてきたようです。入院患者の総数は500人（兼科含む）で昨年と横ばいでした。パーキンソン病の入院患者が最も多く、次いで脳梗塞の患者でした。その次がALS、痙攣などの運となっております。その他、ほぼ神経学のすべての領域の症例を診療しております。平均在院日数は、ほぼ年間を通じて20日以内達成を継続できており、MSWや退院支援ナースの働きには常に感謝しています。病病連携、病診連携の重要性も常に認識しています。また長岡リハビリテーション病院、松崎研一郎院長はじめスタッフの皆様には、患者さんだけでなく教室員が毎度お世話になっております。さらに日頃からお世話になっている病院・医院の先生方や施設の方々にも心から御礼申し上げます。

【研究】

(1) パーキンソン病等 Movement disorders の病態および治療に関する研究：

大熊は関東パーキンソン病勉強会の主要メンバーとして、数々の共同研究に参加してきました。パーキンソン病の姿勢異常の研究では自治医大ステーションクリニック藤本先生が論文投稿目前まで来ています。また新しい共同研究として、東京女子医大飯嶋先生を中心に嗅覚障害とレム睡眠行動異常(RBD)を中心に調べており、登録が終了し、解析中です。

重度嗅覚障害をとまなうパーキンソン病患者において、ドネペジルが認知症発症を予防できるかどうかを前向きに調べるDASH-PD試験も無事終了しました(厚生労働科学研究費補助金[現AMED臨床研究・治験推進研究事業]；平成24年～28年度[分担研究者])。イベント発生率が少ない関係で1年間延長になりましたが、当院では全国で4番目に多い12例をエントリーしてフォローしています(大熊、野田)。さらにドネペジルの歩行に対する効果を客観的にみるために、患者さんの携帯歩行計記録を行っています(大熊)。

大熊はオランダの Prof. Bas Bloem と共同で、日内変動とすくみ足を有するパーキンソン病におけ

る転倒の前方視的調査を行いました。また携帯歩行計を用いてパーキンソン病や関連疾患の歩行解析を行っています。パーキンソン病患者さんの家庭での転倒とすくみ足を客観的に評価する試みを継続しています。

野田は不随意運動を呈する例をこれまでに多数英文で症例報告しました。今後も診療と並行して、症例報告を継続しようと考えております。さらに、徳島大学主導での高用量 E0302 の筋萎縮性側索硬化症に対する第Ⅲ相試験-医師主導治験-に参加し、症例を登録いたしました。引き続き、アンケート調査への協力も参加する予定です。先行研究は JAMA Neurology 2022 に掲載されました。本年度より静岡東部地域での遠隔診療を開始しております。

(2) 脳血管障害に関する研究：

本年度より、順天堂浦安病院 脳神経内科、当院脳神経外科と共同で、急性期脳梗塞に対する認知機能評価とその機能的予後につき、検討を開始しました。

(3) 神経免疫学的研究：

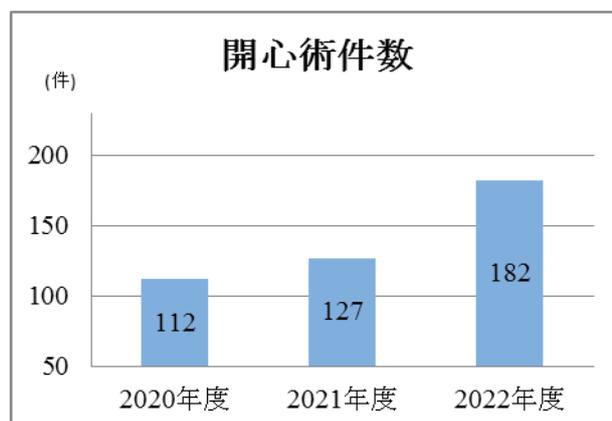
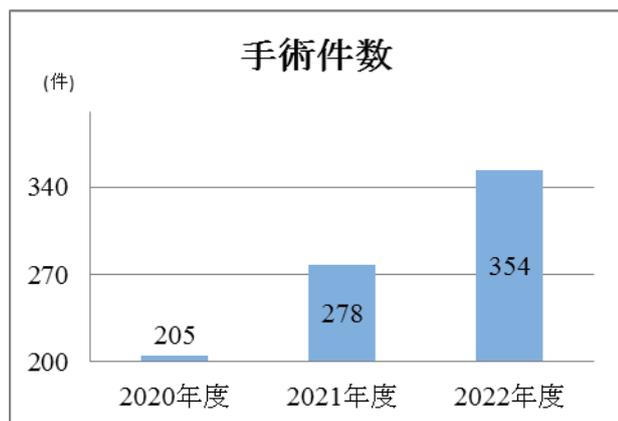
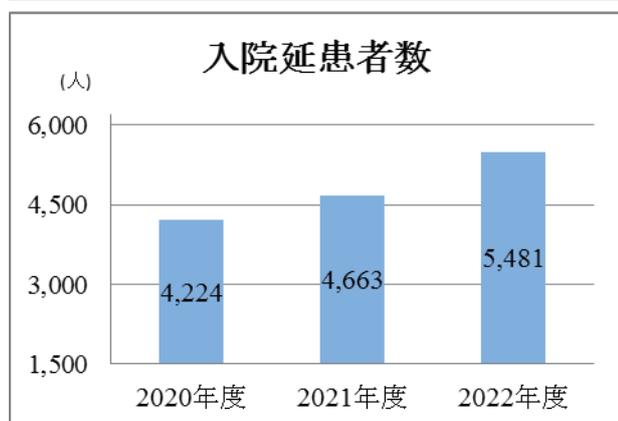
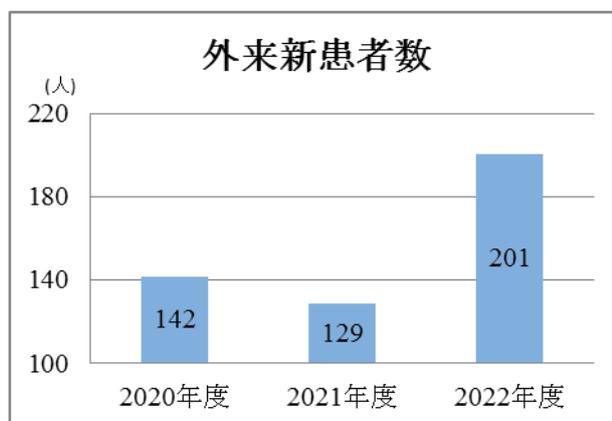
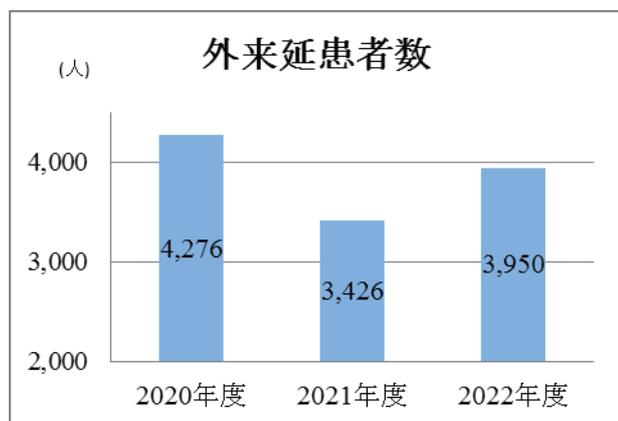
多発性硬化症に対して使用できるようになった種々の Disease modifying therapy(DMT)を試みて症例を蓄積しています。

**【研究業績，活動等】**

日本神経学会関東地方会への年 4 回の報告は継続しております。

## 2-14 心臟血管外科

### 診療実績



## 診療活動

順天堂大学医学部附属静岡病院心臓血管外科は現在5人のスタッフで診療を行っております。診療圏は伊豆半島を含む静岡県東部地域であります。心臓血管外科診療を行う施設は多くありません。一方で地域の高齢化は進んでおり、循環器治療が必要な患者様が多くいらっしゃいます。さらに首都圏と比較しても高齢者、全身疾患や併存症を有する患者様の割合が多いことも特徴です。このようなリスクの高い患者様に対しても大学附属病院の利点である他診療科および多職種との強力な連携のもとで診療を行っております。循環器内科との合同カンファレンス、麻酔科・手術室・集中治療室・臨床工学室との多職種カンファレンスを毎週開催しております。

平成2022年度の1年間で心臓胸部大血管手術182例（TAVI; Transcatheter Aortic Valve Implantationを含む）、腹部大動脈瘤やその他の手術を含めて計354例の手術を実施しました。緊急手術はそのうち67例でした。2022年は循環器内科とともにハートチームとして重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI; Transcatheter Aortic Valve Implantation）が開始され、9カ月間で38例の治療を実施いたしました。

診療成績については、手術症例数は飛躍的に増加している一方で、平均在院日数は以前と比較して短縮しており、先進的医療の成果と同時に診療成績の向上を示しております。

## 次年度目標

高齢化に伴い著しく増加している心臓大血管疾患に対する低侵襲治療に力を入れております。

重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI; Transcatheter Aortic Valve Implantation）が2022年より循環器内科とともにハートチームとして開始いたしました。ハートチームとしては現在2名のTAVI指導医、2名のTAVI実施医がおり従来の外科的大動脈弁置換術が困難である高齢者やfrail症例に対して、質の高い治療を行っております。

僧帽弁疾患や大動脈弁疾患に対しては小切開や内視鏡で行う低侵襲心臓手術（MICS ; Minimally Invasive Cardiac Surgery）を積極的に行っております。順天堂グループの優れた成績を維持しながら低侵襲化に取り組むことに特に力を入れております。内視鏡下手術も順調に症例数を重ねており2023年には静岡病院でロボット心臓手術が実施できるように準備を行っております。

低侵襲治療分野においては大動脈瘤に対する内視鏡手術のみならず血管内治療も症例数が増加しその治療成績も向上しております。大動脈瘤に対するステントグラフトは耐術能に悖る患者様やfrail症例に対して行われる血管内治療であります。従来の開胸手術とともにその成績は良好です。

近年、冠動脈インターベンションの適応拡大に伴い減少している冠動脈バイパス術（CABG）ではありますが、当科の心拍動下に血行再建を行うオフポンプ治療と長期予後を見据えたグラフト選択によるCABGは術後の回復も早く、患者様やご紹介いただいた先生方に高い評価を頂いております。そのため遠方からの患者様も多くお越しになり、症例数は増加しております。

その他、地域の特性から大動脈解離、大動脈瘤などの急性大動脈症候群に対する緊急手術も数多く手掛けておりその成績も良好です。こうした疾患に対しては、従来の開胸手術、ステントグラフト治療あるいは両方の治療を組み合わせることで、救命率の向上だけでなく遠隔期予後の改善も目標として治療を行っております。

2023年度も引き続き、臨床面では手術成績の向上により重点を置くこと、TAVIやロボット心臓手術などの先進的な医療を提供できる県東部地域の基幹病院としての地位を確固たるものとするを目標

といたします。また学術活動もさらに活性化し、静岡病院から世界に向けた研究成果を発信できるよう尽力して参ります。

診療・研究・教育の3分野で、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構における基幹施設にふさわしい活動を年間通じて継続してまいりますので、みなさま方からのご指導・ご鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 研究・教育活動

### ① 原著（英文）

1. Matsui Y, Asai T, Oishi A, Kamikawa Y, Amano A, Tabata M. Minimally Invasive Extraction of a Catheter From the Heart Without Thoracotomy. *Ann Thorac Surg*. 2022 Dec;114(6):e451-e453. doi: 10.1016/j.athoracsur.2022.02.019. Epub 2022 Feb 26.
2. Oishi A, Asai T, Kajimoto K, Kamikawa Y, Amano A; Mycotic Aortic Arch Aneurysm Caused by *Clostridium perfringens*; *Cureus*. 2022 Jan11;14(1):e21135. doi: 10.7759/cureus.21135. eCollection 2022 Jan.
3. Oishi A, Matsushita S, Dohi S, Yamamoto T, Kajimoto K, Amano A: Endovascular repair for iliac artery aneurysms: Surgery in Practice and Science. <https://doi.org/10.1016/j.sipas.2022.100141>

### ② 学会発表（国内）

1. 梶本完, 大石淳実, 上川祐輝, 小田遼馬, 畑博明, 稲葉博隆, 浅井徹, 天野篤: Atrial functional mitral regurgitation に対する弁形成術: 二次腱索切除と前尖人工腱索の成績. 第52回日本心臓血管外科学会定期学術集会, シンポジウム, 横浜, 2022
2. 小田遼馬, 大石淳実, 上川祐輝, 畑博明, 梶本完: 救命可能であった腹部大動脈瘤破裂の2症例: 第14回静岡県東部心臓外科循環器内科連携の会, 静岡, 2022
3. 松井友紀, 浅井 徹, 遠藤大介, 李 知榮, 町田洋一郎, 西田浩介, 佐藤友一郎, 松下 訓, 畑 博明, 天野 篤: 亜急性心筋梗塞による後方型心室中隔穿孔に対して拡大サンドイッチ法心室中隔穿孔閉鎖術を施行した一例. 第188回日本胸部外科学会 関東甲信越地方会
4. 松井友紀, 浅井 徹, 遠藤大介, 李 智榮, 町田洋一郎, 西田浩介, 佐藤友一郎, 松下 訓, 森田照正, 畑 博明, 天野 篤: 心室中部閉塞性肥大型心筋症に対して経大動脈弁、経心尖部心筋切除を施行した一例. 第263回日本循環器学会関東甲信越地方会
5. 梶本完, 大石淳実, 上川祐輝, 小田遼馬, 畑博明. Results of mitral valve plasty using secondary chordal cutting and anterior leaflet artificial chordae for atrial functional regurgitation, 第46回静岡県心臓血管外科手術手技ビデオカンファレンス, 静岡, 2022
6. 小田遼馬, 大石淳実, 上川祐輝, 中村優, 設樂準, 和田英樹, 塩澤知之, 荻田学, 畑博明, 諏訪哲, 梶本完: 亜急性心筋梗塞、心不全入院加療中に新規出現した左室内巨大血栓症にに対して内視鏡下血栓除去術を施行した一例: 第159回日本循環器学会東海地方会, 三重, 2022
7. 小田遼馬, 大石淳実, 上川祐輝, 畑博明, 梶本完: 亜急性心筋梗塞、心不全入院加療中に新規出現した左室内巨大血栓症にに対して内視鏡下血栓除去術を施行した一例: 第66回静岡心臓血管外科医会, 静岡, 2022

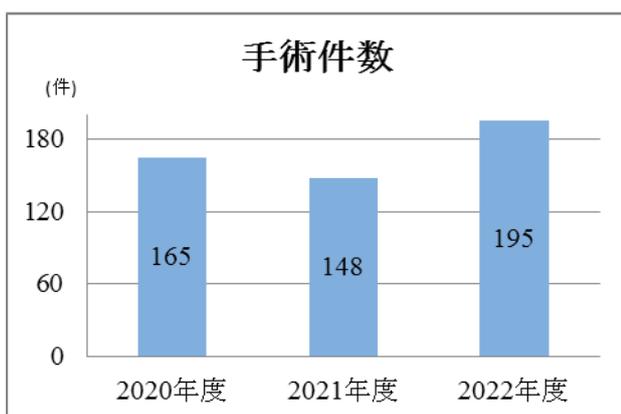
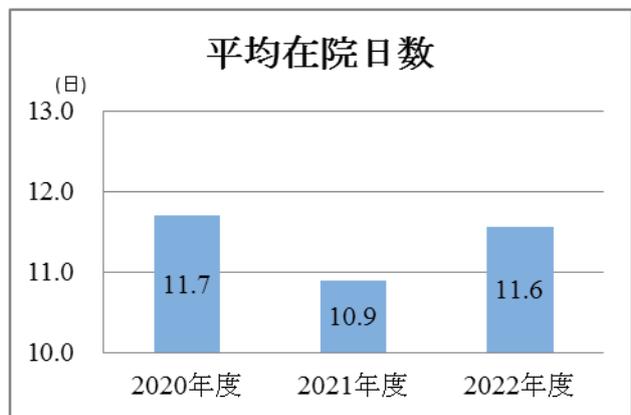
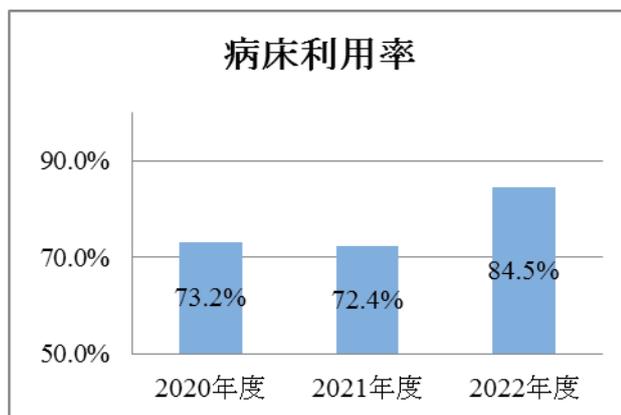
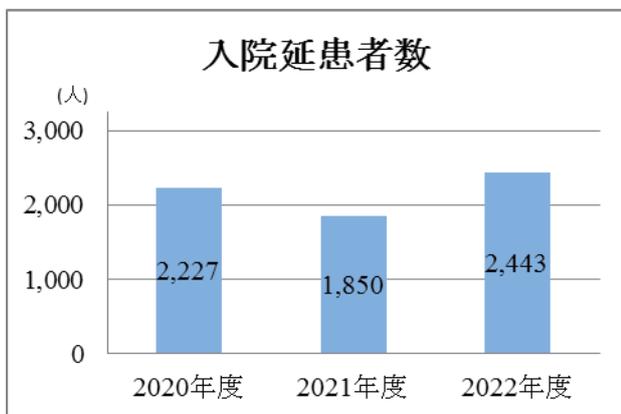
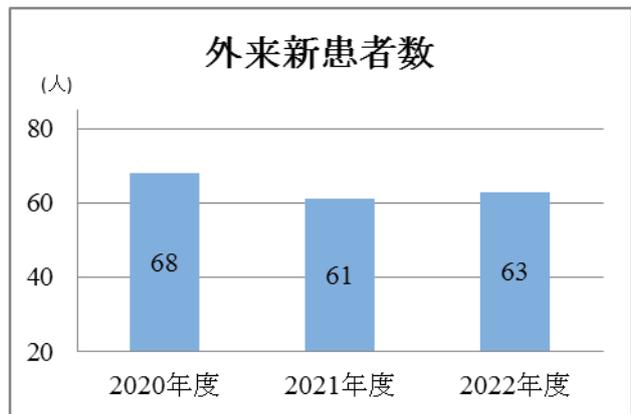
8. 小田遼馬、梶本完、上川祐輝、畑博明、大石淳実：解離性腹部大動脈瘤を有する大動脈弁狭窄症患者に対して EVAR と RAT-AVR を併施した一例：Complex Cardiovascular Therapeutics 2022, ポスター, 神戸, 2022
9. 小田遼馬、梶本完、上川祐輝、畑博明、大石淳実：浮遊性弓部大動脈血栓に対し外科的治療を施行した一例：第 190 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2022

③ 学会発表 (海外)

1. Ryoma Oda, Kan Kajimoto, Taira Yamamoto, Hiroaki Hata, Atsumi Oishi, Yuki Kamikawa, Daisuke Endo, Akie Shimada, Kosuke Nishida, Lee Jiyoung, Yoichiro Machida, Yuichiro Sato, Shizuyuki Dohi, Tohru Asai, Minoru Tabata, Atsushi Amano : A study comparing the long-term propensity of a second arterial graft–internal thoracic artery versus radial artery–in coronary artery bypass surgery. Western Thoracic Surgical Association 48th annual meeting, Koloa, Hawaii, USA, 2022

## 2-15 呼吸器外科

### 診療実績



## 研究・教育活動

### 英文原著

1. Hideomi Ichinokawa, Kazuya Takamochi, Mariko Fukui, Aritoshi Hattori, Takeshi Matsunaga, Kenji Suzuki. Outcome and prognosis of secondary lung cancer surgery with interstitial lung disease. *Thorac Cancer*. 2022; 13: 2024-2030.
2. Hideomi Ichinokawa, Kazuya Takamochi, Shuko Nojiri, Mariko Fukui, Aritoshi Hattori, Takeshi Matsunaga, Kenji Suzuki. Can acute exacerbations occurring late after surgery with interstitial lung diseases be predicted? *Gen Thorac Cardiovasc Surg*. 2022; 70:160-169.

### 英文症例報告

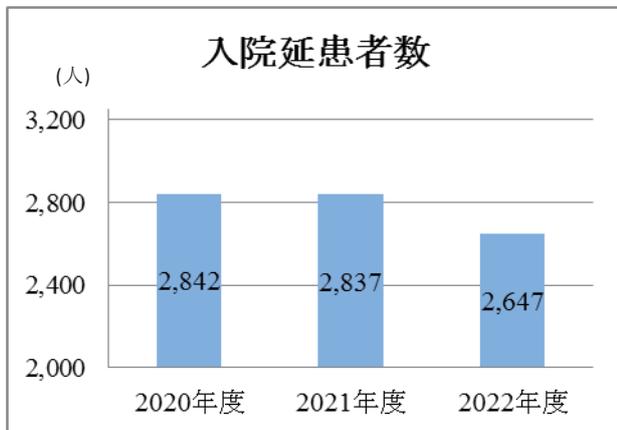
1. Hideomi Ichinokawa, Yasuhito Konishi, Sinsuke Uchida, Kenji Suzuki. Penetrating chest trauma in Sauer's danger zone without serious heart or lung damage: An unusual case report. *Int J Surg Case Rep*. 2022 Mar;92:106843.

### 学会発表

1. 右中葉肺癌術後再発に対して、残肺全摘を回避し右残上葉切除術を施行した一例 櫻井幹生、鈴木未希子、平山俊希、令和3年度冬季例会、静岡、2022年2月19日
2. 原発性肺癌(腫瘍径30mm以下)に対し区域切除術を施行したcN0pN1-2症例の再発形式と予後 市之川英臣、高持一矢、福井麻里子、服部有俊、松永健志、鈴木健司、第39回日本呼吸器外科学会総会、東京、2022年5月20日
3. 両側多発肋骨骨折に対しての緊急手術と周術期の注意点 曾和嵩、鈴木未希子、市之川英臣 令和4年度夏季例会、浜松 2022年7月23日
4. 間質性肺疾患合併肺癌術後患者に対しての抗線維化薬の効果と副作用 市之川英臣、高持一矢、福井麻里子、服部有俊、松永健志、鈴木健司、第63回日本肺癌学会総会、博多、2022年12月2日

## 2-16 形成外科

### 診療実績



## 研究・教育活動

### 学会発表（国内）

苅部綾香、溝渕亮、池井優香、東名脛、山本はる、田中里佳

当院における下肢切断の傾向と対策

第3回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会（2023年奈良）

池井優香、苅部綾香、溝渕亮、水野博司

木材裁断器による広範囲の背部デグロービング損傷に対してNPWTを用いて加療した一例

第66回日本形成外科学会総会・学術集会（2023年長崎）

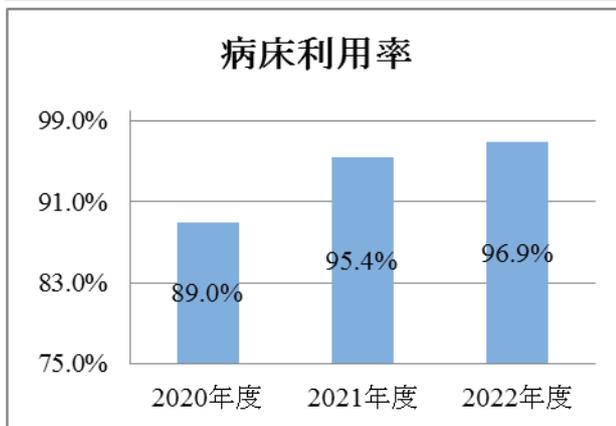
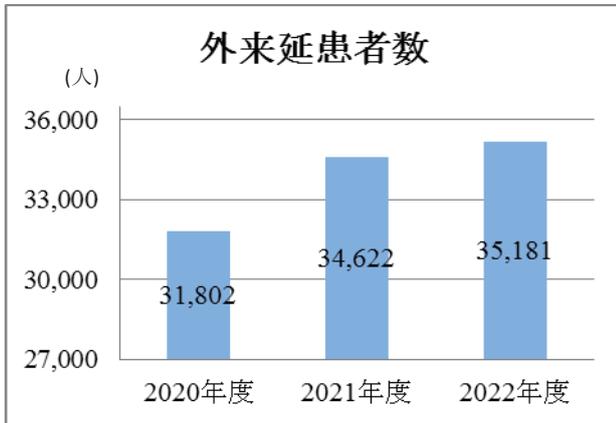
溝渕亮、苅部綾香、池井優香、藤井美樹、水野博司

破傷風の原因となった左上眼瞼挫創の1例

第66回日本形成外科学会総会・学術集会（2023年長崎）

## 2-17 眼科

### 診療実績



## 研究・教育活動

### 原著(和文)

1. 廣澤邦彦, 土至田宏, 小森翼, 朝岡聖子, 黒田浩平, 松崎有修, 平井麻紀, 市川浩平, 杉田丈夫, 太田俊彦:入院を要したコンタクトレンズ関連角膜潰瘍重症例の検討. 日本コンタクトレンズ学会誌, 2022.03;64(1) :16-20

### 原著(英文)

1. Shigeyasu C, Yamada M, Fukuda M, Koh S, Suzuki T, Toshida H, Oie Y, Nejima R, Eguchi H, Kawasaki R, Nishida K; Research Group of Severe Contact Lens-associated Ocular Complications. Severe Ocular Complications Associated With Wearing of Contact Lens in Japan. Eye Contact Lens. 2022 Feb 1;48(2):63-68
2. Kasahara T, Toshida H, Ichikawa K, Matsuzaki Y, Ono J.; Refractive Correction After Penetrating Keratoplasty by a New Soft Contact Lens with a Special Design for Astigmatism: A Case Report.; Int Med Case Rep J. 2022 Apr 7;15:157
3. Miura M, Toshida H. Burkholderia Cepacia-Induced Bilateral Microbial Keratitis in a Wearer of Colored Cosmetic Contact Lenses. Cureus. 2022 Mar 4;14(3):e22840. doi: 10.7759/cureus.22840. eCollection 2022 Mar.
4. Ono J, Toshida H. Use of Ketotifen Fumarate-Eluting Daily Disposable Soft Contact Lens in Management of Ocular Allergy: Literature Review and Report of Two Cases. Cureus. 2022 Jul 21;14(7):e27093. doi: 10.7759/cureus.27093. eCollection 2022 Jul.
5. Toshida H, Sadamatsu Y. A Case of Herpetic Keratitis in an Orthokeratology Contact Lens Wearer. Cureus. 2022 Jul 28;14(7):e27388. doi: 10.7759/cureus.27388. eCollection 2022 Jul.
6. Toshida H, Hayashi Y, Ichikawa K. Treatment for Intracorneal Hematoma by Anterior Chamber Gas Tamponade Combined With Keratocentesis. Eye Contact Lens. Epub 2022 Nov 16. (in press)
7. Kuroda K, Toshida H, Sorita Y, Ichikawa K, Matsuzaki Y, Ohta T.; Surgical punctal occlusion with combined lacrimal canaliculi cauterization and punctal suturing for severe dry eye. Journal of Ophthalmic and Vision Research (in press)

### 【総説】

1. 太田俊彦:こだわりの診療器具「27G 強膜内固定用鑷子」. IOL & RS, 2022.03;36(1): 151-156
2. 市川浩平, 太田俊彦:【IOL2 次挿入術の合併症対策】眼内レンズ強膜内固定術(鑷子法)の合併症と対処法. IOL & RS, 2022.06;36(2):214-221
3. 太田俊彦:眼内レンズの強膜内固定の現状はどうなっているのでしょうか? 臨床眼科 増刊号; 2022.10;76(11):115-122,
4. 土至田宏:【眼科医のための薬理学のイロハ】眼薬理学総論 点眼剤を通じて考える身近な眼薬理学(解説). OCULISTA(2187-5855), 2022.02;107:1-10
5. 土至田宏: コンタクトレンズ用語集(第39回) 遠近両用コンタクトレンズ(回折型)(解説)日本コンタクトレンズ学会誌(0374-9851), 2022.09;64(3):145
6. 土至田宏:【エキスパートに学ぶ!オルソケラトロジー導入の実際】オルソケラトロジーの歴史と原理(解説). 眼科グラフィック(2187-2422), 2022.02;11(1):6-12
7. 土至田宏:遠近両用ソフトコンタクトレンズの実力と可能性を考える(解説). 日本コンタクトレンズ学会誌(0374-9851), 2022.06;64(2):S2-

8. 土至田宏:【年代別・目的別 眼鏡・コンタクトレンズ処方-私はこうしている-】コンタクトレンズ処方の基本(解説) OCULISTA(2187-5855), 2022.07;112:10-17
9. 土至田宏:ソフトコンタクトレンズ最新情報(総説). 臨床眼科(0370-5579), 2022.07;76(7):884-890

### 【報告】

1. 菊池遥太, 土至田宏, 笠原知人, 黒田浩平, 反田蓉子, 小森翼, 大谷洋揮, 朝岡聖子, 市川浩平, 松崎有修, 杉田丈夫, 平井麻紀, 太田俊彦: 当院における分層黄斑円孔の病型別術後成績に関する検討. 第 78 回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2022.1.15.
2. 小野純治, 土至田宏, 太田俊彦: レティンスコンフォート®とアクティブフォーカス®の臨床成績比較. 第 78 回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2022.1.15.
3. 黒田浩平, 小森翼, 市川浩平, 杉田丈夫, 松崎有修, 平井麻紀, 土至田宏, 太田俊彦: 当院における角膜移植術と眼内レンズ強膜固定術併施例の術後成績に関する検討. 第 78 回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2022.1.15.
4. 朝岡聖子, 石川千尋, 市川浩平, 平井麻紀, 土至田宏, 太田俊彦: 両眼に高血圧性脈絡膜症による網膜剥離をきたした 1 例. 第 79 回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2022.8.20
5. 菊池遥太, 小森翼, 大谷洋揮, 朝岡聖子, 市川浩平, 杉田丈夫, 平井麻紀, 土至田宏, 太田俊彦: 合併症フリーを目指した 27G 鑷子併用フランジ固定変法の術後成績. 第 79 回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2022.8.20
6. 小野純治, 土至田宏, 太田俊彦: TECNIS Synergy™と PanOptix®の臨床成績比較. 第 79 回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2022.8.20
7. 朝岡聖子, 小森翼, 太田俊彦, 林雄介, 浅田洋輔, 春日俊光, 松田彰: マイクロフック線維柱帯切開術眼内法における追加手術施行群と追加手術非施行群の比較, 第 80 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2023.1.21
8. 小野純治, 土至田宏, 太田俊彦: レンティスコンフォート®とテクニスアイハンス®の臨床成績比較, 第 80 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2023.1.21

### 【著書】

1. 土至田宏: 細隙灯顕微鏡の徹底活用 キミはどこまで見えているか. 眼科プラクティス 2, 108-112, 文光堂, 2022.
2. 土至田宏: 第 6 章 角膜疾患. 今日の眼疾患治療指針 第 4 版, 454-455, 医学書院, 2022.
3. 土至田宏: 眼薬理総論—一点眼剤を通じて考える身近な眼薬理学—. Monthly Book OCULISTA 107, 1-10, 2022.
4. 土至田宏: コンタクトレンズ処方の基本. 年代別・目的別 眼鏡・コンタクトレンズ処方—私はこうしている—. Monthly Book OCULISTA 112, 10-18, 2022.
5. 太田俊彦: IOL 強膜内固定術 advanced T-fixation technique の手術手技. 『白内障手術パーフェクトマスター 改訂増補版』, 中山書店, 125-129, 2022
6. 太田俊彦: L-ポケット切開. 『白内障手術パーフェクトマスター 改訂増補版』, 中山書店, 328-331, 2022
7. 市川浩平: 白内障手術—IOL 二次挿入術・27G 鑷子を用いた眼内レンズ強膜内固定術. 今こそ学びたい! 眼科手術手技の ABC. 眼科オクリスタ 120: 93-102, 2023
8. 太田俊彦: Advanced T-fixation technique—27G 鑷子を用いた IOL 強膜内固定術. 白内障手術パーフェクトマスター 谷口重雄 編, 中山書店: 12-129, 2023

### 【特別講演・招待講演】

1. 太田俊彦: 27G 鑷子を用いた新しい強膜内固定術. 第 45 回 日本眼科手術学会学術総会,

東京都, 2022.1.28~30 (総会長企画)

2. 土至田宏:特殊コンタクトレンズ・アラカルト. 第 190 回岡山県眼科医会生涯教育講座, 岡山県, 2022.2.27
3. 土至田宏:アレルギーでも快適に CL ライフ. 第 11 回神奈川県視能訓練士の会 講演会, 神奈川県, 2022.3.12
4. 土至田宏:アレルギー 初の花粉症時期を迎えて. 第 126 回日本眼科学会総会;フェアウェルセミナー3. 大阪府, 2022.4.17
5. 太田俊彦:IOL 二次挿入術の合併症対策,「強膜内固定術(鑷子法)の基本手技と合併症」. 第 37 回 JSCRS 学術総会, 京都府, 2022.6.24~26. (教育セミナー)
6. 太田俊彦:新しい時代の眼内レンズ強膜内固定術,「27G 鑷子を用いた新しい強膜内固定術」. 第 37 回 JSCRS 学術総会, 京都府, 2022.6.24~26. (シンポジウム)
7. 土至田宏:「コロナ禍で変わった CL 眼合併症の傾向」, 第 64 回日本コンタクトレンズ学会総会, 広島市, 2022.7.9~10. (シンポジウム)
8. 土至田宏:CL に関する医学情報. 静岡県眼科医会医療機器継続的研修. 静岡県, 2022.8.2
9. 土至田宏:抗アレルギー薬含有ソフトコンタクトレンズ「アレルギー」の有効例. ジョンソンエンドジョンソンアレルギー研究会, 東京都, 2022.8.28
10. 土至田宏:アレルギーでも快適に CL ライフ. 第 1 回長野県眼科医会エリアセミナー. 長野県, 2022.9.15
11. 土至田宏:自己口腔粘膜由来上皮細胞シート作成のための口腔粘膜組織採取法の工夫. 静岡県東部眼科医会放談会. 静岡県, 2022.9.8
12. 太田俊彦, 江口秀一郎, 小早川信一郎, 山根真, 西村栄一:これから始める強膜内固定術 A to Z. 第 76 回日本臨床眼科学会, 東京都,2022.10.13~16. (インストラクションコース)
13. 土至田宏:CL の進化におけるアレルギー®の位置付け. 第 5 回日本眼科アレルギー学会学術集会, 鳥取県, 2022.11.6(モーニングセミナー1)

## 【学会発表】

1. 土至田宏, 朝岡聖子, 大谷洋揮, 市川浩平, 松崎有修, 杉田丈夫, 平井麻紀, 太田俊彦:手術を要した角膜潰瘍重症例と非手術例との比較検討. 第 45 回日本眼科手術学会学術総会, Web 開催, 2022.01.28~30 (学術展示)
2. 杉田丈夫, 朝岡聖子, 市川浩平, 松崎有修, 平井麻紀, 土至田宏, 太田俊彦:27G 鑷子併用フランジ固定変法の術後成績. 第 45 回日本眼科手術学会学術総会, Web 開催, 2022.01.28~30 (一般講演)
3. 朝岡聖子, 松田彰, 林雄介, 杉田丈夫, 松崎有修, 平井麻紀, 土至田宏, 太田俊彦:アーメド緑内障バルブ挿入術後に発症した黄斑浮腫の 1 例. 第 45 回日本眼科手術学会学術総会, Web 開催, 2022.01.28~30(学術展示)
4. 太田俊彦, 大谷洋揮, 朝岡聖子, 市川浩平, 杉田丈夫, 平井麻紀, 土至田宏: 平行強膜トンネルを用いた 27G 鑷子併用フランジ固定変法の術後成績. 第 37 回 JSCRS 学術総会, 京都府, 2022.6.24~26. (座長・一般講演)
5. 杉田丈夫 土至田宏 太田俊彦: レンティスコンフォート®とアクティブフォーカス™の臨床成績比較. 第 37 回 JSCRS 学術総会, 京都府, 2022.6.24~27. (一般講演)
6. 菊池遥太, 大谷洋揮, 朝岡聖子, 市川浩平, 杉田丈夫, 平井麻紀, 土至田宏, 太田俊彦:平行強膜トンネルを用いた 27G 鑷子併用フランジ固定変法を施行した 1 例. 第 37 回 JSCRS 学術総会, 京都府, 2022.6.24~28. (ケースレポート)
7. 土至田宏, 小野純治:抗アレルギー薬含有ソフトコンタクトレンズ「アレルギー」の有効例. 第 64 回日本コンタクトレンズ学会総会, 広島市, 2022.7.9(一般講演)

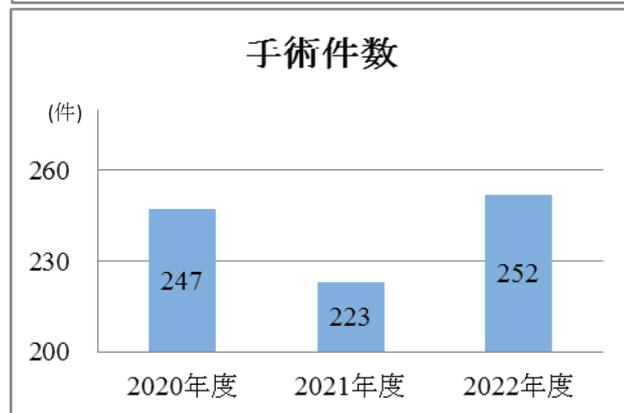
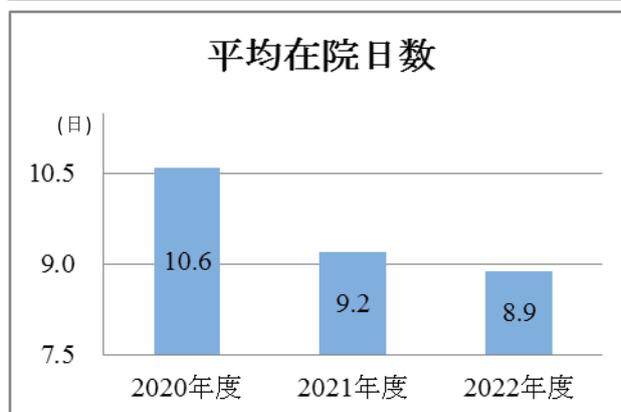
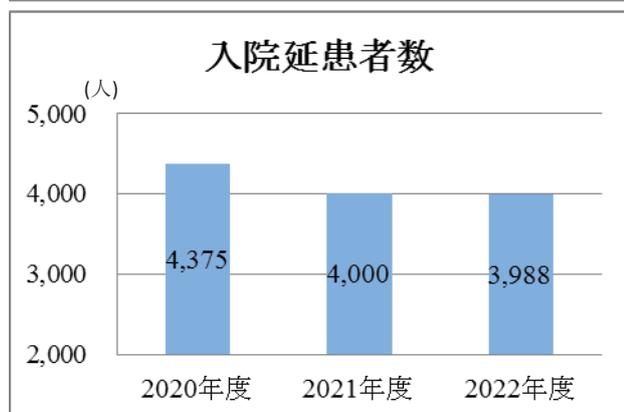
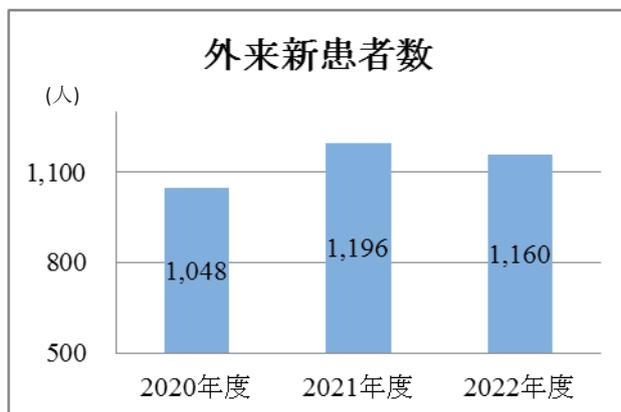
8. 土至田宏:自己口腔粘膜由来上皮細胞シート作成のための口腔粘膜組織採取法の工夫. 静岡県東部眼科医会放談会, 静岡県, 2022.9.8
9. 朝岡聖子, 小森翼, 大谷洋揮, 市川浩平, 杉田丈夫, 平井麻紀, 土至田宏, 太田俊彦, 松田彰:アーメド緑内障バルブ経毛様溝挿入術と線維柱帯切除術の角膜内皮細胞密度減少率. 第33回日本緑内障学会, 横浜市, 2022.9.16(学術展示)"
10. 土至田宏, 小野純治:抗アレルギー薬フマル酸ケチフェン溶出コンタクトレンズ装用直後の眼刺激感. 第42回眼薬理学会, 奈良市, 2022.10.29~30(一般講演)
11. 土至田宏:自己口腔粘膜由来上皮細胞シート作成のための口腔粘膜組織採取法の工夫. 第76回臨床眼科学会, 東京都, 2022.10.13(一般講演)
12. 平井麻紀, 朝岡聖子, 石川千尋, 土至田宏, 太田俊彦:Optosを用いた未熟児網膜症の超広角眼底写真撮影. 第76回日本臨床眼科学会, 東京都,2022.10.13~17.(学術展示)
13. 小森翼, 黒田浩平, 朝岡聖子, 大谷洋揮, 市川浩平, 杉田丈夫, 平井麻紀, 土至田宏, 太田俊彦:角膜移植術と眼内レンズ強膜内固定術併施例の術後成績に関する検討. 第76回日本臨床眼科学会, 東京都,2022.10.13~18.(一般講演)
14. 石川千尋, 朝岡聖子, 市川浩平, 平井麻紀, 土至田宏, 太田俊彦:両眼に高血圧性脈絡膜症による網膜剥離をきたした1例. 第76回日本臨床眼科学会, 東京都,2022.10.13~19.(学術展示)"
15. 菊池遥太, 朝岡聖子, 大谷洋揮, 市川浩平, 杉田丈夫, 土至田宏, 太田俊彦:平行強膜トンネルを用いた27G鑷子併用フランジ固定変法の術後成績. 第76回日本臨床眼科学会, 東京都,2022.10.13~20.(一般講演)
16. 市川浩平, 菊池遥太, 小森翼, 大谷洋揮, 朝岡聖子, 杉田丈夫, 平井麻紀, 土至田宏, 太田俊彦:合併症フリーを目指した27G鑷子併用フランジ固定変法の術後成績. 第61回日本網膜硝子体学会総会, 大阪市, 2022.12.2~4(一般講演)
17. 土至田宏, 桐山雅道, 菊池遥太, 諸岡裕城, 石川千尋, 小森翼, 大谷洋揮, 市川浩平, 杉田丈夫, 太田俊彦:自口腔粘膜由来自家培養上皮移植術施行例の短期成績. 角膜カンファランス2023, 横浜市, 2023.2.9~11(一般講演)
18. 平井麻紀:13歳の両眼黄斑円孔手術症例. Winter Vitrectomy Meeting 2023, 北海道, 2023.2.3~4(一般講演)
19. 土至田宏:with コロナ時代における自己口腔粘膜由来上皮細胞シート作成のための口腔粘膜組織採取法, 第22回日本再生医療学会総会, 2023.3.23~25, 京都(ポスター展示)

#### 【その他(広報活動含む)】

1. 朝岡聖子:二人三脚 緑内障患者さんと「患者さんとのコミュニケーションを大切に」. 銀海 No.260 2022;7月号 Page20
2. 土至田宏:夕刊フジ「食と健康 ホントの話」ドライアイ予防. 連載10月15日号
3. 土至田宏:夕刊フジ「食と健康 ホントの話」ドライアイによる角膜の傷 — ビタミンAの点眼薬でターンオーバーを促進. 連載10月22日号
4. 太田俊彦:Close-up Interview with Ophthalmologist 『超高齢社会における眼科の役割を考える』～白内障手術研鑽の成果を世界へ発信～. medical forum CHUGAI Vol.26 2022 Page8

## 2-18 耳鼻咽喉科

### 診療実績



## 研究・教育活動

### 英文原著

Kusunoki T, Wada R. Case of anterior glottic web with bilateral vocal cord cancers.

BMJ Case Rep 2022; 15:e 250411. doi:10.1136/bcr-2022-250411.

Kusunoki T, Wada R. A Case of primary malignant lymphoma of the tongue.

Case Reports and Reviews 2022; 2:1-3.

### 和文原著

城所淑信、楠 威志:節外性 NK/T 細胞リンパ腫・鼻型例 耳鼻臨床 115 : 186-187 ; 2022.

芳川瑛久、楠 威志:歯性頸部膿瘍症例の検討 耳鼻臨床 115 : 368-369 ; 2022.

楠 威志:緊急手術を要したポリープ声帯症例の検討 額帯鏡 62 : 2-3 : 2022.

楠 威志 : 災害時医療機関機能停止時における、気道系疾患に対する「自宅でできる腹式呼吸を重点に置いた音声訓練法」の有用性. 令和 3 年度静岡災害医学研究センター紀要 16-17 ; 2022

楠 威志 : 耳鼻咽喉科領域における抗酸化治療の可能性 ENTONI 274; 65-72:2022.

### 科研費

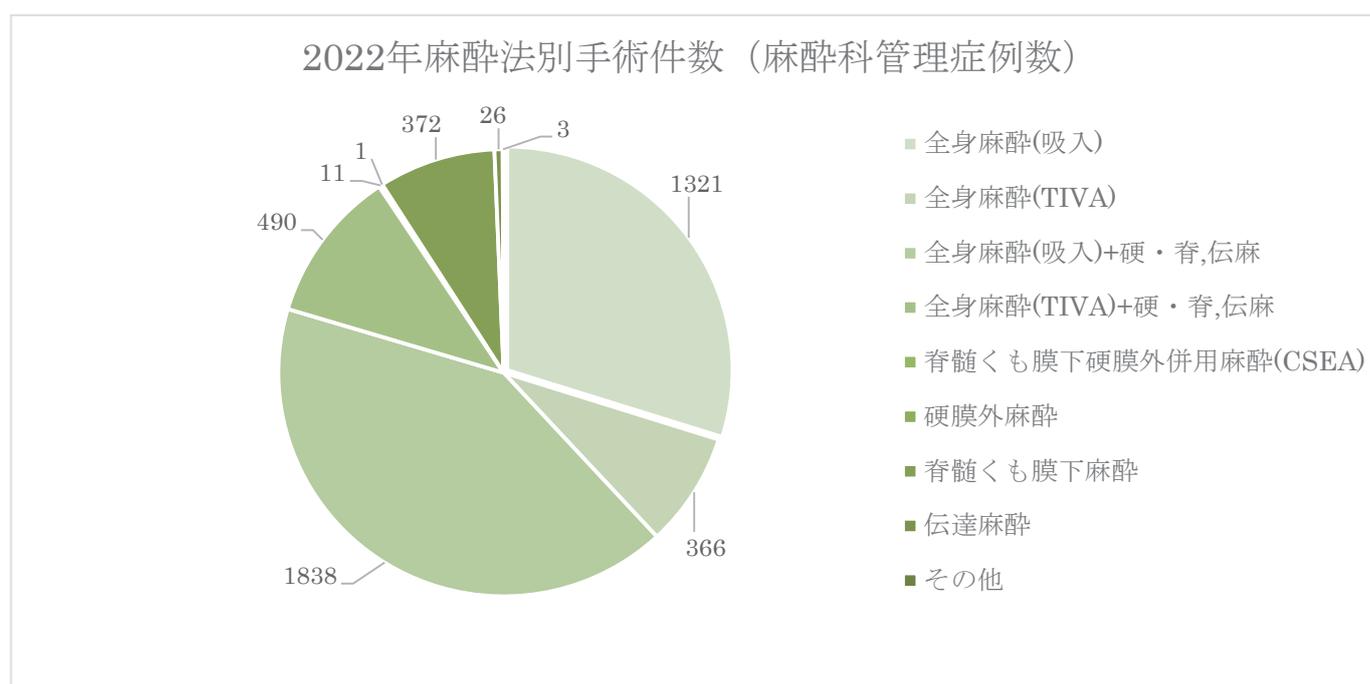
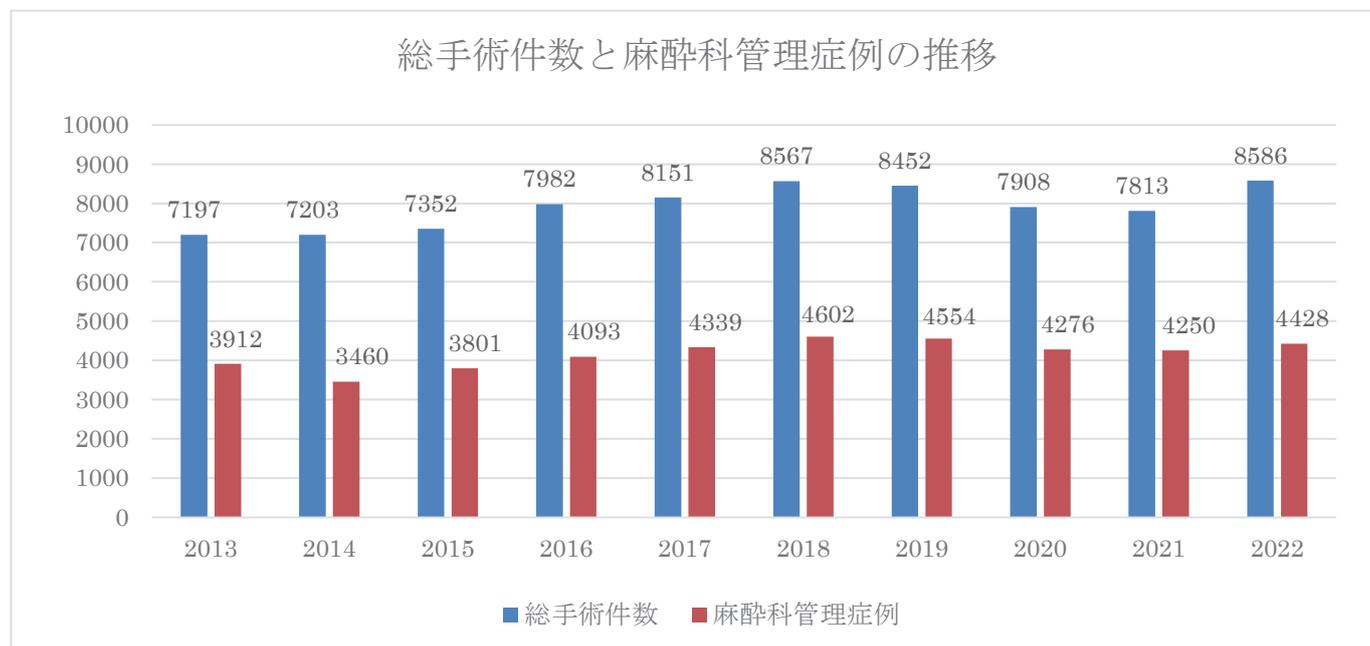
楠 威志 2021 年度科学研究費補助金 基盤研究 C 新規

楠 威志 2018 年度科学研究費補助金 基盤研究 C 継続

本間博友 2019 年度科学研究費補助金 基盤研究 C 継続

## 2-19 麻酔科 ・ ペインクリニック

### 診療実績



### 教育研究活動

#### 1.原著（英文）

- ・ Sho Yamazaki, Keisuke Yamaguchi, Akimasa Someya, Isao Nagaoka, and Masakazu Hayashida  
Anti-Inflammatory Action of Dexmedetomidine on Human Microglial Cells, International Journal of  
Molecular Sciences.2022,vol.23,Issue17,10096

## 2. 著書

- ・尾前毅, II.循環系 25 スタチン, 手術患者の術前使用薬コントロール, P116-119, 2022年6月1日, 克誠堂出版(株), 東京都

## 3. 症例報告 (英文)

- ・Keito Koh, Takeshi Omae, Sonoko Sakuraba, Masateru Kumemura, Sho Yamazaki, and Hiroshi Yunoki Postoperative Heart Failure with Preserved Ejection Fraction Induced by Flumazenil Administered for Remimazolam Antagonism Hindawi Case Reports in Anesthesiology vol.2022,ID892 4 4 3008,5p

## 4. 症例報告 (和文)

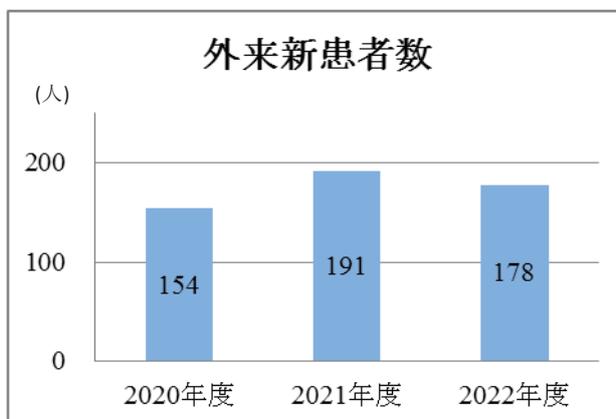
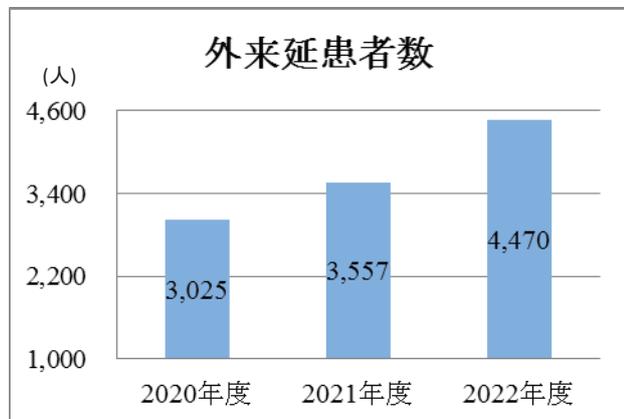
- ・吉河惇, 中村萌, 洪景都, 大・小後頭神経, 三叉神経症状に第VII脳神経麻痺, 脳髄膜炎を合併した帯状疱疹の1症例, ペインクリニック, 2022.43(9):949-951

## 5. 学会発表 (国内)

- ・岡田尚子, 尾堂公彦, 水品由佳, 上園瑛子, 藤野隆史, 伊東由圭, 河内順, 舘山亜弥, 西岡崇, 当院における無痛分娩 24 時間体制構築への 5 年間の経験 (ポスター), 日本区域麻酔学会第 9 回学術集会, 沖縄, 2022 年 4 月 15 日
- ・久米村正輝, Pro & cons2 胸部手術 硬膜外麻酔 VS 神経ブロック, 胸部手術の鎮痛には末梢神経ブロックをー超音波ガイド時代の鎮痛方法ー, 日本区域麻酔学会第 9 回学術集会, 沖縄, 2022 年 4 月 15 日
- ・久米村正輝, 超音波ガイド下神経ブロックハンズオンワークショップ②上級者コース【上肢】インストラクター, 日本区域麻酔学会第 9 回学術集会, 沖縄, 2022 年 4 月 16 日
- ・中村萌, 久米村正輝, 洪景都, 櫻庭園子, 山崎翔, 米本周平, 腹腔鏡下胆嚢摘除術患者の術後鎮痛薬使用回数に対する腹横筋膜面ブロックと TAPA ブロックの効果の検討 (ポスター), 日本区域麻酔学会第 9 回学術集会, 沖縄, 2022 年 4 月 15~16 日
- ・中村萌, 櫻庭園子, 尾前毅, 洪景都, 久米村正輝, 山崎翔, アナフィラキシーに対し H2 ブロッカーが著効した一例 (ポスター), 日本麻酔科学会 東海・北陸支部第 20 回学術集会 web 開催 2022 年 9 月 2 日~10 月 3 日
- ・吉武翔太郎, 岩佐美, 八子一, 久米村正輝, 尾前毅, 全身麻酔導入前に急激な意識障害と低酸素血症に陥った感染性心内膜炎の一例 (ポスター), 日本麻酔科学会 東海・北陸支部第 20 回学術集会 web 開催 2022 年 9 月 2 日~10 月 3 日
- ・舘山亜弥, 洪景都, 櫻庭園子, 久米村正輝, 尾前毅, 骨セメントを用いた人工骨頭置換中に起きた心停止の一例, 日本麻酔科学会 東海・北陸支部第 20 回学術集会 web 開催 2022 年 9 月 2 日~10 月 3 日
- ・尾前毅, 機能性僧帽弁逆流症 OPCAB 中の虚血性僧帽弁逆流と TEE の使用法, 日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会 特別シンポジウム, 京都, 2022 年 9 月 18 日
- ・尾村有己, 洪景都, 久米村正輝, 八子一, 山崎翔, 櫻庭園子, 尾前毅, レミマゾラムの急性耐性, 日本臨床麻酔学会第 42 回大会, 京都, 2022 年 11 月 11 日
- ・吉武翔太郎, 久米村正輝, 太田正孝, 前原知典, 尾前毅, 脊椎手術におけるレミマゾラムとプロポフォールの覚醒時期に与える影響についての後ろ向き検討, 日本臨床麻酔学会第 42 回大会, 京都, 2022 年 11 月 11 日

## 2-20 放射線科

### 診療実績



### 研究活動

#### 【論文発表】

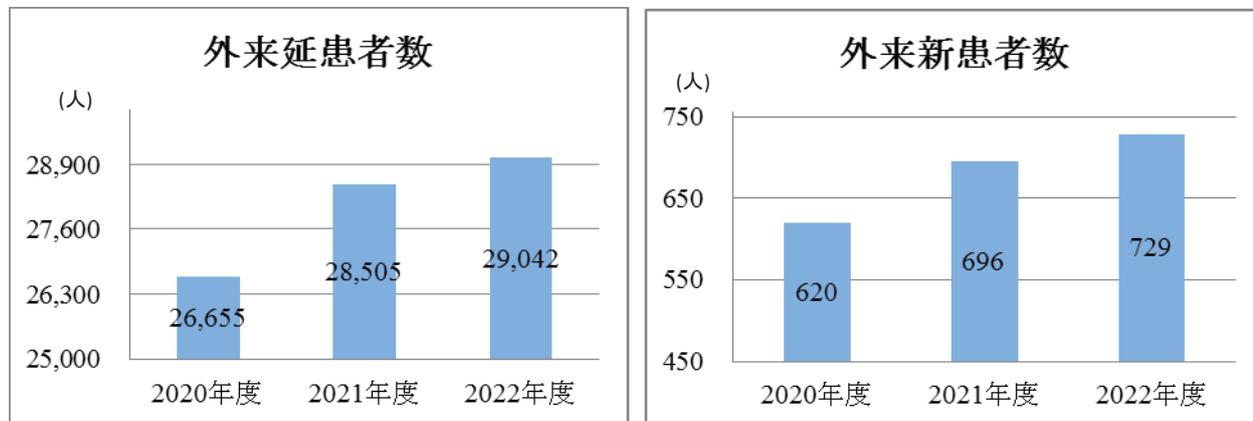
- Irie R, Amano M, Sugeno K, Okada S, Kamen A, Lou B, von Busch H, Grimm R, Comaniciu D, Akashi T, Kuwatsuru R, Horie S, Kumamaru KK. and Aoki S. A Validation Study of the Deep-Learning Based Prostate Imaging Reporting and Data System Scoring Algorithm. Open Journal of Radiology, 12, 59-67, 2022.
- Oshima M, Shikama N, Usui K, Nojiri S, Isobe A, Muramoto Y, Kawamoto T, Yamaguchi N, Kosugi Y, Sasai K. Development of deep-inspiration breath-hold system that monitors the position of the chest wall using infrared rangefinder. J Radiat Res 64(1):171-179, 2023.

#### 【講演】

- 入江隆介. MR angiography の基礎と応用. ブラック・エーザイ (株) ・エーザイ (株) 社内勉強会. 2022年8月31日

## 2-21 メンタルクリニック

### 診療実績



### 診療活動

患者数は県内トップクラスの外来患者数を維持しています。新患者数でも県内1を維持しています。病棟からのコンサルテーション数も多く、せん妄や抑うつなどを身体科と連携して治療しています。自殺企図患者などを救急科による身体的治療と並行して、必要に応じて地域の精神科病院に転院させるネットワークも構築されています。他院で受け入れ困難な精神疾患患者の身体疾患も、各科と連携して受け入れています。

児童思春期の患者も引き続き多数来院しており、2022年4月より「こどものこころのケアセンター」を開設し、従来行っていた遊戯療法・ペアレントトレーニング・学習障害支援プログラムなどの治療プログラムに加えて、デイケア・ソーシャルスキルトレーニング・ストレスマネジメント・親のための心理教室などのプログラムを開設し、利用者が増えています。ホームページやパンフレットなどの広報活動により、教育・行政機関からの問い合わせが連日あります。児童に限らず、近年は非薬物療法のニーズが高いことに応え、臨床心理士と連携してペアレントトレーニング・ソーシャルスキルトレーニング・認知行動療法・遊戯療法などの非薬物療法を充実させてきました。成人の発達障害患者も増加傾向にあり、成人のソーシャルスキルトレーニングはメンバーも増えています。

研究では、桐野は functional MRI と脳波の同時測定による functional connectivity の研究を継続しています。児童思春期のメンタルヘルスなどのテーマで講演依頼も多く、地域医療に貢献しています。

### 研究活動

#### 英文原著

1. Tanaka S, Kirino E: Right-Lateralized Enhancement of the Auditory Cortical Network During Imagined Music Performance. *Frontiers in Neuroscience* 2022 Feb 10;16:739858. doi: 10.3389/fnins.2022.739858. eCollection 2022.

2. **Nagai Y**, Nishioka M, Tanaka T, Shimano T, **Kirino E**, Suzuki T, Kato T. Identification of 22q11.2 deletion in a patient with schizophrenia and clinically diagnosed Rubinstein–Taybi syndrome. First published: 28 July 2022 <https://doi.org/10.1002/pcn5.34>
3. **Nagai Y**. Orimo N, Natsume S, Hirose T, Saida T, **Kirino E**. Late-onset bipolar disorder with dementia: a review of Japanese case reports. Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports. (in print)

### 和文学会発表

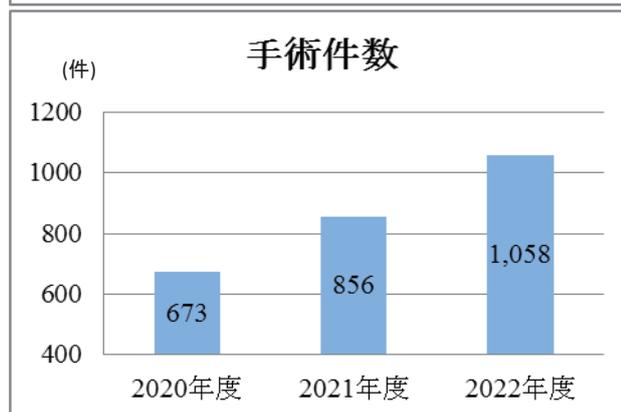
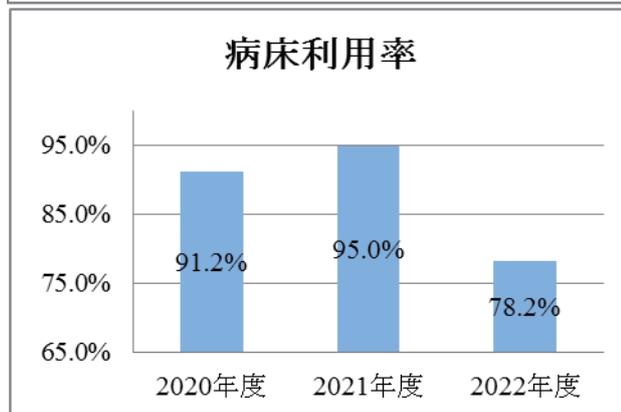
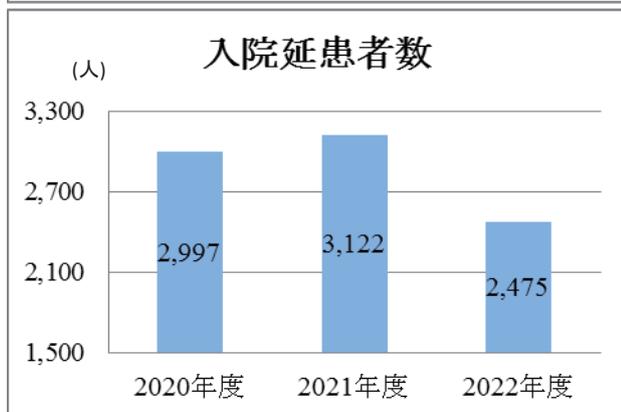
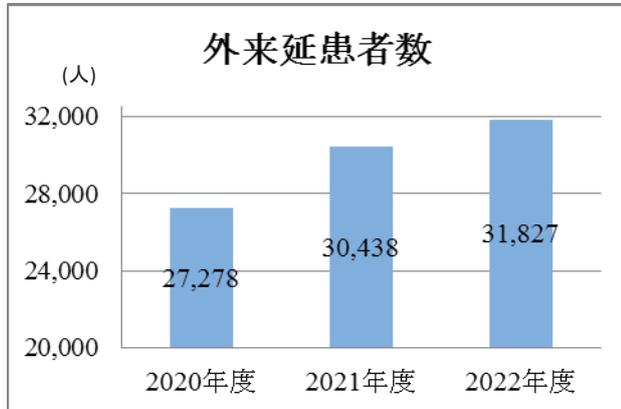
1. 須藤路子, 東根明人, 伊藤憲治, 桐野衛二: 運動が幼児の言語能力の発達に与える効果 第77回日本体力医学会大会, オンライン開催, 2022年9月21-23日

### 主な競争的資金の獲得状況

1. 平成 31-令和 5 年度 基盤研究(C) (研究代表者 **桐野衛二**) 課題番号 19K08026 fMRI 脳波 拡散 MRI 同時計測による統合失調症 connectivity の検討 Simultaneous fMRI-EEG-DTI Recording of Functional Connectivity in Patients with Schizophrenia. ¥4,290,000 (直接経費¥3,300,000)
2. 令和 3 年度-令和 8 年度 基盤研究(C) (研究代表者 臼井千恵\_分担研究者 **桐野衛二** 他) 携帯アプリを用いた慢性疼痛増悪因子の解明及び予防的デジタルメディスン開発の研究

## 2-22 皮膚・アレルギー科

### 診療実績



## 研究・教育活動

### 原著（英文）

1. Peng G, Tsukamoto S, Ikutama R, Nguyen HLT, Umehara Y, Trujillo-Paez JV, Yue H, Takahashi M, Ogawa T, Kishi R, Tominaga M, Takamori K, Kitaura J, Kageyama S, Komatsu M, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S, Niyonsaba F: Human  $\beta$ -defensin-3 attenuates atopic dermatitis-like inflammation through autophagy activation and the aryl hydrocarbon receptor signaling pathway. *J Clin Invest* 132:e156501, 2022
2. Yue H, Song P, Sutthammikorn N, Umehara Y, Trujillo-Paez JV, Nguyen HLT, Takahashi M, Peng G, Ikutama R, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S, Niyonsaba F: Antimicrobial peptide derived from insulin-like growth factor-binding protein 5 improves diabetic wound healing. *Wound Repair Regen* 30:232-244, 2022
3. Ikutama R, Peng G, Tsukamoto S, Umehara Y, Trujillo-Paez JV, Yue H, Nguyen HLT, Takahashi M, Kageyama S, Komatsu M, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S, Niyonsaba F: Cathelicidin LL-37 activates human keratinocyte autophagy through the P2X7, mechanistic target of rapamycin, and MAPK pathways. *J Invest Dermatol* 143:751-761, 2023
4. Nguyen HLT, Peng G, Trujillo-Paez JV, Yue H, Ikutama R, Takahashi M, Umehara Y, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S, Niyonsaba F: The antimicrobial peptide AMP-IBP5 suppresses dermatitis-like lesions in a mouse model of atopic dermatitis through the low-density lipoprotein receptor-related protein-1 receptor. *Int J Mol Sci* 24:5200, 2023
5. Kim J, Hasegawa T, Tada K, Uehara Y, Fukui Y, Nakamura A, Takei S, Ikeda S: A SLE patient with cutaneous *Mycobacterium haemophilium* infection under belimumab treatment: A case report. *Ann Dermatol* in press

### 原著（和文）

1. 舛谷友里恵, 平澤祐輔, 吉原渚, 長谷川敏男, 池田志孝, 中野創: 若年で有棘細胞癌を生じた顕性遺伝型（優性）栄養障害型表皮水疱症の1例. *皮膚科の臨床* 64:2157-2160, 2022
2. 国峯真也, 野口篤, 細井美都, 松田真佑香, 上井貴絵, 長谷川敏男: 肺腺癌に対してペムブロリズマブ投与中に発生した lichen planus pemphigoides の1例. *臨床皮膚科* 77:125-130, 2023

### 総説（和文）

1. 長谷川敏男: 炭酸ガスレーザーの表皮水疱症治療への応用. *日レ医誌* 20:37-41, 2022

### 著書（和文）

1. 長谷川敏男: 掌蹠線維腫症. 今日の皮膚疾患治療指針 第5版 佐藤伸一, 藤本学, 門野岳史, 梶島健治編, 医学書院, 東京, 808-809, 2022
2. 長谷川敏男: 疥癬, ケジラミ症. 今日の治療指針 2023年版-私はこう治療している 福井次矢, 高木誠, 小室一成編, 医学書院, 東京, 1280-1281, 2022
3. 長谷川敏男: Gibert ばら色秕糠疹. 皮膚疾患最新の治療 2023-2024 高橋健造, 佐伯秀久編, 南江堂, 東京, 165, 2023

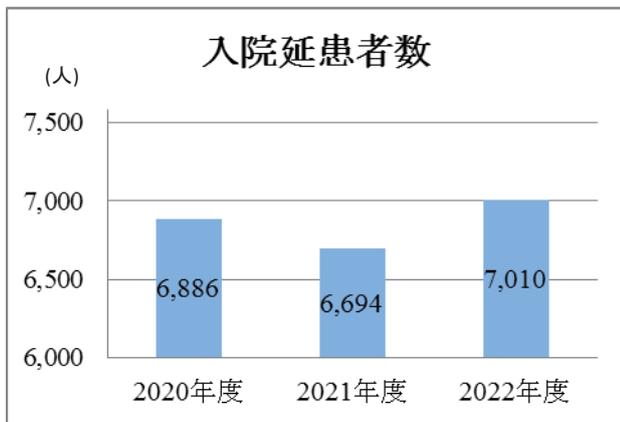
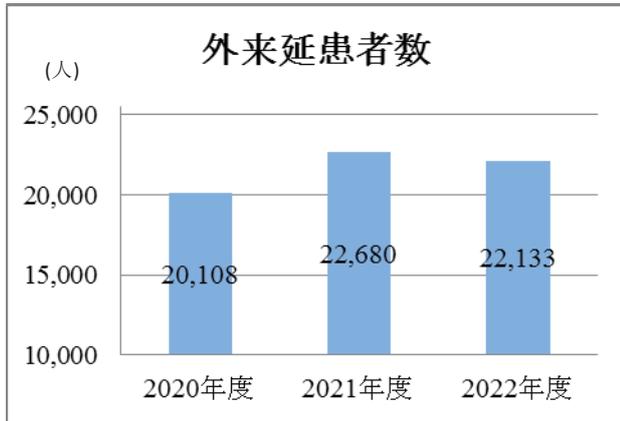
## 学会発表（国内）

1. 宗田昂己，金宗訓，生玉梨紗，長谷川敏男，岩神直子，河井洋子：皮膚症状に対してステロイド外用が奏功した播種性 *Mycobacterium avium complex*（MAC）症の1例．第134回日本皮膚科学会静岡地方会，2022，Web
2. 村松海人，生玉梨紗，金宗訓，河井正晶，長谷川敏男：診断に苦慮した日本紅斑熱の1例．第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会，2022，富山
3. 石原俊太郎，生玉梨紗，長谷川敏男．紫外線照射で皮疹が誘発された多形日光疹の1例．第302回日本皮膚科学会東海地方会，2022，Web
4. 丸山紗貴子，生玉梨紗，金宗訓，河井正晶，長谷川敏男．ミノサイクリン塩酸塩が有効であった融合性細網状乳頭腫症の1例．第302回日本皮膚科学会東海地方会，2022，Web
5. 村松海人，生玉梨紗，長谷川敏男．ステロイド外用が無効で外用PUVA療法が奏功した皮膚サルコイドーシスの一例．第135回日本皮膚科学会静岡地方会，2023，Web
6. 丸山紗貴子，生玉梨紗，長谷川敏男．シロリムス内服が有効であった青色ゴムまり様母斑症候群の一例．第135回日本皮膚科学会静岡地方会，2023，Web
7. 丸山紗貴子，生玉梨紗，長谷川敏男．ドキシサイクリン内服と外用PUVA療法が奏功した皮膚サルコイドの1例．第303回日本皮膚科学会東海地方会，2023，Web

## その他

1. 長谷川敏男：皮膚の細菌感染と創傷治癒、再生医療．第80回静岡県東部皮膚医会勉強会および講演会，2022，沼津
2. 長谷川敏男：アレルギー性皮膚疾患～診断と治療～．静岡県病院薬剤師会東部支部例会，2022，沼津
3. 池田志孝，長谷川敏男：栄養障害型表皮水疱症治療剤．特許第7141079号 2022.9.13登録
4. 長谷川敏男：表皮水疱症の新たな治療法開発を目指して．再生医療イノベーションフォーラム 第14回ベンチャー創設支援フォーラム，2022，東京

## 2-23 泌尿器科



## 診療活動

外来患者数、入院患者数、手術件数が増加した。また緊急処置を要する症例が多く他病院から紹介されてきた。膿腎症に対する、ステント留置は、国内でも極めて多い施設である。

前立腺全摘にロボット手術を導入し4年が経過した。100例以上の症例を経験した。膀胱頸部温存および膀胱—尿道吻合での連続吻合がより確実になった。術後の排尿状態も良好で、入院期間も短縮した。

膀胱全摘にロボット手術を始めた。5例とも術後の合併症がなく早期退院できた。

今年度から3Dの新しい腹腔鏡装置に更新した。腹腔鏡下に副腎腫瘍、腎癌および腎盂尿管癌の手術を行っている。褐色細胞腫など難易度の高い手術も行った。腹腔鏡下腎摘出は後腹膜アプローチが多かった。3Dの腹腔鏡は視野が良好であり、合併症が少なかった

大きな腎癌に対して開腹で根治的腎摘除術を行っている。4センチ以下の小径腎癌では開腹による腎部分切除を積極的に行っている。

転移性腎癌、尿路上皮癌に対する分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤を多く行っている。

前立腺肥大症の手術のHoLEPは多くの手術症例を経験している。出血量、手術時間、術後のカテーテル抜去時間に他の手術に比べ優位性がある。また術後の排尿状態は極めて良好で、失禁もほとんどなかった。

経尿道的尿管結石破砕術においては、細径の尿管鏡によるホルミウムヤグレーザーを用いて破砕している。硬性鏡だけでなく軟性尿管鏡も用いて腎結石の治療を行っている。手術時間の短縮および破砕率が向上した。破砕した結石も、器具で体外に取り出すようにしている。

## 診療実績

### (1) 腹腔鏡下手術

腹腔鏡下副腎摘除術 6例

腹腔鏡下腎摘除術 11例

腹腔鏡下腎尿管全摘除術 10例

ロボット補助下膀胱全摘除術 5例

ロボット補助下腹腔鏡下前立腺全摘除術 28例

## (2) 開腹手術

根治的腎摘除術 7 例  
単純腎摘除術 3 例  
腎部分切除術 5 例  
腎尿管全摘除術 5 例  
膀胱全摘除術 2 例  
前立腺全摘除術 1 例  
高位精巣摘除 3 例  
陰嚢水腫根治術 7 例  
精液瘤根治術 1 例

## (3) 内視鏡手術

TUR-Bt 161 例  
TUR-P 2 例  
HoLEP 28 例  
ESWL 11 例  
TUL 109 例  
PNL 2 例  
尿管ステント留置 827 例

## 次年度目標

前立腺全摘、膀胱全摘のロボット手術の件数を増加させる。  
尿管結石のレーザー手術を増加させる。PNL手術を増加させる。  
腹腔鏡手術およびロボット手術の若手術者を指導する。  
腎部分切除はロボット手術（RAPN）で行う。

## 研究・教育活動

### 医学部 M4 授業

藤田和彦 尿路感染症、泌尿器救急、外傷

### 保健看護学部 授業

中島晶子 泌尿器総論  
中島晶子 泌尿器非腫瘍性疾患  
中島晶子 泌尿器腫瘍性疾患

## 2022年 業績

総説

陰嚢水腫

藤田和彦

今日の治療指針 2023 p1210-1211

医学書院、東京

## 学会発表

1 長屋直哉、PSMA Expression in Circulating Tumor Cells in Blood and Inhibition of Androgen Receptor Signaling、第81回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、2022年9月29日(木) -10月1日(土)

2 長屋直哉、血中循環腫瘍細胞におけるPSMA発現とアンドロゲン受容体シグナル伝達阻害との関連、第21回ホルモンと癌研究会、コラッセふくしま、2020年8月28日(金) ~29日(土)

3 Naoya Nagaya, Relationship between PSMA expression in circulating tumor cells and previous treatment with androgen receptor axis-targeted agent, Urological Association of Asia 2022, Sydney, Australia, OCTOBER 5-8

4 水腎症と頻尿を伴った増殖性膀胱炎が改善した一例

A case of improvement of proliferative cystitis with hydronephrosis and frequent urination.

[演者] 中島 晶子:1

1:順天堂大学医学部附属静岡病院 泌尿器科

第110回日本泌尿器科学会総会(神戸)

5 長屋直哉、前立腺癌リンパ節転移におけるCXCケモカイン/受容体発現、第26回日本がん分子標的治療学会学術集会、石川県立音楽堂、2022年7月19日(火) ~8月1日(月)

6 膀胱ヘルニアを合併した浸潤性膀胱癌に対してロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術を試行した1例

Robot-assisted laparoscopic radical cystectomy for invasive bladder cancer complicated by vesical hernia

[演者] 三好 悠斗:1

[共同演者] 藤田 和彦:1, 成田 周一郎:1, 古屋 匡史:1, 三好 美穂:1, 永島 優生:1, 長屋 直哉:1, 中島 晶子:1, 北村 香介:3, 堀江 重郎:2

1:順天堂大学医学部附属静岡病院 泌尿器科, 2:順天堂大学医学部附属順天堂医院 泌尿器科, 3:順天堂大学医学部附属練馬病院 泌尿器科 第110回日本泌尿器科学会総会(神戸)

7 鼠径部膀胱ヘルニア内に発生した膀胱腫瘍に対して経尿道的膀胱腫瘍切除術を施行した1例

Bladder cancer in an inguinal vesical hernia.

[演者] 三好 美穂:1

[共同演者] 藤田 和彦:1, 成田 周一郎:1, 古屋 匡史:1, 三好 悠斗:1, 永島 優生:1, 長屋 直哉:1, 中島 晶子:1, 堀江 重郎:2

1:順天堂大学医学部附属静岡病院 泌尿器科, 2:順天堂大学医学部附属順天堂医院 泌尿器科

第110回日本泌尿器科学会総会(神戸)

8 Adrenocortical carcinoma that was treated by laparoscopic adrenalectomy with preoperative appropriate imaging evaluation

[演者] 古屋 匡史:1

[共同演者] 長屋 直哉:1, 中島 晶子:1, 永島 優生:1, 三好 悠斗:1, 三好 美穂:1, 成田 周一郎:1, 藤田 和彦:1, 堀江 重郎:2

1:順天堂大学静岡病院 泌尿器科, 2:順天堂大学医学部附属順天堂医院 泌尿器科

第110回日本泌尿器科学会総会(神戸)

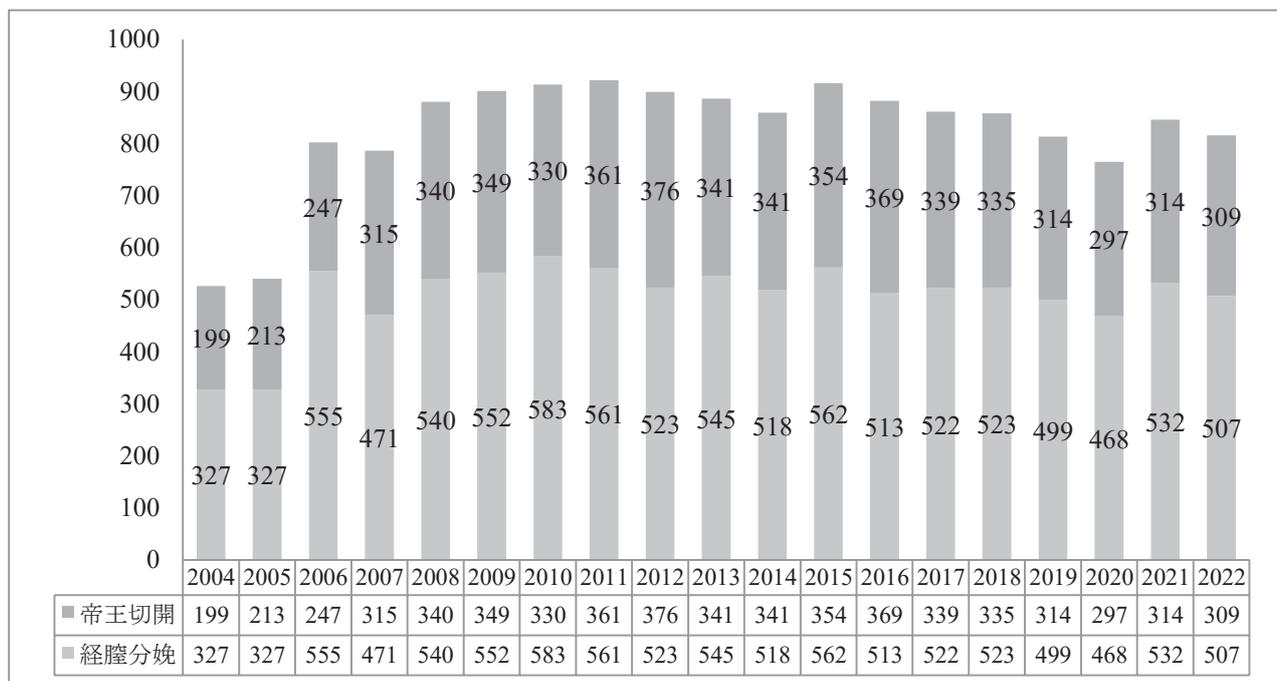
## 2-24 産婦人科・総合周産期母子医療センター

### 診療実績

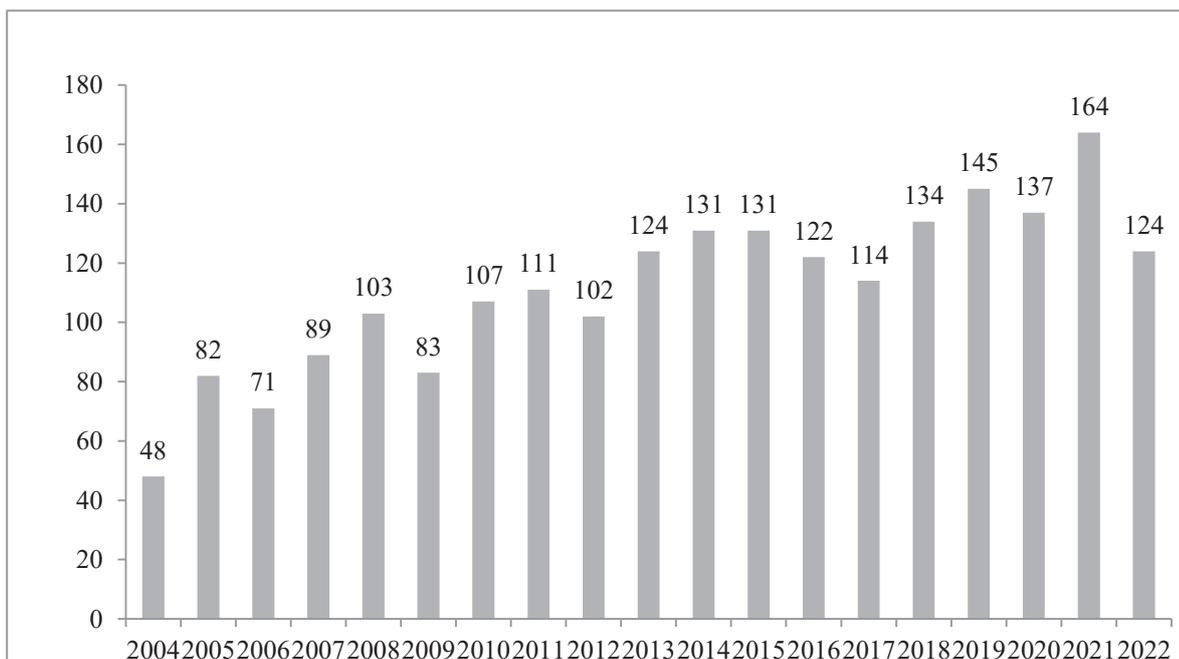
#### 【手術件数】

		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
腹腔鏡	卵巣	59	65	83	79	80	90	100	79
	子宮	1	0	1	1	0	0	0	0
	子宮外妊娠	12	21	15	26	11	16	16	24
	その他	1	0	0	0	2	3	0	0
開腹手術	帝王切開術	354	369	334	330	314	297	314	309
	良性	199	309	341	265	229	172	141	198
	悪性	88	78	72	70	68	72	73	63
悪性手術内訳	子宮頸癌	20	15	5	12	6	7	11	18
	子宮体癌	39	36	39	32	29	26	27	19
	卵巣癌	20	25	23	25	28	37	29	23
	その他	9	2	5	1	5	2	6	3
腔式手術	円錐切除	16	36	34	30	30	24	41	37
	頸管縫縮術	13	14	16	21	8	3	14	13
	子宮脱根治術	5	13	9	9	6	7	9	13
	腔閉鎖術	14	24	10	9	4	1	5	3
	その他	9	8	13	8	9	13	20	9
合計		859	937	928	848	753	695	733	748

#### 【分娩件数推移】



## 【母体搬送数推移】



## 研究活動

### 原著（和文）

#### 1. 子宮仮性動脈瘤における治療戦略

瀬川将史, 田中里美, 牧野祐也, 加藤雅也, 伊藤早紀, 保田歩, 石田ゆり, 村瀬佳子, 矢田昌太郎, 金田容秀, 田中利隆

静岡産科婦人科学会雑誌, 2022; 11: 10-19

### 著書（和文）

#### 1. 【頸管熟化と分娩誘発法】

各論 熟化 (1) 卵膜剥離

田中利隆

メジカルビュー社, 東京 2022: 40-44

### 学会発表（国内）

#### 1. 癒着胎盤に対して保存的療法を行った一例

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

伊地知航司, 田中利隆, 田嶋俊彬, 平井みつ子, 水上奈津子, 笠原太郎, 保田歩, 精きぐな, 矢田昌太郎, 田中里美, 金田容秀

令和4年度静岡産科婦人科学会春季学術集会, 静岡, 2022.5.22

#### 2. 自然流産後の子宮動静脈奇形に対して動脈塞栓術を行った1例

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

秋葉純也, 田中利隆, 菅原茉佑, 城戸優花, 笠原太郎, 保田歩, 村瀬佳子, 矢田昌太郎, 田中里美,

金田容秀.

第 32 回日本産婦人科・新生児血液学会, 東京, 2022.6.3~4

3. 低置胎盤における分娩時出血量の予測因子について.

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田嶋俊彬, 菅原茉佑, 城戸優花, 笠原太郎, 秋葉純也, 保田歩, 村瀬佳子, 矢田昌太郎, 田中里美, 金田容秀, 田中利隆

第 143 回関東連合産科婦人科学会学術集会 ワークショップ【産科大量出血の管理】, 東京, 2022.6.18~19

4. 当院における子宮頸部円錐切除術後の周産期予後.

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中里美, 菅原茉祐, 城戸優花, 笠原太郎, 秋葉純也, 保田歩, 村瀬佳子, 矢田昌太郎, 金田容秀, 田中利隆

第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 横浜, 2022.7.10~12

5. 超音波でわかる胎児期の腹部外科疾患

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中里美

第 48 回東部周産期研究会, 静岡, 2022.7.14

6. Magnetic resonance imaging is useful for evaluating the bleeding risk of placenta previa accurately.

Department of Obstetrics and Gynecology, Juntendo University Shizuoka Hospital

Masaya Kato, Satomi Tanaka, Ayumi Yasuda, Masafumi Segawa, Yuya Makino, Saki Ito, Yuri Ishida, Yoshiko Murase, Shotaro Yata, Hiroshi Kaneda, Toshitaka Tanaka, Atsuo Itakura.

第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会, 福岡, 2022.8.5~8.7

7. A case of uterine rupture that was successfully resuscitation after 30 minutes of cardiac arrest with effective CPR.

Department of Obstetrics and Gynecology, Juntendo University Shizuoka Hospital

Ayumi Yasuda, Satomi Tanaka, Mayu Sugawara, Yuka Kido, Taro Kasahara, Junya Akiba, Yoshiko Murase, Shotaro Yata, Hiroshi Kaneda, Toshitaka Tanaka.

第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会, 福岡, 2022.8.5~8.7

8. 死戦期帝王切開の一例から多部署連携による母児救命のあり方を考える.

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

伊地知航司, 精きぐな, 田嶋俊彬, 平井みつ子, 九鬼紗葵, 笠原太郎, 保田歩, 矢田昌太郎, 田中里美, 金田容秀, 田中利隆.

令和 4 年度静岡産婦人科学会秋季学術集会, 三島, 2022.11.27

9. 当院で管理した卵巣過剰刺激症候群 20 症例の検討

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田嶋俊彬, 田中里美, 伊地知航司, 平井みつ子, 九鬼紗葵, 笠原太郎, 保田歩, 精きぐな, 矢田昌太郎, 金田容秀, 田中利隆.

令和 4 年度静岡産婦人科学会秋季学術集会, 三島, 2022.11.27

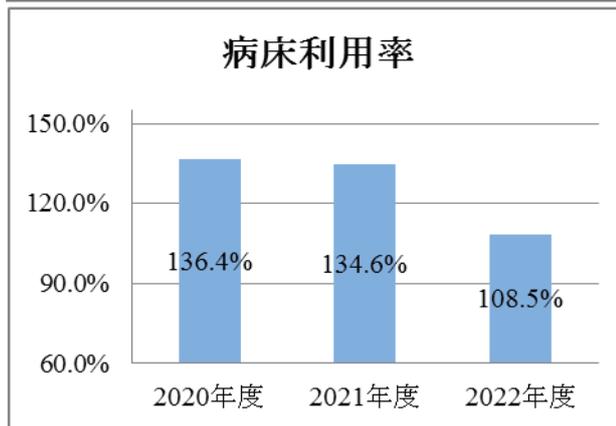
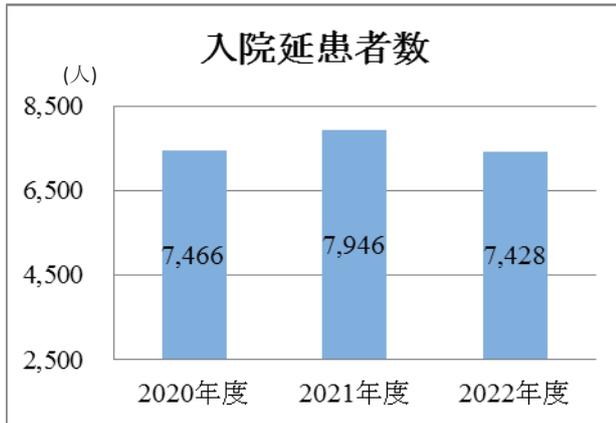
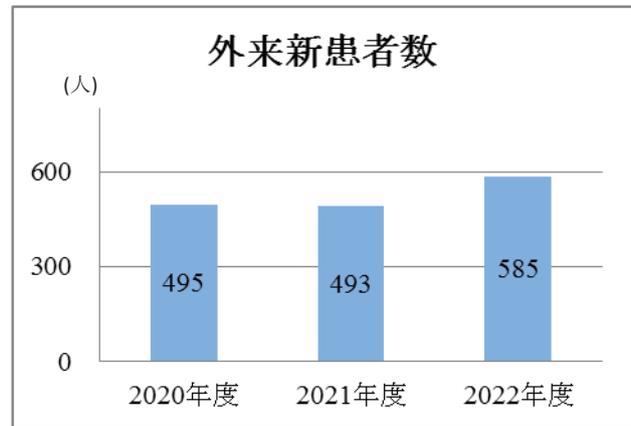
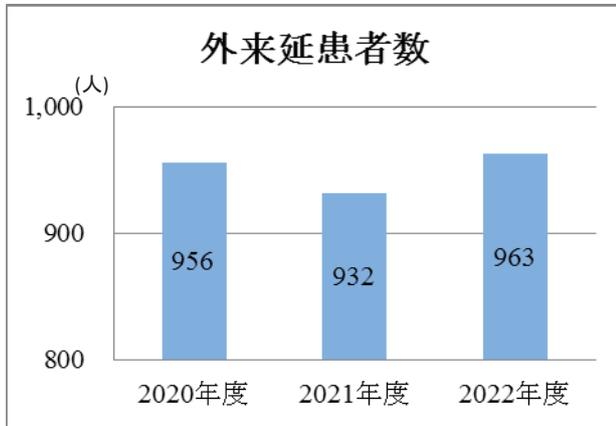
10. 妊婦の血糖管理  
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科  
平井みつ子 田中利隆  
第 49 回東部周産期研究会, 静岡, 2022.12.22
11. コロナ渦での周産期メンタルヘルスの重要性とその対応  
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科  
瀬山理恵  
第 50 回東部周産期研究会, 静岡, 2023.3.9

**【講演】**

1. 流産後、分娩後異常出血に対する超音波検査 (RPOC、子宮仮性動脈瘤、子宮動静脈奇形)  
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科  
田中利隆  
第 7 回 JSUOG 教育セミナー, web, 2022. 5. 30
2. 妊産褥婦の緊急時の対応  
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科  
田中利隆  
令和 4 年度静岡県助産師交流会, 静岡, 2022. 12. 3
3. CTG セミナー  
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科  
田中利隆  
第 13 回羽衣セミナー, 静岡, 2023. 2. 12

## 2-25 救急診療科

### 診療実績



英文誌発表

1. Nagasawa H, Omori K, Nojiri S, Muramatsu K, Kushida Y, Takeuchi I, Jitsuiki K, Shitara J, Ohsaka H, Oode Y, Yanagawa Y. The fibrin/fibrinogen degradation product level on arrival in trauma patients is a better predictor of a fatal outcome than physiological or anatomical severity: A retrospective chart review. *Trauma* 2022;24(1) :43–50.
2. Yanagawa Y, Nagasawa H, Ishikawa K, Hirayama S, Itoi A, Mogami A. Penetrating Aortic Injury due to Broken Ribs and Preventive Measures. *Aorta (Stamford)*. 2022 Oct;10(5):249-252.
3. Yanagawa Y, Nagasawa H, Ishikawa K. A High Level of Fibrinogen Degradation Product on Arrival as the Only Clue Suggesting Deterioration in a Blunt Trauma Patient. *Cureus*. 2022 Oct 31;14(10):e30914.
4. Muramatsu KI, Nagasawa H, Ishikawa K, Yanagawa Y. Fatal Mycotic Aortic Aneurysmal Rupture Induced by Urosepsis From a Vesico-Enteric Fistula and/or Acute Pancreatitis. *Cureus*. 2022 Oct 31;14(10):e30916.
5. Takeuchi I, Muramatsu KI, Ota S, Yanagawa Y. Vaginal Injury by a Cow's Horn. *J Emerg Trauma Shock*. 2022 Jul-Sep;15(3):152-153.
6. Ishikawa K, Yanagawa Y, Ota S, Muramatsu KI, Nagasawa H, Jitsuiki K, Ohsaka H, Nara T, Nishizaki Y, Daida H. Preliminary study of prehospital use of smart glasses. *Acute Med Surg*. 2022 Nov 1;9(1):e807.
7. Muramatsu KI, Murai Y, Sakurada M, Yanagawa Y. Nontraumatic Splenic Rupture during Body Boarding. *J Emerg Trauma Shock*. 2022 Apr-Jun;15(2):111-112.
8. Yanagawa Y, Nagasawa H. Transient Hemiplegia due to Axis Osteomyelitis with Epidural Abscess. *J Emerg Trauma Shock*. 2022 Apr-Jun;15(2):113-114.
9. Nagasawa H, Omori K, Ota S, Muramatsu KI, Ishikawa K, Yanagawa Y. Potential effects of regular use of antihypertensive drugs for in-hospital delirium in geriatric patients with trauma. *Sci Rep*. 2022 Jul 26;12(1):12737.
10. Jitsuiki K, Hamada M, Ota S, Muramatsu KI, Yanagawa Y. A Case of Blue Rubber Bleb Nevus Syndrome With Kasabach-Merritt Syndrome and Heart Failure. *Cureus*. 2022 Jun 2;14(6):e25589.
11. Ohsaka H, Nagasawa H, Ota S, Muramatsu KI, Jitsuiki K, Ishikawa K, Yanagawa Y. Analysis of the Activities of a Physician-Staffed Helicopter in the Coronavirus Disease 2019 Pandemic Phase. *Air Med J*. 2022 Jul-Aug;41(4):376-379.
12. Takada R, Nagasawa H, Yanagawa Y. Emphysematous gastritis associated with ileus due to fecal impaction. *Acute Med Surg*. 2022 Jun 8;9(1):e759.
13. Yanagawa Y. Problems in the management of Tokyo 2020 Paralympic Games cycling events at Fuji International Speedway during the COVID-19 pandemic. *Acute Med Surg*. 2022 May 17;9(1):e754.
14. Jitsuiki K, Nagasawa H, Muramatsu KI, Takeuchi I, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. The Usefulness of Physician-Staffed Helicopters for Managing Severe Abdominal Trauma Patients.

- J Emerg Trauma Shock. 2022 Jan-Mar;15(1):12-16.
15. Yanagawa Y, Tada S, Morita Y, Masunaga K, Shakagori M, Muto T, Jitsuiki K. Activities of a Medical Clinic for the General Public at the Olympic Mountain Bike Competition during the COVID-19 Pandemic. *J Emerg Trauma Shock*. 2022 Jan-Mar;15(1):70-71.
  16. Yanagawa Y, Jitsuiki K, Nagasawa H, Ohsaka H, Ishikawa K. Questions Regarding the Initial Request for the Dispatch of Disaster Medical Assistance Teams for a Landslide after Torrential Rain at Izuyama in Atami, Japan. *J Emerg Trauma Shock*. 2022 Jan-Mar;15(1):71-72.
  17. Ohsaka H, Muramatsu KI, Ota S, Nagasawa H, Wada R, Yanagawa Y. Fatal Cardiac Tamponade Due to a Pericardial Inflammatory Myofibroblastic Tumor. *Intern Med*. 2022 Oct 1;61(19):2891-2894.
  18. Yanagawa Y, Jitsuiki K, Iwasa F, Miyake A, Tosaka N, Okawa M, Nishino T, Nakagawa Y. Importance of a Collaboration Agreement in the Management of Physician-Staffed Helicopters. *Air Med J*. 2022 Jan-Feb;41(1):52-56.
  19. Nagasawa H, Jitsuiki K, Mogami A, Yanagawa Y. A Report Concerning Collaboration Between a Physician-Staffed Helicopter (Doctor Helicopter) and Police Helicopter. *Air Med J*. 2022 Jan-Feb;41(1):18-22.
  20. Yanagawa Y, Jitsuiki K, Kushida Y, Morohashi I. Repeated anaphylactic reaction after walking following an intraarticular injection of diclofenac etalhyaluronate sodium during a 3-day period. *Acute Med Surg*. 2022 Feb 16;9(1):e729. D
  21. Yanagawa Y, Muto T, Shakagori M, Terakado A, Kumai T. Activities of medical centers for athletes and spectators at cycling track events in the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games. *Acute Med Surg*. 2022 Feb 11;9(1):e728.
  22. Yanagawa Y, Tanaka T, Kaneda H, Omae T. Complete Maternal Recovery after Prolonged Cardiac Arrest Due to Atonic Postpartum Hemorrhaging. *J Emerg Trauma Shock*. 2021 Oct-Dec;14(4):249-250.
  23. Muramatsu KI, Ishikawa K, Komatsu A, Jitsuiki K, Yanagawa Y. Severe COVID-19 Pneumonia Treated by Intensive Immune Suppression Therapy With a Combination of Steroid Pulse and Tocilizumab Followed by a Tapering Dose of Steroid Therapy During the Delta (B.1.617.2) Variant Outbreak: A Successfully Treated Case. *Cureus*. 2021 Nov 7;13(11):e19340.
  24. Tada S, Jitsuiki K, Ohsaka H, Yanagawa Y. Benefits and Drawbacks of Using Hotels as Shelters After a Landslide. *Disaster Med Public Health Prep*. 2022 Oct;16(5):1851-1854.
  25. Muramatsu K, Jitsuiki K, Hirayama S, Yanagawa Y. Case Report and Minireview of the Literature on Blunt Azygos Injury. *Juntendo Med J*. 2022.
  26. Muramatsu K, Nagasawa H, Takeuchi I, Yanagawa Y. Paralytic Ileus after Prolonged Transient Hypocholinesterasemia Induced by Fenitrothion Poisoning. *Am J Med Case Rep* 2022;10(6):167-169.
  27. Muramatsu K, Nagasawa H, Ishikawa K, Ota S, Ohsaka H, Jitsuiki K, Yanagawa Y. *Staphylococcus lugdunensis* Bacteremia Accompanying Staphylococcal Scalded Skin Syndrome like Skin Lesions. *Am J Med Case Rep* 2022;10(4): 110-112.
  28. Hamada M, Yanagawa Y, Tanaka S, Ohasaka H, Jitsuiki K, Ishikawa K. Pregnant Patient

with Severe COVID-19 Pneumonia Treated by Intensive Immune Suppression Therapy during the Omicron (B.1.1.529) Variant Outbreak: A Successfully Treated Case. *Am J Med Case Rep* 2022;10(3): 51-55.

29. Ota S, Yanagawa Y, Yoshimoto J, Kawasaki T. A Case of Pediatric Myocarditis that was Initially Misdiagnosed as Cerebral Concussion. *Am J Med Case Rep* 2022;10(3): 64-67.
30. Yanagawa Y, Muramatsu K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K. Type II Decompression Illness after Diving Seven Meters. *Am J Med Case Rep* 2022;10(3): 48-50.
31. Kawai K, Nagasawa H, Yanagawa Y. Usefulness of Ultrasound for Differentiating between Decompression Sickness and Drowning in the Emergency Room. *Am J Med Case Rep* 2022;10(1): 7-9.
32. Ota S, Hamada M, Muramatsu K, Takeuchi I, Yanagawa Y. Possible Development of Burn-Out Nonalcoholic Steatohepatitis under Long-Term Steroid Use. *Case Rep Gastroenterol* 2022;16:557-562.

## 和文論文

1. 柳川洋一. 順天堂大学医部附属静岡病院. *救急医学* 2022;46:1-5.
2. 山田泰行, 宮中翼, 甲斐素子, 水野基樹, 柳川洋一, 榎原毅. 科学コミュニケーションとゲーミフィケーションを活用した防災教育の実践. -防災リテラシーを高める課題解決ゲームの開発-. *人間工学* 2022;58(2): 67-75.
3. 柳川洋一. 書評: 循環器診療エッセンシャル. *内科* 2022; 130 (2):
4. 柳川洋一, 村松賢一, 長澤宏樹, 竹内郁人, 大坂裕通, 日域佳, 石川浩平. 静岡県東部ドクターヘリで自衛隊駐屯地から搬送した自衛官例や米軍との共働訓練を通じて日本の安全保障を考える. *日本航空医療学会雑誌* 2022;23(1):43-49.

## 学会発表

1. 柳川洋一, 日域佳, 長澤宏樹, 大坂裕通, 石川浩平, 齋藤亮, 伊藤正仁, 杉浦誠. 熱海土石流災害での地元医療機関を含めた災害医療支援の特徴.第 27 回日本脳神経外科救急学会.東京. 2022 年 2 月 4 日.
2. 柳川洋一,座長.「外傷, 災害, その他」.第 27 回日本脳神経外科救急学会.東京. 2022 年 2 月 4 日.
3. 柳川洋一, 太田宗一郎, 串田好宏, 村松賢一, 長澤宏樹, 竹内郁人, 日域佳, 園田健人, 大坂裕通, 石川浩平, 中尾保秋, 山本拓史.東京 2020 オリンピック・パラリンピック自転車競技静岡会場における当院の活動.第 45 回日本脳神経外傷学会.奈良. 2022 年 2 月 25 日
4. 柳川洋一, 太田宗一郎, 村松賢一, 長澤宏樹, 竹内郁人, 日域佳, 園田健人, 大坂裕通, 石川浩平.静岡県東部のオリンピック自転車競技は日常診療の延長線上で問題なく終了.第 27 回日本災害医学会総会・学術集会.広島.2022 年 3 月 5 日
5. 柳川洋一,新たな病院船は必要ない. なぜなら自衛隊が既に雛形を保有しているからである.第 27 回日本災害医学会総会・学術集会.広島.2022 年 3 月 4 日
6. 日域佳, 長澤宏樹, 大坂裕通, 石川浩平, 柳川洋一.令和 3 年 7 月熱海市伊豆山土砂災害に関する静岡 L-DMAT の初動に関しての考察.第 27 回日本災害医学会総会・学術集会.広島.2022 年 3 月 5 日
7. 柳川洋一,座長.「熱海土砂・風水害 1 本部活動」.第 27 回日本災害医学会総会・学術集会.広島.2022 年 3 月 5 日
8. 柳川洋一,伊豆半島における減圧症対応の現状.第 5 回日本高気圧環境・潜水医学会近畿地方会.2022 年 3 月 12 日
9. 柳川洋一, 佐々木史乃, 鈴木英子, 多田真也, 鬼塚味佳, 村松賢一, 長澤宏樹, 日域佳, 大坂裕通, 石川浩平.ICU 移転に伴うシュミレーションの重要性.第 49 回日本集中治療医学会学術集会.仙台.2022 年 3 月 18 日
10. 柳川洋一,濱田通果,太田宗一郎,村松賢一,長澤宏樹,竹内郁人,大坂裕通,大森一彦,石川浩平.内因性心タンポナーデによる心停止例に対する緊急ドレナージの有無が転帰に与える影響. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会 web 2022 年 10 月 19-21 日
11. 濱田通果,柳川洋一.胸部大動脈疾患による心停止例で心タンポナーデの有無が頸静脈径に与える影響について. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会 web 2022 年 10 月 19-21 日
12. 石川浩平,太田宗一郎,村松賢一,竹内郁人,日域佳,大坂裕通,柳川洋一.病院前救急活動における多機関が連携したスマートグラスの試験導入から見えた将来のプレホスピタルの展望. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会 web 2022 年 10 月 19-21 日
13. 崔美善,柳川洋一,竹内郁人,大坂裕通,日域佳,石川浩平.腫瘍崩壊症候群に類似した劇症型気腫性腸炎の一例. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会 web 2022 年 10 月 19-21 日
14. 宮谷和樹, 竹内郁人, 大坂裕通, 日域佳, 石川浩平, 柳川洋一.心停止を来した巨大左房血栓が胸骨圧迫により多発性動脈塞栓に移行した症例.第 50 回日本救急医学会総会・学術集会 web 2022 年 10 月 19-21 日
15. 鬼塚味佳, 多田真也, 柳川洋一. ダイビング事故チェックリストの運用における問題点.第 22 回日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会 小田原 2022 年 6 月 18 日
16. 柳川洋一,太田宗一郎,村松賢一,串田好宏,長澤宏樹,竹内郁人,大坂裕通,日域佳,石川浩平,伊藤浩嗣.高気圧酸素治療装置がない救命救急センターにおける一酸化炭素中毒患者への対応.第 22

回日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会 小田原 2022年6月18日

17. 河合健司, 柳川洋一, 石川浩平, 日域佳, 長澤浩樹, 大坂裕通. 急性期超音波診断が減圧症との鑑別に有用だった溺水の1例. 第72回日本救急医学会関東地方会学術集会 web 2022年2月26日
18. 石川浩平, 柳川洋一. 冬季閉山中の富士登山で3名が連鎖的に滑落した事案の検証と課題. 第36回日本外傷学会総会・学術集会大阪 2022年6月30日-7月1日
19. 長澤宏樹, 柴橋慶多, 大森一彦, 柳川洋一. 日本外傷データベースを用いた外傷性ショックに対する病院前静脈路確保の有効性の検討. 第36回日本外傷学会総会・学術集会大阪 2022年6月30日-7月1日
20. 柳川洋一, 長澤宏樹, 太田宗一郎, 村松賢一, 串田好宏, 竹内郁人, 日域佳, 大坂裕通, 石川浩平. FDPは生命徴候や解剖学的重症度と共に外傷症例の予後予測に有用な biomarker である. 第36回日本外傷学会総会・学術集会大阪 2022年6月30日-7月1日
21. 渡邊峻, 柳川洋一. 頸部痛と一過性片麻痺を主訴に来院した軸椎化膿性脊椎炎の一例. 第25回日本臨床救急医学会大阪 2022年5月25-27日
22. 柳川洋一, 太田宗一郎, 村松賢一, 串田好宏, 日域佳, 大坂裕通, 石川浩平. コロナ禍に医療資源の乏しい静岡県東部におけるオリンピック競技開催時の対応. 第25回日本臨床救急医学会大阪 2022年5月25-27日
23. 濱田通果, 柳川洋一. 急性心筋梗塞と急性脳梗塞が来院時に合併していた一例. 日本臨床救急医学会大阪 2022年5月25-27日
24. 柳川洋一, 伊藤浩嗣. コロナ禍の中毒、都会・地方の中毒 救急・精神科常勤医不在、高気圧酸素治療装置がない地方の救命救急センターにおける一酸化炭素中毒患者への対応. 第44回日本中毒学会 web 2022年7月15-16日
25. 柳川洋一, 柳川良子, 鬼塚味佳, 太田宗一郎, 村松賢一, 長澤宏樹, 竹内郁人, 日域佳, 藤田航, 大坂裕通, 石川浩平. 溺水による心停止後に低体温療法により後遺症なく社会復帰した一例. 第56回日本高気圧環境・潜水医学学会 佐賀 2022年10月29、30日
26. 鬼塚味佳, 橋本瞭, 田上佑一, 柳川洋一. 静岡県東部ドクターヘリの取り組みーWEB 会議の有用性ー. 第56回日本高気圧環境・潜水医学学会 佐賀 2022年10月29、30日
27. 鳥沢規子, 柳川洋一. 墜落を契機として発症した外傷性大動脈解離の一例. 第25回日本救急医学会中部地方会一宮 2022年11月5日
28. 吉田華, 柳川洋一. 顔面外傷後に顔面神経麻痺が初発症状となる頭部破傷風を発症した症例. 第25回日本救急医学会中部地方会一宮 2022年11月5日
29. 宮谷和樹, 柳川洋一. 心停止を来した巨大左房血栓が胸骨圧迫により多発性動脈塞栓に移行した症例. 第25回日本救急医学会中部地方会一宮 2022年11月5日
30. 柳川 洋一. 静岡県東部にはドクターヘリはなくてはならないものである. 第29回日本航空医療学会 web 2022年12月4日
31. 大坂 裕通. 静岡県東部ドクターヘリの特定競技に対する現場医師搬送の分析. 第29回日本航空医療学会 web 2022年12月4日
32. 石川 浩平. 次世代を見据えたスタッフ育成と継続教育. 第29回日本航空医療学会 web 2022年12月4日

## 講演

柳川洋一 静岡県東部ドクターヘリの活動分析. 御殿場市医師会・御殿場小山 MC 協議会 合同研修 11  
月 25 日

## 訓練参加

1. 柳川洋一、竹内郁人、日域佳、大坂裕通. 令和 4 年度大規模地震時医療活動訓練. 順天堂大学医学部  
附属静岡病院 DMAT 本部、静岡県東部ドクターヘリ本部、静岡県東部 SCU 運営. 令和 4 年 10 月 1 日
2. 柳川洋一. 令和 4 年度静岡 DMAT-L 隊員養成研修インストラクター 静岡 12 月 10 - 11 日

## テレビ放映

石川浩平 「死につながる事故」も…富士山の冬期登山 テレビ静岡 2022 年 3 月 30 日  
柳川洋一 TV 医学監修 フジテレビ世界の何だコレ!? ミステリー 令和 4 年 5 月 4 日  
柳川洋一 TV 医学監修 フジテレビ世界の何だコレ!? ミステリー 令和 4 年 11 月 2 日

## 講義

令和 4 年 2 月 3 日 静岡県消防学校 大規模災害対応  
令和 3 年 4 月 12 日 順天堂大学 外傷  
令和 3 年 4 月 14 日 防衛医科大学校 ドクターヘリ  
令和 3 年 6 月 30 日 順天堂大学 4 年生 生命徴候

## 2-26 病理診断科

### 診療実績

2022 年度

(2022 年 4 月～2023 年 3 月)

組織診断：7148 例

細胞診断：8231 例

病理解剖断：8 例

### 研究・教育活動

【英文原著】

1. Kusunoki T, Wada R : Case of anterior glottic web with bilateral vocal cord cancers BMJ Case Rep 2022;15
2. Ohsaka H, Muramatsu KI, Ota S, Nagasawa H, Wada R, Yanagawa Y. Fatal Cardiac Tamponade Due to a Pericardial Inflammatory Myofibroblastic Tumor. Intern Med. 2022 Oct 1;61(19):2891-2894.
3. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yoshikawa A, Tanaka K, Kubo S, Wada R, Ikeda K : A Case of Nasopharyngeal Tuberculosis with Cervical Lymph Node Tuberculosis Suspected of Cervical Malignant Disease at the First Examination. Clin Pract. 2021 : 21.
4. Ogawa T, Ogaki K, Daida K, Nishimaki T, Ando M, Kawajiri S, Wada R, Noda K, Hattori N, Okuma Y : Progressive encephalomyelitis with rigidity and myoclonus and myasthenia gravis comorbid status with thymoma. Movement Disorders Clinical Practice, 2021.
5. Kusunoki, T, Homma H, Kidokoro Y, Yoshikawa A, Tanaka K, Kubo S, Wada R : Mediastinum Lymph Node Metastasis with Superior Vena Cava Syndrome. Journal of Clinical Case Studies (Open Access). 6, 2021.
6. Kusunoki T, Wada R : Thyroid Follicular Adenoma with Tracheal Stenosis. J Clin Case Stu 6(4), 2021.
7. Shimizu Y, Wakabayashi K, Iwasaki H, Kishida C, Seki S, Okuma T, Iwakami N, Iwasawa T, Maekawa H, Tomino Y, Wada R, Suzuki Y : Immunotactoid Glomerulopathy with Nontuberculous Mycobacterial Infection: A Novel Association. Case Rep Nephrol Dial 11:136–46, 2021.

【和文・英文総説】

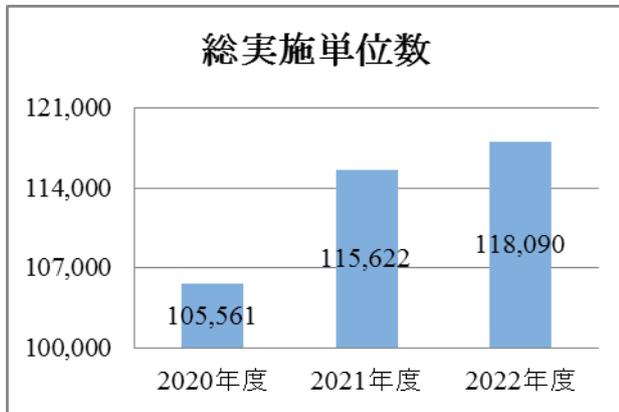
1. 八尾隆史、和田 了、岡野 莊：内視鏡的粘膜切除が確定診断に有用な消化管疾患の病理学的特徴. 消化器内科 3:57-63, 2021
2. Wada R : Histogenesis of colorectal carcinoma considering from clinicopathological examinations for colorectal adenoma with Paneth cell. Juntendo Medical Journal. 2021

【和文著書】

1. 和田 了 : 転移性腫瘍. 腫瘍病理鑑別アトラス, 大腸癌第 2 版. 文光堂, 東京, p204-207, 2021

## 2-27 リハビリテーション科

### 業務実績



### 研究・教育活動

#### 論文

1. Ishiwatari M, Tani M, Isayama R, Honaga K, Hayakawa M, Takakura T, Tanuma A, Kurosu A, Hatori K, Wada F, Fujiwara T: Prediction of gait independence using the Trunk Impairment Scale in patients with acute stroke. Ther Adv Neurol Disord. doi: 10.1177/17562864221140180, eCollection 2022.
2. Murakami Y, Honaga K, Kono H, Haruyama K, Yamaguchi T, Tani M, Isayama R, Takakura T, Tanuma A, Hatori K, Wada F, Fujiwara T: New Artificial Intelligence-Integrated Electromyography-Driven Robot Hand for Upper Extremity Rehabilitation of Patients With Stroke: A Randomized, Controlled Trial. Neurorehabil Neural Repair 37(5): 298-306, 2023.

#### 総説

1. 田沼明: AYA 世代に対するがんのリハビリテーション医療 リハビリテーション科医師の立場から. MED REHABIL 277: 39-45, 2022.

#### 著書

1. 堀本ゆかり, 池田拓郎, 石坂正大, 石野麻衣子, 糸数昌史, 井上靖悟, 小野田公, 神尾博代, 鈴木啓介, 西郡享, 右田正澄, 山田洋一, 和田三幸, 渡辺大輔: 卒前・卒後教育に使える理学療法のための OSCE ハンドブック ―レベル別課題選択式出題法による Pre/Post OSCE に対応―, pp87-133, 株式会社アイペック, 2022
2. 田沼明: 婦人科がん. 小林龍生, 高橋秀寿, 辻哲也, 藤原俊之編: リハビリテーション診療クリニカルガイド. pp351-354, 南山堂, 2022.
3. 田沼明: 泌尿器がん. 小林龍生, 高橋秀寿, 辻哲也, 藤原俊之編: リハビリテーション診療クリニカルガイド. pp355-357, 南山堂, 2022.
4. 田沼明: 脳腫瘍. 藤島一郎監: 疾患別嚥下障害, pp72-76, 医歯薬出版, 2022.

5. 田沼明：リハビリテーション科専門医の関わり．日本がんサポーターズ学会編：がん支持療法テキストブック サポーターズケアとサバイバーシップ，pp49-50，金原出版，2022.

## 講演

1. 海東健太：言語聴覚士の業務と役割-リハビリテーションに従事する言語聴覚士について-．株式会社大塚製薬工場 研修会，web，2022/5/19
2. 田沼明：血液がん患者さんのリハビリテーションの意義．がん患者さんのリハビリテーションを考える～第1回血液がん患者さんについて～，web，2022/5/25
3. 田沼明：がん患者における身体活動と予後．第59回日本リハビリテーション医学会学術集会，横浜，2022/6/23-25
4. 田沼明：がんリハビリテーションの最新動向．第27回順天堂大学医学部附属順天堂医院がん研修会，web，2022/9/29
5. 海東健太：お口の中について考える-口腔ケアと誤嚥性肺炎の関係性-，株式会社大塚製薬工場 研修会 静岡脳卒中多職種連携 Webinar，web，2022/10/5
6. 鳥屋優太：回復期に使える！心リハの知識と実際，第16回静岡県理学療法士会内部障害部会研修会，web，2022/10/16
7. 海東健太：当院における摂食嚥下障害の評価について，静岡県言語聴覚士会 東部ブロック研修会，web，2022/12/4

## 学会発表

1. 海東健太，杉山明宏：言語聴覚士が行う機能的口腔ケアに基づいた治療戦略．第19回日本口腔ケア学会総会・学術大会 第2回国際口腔ケア学会総会・学術大会合同会議，大阪，2022/4/23-24
2. 海東健太，田沼明：胸部大動脈瘤術後に生じた声帯麻痺に対する音声リハビリテーション-喉頭触知フィードバックを用いた経験-．第23回日本言語聴覚学会，新潟，2022/6/24-25
3. 川村真愛，渡邊大輔，阿妻伸幸，宮下春紀，山田凌平：重複障害患者に対する運動処方への展開～運動習慣があるものの筋力・身体機能低下を認めた症例～ 第25回静岡県理学療法士学会，web，2022/6/25-26
4. 小池教文，小林敦郎：変形性股関節症患者のデュシェンヌ歩行と骨形態の関連性．第25回静岡県理学療法士学会，web，2022/6/25-26
5. 小宮山正広，小池教文，小林敦郎：人工股関節全置換術後早期に床上動作獲得が可能となった一症例～股関節回転中心軸に着目して～．第25回静岡県理学療法士学会，web，2022/6/25-26
6. 白須未夏，下島健斗，若尾房美：非麻痺側の過活動抑制が動作改善に有用であった左片麻痺の一症例．第25回静岡県理学療法士学会，web，2022/6/25-26
7. 平松亮二，小池教文，小林敦郎：好酸球性多発血管炎性肉芽腫症患者に対し運動療法にNMESを併用し歩行能力向上を認めた一症例．第25回静岡県理学療法士学会，web，2022/6/25-26
8. 鈴木建宏：多巣性運動ニューロパチーに対するスプリント療法～スマホ操作に着目して～．第35回静岡県作業療法学会，浜松，2022/7/2-3
9. 田沼明，小林敦郎，大林治：主診療科・病棟における経口摂取開始時の摂食嚥下スクリーニングテスト導入の試み．第51回日本リハビリテーション医学会中部・東海地方会，web，2022/8/27
10. 海東健太，田沼明：肺がん術後の脳梗塞にて重度嚥下障害を呈した1例-NMESから得られた可能性

とりハビリテーション-. 第 28 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 千葉, 2022/9/23-24

11. 小池教文, 小林敦郎: 人工股関節全置換術後の術後 SLR と破局的思考の関連性について. 第 49 回日本股関節学会学術集会, 山形, 2022/10/28-29
12. 小宮山正広, 阿妻伸幸, 渡邊大輔, 田沼明: 特発性肺線維症の呼吸困難に対し胸郭可動性に着目した呼吸理学療法が有効であった一症例. 第 38 回東海北陸理学療法学術大会, web, 2022/10/29-30
13. 田沼明, 杉原進介, 伏屋洋志, 中田英二, 辻哲也: AMED 外来がんリハビリテーションプログラムの開発に関する研究班・乳がんグループの研究進捗報告. 第 6 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 岡山, 2022/11/4-6
14. 渡邊大輔, 阿妻伸幸, 下島健斗, 田沼明, 野澤陽子, 佐々木史乃, 鈴木英子, 柳川洋一: 当院 ICU における天井走行式リフトの使用経験. 第 50 回集中治療医学会学術集会, 京都, 2023/3/2-4
15. 田沼明, 杉原進介, 田尻寿子, 明崎禎輝, 笠谷美保, 盛啓太, 辻哲也: 乳がん術後の外来リハビリテーション治療に関するランダム化比較試験 (ORBS 試験) 進捗報告. 第 11 回日本がんリハビリテーション研究会, 名古屋, 2023/3/11-12

## 2-28 臨床検査科

(特任教授 田内一民)

### 診療実績

1. 日本医師会精度管理調査での点数 95.9 点、
2. 静岡県医師会精度管理調査は A ランクで問題点なし（微生物の報告改善）。
3. 日臨技精度管理調査では 98.0 点、(A) 評価で問題点なし。
4. 臨床検査技師を対象に勉強会「知得会」を開催（第 83～87 回）。
5. 院内の検査データの意義、検査結果の考え方について作成した検査説明パンフレット「検査結果の見方・考え方」。採血室・受付等に配布。
6. TSH のハーモナイゼーションに伴う基準範囲、単位変更（2022. 10）。

### 研究・教育活動

1. 第 39 回（2022 年度） 静岡県臨床検査精度管理調査報告書、2022.10
2. 日本総合健診医学会第 50 年次（2022 年度）臨床検査精度管理報告書、2023.3
3. 日本総合健診医学会施設調査票集計結果報告（2021 年度）、日本総合健診医学会誌 49(6)2022 53-79
4. 優良施設認定実査概況と SOGI に関する施設アンケート結果報告、日本総合健診医学会誌 49(6)2022 43

### 3. 部門報告



## 3-1 薬剤科

### 業務実績

薬剤師：34名うちGCPセンター（調剤業務兼務）に3名、薬剤管理指導業務担当8名、手術室業務1名、注射薬払い出しおよび無菌製剤業務1名、外来および入院調剤業務18名、外来・入院化学療法2名、医薬品情報室1名にて業務をおこなっている。（2023年3月31日現在）

#### 1. 業務内容

- |            |  |
|------------|--|
| ① 調剤       | 外来・入院調剤  |
| ② 製剤       | 約束処方・院内特殊製剤                                    |
| ③ 注射薬の取り揃え | 入院一般注射薬・化学療法用注射薬（外来・入院とも）                      |
| ④ 注射薬の無菌製剤 | 中心静脈栄養・化学療法（外来・入院とも）                           |
| ⑤ 薬品管理     | 薬品発注・在庫管理・麻薬管理                                 |
| ⑥ 医薬品情報提供  | 院内医薬品集(昨年度より電子化)の発行・新規採用薬中止薬の案内・副作用情報等の収集・提供   |
| ⑦ 薬剤管理指導業務 | 科ごとに薬剤師を担当させているが、ICU・CCUは持参薬管理のみ<br>ブレイクレポート報告 |
| ⑧ 手術室業務    | 麻酔薬の準備・使用後の確認など麻酔科医業務支援および麻薬管理                 |
| ⑨ その他      | 学会発表など   |

#### 1. 調剤業務

処方内容については、調剤監査システムにて相互作用、重複投与等のチェックを行った後処方せんを発行し調剤を実施している。外来および退院処方については「薬剤情報提供書（あなたのおくすり）」を添付して患者への医薬品情報提供を実施している。合わせて、お薬手帳用薬剤一覧も毎回発行・配布している。外来処方せんは院内にて調剤を行い、院外処方せんについては希望者のみとしている。2021年度から調剤室内のレイアウトと調剤方法を変更した結果調剤時間短縮が図られた。

#### ● 2022年度調剤業務（処方せん枚数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年1月	2月	3月
外来	26,642	25,696	26,976	27,345	28,554	27,933	26,817	26,765	27,572	26,185	25,463	29,031
入院	14,049	14,990	15,438	14,748	13,561	14,203	14,795	13,633	15,109	14,725	14,247	15,342
合計	40,691	40,686	42,414	42,093	42,115	42,136	41,612	40,398	42,636	40,910	39,710	44,373
院外	1,095	1,109	1,153	1,194	1,155	1,154	1,162	1,160	1,236	1,103	1,058	1,211

#### 2. 製剤

院内製剤は点眼薬、点鼻薬、点耳薬、軟膏、処置薬などを調製している無菌的な操作の必要なものはクリーンベンチ内で調製している。

### 3. 注射薬の取り揃え

入院一般注射薬：前日までにオーダーされている注射薬を個人別にセットし、専用カートにて各病棟に払い出す。金曜日は土曜日・日曜日分を、土曜日は月曜日分のセットをしている。

#### ●2022 年度注射薬処方箋枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年1月	2月	3月
外来	2,836	2,821	2,927	3,143	3,153	2,986	2,866	2,835	3,010	2,998	2,745	2,951
入院	17,447	19,887	19,093	18,899	18,270	19,052	19,700	19,450	19,783	20,271	17,866	18,326

### 4. 注射薬の無菌製剤

外来・入院化学療法：前日までにオーダーされている外来化学療法の注射薬を個人別にセットし、担当者がレジメン内容の監査を行なう。

実施日当日は治療続行の指示に従って、がん治療センターの安全キャビネット内で直前に混注業務を行っている。中心静脈栄養（IVH）：当日 13:00 まで（土曜及び休日は 8:00）にオーダーされたものを、クリーンベンチ内で調製し病棟に払い出している

#### ●2022 年度無菌製剤件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年1月	2月	3月
外来化学療法	449	492	494	504	561	562	529	569	526	601	576	658
入院化学療法	242	194	193	204	181	175	237	201	209	221	206	308
IVH	142	41	45	28	82	33	46	19	25	33	94	23

### 5. 薬品管理

採用薬は 2022 年 3 月 31 日時点で内服薬：952 品目・注射薬：519 品目、合計 1,471 品目である。

### 6. 医薬品情報提供業務

医薬品の安全かつ、適正使用のための情報収集および情報提供を実施。

院内医薬品集(電子版)の作成(毎月更新)・新規採用薬、採用中止薬、包装・剤形変更の情報は薬剤科からのお知らせにて院内配布(電子版も併せ)。

### 7. 薬剤管理指導業務

内科、外科、脳外科、産婦人科、眼科、耳鼻科、整形外科、泌尿器科、神経内科、呼吸器外科、形成外科及び皮膚科に、科ごとに配置している。持参薬の検索、服薬指導、薬歴から相互作用、併用禁忌などの薬学的管理を行なっている。2021 年 7 月より新たに皮膚科を開始している。

医療安全対策のひとつとしてプレアボイド報告(薬学的ケアの実施によって、副作用・相互作用・治療効果不十分などを回避あるいは軽減した事例の報告)を行っており 2022 年度は 2,140 件(前年比 145%)の報告を行った。

●2022 年度薬剤管理指導算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
算定件数	1,132	1,204	1,264	1,147	965	1,155	1,196	1,115	1,115	1,061	1,049	1,163

8. その他

学会発表

初回化学療法に mFOLFIRINOX 療法を導入した切除不能膵臓癌患者における UGT1 ヘテロ接合体遺伝子と治療効果の相関解析

○南雲 昭人 1)、田中 怜 2、3)、宮口 貴守 2) 賀茂 佳子 2)、鴨志田 武 2)、篠 道弘 2)

1) 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科、2) 静岡県立がんセンター 薬剤部

3) 東京理科大学 薬学部

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023 年 3 月 4～5 日 名古屋国際会議場

著書

植松卓也、中塚真依子（順天堂医院 薬剤部）特集 浮腫と脱水の薬物治療 : 薬剤性の浮腫  
月刊薬事 2022.10 (Vol.64 No13) 69-75

杉本智恵子、芹澤健一 特集 浮腫と脱水の薬物治療 : 薬剤性の電解質異常  
月刊薬事 2022.10 (Vol.64 No13) 76-81

2023 年度の目標

- ① 研究活動の充実と臨床スキル（薬学的管理）の向上  
6 病院横断型の研究チームの推進、人事交流およびキャリアパスの取得など。  
学位取得に向けた取り組み。
- ② 改正薬剤師法に準拠した医薬品適正使用および医療安全への貢献（継続）
- ③ 業務の効率化や安全性重視のためのロボット化・AI の導入。（継続）  
ロボピックや医薬品情報提供業務支援ソフトの導入検討開始。調剤支援システムの更新。
- ④ 薬学部開設および増床に向けた体制づくり  
学生実習の受け入れの継続と実務兼務の教員の養成。
- ⑤ 薬剤師の増員と臨床業務の充実  
薬剤師の増員を図り、病棟薬剤業務の充実とチーム医療への貢献をめざす。

## 3-2 栄養科

### 業務実績

#### (1) 栄養管理業務

- ① 医師の指示のもとに、外来患者および入院患者への栄養食事指導を実施した。  
糖尿病の教育入院(2週間)が毎週定期的にあり、入院中には患者に寄り添った栄養食事指導を行い、退院後も定期的にフォローアップを行った。糖尿病療養指導士の習得は3名である。栄養指導実施件数は2020年度3,668件、2021年度3,995件、2022年度4,034件であった。2022年度診療報酬改訂に伴い、7月より早期栄養介入管理加算の算定を開始した(445件)。
- ② 栄養サポートチーム(NST)を中心に患者の栄養状態改善を図る為、毎週木曜日にNST回診を実施した。管理栄養士が活動をまとめる中でNSTリンクナースに指導を行い、低栄養患者に対してNST介入できるよう見直しを行った。NST専任要件を満たす医師1名、NST専門療法士習得者は、管理栄養士2名、看護師2名、薬剤師1名となり、それぞれの立場から専門性を発揮し連携を深めた。
- ③ 摂食嚥下支援チームの活動として週一回のチームカンファレンスを実施し、摂食嚥下機能回復体制加算取得に向け体制を整えている。

#### (2) 給食管理業務

- ① 適時適温給食の実施、安心して安全な食事の提供を行なった。
- ② 医師の指示に従い、また患者の状態に寄り添った個々人の対応を行なった。
- ③ 年4回の嗜好調査により患者の希望を捉え、献立作成に生かした。
- ④ 選択メニューを実施し、患者満足度を向上させた。

①給食実施状況 (単位:食)

区分	食種名	食数
一般食	常食	156,897
	授乳食	8,887
	お祝い膳	798
	学童食	1,375
	小児食	3,033
	離乳食	810
	軟食	69,605
	流動食	5,129
	小計	246,534
	特別食	エネルギー塩分食
糖質調整食		42,521
蛋白コントロール食		23,427
胃腸病食		18,294
脂質制限食		9,487
低残渣食		3,292
無菌食		93
注腸食		24
濃厚流動食		47,823
ミルク		27,681
小計	237,269	
患者合計	483,803	
職員合計	102,055	
付添い合計	2,310	
おやつ合計	2,841	
5回食合計	1,035	

②栄養食事指導実施状況 (単位:件)

区分	指導名	入院	外来	合計	
個人指導	糖尿病食	573	1101	1674	
	腎臓病食	140	120	260	
	減塩食	748	106	854	
	肝臓病食	59	19	78	
	胃腸病食	304	61	365	
	肥満食	6	9	15	
	脂質異常食	38	58	96	
	痛風食	0	0	0	
	貧血食	1	0	1	
	高血圧食	1	0	1	
	その他	379	211	590	
	小計	2249	1685	3934	
	集団指導	指導名	回数	人数	
		糖尿病教室	17	60	
心臓病教室		14	40		
糖尿病会食		0	0		
母親教室		0	0		

③NST介入延べ人数(各科別)

診療科	延べ人数
膠原病・リウマチ内科	2
消化器内科	29
呼吸器内科	41
血液内科	28
腎臓内科	43
糖尿病・内分泌内科	4
外科	71
脳神経外科	81
循環器内科	83
心臓血管外科	28
呼吸器外科	6
脳神経内科	26
整形外科	31
形成外科	17
救急診療科	68
小児科	0
小児外科	0
眼科	0
耳鼻咽喉科	11
産婦人科	31
皮膚・アレルギー科	2
泌尿器科	18
合計	620

### 3-3 放射線室

放射線室は、診療放射線技師 37 名(男性 27 名、女性 7 名)と、事務員 5 名にて構成されている。診療放射線技師の勤務シフトは、早出 3 名、遅出 1 名、準夜 2 名、深夜 2 名、更に ON CALL 2 名で行い、24 時間、業務が滞らないよう努めている。

(基本方針)

- (1) 良質な医療情報（画像）の提供。
- (2) 患者に寄り添い、患者中心の検査を実施。
- (3) つねに学び、考え、新しい事への挑戦。
- (4) 医療人として医師、患者から信頼される診療放射線技師。

(目 標)

- (1) 検査の必要性を理解し、間違いのない医療情報を提供する。
- (2) 患者に応じて、最良の検査方法を選択、施行する。
- (3) 各種認定資格取得、学術発表を目指す。
- (4) 医師、他の医療スタッフと連携して、質の高いチーム医療を提供する。

(機器構成：2022 年度)

機器名	設置台数
一般撮影装置	5 台
移動型X線装置	6 台
骨密度測定器	1 台
乳房撮影装置	1 台
X 線 TV 装置	3 台
血管撮影装置 (Hybrid 含)	4 台
CT 装置	4 台
MRI 装置	3 台
ガンマーカメラ	1 台
PET-CT	1 台
放射線治療装置 (リニアック)	1 台
放射線治療計画用CT装置	1 台

業務実績 (検査数)

	2021 年度	2022 年度
一般撮影	78,121	79,293
ポータ	29,823	30,849
骨密度	1,695	1,790
マンモ	1,371	1,381
X 線 TV	3,666	3,262
血管撮影	2,227	2,274
C T	43,761	45,152
MRI	15,417	15,217
RI検査	889	877
PET/CT	847	832
放射線治療	5,402	6,119
合 計	183,219	187,046

(業務実績)

前年度と比較し、総件数で約 102%の業務量であった。11 部門の内、7 部門において検査数が増加した。

(放射線技師を目指す学生への取り組み)

順天堂大学保健医療学部診療放射線学科の実習病院として、学生を受け入れている。

(資格取得実績)

医学物理士	1 名
第一種放射線取扱主任者	4 名
日本血管撮影 IVR 専門診療放射線技師	3 名
磁気共鳴専門技術者	1 名
放射線治療専門放射線技師	2 名
放射線治療品質管理師	1 名
救急撮影認定技師	3 名
マンモグラフィ技術認定資格者	6 名
X 線 CT 認定技師	6 名
第一種作業環境測定士	2 名
臨床実習指導者	4 名
放射線機器管理士	4 名
放射線管理士	5 名
災害支援認定診療放射線技師	1 名
医療画像情報精度管理士	1 名
画像等手術支援認定放射線技師	4 名
修士課程 修了者	3 名

(学術研究、発表実績)

タイトル	学会名	場所	発表年月日	発表者・共同演者
当院における Dual energy CT の臨床応用	第13回静岡 CT研究会	静岡市	2022/5/19	平入哲也
用手換気下胸部 X 線ポータブル撮影における手技者の水晶体の被ばく低減方法の検討	第 25 回日本臨床救急医学会総会・学術集会	大阪国際会議場	2022/5/27	内藤泰匡・平入哲也
Digital breast tomosynthesis 撮影における乳房構成と振り角の違いによる被ばく線量の検討	第 26 回静岡県放射線技師学術大会	浜松プレスタワー	2022/5/29	有坂英里、伊藤周子、中村登紀子

全脊椎撮影時の撮影方向の違いによる乳腺線量の評価	第26回静岡県放射線技術学会	静岡県	2022/5/29	星 健斗 内藤 泰匡 中村 登紀子
腕をおろした患者の腹部CT撮影におけるディープラーニング再構成の有用性	第10回 CT 技術学会	岐阜じゅうろくプラザ	2022/7/9	平入哲也
「充実した技師ライフを送るために～わたしの歩み方～」	令和4年尾西地区診療放射線技師会研修会	WEB	2022/7/30	中村登紀子
エチケット・マナー、医療コミュニケーション講座	日本診療放射線技師会 フレッシュヤーズセミナー	藤枝市立総合病院	2022/9/10	七尾 光広
異なる画像再構成法における金属アーチファクト低減処理画像の比較検討	第38回日本診療放射線技師学術大会	神戸コンベンションセンター	2022/9/16	杉山巧也 平入 哲也 中村登紀子 篠田雅弘
管理区域における作業環境測定値に対する原因の究明と対策	第38回日本放射線技師学術大会	兵庫県	2022/9/16	坂元(発表者)・ 高橋・佐藤
トモシンセシス下マンモトーム生検時の付加フィルタ追加による石灰化の視認性と入射表面線量の評価	第14回中部放射線医療技術学術大会	ウインクあいち(愛知県産業労働センター)	2022/11/5	中村登紀子,伊藤 周子,有坂英里, 山本洋花, 廣瀬知世
当院における緊急血管撮影での画像支援について	第55回静岡県放射線技師会アンギオ部会研修会	Web	2022/11/12	野口伸弘
「乳がん検診における被ばく:マンモグラフィ撮影による臓器・組織の被ばく線量について」	第32回日本乳癌検診学会学術総会	アクトシティ浜松	2022/11/12	中村登紀子
外傷撮影で診療放射線技師が知っておくべきこと	第1回 東部地区会 胃がん従事者講習会・放射線セミナー	三島商工会議所	2022/11/26	内藤泰匡

Bone-induced streak artifact reduction in emergency abdominal CT using the deep learning-based image reconstruction.	RSNA2022	シカゴ	2022/11/27-12/1	平入哲也
The Relationship between Radiation Exposure Literacy and the Level of Understanding of Radiation Dose in the Examination of Mammography	第 78 回 日本放射線技術学会総会 学術大会	パシフィコ 横浜	2022/4/14-17	中村登紀子
被ばく線量分布図を用いた視覚的情報提供による放射線被ばくりテラシーの評価 ～受診者の背景に着目して～	第 30 回 日本乳癌学会 学術総会	パシフィコ 横浜	2022/6/30-7/2	中村登紀子, 田中 顕一郎, 板倉萌, 牛山裕美子, 入江隆介
Evaluation of Mammary Exposure Doses for Different Imaging Orientations for Whole Spine Imaging in Younger Generation.	ECR	オーストリア	2023/3/1-6	中村登紀子, 入江隆介

(論文実績)

タイトル	学会
A Potential Solution to Assess the Absorbed Dose at Any Point in Breast During Digital Breast Tomosynthesis (DBT) Imaging Using a Novel Monte Carlo Simulation Software.	RADIOLOGY AND MEDICAL DIAGNOSTIC IMAGING
Half-Value Layer Measurement Method for Routine Management of Digital-Breast-Tomosynthesis Equipped Breast Radiography Systems	Sensors and Materials
Evaluation of radiation exposure literacy among mammography examinees using radiation dose distribution in mammography examinations	Open Journal of Radiology

### 3-4 検査室

#### 業務実績

2022 年度検査件数

	検体検査数	病理検査数 細胞診数	生理検査数 (腹部エコー含む)	採血件数	委託検査数	総検査数
4 月	389,054	1,247	4,965	9,964	13,224	418,454
5 月	388,479	1,176	4,786	9,484	11,221	415,146
6 月	424,621	1,482	6,517	10,474	14,503	457,597
7 月	403,891	1,294	4,849	10,180	12,184	432,398
8 月	395,819	1,181	4,664	10,001	11,460	423,125
9 月	413,922	1,306	5,092	10,699	12,507	443,526
10 月	407,175	1,372	5,243	9,902	13,371	437,063
11 月	390,188	1,271	5,023	9,806	11,196	417,484
12 月	413,498	1,398	4,973	10,339	13,753	443,961
1 月	397,476	1,146	4,700	9,711	11,810	424,843
2 月	378,769	1,226	4,661	9,607	12,640	406,903
3 月	426,865	1,454	5,337	11,226	15,912	460,794
計	4,829,757	15,553	60,810	121,393	153,781	5,181,294
平均	402,480	1,296	5,008	10,116	12,815	431,775

検体検査数の内訳

	生化学	血清	一般	輸血検査 血型	血液 凝固	細菌	計
4 月	282,373	36,647	13,692	3,763	48,715	6,052	391,242
5 月	280,064	37,057	13,900	3,997	49,802	7,400	392,222
6 月	297,848	39,742	14,658	4,210	51,700	6,668	414,826
7 月	292,116	38,051	14,244	3,955	51,217	6,532	406,115
8 月	284,469	37,155	14,001	3,878	51,638	6,824	397,965
9 月	299,136	38,998	14,662	3,889	53,158	6,454	416,297
10 月	292,880	39,684	14,180	4,186	52,988	6,047	409,965
11 月	280,745	37,576	13,954	3,849	50,669	6,223	393,016
12 月	298,292	39,986	13,524	4,258	53,943	6,475	416,478
1 月	285,051	38,738	13,332	4,211	52,203	6,883	400,418
2 月	272,626	36,665	13,417	3,777	49,050	6,295	381,830
3 月	308,507	42,096	15,022	4,147	55,205	5,545	430,522
計	3,474,107	462,395	168,586	48,120	620,292	77,400	4,850,900
平均	289,509	38,539	14,049	4,010	51,691	6,450	404,248

## 研究活動

1. 順天堂6病院技師長会、各分科会において業務の標準化を進める
2. 毎月1回の検査室内勉強会(知得会)の開催 若手技師のプレゼンテーション
3. 日本臨床検査技師会より質保証施設認証制度に承認されている

## 資格取得状況

1. 二級臨床検査士資格(延べ数)	23 資格
2. 緊急検査士	13 名
3. 細胞検査士	5 名
4. 超音波認定技師	4 名
5. 認定病理検査士	1 名
6. 認定血液検査士	2 名
7. 衛生工学衛生管理者	1名
8. 遺伝子分析科学認定士(初級)	1 名
9. 認定精度管理検査士	1 名
10. POCT 測定認定士	1 名

## 3-5 手術室

### 業務実績

#### 1. 手術件数の推移

2022年の年間手術件数 8,798 件、定時外も含む稼働率は、67.8%であった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年	661	537	665	688	672	633	709	579	660	643	598	768	7,813
2021年	751	671	718	701	670	669	682	742	711	688	601	797	8,401
2022年	683	671	759	720	635	697	782	756	797	717	745	836	8,798

#### 2. 手術室の有効利用

手術のインターバルは 30 分であった。COVID-19 対応に時間を要したことが要因と考えられる。今後も各部門と連携し、A 棟手術室を含め有効利用に努める。

#### 3. 手術室看護師の業務効率化

鋭利物混入の確認や廃棄の補助、機材の同時カウントにより時間短縮を図った。キット内容を修正したことで、術前準備の短縮ができた。また、病棟との申し送りを麻酔科と協働することで時間短縮が図れたことにより、術前訪問・術後訪問件数の増加・術間短縮にもつながった。さらに、衛生材料を一部既製品での運用に変更したことで業務の短縮、人員の確保、在庫管理がスムーズかつ簡素化ができ、効率的に業務が行えている。人員の確保ができたことにより、外来から術前外来業務を引き継ぎ、手術室看護師が実施している。

今後も、業務効率化のために業務の評価、修正や手術キットの見直しを適宜行っていく。また、定期的に手術室マニュアルの見直し修正を継続する。

#### 4. 手術室看護師の知識と技術向上

手術室では、術前・術後訪問を積極的に行い、予定手術患者に全件実施している。緊急手術時にも患者の状況に合わせて訪問を行っている。術前訪問で得られた情報をもとに手術室環境の整備、周術期の看護に活用している。また、術後訪問を実施することにより看護の振り返りを行い、手術看護の質の向上を目指している。入院前から外来での早期介入を行うことにより、患者自身が手術に向けて心身の準備ができ、行動変容に繋がるよう教育的な関わりを行っている。これらを継続し、周術期の安全と術後早期回復に向けて、より安全に安心な手術を受けてもらえる体制作りをしていく。サインイン・タイムアウト実施率 100%継続し、安全の確保をしていくとともに、術中二次障害予防に対して、手術看護師の専門性に特化した看護の質の向上を図るため、手術中の定期的な除圧や正しいポジショニングなどスキルアップに努めていく。

#### 5. コスト削減の推進

各診療科、用度課と連携をとり、手術室内の診療材料、衛生材料などの在庫の見直しを行った。

## 3-6 血液浄化センター

### 業務内容

透析専門医師 2 名・常勤医師 2 名・看護師 8 名・臨床工学技士 13 名、看護助手 1 名により運営された。移動困難な重症例は病室へ出張し、血液浄化療法を施行した。合併症の加療のため入院した維持透析患者の血液透析の管理を行い、他科からの依頼による単純血漿交換・二重濾過血漿分離交換・エンドトキシン吸着・血液吸着・顆粒球吸着などの血液浄化療法および腹水の濃縮還元療法を行った。近年、外科領域・神経内科・膠原病内科などにおけるエンドトキシン吸着・二重濾過膜血漿交換・血液吸着などの件数が増加し、血液浄化療法の適応が拡大している。また、悪性腫瘍の治療中に発症する急性腎障害や末期腎不全へなど Onconephrology 分野の業務が増加している。近年、血液透析導入患者の年齢が高くなるに従い、透析を安定して行えるようになっても、退院後の通院透析が困難な患者さんが増えており、リハビリテーション目的の転院が増加している。

また、研究面では、臨床工学技士の肥後が筆頭論文を英文で発表した。今後も、臨床だけでなく研究・教育実績を重視していきたい。

### 診療実績

	HD	ECUM	PMX	PE	DFPP	血漿吸着	血液吸着	CHDF	CART	合計
29 年度	5,650	80	168	56	31	144	161	1,021	77	7,388
30 年度	5,714	99	131	19	111	61	141	1,017	109	7,402
R1 年度	5,804	123	113	63	40	124	96	1,071	103	7,537
R2 年度	5,451	145	126	39	43	64	109	909	71	6,947
R3 年度	5,930	44	57	12	38	46	78	876	122	7,203
R4 年度	6422	59	48	25	89	12	98	927	55	7735

### 研究・教育活動

#### 論文 英文・原著

1. Shimizu Y, Wakabayashi K, Nakata J, Io H, Hamada C, Tomino Y, Suzuki Y. The influence of an Unexpected Switch of Hemodialysis Facilities on the Quality of Life (QOL) in Hemodialysis Patients. *Int J Nephrol Renovasc Dis* 2022;15: 151-160.
2. Higo M, Shimizu Y, Wakabayashi K, Nakano T, Tomino Y, Suzuki Y. Post-Operative Kidney Function Using Deep Hypothermic Circulatory Arrest (DHCA) in Aortic Arch Operation. *Int J Nephrol Renovasc Dis* 2022; 15: 239-252.

3. 清水芳男. (4)MRSA 関連糸球体腎炎. 別冊日本臨牀 領域別症候群シリーズ No. 24 腎臓症候群 (第3版) -その他の腎臓疾患を含めて-II, 日本臨牀社, 2022; 304-7
4. 清水芳男. 尿の色調に異常をきたす疾患にはどのようなものがありますか? CKD 診療テキスト かかりつけ医と専門医の連携のために第2版, 中外医学社, 監修: 富野康日己, 編集: 鈴木祐介, 船曳和彦, 2022; 12-14
5. 清水芳男. 尿の濁りや泡、独特な臭いをきたす疾患にはどのようなものがありますか? CKD 診療テキスト かかりつけ医と専門医の連携のために第2版, 中外医学社, 監修: 富野康日己, 編集: 鈴木祐介, 船曳和彦, 2022; 14-16
6. 清水芳男. ③抗凝固薬、抗血小板薬 (抗血栓薬), 歯科におけるくすりの使い方 2023-2025, デンタルダイヤモンド社, 編集: 金子明寛, 富野康日己, 小林真之, 北川善政, 篠原光代, 2022; 358-63

### 学会発表・国内

1. 清水芳男、若林啓一、安部憲一郎、平沢智美、加藤有紗、鈴木祐介. 味覚に着目したマウス蓄尿法の開発 (第2報), 第65回日本腎臓学会学術総会, 神戸国際会議場, 2022年6月10日-12日
2. 清水芳男、加藤有紗、小笠智美、若林啓一、鈴木祐介. 血液透析患者の痒みと視神経乳頭周囲所見の関連. 第67回日本透析医学会学術集会・総会, パシフィコ横浜, 2022年7月1日-3日
3. 池田尚基、若林啓一、加藤有紗、小笠智美、安部憲一郎、清水芳男、鈴木祐介. 膿瘍を伴う化膿性大胸筋炎を契機に CKD の急性増悪を来した糖尿病性腎症の一例. 第52回日本腎臓学会東部学術大会, 東京(虎ノ門ヒルズフォーラム), 2022年10月22日-23日
4. 安部憲一郎、若林啓一、清水芳男、上田誠二、合田朋仁、鈴木祐介. 慢性腎不全の透析移行期に肺結核症の診断に至った1例. 第52回日本腎臓学会東部学術大会, 東京(虎ノ門ヒルズフォーラム), 2022年10月22日-23日
5. 長澤肇、大塚智之、大熊輝之、福原佳奈子、森一祥、海部久美子、松下訓、若林啓一、清水芳男、上田誠二、鈴木祐介. シリアル食品 (フルグラ) の腎不全食としての可能性. 第60回静岡腎不全研究会, グランシップ・静岡市, 2022年10月2日
6. 平沢智美、加藤有紗、池田尚基、若林啓一、清水芳男. 診断に苦慮した Tubulointerstitial nephritis uveitis (TINU) syndrome の一例. 第64回静岡腎セミナー, 2022年3月12日, Web.
7. 福原佳奈子、安部憲一郎、森一祥、長澤肇、若林啓一、清水芳男. 初回から9年後の repeating biopsy にて診断しえた IgA 腎症. 第65回静岡腎セミナー, 2022年9月10日, Web.

### 3-7 臨床工学室

#### 業務実績

##### 人工心肺装置操作業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	8	9	11	11	8	9	8	7	10	11	10	11	113

##### 血液浄化業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
HD	617	515	545	556	591	517	487	439	461	493	562	639	6422
ECUM	0	1	3	4	4	5	7	8	3	7	7	10	59
PMX	1	0	3	3	4	8	0	4	2	0	12	11	48
PE	2	7	11	0	1	2	0	1	1	0	0	0	25
DFPP	6	10	10	5	15	1	5	12	10	4	2	9	89
PA	0	0	6	0	0	5	1	0	0	0	0	0	12
HA	0	0	12	13	19	10	5	3	21	4	5	6	98
CHDF	96	78	124	61	48	85	70	67	43	60	120	75	927
CART	4	9	4	8	6	2	6	2	5	1	5	3	55
合計	726	620	718	650	688	635	581	536	546	569	713	753	7735

##### 高気圧酸素療法業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	44	20	24	13	23	44	37	17	23	20	20	30	315

##### 心臓カテーテル室業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
ポリグラフ	CAG	20	16	29	17	11	10	19	26	11	19	12	14	204
	PCI	51	62	53	48	26	59	52	34	61	38	42	41	567
	PPI	1	3	8	3	1	5	5	2	3	2	5	5	43
	PTA	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	右心カテ	1	0	1	4	1	2	1	1	1	5	0	2	19
	左心カテ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	両心カテ	3	0	2	2	1	2	1	0	0	0	1	0	12
	EPS	20	12	17	24	8	23	20	17	17	19	15	19	211
	Abration	22	12	17	22	8	22	16	14	16	18	15	18	200

IVUS	37	43	45	34	19	58	49	24	45	34	37	37	462	
FFR	21	12	24	11	9	7	17	26	7	19	11	11	175	
OCT	14	23	16	15	7	8	8	12	18	6	7	8	142	
Rota	3	3	1	1	1	0	3	1	4	1	0	2	20	
CROSSER	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	
IABP	8	3	10	2	6	8	10	3	4	5	9	6	74	
ELCA	7	3	4	7	1	8	4	1	4	3	3	4	49	
Pacemaker	植え込み	10	7	10	6	5	9	7	9	11	9	3	6	92
	交換	2	0	5	1	4	7	5	2	2	1	8	3	40
ICD	植え込み	1	1	0	2	2	1	1	2	1	1	0	2	14
	交換	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3
CRT	植え込み	1	0	0	0	1	1	1	0	3	3	1	1	12
	交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SICD	植え込み	0	0	0	0	0	1	10	0	0	0	0	1	3
	交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ILR	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
V-A ECMO	0	1	3	0	1	0	3	0	3	1	4	0	16	
V-V ECMO	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

### 手術室業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
圧ライン作成	10	10	13	13	9	10	10	7	11	12	10	12	127	
術中CS	12	24	25	30	25	34	37	34	30	28	38	36	353	
術中術後CS	4	14	16	5	0	1	1	2	3	1	0	1	48	
術後CS	2	7	7	4	4	6	5	5	4	5	4	4	57	
神経 モニタリング	Tc-MEP	15	13	16	15	14	15	24	15	22	14	20	22	205
	D-MEP	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3
	SEP	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	4
	ABR	0	1	1	2	2	0	3	0	1	0	0	1	11
	AMR	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	7
	VEP	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	4
NIM	1	2	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	10	
マイクロ	11	14	11	17	7	7	20	12	16	9	9	16	149	
ナビゲーション	5	1	1	4	0	3	5	4	6	3	1	4	37	
Da-Vinch	6	5	1	8	7	3	6	5	5	3	6	4	59	
TAVI	2	3	3	2	3	6	6	6	7	7	5	9	59	

## 3-8 輸血室

### 業務実績（2022年度）

年間輸血検査件

・血液型検査（ABO、Rh）	13,311 件	（時間外 5,223 件）
・不規則抗体検査	11,591 件	（時間外 4,468 件）
・交差適合試験	9,176 件	（時間外 3,460 件）
・クリオプレシピテート調製	189 件	
・新生児用輸血小分け調製	14 件	
・緊急 O 型赤血球輸血対応	90 件	

年間輸血使用量

赤血球製剤 12,842 単位、自己血 625 単位、新鮮凍結血漿 2,968 単位、  
 血小板製剤 14,230 単位 洗浄血小板製剤 10 単位 クリオプレシピテート 476 単位

### 診療科別輸血使用量

	赤血球製剤	自己血	新鮮凍結血漿	血小板製剤	クリオプレシピテート
血液内科	3,440	0	220	10,190	0
心臓血管外科	1,620	4	800	1,110	118
循環器科	906	0	94	170	0
外科	1,058	0	248	660	0
救急診療科	984	0	254	340	144
整形外科	616	581	34	20	0
消化器内科	796	0	34	100	0
産婦人科	676	36	130	50	12
脳神経外科	970	0	182	200	4
泌尿器科	348	0	16	400	0
腎臓内科	316	0	8	40	0
呼吸器外科	162	0	56	130	0
呼吸器内科	170	0	0	160	0
新生児科	50	0	16	30	2
形成外科	94	0	0	20	0
麻酔科	350	4	368	200	196
膠原病内科	96	0	0	200	0
皮膚科	4	0	0	40	0

耳鼻咽喉科	10	0	0	0	0
小児科	0	0	4	0	0
糖尿病・内分泌内科	84	0	12	0	0
脳神経内科	80	0	496	180	0
眼科	0	0	0	0	0
放射線科	8	0	0	0	0
メンタルクリニック	4	0	0	0	0
計	12,842	625	2,968	14,240	476

廃棄（有効期限切れ、払い出し後の未使用・温度管理不備）

赤血球製剤 10 単位（廃棄率 0.007 %）

新鮮凍結血漿 52 単位（廃棄率 0.01 %）

血小板製剤 20 単位（廃棄率 0.001 %）

## 3-9 (1) 看護部

### 【理念】

「仁」の心をもって、患者さんとご家族が満足できる最善の看護を目指す

### 【行動指針】

1. 専門職として倫理を遵守し、思いやりのある看護を実践する
2. 根拠に基づく安全な看護を提供する
3. 教育・実践・研究を通して看護の発展に貢献する
- 4・他の医療職者と協働し、健全な病院運営に参画する
5. 地域と連携した看護を推進する

### 【ビジョン】

看護部は看護部理念・行動指針に基づき、大学附属病院、基幹病院の看護師として、自律した看護師の育成と看護の質向上を目指す

### 【2022年度 目標】

1. 患者さんの尊厳を守り、安全で質の高い看護を提供する
2. 地域と連携し、暮らしに視点をおいた切れ目のない看護を提供する
3. 働きがい・働きやすさを感じられる健康で安全な職場環境をつくる

### 【2022年度 目標の評価】

目標1に関しては、昨年度に引き続き QI を作成して取り組んだ。結果としては①褥瘡発生率を低下させる、②転倒転落発生率を低下させる、③誤薬発生率を低下させる、④身体拘束割合を低下させる、のいずれにおいても目標値をクリアすることはできなかった。原因として、①はコロナや VRE 感染防止対策のためスムーズに患者のもとへ行けず褥瘡対策実施回数が減少したこと、②は危険度の高い患者アセスメントが弱かったこと、③はルールが守れなかったこと、④はガイドラインの作成はしたものの臨床現場に周知できなかったことがあげられる。師長ワーキンググループの活動を通して、これらに対する対策を立案し、次年度は目標値をクリアできるよう取り組んでいきたいと考える。

目標2に関しては、入退院支援室との連携が盛んに実施でき、研修会も複数回開催することができた。外来、病棟間の連携を充実させ、今後とも患者さんが安心して入院できる環境を整えていきたいと考える。

目標3に関しては、社会人基礎力の向上のための取り組みが不十分であり、目標達成には至らなかった。特に、前に踏み出す力、考え抜く力、チームワーク力が向上できるよう、部署及び主任会でアプローチしていきたいと考える。

2022年度 看護部目標と指標 (QI: Quality Indicator)

2022.5.25 看護部

目標1) 患者さんの尊厳を守り、安全で質の高い看護を提供する

① 褥瘡発生率を低下させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2021年度	6か月後	1年後
	①新規褥瘡発生割合(月間)				
	分子	新規褥瘡発生患者数	0.51%	0.49%	0.48%
	分母	入院患者数			
②新規MDRPU発生割合(月間)					
	分子	新規MDRPU発生患者数	0.51%	0.49%	0.48%
	分母	入院患者数			
2. 副次評価項目		現状値	目標値		
		2021年度	6か月後	1年後	
①ハイリスクケア患者加算算定患者割合(月間)					
	分子	新規褥瘡発生患者のハイリスクケア患者加算算定数	84.6%	88.4%	93.0%
	分母	新規褥瘡発生患者のハイリスクケア患者数			

② 転倒転落発生率を低下させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2021年度	6か月後	1年後
	①損傷レベル2の転倒転落発生率(年間)				
	分子	損傷レベル2の転倒転落発生件数	0.27‰	0.26‰	0.25‰
	分母	転倒転落インシデントアクシデント報告件数			
2. 副次評価項目		現状値	目標値		
		2021年度	6か月後	1年後	
①病棟の危険度Ⅱ以上患者の転倒転落割合(年間)					
	分子	危険度Ⅱ以上の転倒転落患者数	0.21%	0.205%	0.20%
	分母	危険度Ⅱ以上の入院患者数			
②病棟の再転倒転落患者割合(年間)					
	分子	転倒転落歴のある患者数	新規	—	—
	分母	転倒転落発生患者数			

③ 誤薬発生率を低下させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2021年度	6か月後	1年後
	①ルールを守れなかったことが原因の誤薬事故発生率				
	分子	ルールを守れなかったことが原因の誤薬発生件数	37%	32%	26%
	分母	誤薬事故発生件数			
2. 副次評価項目		現状値	目標値		
		2021年度	6か月後	1年後	
①6Rの確認・ダブルチェックに原因がある誤薬事故の発生割合(年間)					
	分子	6Rの確認・ダブルチェックに原因がある誤薬事故の発生件数	28.50%	25%	26%
	分母	誤薬事故発生件数			
②指示の不備に原因がある誤薬事故の発生割合(年間)					
	分子	指示の不備に原因がある誤薬事故の発生件数(年間)	16.50%	—	11%
	分母	誤薬事故発生件数			

④ 身体拘束割合を低下させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2021年度	6か月後	1年後
	①身体拘束患者割合(月間)				
	分子	身体拘束実施患者数	一般: 9.0% 特定: 50.0%	一般: 9.0% 特定: 50.0%	一般: 8.5% 特定: 45%
	分母	入院患者数			
2. 副次評価項目		現状値	目標値		
		2021年度	6か月後	1年後	
①身体拘束実施日数割合(月間)					
	分子	患者一人あたり身体拘束平均実施日数	一般: 12.4% 特定: 60.3%	一般: 12% 特定: 60%	一般: 10% 特定: 50%
	分母	平均在院日数			
②身体拘束に迷うと回答するスタッフ割合(6か月・1年)					
	分子	判断に迷うと回答するスタッフ数	開始時: 92.4% 解除時: 93.1%	開始時: 92% 解除時: 93%	開始時: 70% 解除時: 70%
	分母	対象スタッフ数			

**目標2) 地域と連携し、暮らしに視点を置いた切れ目のない看護を提供する**

⑤ 入院・外来と地域との連携件数を増加させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2021年度	6か月後	1年後
	①地域支援事業者との連携率(病棟)		56%	58%	60%
	分子	地域支援事業者との面談数(介護連携+共同指導)			
	分母	介護保険認定患者数(介入有の患者)			
	②医療機関と地域の情報連携シート活用件数(地域→外来)		160件	170件	180件
	③医療機関と地域の情報連携シート活用件数(外来→地域)		100件	110件	120件
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	
			2021年度	6か月後	1年後
	①退院支援計画書再立案率(病棟)		34%	40%	45%
	分子	退院支援スクリーニングシートの再評価数(計画書あり)			
	分母	院内多職種退院支援カンファレンス実施件数			
	②在宅療養困難な患者の支援率(外来)		2021年度	6か月後	1年後
分子	地域や支援室・相談室へ繋いだ件数	11%	13%	15%	
分母	入院予定(予約)以外の外来患者スクリーニング件数				

**目標3) 働きがい・働きやすさを感じられる健康で安全な職場環境をつくる**

⑥ 社会人基礎力を向上させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2021年度	6か月後	1年後
	①看護スタッフの社会人基礎力得点		全体平均得点	—	全体平均得点
	アンケート実施により項目ごとに数値化		2.5点		2.7点
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	
			2021年度	6か月後	1年後
	①社会人基礎力3つの能力・12の能力要素の分析		前に踏み出す力 2.5点 考え抜く力2.4点 チームワーク力2.5点	—	前に踏み出す力 2.8点 考え抜く力2.6点 チームワーク力2.8点
職種別(看護スタッフ・介護福祉士・助手・クラーク)の分析					

2022年度 看護部委員年間評価

	成果指標	目標値	結果	年間評価
医療安全	損傷レベル2の転倒・転落発生率	0.25%	0.28%	<p>今年度は師長WGの活動と協働し、転倒転落と誤薬の2グループに分けて活動した。転倒転落グループは、KYTTトレーニングによりスタッフのアセスメント能力を高め、アセスメントに基づいた予防策に繋げられることを目標に活動した。さらに、患者を巻き込んだ転倒予防策が実施できるよう予防体操を取り入れ、患者教育を行えるような仕組みを整えた。</p> <p>誤薬グループはルールや手順の遵守を目指すため、まずはルールの整備を行った。点滴指示から5Rが確認できない状況を解決するため、指示出しの手順書を作成し医師への働きかけをした。また、インスリンダブルチェックが統一した安全な方法で実施できるよう、マニュアル動画を作成した。</p> <p>リンクナースへの意識づけとして、医療安全危機管理委員会への毎月の参加と、看護医療安全対策委員会で開催した学習会の各部署での伝達講習を行動目標に入れた。グループ活動に加え、部署での学習会の開催を実施できたことで、リンクナースの達成感等は例年に比べ高かった。グループ活動と部署の状況のミスマッチにより活動の方向性が見いだせないリンクナースもいたため今後は調整も必要と考える。</p> <p>今年度の目標とした損傷レベル2の転倒転落発生率や、6R・Wチェックができていなかったことが原因の誤薬事故発生率については目標達成には至らなかったが、今年度の活動を継続してモニタリングすることで発生率の低下に繋げたい。</p>
	リンクナース目標達成度	80%	74.6%	
	KYTTトレーニングの実施	全部署1回以上	全部署2回	
	環境チェック実施率	95%以上	99.1%	
	予防体操の実施	後期開始	実施	
	6Rが確認できる点滴指示の手順書の作成	作成	作成済	
	手順通りの方法で点滴指示出しの実施	手順をもとに医師に協力依頼	全部署実施中	
	6R・Wチェックができていなかったことが原因となる誤薬事故発生率	23%以下	27%	
	医療安全危機管理委員会への参加	1回/月	1回/月	
	医療安全対策に関する学習会の開催	10回/年	8回/月	
	リンクナースによる学習会の開催	10回/年	平均7回/月	
感染対策	CLA-BSI感染率が改善した部署数	7部署/14部署	8部署/14部署	<p>今年度は手指衛生と防護具着脱の技術習得に加え、おむつ交換と採血を正しい手順で実施できることを目標に活動した。チェックリストを作成しリンクナースに技術指導を実施した。技術の習得に1年を要したため、継続して正しい技術で提供できているかの確認はできていない。次年度への課題とする。手指衛生の遵守率も向上がみられなかった。毎月ラウンドし、リンクナースと協働した。理理解していても実践できない現状があるため、個性を重視した対応が必要になると考える。環境ラウンドでは共用物品を正しく管理できていない現状がみられたため、ラウンド時に指導を行った。次年度は環境面にも注力していく。</p>
	UTI感染率が改善した部署数	7部署/14部署	4部署/14部署	
	年間活動計画書の点数	85点	75点	
	環境監査点数	80点	60点	
	正しい看護技術の実施	おむつ交換・採血全看護師合格	おむつ交換・採血全看護師合格	
	手指衛生遵守率	50%	36%	
	実技テストの合格率	100%	100%	
	褥瘡発生件数	120件以下	118件	
褥瘡予防対策	医療関連機器圧迫創傷発生件数	150件以下	146件	<p>褥瘡発生件数、MDRPU発生件数は目標値を達成しているが、前年度と大きな減少はない。今年度はCOVID-19、VREのアウトブレイクに伴い、除圧やベッドサイドでアセスメントする機会が減少し、褥瘡発生が減少できなかったことも要因と考える。各部署での褥瘡予防に関する勉強会もCOVID-19により計画通り実施できていなかった背景もあり、看護師個々のアセスメント力や再評価のタイミングなどの知識の充足をうまく図れなかった。褥瘡ハイリスクア加算をとっている患者は褥瘡回診時のチェックにて各部署で把握できるようになった。ポジショニングの手技チェックにおいて、チェック回数を重ねるに伴って部署での遵守率が向上してきており、さらに部署内での啓蒙活動が実施できれば一貫した手技での除圧が実施できるようになると考えられる。自己学習ではナースングスキルの学習達成度が低く出ているが、カウント方法のずれがあり、各部署での修了者確認ではほぼ全員が修了できていた。次年度、ポジショニングマスターを各部署主任が取得する予定であり、部署全体でのスキルアップと統一が進められる。学習会の開催も推進し知識のアップデートを徹底し、適切で正しい褥瘡予防策の実践につなげていく。</p>
	体位変換介入患者とハイリスクア患者数の一致率	80%以上	75%	
	病棟ごとテーマにあげた医療関連機器圧迫創傷の発生数	各病棟昨年度80%以下	90%	
	ポジショニンググループ・スライディングシートの使用率	未実施	未実施	
	ポジショニンググループ・スライディングシートの遵守率	80%以上	70%	
	テープの貼り方割がしの手技チェックがAの割合	未実施	未実施	
	ナースングスキル・動画視聴	全看護師・助産師実施	34%	
	災害対策	病棟スタッフリストとマッピングの毎月更新	毎月5日までの更新65%	
スタッフ用のアクションカードの見直し修正		各部署の特性に合わせたアクションカード作成	アクションカードの作成は終了しているが、各部署に合わせた改訂は次年度へ持ち越し	
日直・夜勤管理師長のアクションカードの活用		管理師長がシミュレーションに参加アンケート実施	師長も入りシミュレーション、アンケートの実施	
参集基準、病棟部門の応援要件について知る		各部署での取り組み実施	実施は100%	

記録検討委員会	クリニカルパス	パスの使用率	48.5%	46.1%	2022年度は診療報酬の改訂があったため既存のクリニカルパスの見直しが必要であった。5月には、医事課スタッフより勉強会を開催してもらい、知識の獲得を行った。各部署のリンクナースは担当診療科の医師と協働して130件の見直しを行った。隔月の委員会開催時に、DPCパフォーマンス調査結果から検証会を行ったことが、クリニカルパスの見直しの目標を達成することができた要因の一助となっていることが考えられる。クリニカルパスの使用率は、目標を達成することはできなかったが、2021年度クリニカルパス使用率45.6%より利用率が増加している。医療・看護の標準化を図ると共に、質の向上を目指し、引き続き活動していく必要がある。
		患者パス見直し件数	30件以上	130件	
		新規患者パス件数	10件以上	25件	
		既存パスの見直し件数	30件以上	130件	
		新規パス件数	10件以上	25件	
		パス検証会	15診療科 100%	15診療科 100%	
		勉強会開催件数	1回	1回	
記録	入院診療計画書と看護計画の連動	90%以上	94%	現任教育を通して、院内の看護記録について学習の機会を設けた。また、監査に耐える看護記録のために監査用紙の見直しを実施し、リンクナースを中心に看護記録STEP2受講修了者とともに自部署監査およびフィードバックを行った。自部署の課題に気付くことで監査結果の改善に繋がりを、前期より後期に監査結果の向上がみられた。しかし、診療報酬に関わる項目で監査結果の数値が低くなっている項目があり、次年度も引き続き看護がみえる記録とともに「監査に耐える記録」の視点で記録の質向上を目指していきたい。	
	診療報酬に関連した看護記録	せん妄8500件／認知症250件	せん妄:8301件／認知症278件		
	現任研修での看護記録研修	オンユアマーク／看護記録STEP1／看護記録STEP2	実施済		
	記録監査項目・評価基準の見直し	記録監査用紙の見直し	実施済		
	各部署での記録監査の実施	自部署監査年2回	実施済		
	記録監査結果の向上	前期<後期	前期81.7%／後期87.0%		
必要度	必要度割合の維持	成果指標以上	一般:30.6%、重症:(ICU:CCU:81.7% HCU:38.1%) ハイケア:90.5%	必要度の正しい監査ができるようにリンクナースを対象にナーシングスキルでの自己学習、学習会を行い必要度の割合は維持できている。そのうえで毎月看護必要度判定の入力チェック、A項目の監査を毎月実施した。Hファイルでの再評価が毎月見受けられたため、データを提示し振り返りを行った。 院内研修は全員実施、診療報酬改定により外部研修はリンクナースを中心に44名受講した。 テンプレートの見直しはドレインを中心に検討しており、次年度継続とする。	
	自部署監査	毎月	毎月		
	院内研修(3時間1時間含む)	全員	全員		
	B項目テンプレート見直し		検討中		
専門職業人	ご来院の皆様の声 苦情率	10.5%以下	5%	身だしなみ、接遇について部署内、院内ラウンドを実施し評価を行った。すべての項目において前年度より改善がみられたが、接遇においては前年度に引き続き電話対応や感情のコントロール、ニックネームで呼ぶなどの項目にあまり改善は見られていない。また、社会人としてのルールの遵守ではユニフォームの出し方のチェックを行った。全体的には当初より改善してきているが、同一スタッフが繰り返し守れない傾向にあるため、部署へのフィードバックとともに委員会でも引き続き改善に向けた活動を継続していく必要がある。	
	身だしなみ 部署評価	0.46%以下	0.25%		
	品位ある応対 部署評価	2.73%以下	2.15%		
	ユニフォームの出し方の遵守	新規	3.70%		
キャリア開発委員会	研究投稿数	3演題以上	10演題	研究投稿については、研究会や学会への抄録サポートを行えた。また主任会を通じて、看護倫理や社会人基礎力についての勉強会をサポートできた。さらに現任研修への支援を行うために、問題解決技法の勉強会を行い知識を身につけた。 しかし研修の支援として、事例研究の評価を行うにあたり、一部評価しにくい項目があるため、次年度は評価項目の再構築が必要である。また研修についても、企画運営から支援しなければならない研修もあり、研修についての支援内容についても検討していかなければならない。 そのため、引き続きジェネラリストの育成に力を入れていきたい。	
	主任会研修(看護倫理・社会人基礎力)	実施	実施		
	研修の支援	実施	実施		
	研修支援のための知識向上	実施	実施		
基準手順委員会	各部署の基準・手順、パンフレットの監査	申請数すべて	5件	2022年度は、患者用パンフレット監査の質向上を目指すためにチェックリストの作成と運用、申請までの流れの見直しを行った。その結果、承認までスムーズな運用ができた。 基準手順・マニュアルの見直しは、おおむね順調に行えた。特に、看護師長マニュアルは、相互ラウンド結果を反映しながら大幅な見直しの着手に至った。研修に関しては、師長の看護補助者研修への参加があった。 次年度は、病院機能評価受審に向けマニュアルの整備と患者パンフレットのさらなる質向上に努めたい。	
	マニュアルの完成	申請手順のマニュアル作成	完了		
	基準手順5項目見直し	すべて見直し	5項目見直し		
	委員会での情報収集、共有	研修後の事後報告会	全職員看護補助者活用に関するSG金のオンライン研修を受講したため、事後報告会のカウントはなしとした		
	院内、院外研修参加件数	1名以上	10名		

2022年度 看護部責任者・他部門看護責任者

2022.4.1

病棟	定床数	主な診療科	師長	主任
NICU	12	新生児 児外	持田奈津美	大木直美 勝又理恵
GCU	18			
2C	10	COVID-19	長友節子	
ICU・CCU	16	ICU/CCU	佐々木史乃	森島克明 岡本有子
HCU	18	HCU	鈴木英子	中村沙織 田上佑一
6H・MFICU	39	産婦人	三枝英美	三角百合子 鬼塚味佳
3AICU	14	HCU	多田真也	山崎裕也 土佐谷忍
3B	38	耳鼻・整形 泌尿器	長谷川智美	三島めぐみ 菊地あやか
4B	46	脳内・眼	田村美紀	田爪千里 福澤恵美
4C	33	呼内・腎内 皮膚	松尾正人	本間友美 森みどり
5A	47	消内・血内	古屋曜子	渡邊美佐子 渡邊和信
5B	46	整形	山口礼	松本千加奈 井上大輔
5C	35	膠内・呼内 糖内・外科 産婦人	櫻井操	加藤和歌子 稲葉擁亮
6A	56	脳外・形成 救急	土屋智洋	松岡なつみ 倉田洋美 田代範人
7A	56	外・呼外	村田文明	天野淳 大川安由美 藤本ゆうこ
8A	50	血内・心外 循環器	鈴木美佐	飯田敏秀 佐野まいむ 細小路光葉
9A	32	混合	宮澤初美	望月佳澄 田代まり絵

外来部門	診療科	師長	主任
外来A	心外・循内 外・脳外 呼外・整形 形成	間部幸	森久美
外来D	泌尿器・産 婦・眼・皮膚 アレルギー		増田友香 石井彰子
外来B	耳鼻・小児 児外・新生児 脳内 血液浄化	土井尚美	瀧田千草
外来C	消内・呼内 血内・腎内 膠内リウマチ 糖内内分泌 麻酔ペイン メンタル		稲葉亜衣
救外	ドクターヘリ	加藤清美	勝間田敏宏 石田桃子
検査	内視鏡 血管撮影		山本優子
手術室		山本希	内田佳月 小島恭子

看護部	部課長	師長
看護部長	田中ひとみ	
看護総務課	矢田みどり	(主任) 飯田沙耶香
入院業務課	野澤陽子	
手術室外来業務課	濱口真知子	
看護安全管理課	荻島真弓	
看護教育課	堀込克代	杉山希

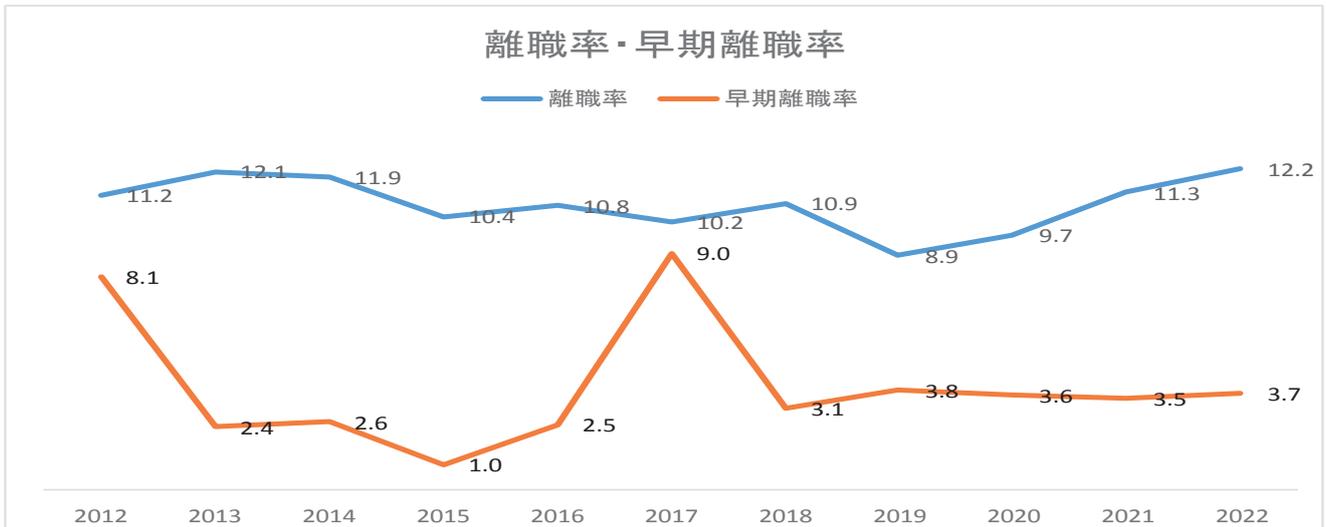
他部門		師長	主任
医療 サービス 支援センター	入退院支援室	山下小夜子	渡邊光香 渡辺ひとみ
	患者看護相談室		渡邊あつ子
医療安全 推進センター	医療安全管理室	高橋真紀子	
	感染対策室	長富美恵子	
		杉山美和	
がん治療 センター	放射線治療室		谷口真紀
	化学療法室		菊地麻里
	緩和ケア室		
	がん患者相談室		

2022年 看護部年報

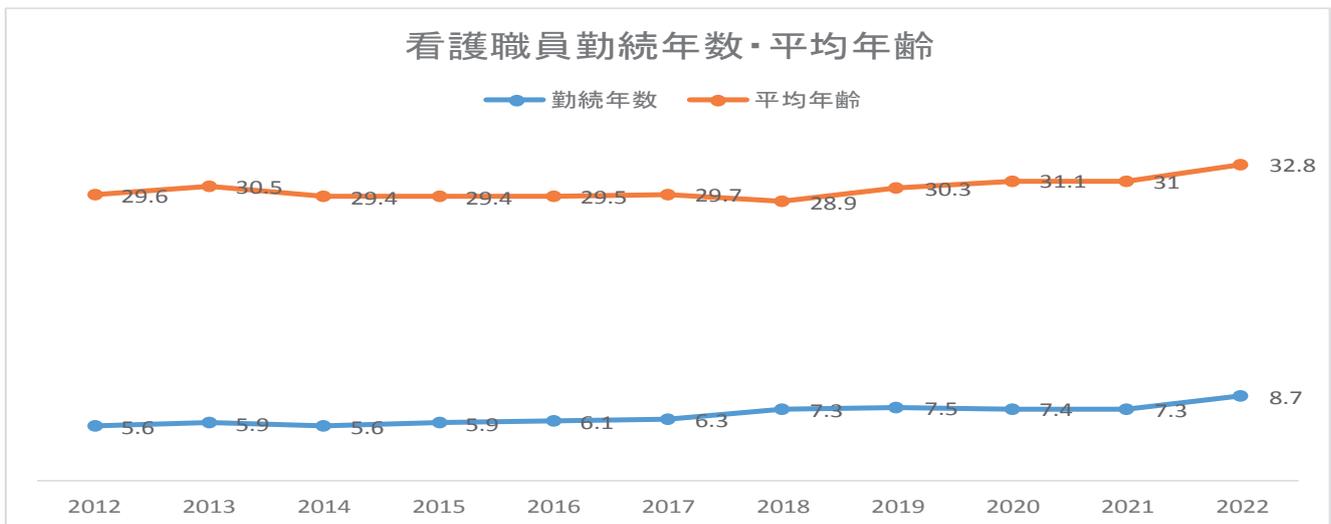
看護師数と新卒、既卒採用者内訳



離職率・早期離職率



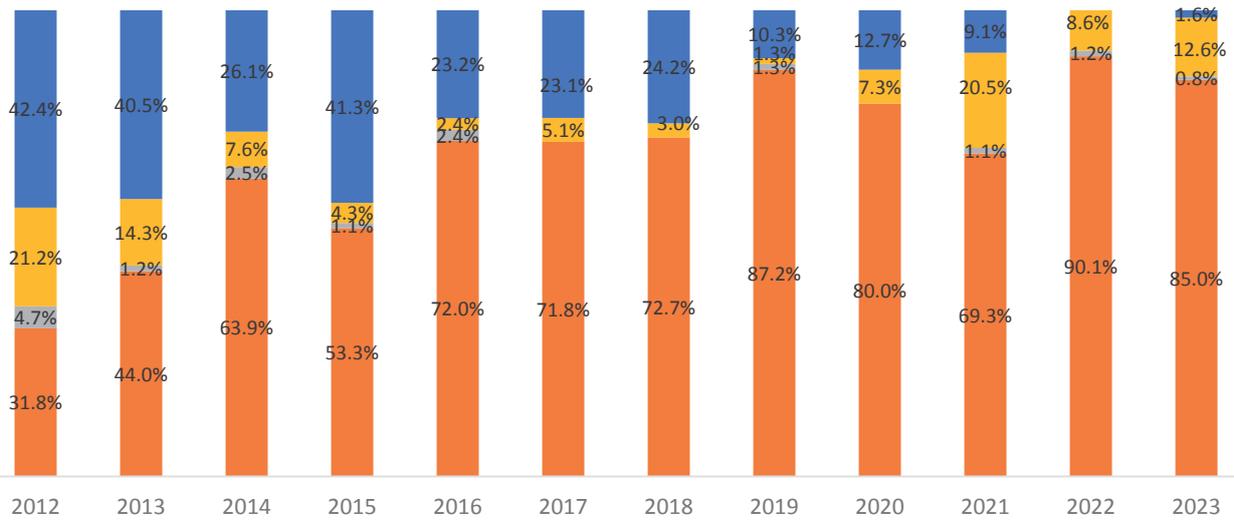
看護職員勤続年数・平均年齢



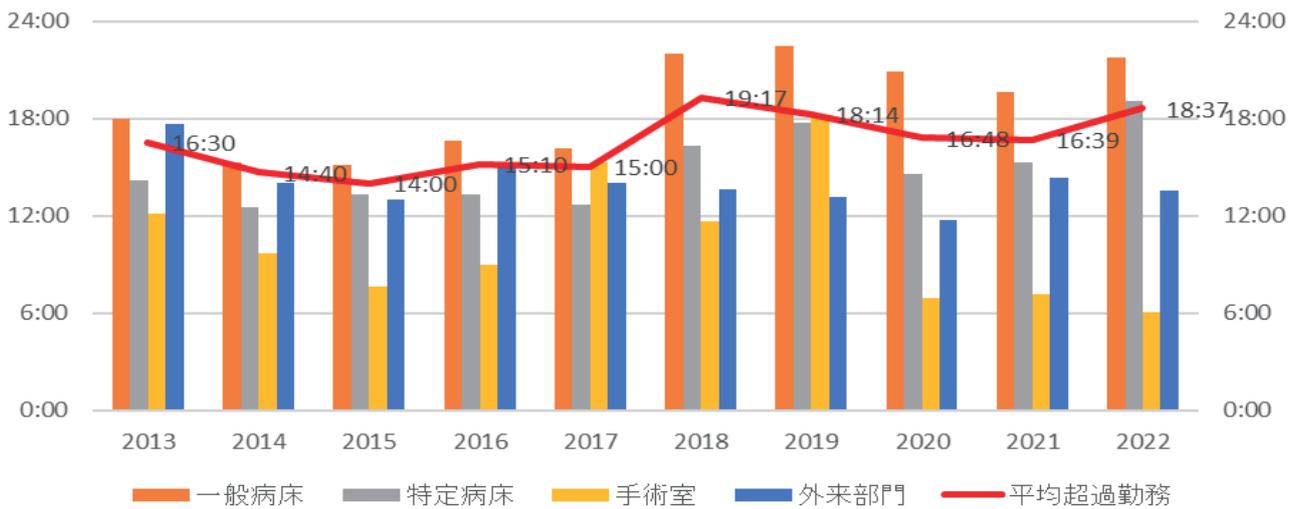
### 新入職看護職員 卒業校種別推移

4/1現在

大学 短期大学 専門学校 5年一貫校



### 部署別時間外勤務時間

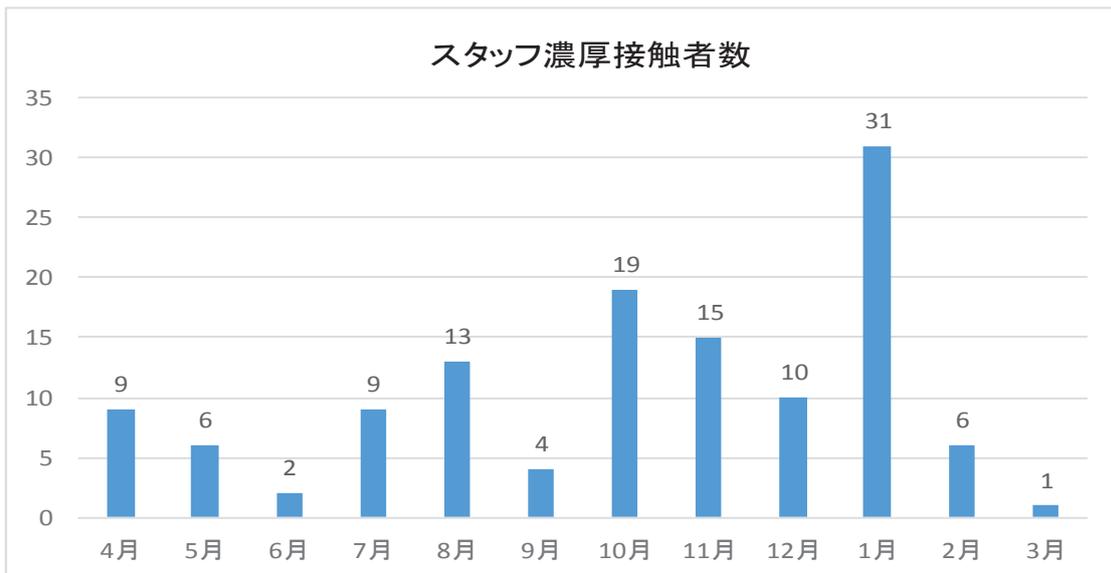
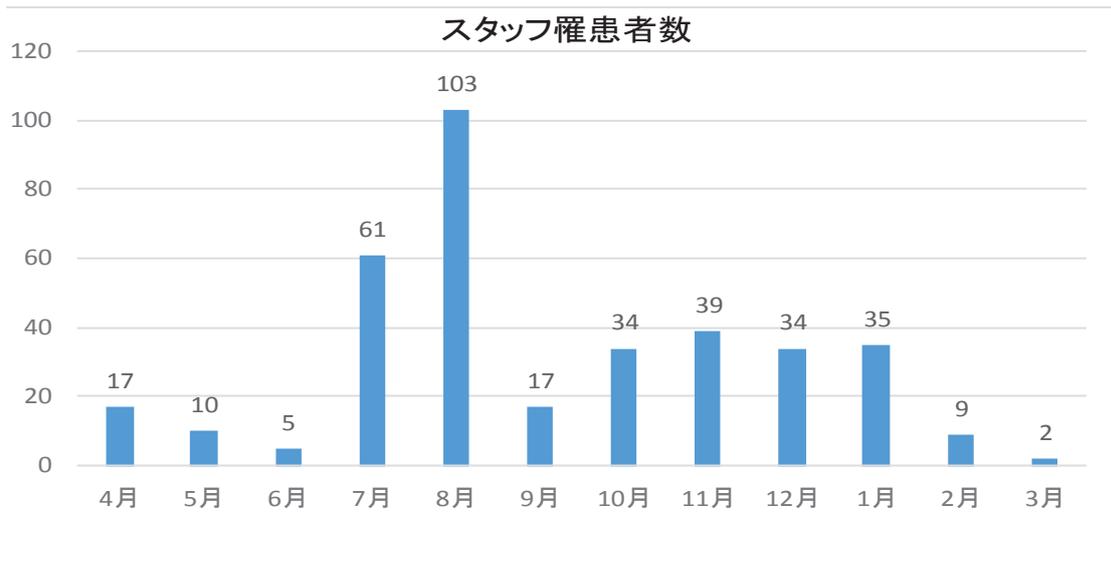


### 年休取得率と平均取得日数

(日)



## COVID-19関係病欠者



2022年度 看護部の動向

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
就職	新卒	81												81		
	既卒	6	1		3	1				2		1		14		
	パート看護師									1				1		
	パート助産師													0		
	学内異動者	2												2		
退職	新卒				1			1				1		3		
	既卒		1	22	12	3	3	1	1	6	6	2	21	78		
	准看護師													0		
	学内異動者												11	11		
	介護福祉士												1	1		
	看護補助者												1	1		
看護職者内訳	常勤看護師	683	683	683	669	660	657	653	652	650	644	639	636			659.1
	常勤助産師	36	36	36	36	35	34	33	33	33	32	32	32			34.0
	パート看護師	4	4	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6			5.2
	パート助産師															
	時間短縮勤務	36	37	36	31	31	30	31	32	32	35	35	35		33.4	
	准看護師	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7		7.0	
	合計	766	767	767	748	738	733	729	729	728	724	719	716		738.7	
介護福祉士	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18		18.0		
看護補助者（内派遣）	95(86)	95(86)	95(86)	94(85)	95(86)	96(86)	96(86)	95(85)	95(85)	96(86)	95(85)	98(88)				
病棟クレーン	19	19	19	18	19	18	18	18	18	18	18	18		18.3		
平均超勤時間	16:22	17:40	18:20	19:10	17:49	18:49	18:38	17:52	20:47	20:42	18:11	18:04		0.8		
一般病棟看護師数	365	366	366	352	343	341	336	332	331	329	327	320				
特定病棟看護師数	198	198	194	189	187	186	184	185	185	179	178	174				
外来看護師数（Q外含）	103	103	103	101	100	102	103	105	107	108	107	109				
手術看護師数	50	50	50	47	46	45	44	44	44	45	44	43				
看護師実労働者数	716	717	713	689	676	674	667	666	667	661	656	646		679.0		
休職者	産休（看・助産）	10	11	12	8	11	10	10	11	8	10	7	10		9.8	
	育休（看・助産）	33	33	33	37	38	37	37	37	39	42	43	41		37.5	
	産育休（介・助）															
	病欠（看・助産・准）	2		3		2	2	3	3	2	2				2.4	
	病欠（介・助）	1													1.0	
	休職					1		2	3	2	3	3	8		3.1	
合計	36	33	36	37	41	39	42	43	43	47	46	49		41.0		
看護部	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7		7.0		
出向	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24		24.0		

2022年度 一般病棟入院基本料1 各部署平均夜勤時間 ・ 夜勤専従者配置表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
3B	69.2	69.7	69.7	83.3	70.9	71.2	74.0	71.9	76.1	79.1	64.6	81.6	73.4
4B	64.9	64.5	65.1	69	60	67.3	72.8	69.8	73.3	74.7	64.4	75.7	68.5
4C	68.6	64	70	72.5	64.4	71.5	67.9	65.8	69.4	74	63.5	81.4	69.4
5A	86.3	88.7	81.5	85	73	81.4	81	77.7	82.9	85.3	74.3	84.6	81.8
5B	60.5	60.5	66.7	65	62.3	56.9	59.9	64.1	58	70.7	65.7	73	63.6
5C	70	75.3	78.9	70.6	65.9	71.9	71.2	69.5	70.3	71.2	65.7	78.9	71.6
6A	75.5	72.5	72	76.5	70.2	69	73.5	71.6	77.8	79.5	68.6	82.1	74.1
6H	66.3	64	72.8	78.8	70.1	73.2	79.3	74.2	75	77.5	67.8	83.5	73.5
7A	71.4	68.5	70.7	75.4	65.2	69.4	71	67.4	75	77.8	67.9	75.3	71.3
8A	74.1	70.7	73.6	69.5	60.5	69.6	79.8	75.9	76.7	74.3	66.4	74.7	72.2
9A	68.8	71.8	78.2	78.4	73.6	71.6	74.3	68.3	75.4	69.6	63.4	76.1	72.5
平均	70.7	70.4	72.8	74.9	69.9	69.6	66.9	70.8	74.1	76	66.6	78.8	71.8
夜勤専従者人数	20	20	15	22	30	26	23	22	24	22	29	28	23.4

2022年度 特定病棟平均夜勤時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
7対1 2C	108.0	100.4	122.0	111.8	106.1	105.6	101.1	96.8	100.3	95.2	91.4	100.0	103.2
3対1 NICU	92.1	91.8	89.8	97.4	92.8	92.6	99.3	96.1	93.1	91	83.9	99.8	93.3
6対1 GCU	96.4	102.5	101.1	88.9	96.8	102	100.7	101.4	106.6	103.7	92.1	106	99.9
4対1 3AICU	100.5	93	98.2	96.4	97.9	89.5	95.4	94.8	92.3	93.3	90.9	101.5	95.3
2対1 ICU/CCU	89.2	97.4	95.1	96.8	98.1	96.3	100.9	94.3	100	98.2	90	103.8	96.7
4対1 HCU	104.1	92.1	91	93.9	93.9	90.9	95.4	89.3	96.2	95	96.2	111	95.8
3対1 MFICU	94.6	83.8	87.9	86.9	88.8	93.6	107	100.3	106.5	105.8	89.7	102.2	95.6

### 3-9(3) 看護外来業務課

#### 1. 外来

1) 「ときどき入院、ほぼ在宅」に向けて、病棟－在宅－外来とシームレスな連携を図るために、「外来」と「病棟」、「外来」と「他部門」、「外来」と「地域」の連携強化を目的に活動してきた。病棟との連携では、定期的なカンファレンスで患者の情報共有や業務連携について平均 34 件/月開催、退院時カンファレンス平均 7 件/月の参加、病棟からのサマリー等による情報提供は平均 92 件/月、病棟への情報提供は平均 174 件/月、入退院支援スクリーニングシートは平均 253 件/月実施している。また、迅速なタイミングで病棟や入退院支援室と支援の必要な患者についてアセスメントし情報共有をしている。他部門との連携では、患者の ADL、転倒のリスクなどを情報共有し、安全かつ円滑に検査や外来診療が行えるように協力をしてきた。

2021 年度から、看護介入や地域と連携した支援が必要か自前の簡易ツールでアセスメントしたうえで、「外来アセスメントシート」を実施してきた。2022 年度は医療・看護のおかれている現状と外来看護強化の理解を得るために、外来看護師全員に向けて学習会を実施した。その上で「外来アセスメントシート」の試行を実施し、内容修正してブラッシュアップすると共に、スクリーニングの対象者や運用について検討を重ねた。結果として平均 600 件/月程度のスクリーニングが実施されている。病棟－在宅－外来のシームレスな連携により、連携や患者支援の質を高めていくことまたその検証が今後の課題である。

2) 「外来」と「病棟」の一元化を撤廃後、4 ブロックに編成した外来間、救急外来と検査室で、相互支援ができる体制を整えてきた。コロナ禍で外来スタッフ、時短スタッフの子供の体調不良による急遽の休みが激増したが、担当診療科以外にも対応できるように体制を整えた結果、急遽の休みに対してのブロック内、ブロックを超えて休みの補完ができるようになった。今後は同一診療科の外来診療時間の延長により、一定スタッフの超過勤務の負担軽減を目的に、外来全体での相互支援の拡大強化と教育体制を整えたい。

#### 3) 専門分野による看護活動件数

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
骨粗鬆症指導件数	228 件	175 件	109 件
間歇導尿指導件数	29 件	24 件	27 件
自己血輸血件数	284 件	367 件	275 件
糖尿病療養指導件数	125 件	197 件	165 件
インスリン自己注射指導	207 件	308 件	296 件

#### 4) 外来部門各資格者数 (2022 年度 有資格取得者を含む)

- ・学会認定内視鏡検査技士 (6 名)
- ・学会認定臨床輸血看護師 (1 名)
- ・学会認定自己血輸血看護師 (1 名)

- ・ 静脈注射造影剤コース院内認定看護師（17名）
- ・ 日本禁煙学会禁煙認定指導看護師（1名）
- ・ インターベンションエキスパートナース（3名）
- ・ 日本リウマチ財団 リウマチケア看護師（1名）
- ・ 肝疾患医療コーディネーター（8名）
- ・ 特定化学物質作業主任者（7名）
- ・ 有機溶剤作業主任者（2名）
- ・ 静岡東部糖尿病療養指導士（2名）
- ・ 腎臓病療養指導士（1名）
- ・ リンパ浮腫療養士（1名）
- ・ フットケア指導士（1名）

## 2. 手術室

1) 2022年度の年間手術件数 8,798 件、コロナ禍であったが前年度より 397 件/年増加している。定時外も含む稼働率は 70.8%、全身麻酔下手術に対応している H 棟手術室の稼働率は 88.9%となっている。H 棟手術室と A 棟手術室の 2 カ所での手術室運用が定着し、全身麻酔下手術と局所麻酔下手術を効率的に実施することができた。

件数が増加した手術に対して、診療科ごとのカート運用や共通手術カートの使用による業務改善と共に、委託業者との協力による術間のインターバルの短縮が効率化につながった。

2) 2021 年度から開始している手術室看護師による入院前支援は、主に外科外来で実施している。支援件数は平均 23 件/月で前年度より増加しているが、対象者全員には実施できていない。係わった患者の中で、「歯みがき方法や回数を見なおした」などの行動変容があった患者は、平均 60%であった。入院前支援について内容を見直しリーフレットの改訂をした上で、支援のできる看護師の育成を進めて対象患者の拡大を目指している。

3) 患者が入院後実施する手術前訪問 320 件/月、手術後訪問は 412 件/月で 100%の定着となっている。患者から直接情報収集し、術中のポジショニングやスキンケア予防、不安の強い患者への説明による不安軽減などに対応し、安全・安楽な周術期看護に努めてきた。今後は術前訪問から情報を得るだけでなくアセスメント力をつけ看護につながるようにスタッフ育成の強化に努めたい。

## 3. 滅菌室

手術件数の増加、手術室エリアの拡大で、委託業者の株式会社リジョイスカンパニーの業務が複雑となった。手術室と業者の良好な関係の上で情報共有や問題解決、業者との協働による業務改善を常に実施している。その結果、手術室の運営が円滑に実施できていることに大いに貢献している。今後は、滅菌室が新棟に移転のため、協力して順調に移転ができるよう準備を進めていく。

### 3-9(4) 看護教育課

#### 2022年度 現任教育必修研修一覧

月	日	研修時間 <small>(受講人数によって時間変更あり教案配布時に確認してください)</small>	ラダー	研修名	研修内容 <small>(教育要綱参照)</small>	*担当 責任者	担当者
4	21(木)	13:00～16:00	Ⅱ～Ⅲ	指導者研修STEP3-①	研修計画立案について学ぶ (指導3観・教案作成)講義	教育課	
	25(月)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	Ⅰ	指導者研修STEP1	実地指導者(エルダー)に なるために (講義・グループワーク)	内田	天野、佐野
	26(火)						
5	6(金)	9:00～12:00					
	7(土)	8:00～11:30 12:30～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護 職員研修	フィジカルアセスメント STEP1	フィジカルイグザミネーション (講義・演習)	勝間田	渡邊あ、田上、増田 福田(8A)
	21(土)						
	6(金)	16:30～17:30	Ⅱ	事例研究STEP2-①	計画書の書き方、 プレゼンテーションについて (講義)	倉田	田爪
	24(火)						
	19(木)	8:30～12:00	Ⅱ～Ⅲ (選択研修)	臨床実習指導者研修1	講義(ZOOM予定)	田代ま	本間、三島、稲葉亜
6	9(木)	16:30～17:30	Ⅰ	事例研究STEP1	ケースレポートの書き方 (講義)	田爪	倉田
	27(木)						
	7(火)	8:30～12:00	Ⅱ～Ⅲ (選択研修)	臨床実習指導者研修2	指導3観について (講義)	田代ま	本間、三島、稲葉亜
	1(水)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護 職員研修	急変対応1	1次救命処置 (講義・演習)	鬼塚	石井、飯田、 芦川(ICU/CCU)
	14(火)						
	16(木)	13:00～14:00 14:10～15:10	介護福祉士 看護補助者	看護補助者技術研修	移送・移乗について(演習) *6月・9月・12月 いずれか1日参加へ	田代範	瀧田 堀井(4B)
	9(木)	8:30～12:00	Ⅳ	リーダーシップ研修STEP4	SWOT分析、BSC立案 (講義・グループワーク)	教育課	
	15(水)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	Ⅱ	リーダーシップ研修 STEP2	リーダーに必要な コミュニケーションスキル (講義・グループワーク)	藤本	大木 アドバイザー (CNS宮澤)
	30(木)						
	25(土)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護 職員研修	3ヶ月の振り返り 多重課題	グループワーク	三角	中村、細小路
29(水)							
7	4(月)	16:30～17:30	中途採用者フォローアップ研修(グループワーク)以後随時				
	6(水)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護 職員研修	看護記録STEP1	看護過程 (講義・グループワーク)	渡邊和	勝又 アドバイザー 古屋師長
	12(火)						
	14(木)	8:30～12:00	Ⅲ	リーダーシップ研修 STEP3-①	問題解決技法 (講義・グループワーク)	森み	小島 アドバイザー (土屋師長、多田師長)
	15(金)	16:30～17:30	Ⅱ	看護倫理STEP3	グループワーク	宮澤師長	CNS
	25(月)	13:00～14:00 14:10～15:10	病棟 クラーク	看護補助者技術研修	接遇マナー(演習)	教育課	

9	9(金)	13:00～14:00 14:10～15:10	介護福祉士 看護補助者	看護補助者技術研修	移送・移乗について(演習) *6月・9月・12月 いずれか1日参加へ	瀧田	田代範 4B堀井
	7(水)	9:00～12:00	I	フィジカルアセスメント STEP2	講義・グループワーク	石田	望月、稲葉擁 7A石井
	13(火)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)					
	13(水)	16:30～17:30	III	看護倫理STEP4-①	講義・グループワーク	田村師長	CNS
10	動画視聴10月11日～10月31日		II	看護記録STEP2	記録監査について (動画聴講)	勝又	谷口
	5(水)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護 職員研修	急変対応2	急変時の対応、救急カート	山崎	森久、加藤 HCU内田、5A増永
	11(火)						
	6(木)	16:30～17:30	IV	看護倫理STEP5-①	事例計画書の意見交換	田村師長	CNS
	13(木)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	II	臨床推論	関連図、SBAR (講義・グループワーク)	土佐谷	松本 アドバイザー(鈴木師 長) 3AICU杉山
	25(火)						
31(月)	16:30～17:30	II～III (選択研修)	臨床実習指導者研修3	先輩指導者と語ろう (グループワーク)	田代ま	本間、三島、稲葉亜	
11	動画視聴11月10日～11月30日		I	看護倫理STEP2	動画聴講	宮澤師長	CNS
	11(金)	10:00～12:00 13:00～15:00	介護福祉士 看護補助者	看護補助者技術研修	移送・移乗について(演習) *6月・9月・11月 いずれか1日参加へ	田代範	瀧田 4B堀井
	2(水)	16:30～17:00 17:10～17:40 (入れ替え)	新人看護 職員研修	入退院支援・連携研修	退院支援スクリーニングシート について	渡辺光	渡辺ひ
22(火)							
12	13(火)	13:00～16:00	II	事例研究STEP2-②	研究発表	倉田	田爪
	22(木)						
	5(月)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護 職員研修	逝去時の看護	エンゼルケア グリーフケア	渡邊美	5A高島
	7(水)						
	27(火)	13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	III	リーダーシップ研修 STEP3-②	問題解決技法 成果発表	森み	小島 アドバイザー (土屋師長、多田師長)
19(月)	13:00～16:00	III	看護倫理STEP4-②	事例発表	田村師長	CNS	
1	31(火)	16:30～18:00	IV	看護倫理STEP5-②	実践発表	田村師長	CNS
	24(火)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	I	リーダーシップ研修STEP1	リーダーになるための心構え (講義・グループワーク)	菊池あ	大川
	30(月)						

2	2(木)	9:00~12:00 13:00~16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護 職員研修	メンバーシップ研修	1年の振り返り (講義・グループワーク)	福澤	井上
	9(木)						
	6(月)	8:30~12:00	Ⅱ~Ⅲ (選択研修)	臨床実習指導者研修4	指導の振り返り 発表	田代ま	本間、三島、稲葉亜
	16(木)	16:30~17:30	Ⅱ	看護倫理STEP3	グループワーク	宮澤師長	CNS
17(金)							
3	動画視聴3月1日~3月31日		Ⅱ	指導者研修STEP2 2023年度 メンターになられる方 2022年度末にラダーⅡに昇格予 定の方	メンターの役割について (講義・グループワーク)	渡邊美	森島、山本
	7(月)	16:30~18:00	Ⅱ~Ⅲ (選択研修)	指導者研修STEP3-④	研修案、実施後の評価発表	教育課	
	9(木)						

## 2022年度 キャリアアップ研修計画

### 1.学内認定看護師教育課程静脈注射コース

月	日	研修時間	ラダー	研修内容 (教育要綱参照)	担当者
5	16(月)	8:30~16:10	新人看護師以外	講義・演習	松岡、菊池、岡本
6	20(月)	8:00~16:10		講義・演習	
11	7(月)			講義・演習	

### 2.リーダーシップ研修STEP5

月	日	研修時間	ラダー	研修内容 (教育要綱参照)	担当者	
5	11(水)	16:30~18:00	Ⅳ以上	①看護管理の基礎知識	看護部長	
6	22(水)			②社会保障制度/ 地域包括ケアシステム	櫻井師長 長友師長	
7	20(水)			③医療安全管理の基礎/ 災害看護	山口師長 加藤師長	
9	14(水)			④看護の質/看護サービ ス	山本師長 鈴木美師長	
10	19(水)			⑤労務管理の基礎	土井師長 精神看護CNS宮澤	
11	16(水)			⑥看護実践における倫 理	古屋師長	
12	14(水)			⑦チームマネジメント/ リーダーシップ・ メンバーシップ	村田師長 長谷川師長	
1	11(水)			⑧人材育成	教育課	
次年度繰 り越し	2023年4月19日(水)			⑨実践計画発表		
	2024年2月21日(水)			⑩実践発表会		

### 3.看護教育研究会

月	日	研修時間	ラダー	研修内容 (教育要綱参照)	担当者
9	7(水)	16:30～18:00	II 以上	伝達講習・研究・取り組み	教育課
2	1(水)				
3	1(水)				

### 4.急変対応指導者育成コース

月	日	研修時間	ラダー	研修内容 (教育要綱参照)	担当者
動画視聴10月1日～11月30日			I 以上	動画視聴	野澤、松尾、多田、森島、 石田、鬼塚、 鈴木、田上、増永、 杉山ゆ、内田

### 5.褥瘡ケアコース

月	日	研修時間	ラダー	研修内容 (教育要綱参照)	担当者
6	2(木)	16:30～17:30	II 以上	講義	間部、浦岡、杉山、 今西
7	7(木)	16:30～17:30		演習	

### 6.ストーマケアコース

月	日	研修時間	ラダー	研修内容 (教育要綱参照)	担当者
6	30(木)	16:30～17:30	新人看護職員以外	講義	間部、浦岡、杉山、 今西
8	4(木)			演習	

### 7.摂食・嚥下障害看護コース

月	日	研修時間	ラダー	研修内容 (教育要綱参照)	担当者
6	7(火)	16:30～17:30	II 以上	講義	大川、福田、沢田
7	21(木)			演習	
11	10(木)			実践事例発表	

### 8.院内認定呼吸ケアナース研修

月	日	研修時間	ラダー	研修内容 (教育要綱参照)	担当者
6	18(土)	8:30～16:40	人工呼吸器に携わる部署の リーダー看護師で 師長推薦のある者	講義・実技・シミュレー ション	鈴木、多田、石田、 土佐谷
7	16(土)			実技	
8	27(土)			机上シミュレーション	

### 9.呼吸ケアナースフォローアップ研修

月	日	研修時間	ラダー	研修内容 (教育要綱参照)	担当者
11	1(火)	16:30～17:30	院内認定呼吸ケアナース	講義・実技	鈴木、多田、石田、 土佐谷
12	6(火)				
1	10(火)				

### 10.がん看護研修

月	日	研修時間	ラダー	研修内容 (教育要綱参照)	担当者
9	29(木)	16:30～17:30	I 以上	講義	谷口、菊地、池田、 中村、 高島、渡邊
10	7(金)			講義	
11	10(木)			講義	
12	15(木)			講義	
1	19(木)			グループワーク	
2	16(水)			講義	

### 11.入退院支援・多職種連携

月	日	研修時間	ラダー	研修内容 (教育要綱参照)	担当者
6	20(月)	16:30～17:30	チームリーダーを 担っている看護師	講義	入退院支援室 山下、渡邊、渡辺
7	25(月)	16:30～17:30		講義	
11	15(火)	16:30～17:30		シンポジウム	
12	2(金)	16:30～17:30		事例検討発表	

## 2022年度 院外教育活動

### 1. 学会・研究会発表

	テーマ	発表場所	発表者(部署)
1	身体拘束に着目した自己抜去事例の分析	第53回日本看護学会学術集会	鈴木英子(HCU)
2	NST介入依頼における臨床看護師のアセスメントに関する課題の検討	第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会	鈴木英子(HCU)
3	せん妄を発症した高齢患者の身体拘束早期解除に向けた看護実践 —コンフォート理論を用いた看護介入—	静岡県看護協会東部地区支部 看護研究発表会	野澤結貴(5A)
4	血液内科疾患入院患者の災害発生後の対応の検討	日本災害看護学会	渡邊和信(5A)
5	若くして終末期がん患者の介護者となった家族との関わりを振り返る	日本緩和医療学会	高島信世(5A)

6	急性期におけるせん妄患者へのケアの向上に向けた取り組み	日本倫理学会第15回年次大会	古屋曜子(5A)
7	急性期病院における身体拘束低減に向けた取り組み実施後の看護師のジレンマ」	第53回日本看護学会学術集会	古屋曜子(5A)
8	新人看護職員技術到達度に及ぼしたCOVID-19の影響	第53回日本看護学会学術集会	田中ひとみ(看護部)
9	身体拘束低減に向けたリンクナースの活用と教育の効果	第53回日本看護学会学術集会	村田文明(7A)
10	コロナ禍の面会制限下でターミナル期の患者の家族対応事例の検討	第16回日本慢性看護学会	松尾正人(4C)
11	急性期病院における転倒転落発生率低減に向けたワーキンググループ活動 —外的要因に焦点をあてた取り組み—	第53回日本看護学会学術集会	田村美紀(4B)
12	インシデントレポートからみる看護師による誤薬事故の現状	第53回日本看護学会学術集会	宮澤初美(9A)
13	行政保健師の対応した困難事例家族への予防対応のタイミング	日本家族看護学会	勝又理恵(新生児)
14	外来看護を持続可能にするためのローテーション制の管理実践報告 —コロナ禍を乗り越えて—	日本看護研究学会東海地方学術集会	濱口真知子(看護部)
15	COVID-19高度実践看護の実際 —隔離入院中にADLが低下した高齢患者の倫理調整を通して—	CNS学会	平馬知美(2C)
16	当院での災害発生時参集看護師の管理	日本災害看護学会	勝間田敏宏(救急外来)
17	病院前における安全なCOVID-19抗原検査の導入に向けた取り組み	日本航空医療学会	石田桃子(救急外来)
18	急性期病院における転倒転落発生要因の分析	第53回日本看護学会学術集会	荻島真弓(看護部)
19	プレホスピタルからのインフォームドコンセント —ドクターヘリから直接CAGとなった患者の継続看護を経験して—	日本救急医学会中部地方会	橋本瞭(ICU/CCU)
20	ICUにおいて医原性声帯麻痺を発症した患者の経口摂取実現に向けた多職種カンファレンス症例	集中医療医学会	山口沙也加(ICU/CCU)
21	視覚的教材を用いたカンファレンスによる早期離床への改善効果	集中医療医学会	渡邊朋徳(ICU/CCU)
22	ケーススタディ検討会 セッション①座長	第3回看護師特定行為研究会	多田真也(3AICU)

23	特定行為研修制度発足から6年救急看護現場はどのように変わったか救急看護現場における特定行為研修活用の実際と課題	第24回日本救急看護学会	多田真也(3AICU)
24	救急医療における診療看護師(NP)のコンピテンシーを考える-救急にNPは必要か-	第8回日本NP学会学術集会	多田真也(3AICU)

## 2. 誌上発表

	テーマ	書籍・雑誌名	著者(部署)
1	HEHSハンガーを被災地のステージングケアユニットとして活用	エアメディカルジャーナル	柳川洋一・飯田敏秀(8A)
2	ヒロシマ原子爆弾投下後の医療救護班での体験	順天堂保健看護研究	渡邊和信(5A)
3	新体系看護学全書「呼吸器」第2編第1章	メジカルフレンド社	田村美紀(4B)
4	多職種と連携した入退院支援と継続看護	新体系看護学全書成人看護学運動器	宮澤初美(9A)
5	経過ウエルネスの視点でみる母性看護過程	プチナース	大木直美(新生児)
6	臨床実習指導者の職務キャリアを促進する組織を超えたネットワークシステムニーズに関する実態調査	順天堂保健看護研究第11巻	佐々木史乃(ICU/CCU)
7	Activities of a medical clinic for the general public at the olympic mountain bike competition during the COVID-19 pandemic	Journal of Emergencies, Trauma, and Shock	Youichi Yanagawa Shinya tada

### 3.研修・臨地実習受け入れ状況

施設	実習内容	期間
順天堂医療看護学部	ハイリスク新生児実習	7/25～8/5
	助産分娩実習	8/22～9/16
	統合実習(母性)	11/22、11/24
順天堂保健看護学部	地域包括ケア探索実習	4/25、4/26
	基礎看護実習Ⅱ	8/29～9/22
	領域実習	5/9～7/1、10/3～2/24
	看護総合実習	7/11～7/20
	多職種連携医療体験実習	1/10～1/20
静岡県立看護専門学校	ハイリスク新生児実習	8/25
	助産分娩実習	9/26～12/23
東海大学	救急認定看護師教育課程	1/6～2/10
インターンシップ	就職前職場体験	8/1、8/9、8/10、8/16、8/17、8/18、8/19、12/23、2/27、2/28、3/2、3/6、3/8、3/9

## 3-10 救命救急センター

### 業務内容

静岡県東部地域の救急医療の「最後の砦」の三次救急医療機関として、院内全診療科と各部門の協力・連携のもと、「断らない救急医療」の実践を継続している。二次救急医療についても駿東田方地域の広域輪番制で対応不能な場合は当センターが対応しており、同様に一次救急医療を担当する休日夜間急患センターなどの対象外地域や診療時間の空白時は、当センターが対応することが多い。

病院前救急医療としては、静岡県東部地域のドクターヘリ運航基地病院として、医師及び看護師の現場派遣と迅速な搬送を行うことで、特に伊豆半島と静岡市山間部の救急医療に重要な役割を果たしている。

入院診療ではICU13床、CCU7床を含む救急専用病床40床を利用し、重症傷病者の診療を行っている。

### 業務実績

2022年度

救急外来受診患者総数 12,926人

救急入院患者総数 5,739人

救急車搬送件数 6,622件

ドクターヘリ運航件数 989件

### メディカルコントロール活動

消防機関とのメディカルコントロール(MC)体制を確保・発展するために、当院に搬送された症例を中心に、救急救命士の技術指導を行った。

### 次年度目標

- 救急搬送収容業務の円滑化と迅速化のため、救急応答事務員による救急対応体制への移行を順次実施する。
- 周辺地域における救急医療連携を強化し、医療情報ネットワークを構築する。
- ドクターヘリ活動と研究により積極的に介入し、適正かつ有効なドクターヘリ業務を推進する。
- コロナ感染拡大に伴う救急患者からの院内感染の発生を抑止する。
- 新救急救命センターへ円滑に業務体制を移行する。

## 3-11 ドクターヘリ運航対策室

### 業務内容

当院は静岡県東部地域のドクターヘリ運航基地病院である。当院のフライトドクター及びナースがヘリでいち早く救急現場の傷病者と接触し、トリアージと応急処置を行い、適切な医療施設を選定して、目的地まで安全に搬送できるよう注意深い観察と対応を行っている。平成16年の指定以降、出動件数は年々増加傾向であり、当院を中心とする半径70kmの医療圏から年間700件以上の重症救急患者の広域ヘリ搬送を実施し、その約7割の患者を当院の救命救急センターに収容している。

### 次年度目標

- ・ドクターヘリ活動周知、啓発活動の継続
- ・消防との更なる連携強化
- ・県防災ヘリとの連携強化
- ・大規模災害、AACN等の訓練への参加
- ・海上保安庁との連携強化
- ・自衛隊との連携強化

### 2022年度ドクターヘリ出動件数・搬送人数

転 帰	人 数	
入 院	538	53.2%
外 来	277	27.4%
転 送	147	14.5%
キャンセル	50	4.9%
合 計	1012	100%

要請内容	件 数
現場搬送	753
現場キャンセル	48
病院間搬送	186
病院間キャンセル	2
合 計	989

令和3年/令和4年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	/1月	/2月	/3月	合計(人)
入 院	38	46	51	50	41	50	43	39	59	45	32	44	538
外 来	32	25	23	24	33	23	12	20	23	24	18	20	277
転 送	11	15	7	20	16	14	9	10	15	12	10	8	147
キャンセル	6	6	4	4	5	2	3	2	5	6	4	3	50
月別合計	87	92	85	98	95	89	67	71	102	87	64	75	1012

令和3年/令和4年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	/1月	/2月	/3月	合計(件)
救急現場	62	69	69	67	70	69	51	50	71	70	48	57	753
転院搬送	17	17	9	25	17	17	9	17	22	11	12	13	186
キャンセル	6	6	4	4	5	2	3	2	5	6	4	3	50
月別合計	85	92	82	96	92	88	63	69	98	87	64	73	989

## 出動実績

### I-1(件数)

出 動 内 容		
現 場	801	(キャンセル 48件含む)
病院間	188	(キャンセル2 件含む)
現 場	753	
病院間	186	
小 計	939	
キャンセル	50	
合 計	989	

### I-2(件数)

### (消防本部別)

消 防 本 部 名	転 院 搬 送		現場出動	計
	病 院	診 療 所		
下田消防	65	9	204	278
駿東伊豆消防	24	3	220	247
熱海市消防	22	0	46	68
富士山南東消防	2	0	135	137
御殿場市・小山町消防	2	1	96	99
富士宮市消防	2	0	57	59
富士市消防	1	0	34	35
静岡市消防	0	1	9	10
その他消防	0	0	0	0
小 計	118	14	801	933
消防との合流なし	56	0	0	56
合 計	174	14	801	989

### II-1(人数)(診療科別)

診 療 科 名	(人数)
循環器科	181
脳神経外科	141
整形外科	38
外 科	12
呼吸器内科	6
小児科	30
膠原病内科	0
呼吸器外科	0
腎臓内科	0
消化器内科	3
心臓血管外科	9
脳神経内科	7
産婦人科	1
眼科	2
泌尿器科	1
形成外科	0
耳鼻咽喉科	0
皮膚科	0
新生児科	5
血液内科	0
糖尿病・内分泌内科	1
救急診療科	525
合 計	962

### II-2(人数)

### (収容先別)

出 動 別	当 院(人数)	他 院(人数)	合 計(人数)
現 場	537	81	618
病院間	102	51	153
小 計	639	132	771
現場のみ	10	62	72
合 計	639	132	843

／962名(キャンセル50件を除く)

疾患別搬送件数

内因性疾患	件数	内因性疾患	件数
急性心筋梗塞	53	吐血	1
心筋梗塞	6	髄膜腫	2
狭心症	4	ショック	1
急性冠症候群	20	腹膜炎	1
心不全	32	肝細胞癌破裂	2
急性大動脈解離	21	腎盂腎炎	1
大動脈瘤破裂	6	胃潰瘍	2
完全房室ブロック	5	出血性ショック	2
I度房室ブロック	1	急性腹症	6
洞不全症候群	1	腸捻転	1
頻脈	4	横紋筋融解症	2
心房細動	10	感染症	1
心室頻拍	1	重症貧血	2
心室細動	1	新生児感染症	1
心肺停止	43	脱水	7
心タンポナーデ	1	心窩部痛	4
急性動脈閉塞症	1	ヒステリー発作	1
肺塞栓症	5	肺気腫	1
心筋炎	1	急性胃腸炎	1
心室中隔欠損	1	腸穿孔	3
大動脈弁狭窄症	2	卵巣茎捻転	1
動脈瘤	1	新生児仮死	1
脳内出血	25	迷走神経反射	3
くも膜下出血	17	めまい症	2
脳梗塞	52	尿管結石症	2
意識消失発作	8	墜落分娩	1
脳腫瘍	2	白血病	1
けいれん発作	34	脳炎脳症	1
意識障害	15	腹腔内出血	1
一過性脳虚血発作	9	不明	12
てんかん	8		
失神	8		
頭痛	2		
脳卒中	19		
ファロー四徴症	1		
心室穿孔	1		
腎破裂	1		
緑内障	1		
肺炎	6		
呼吸不全	1		
腸閉塞	2		
消化管穿孔	1		
消化管出血	7		
低血糖	1		
髄膜炎	1		
腎不全	4		
敗血症	6		
腸管壊死	1		
胸痛	17	内因性疾患 小計	537

外因性疾患	件数	外因性疾患	件数
交通外傷	13	窒息	9
頭部外傷	19	一酸化炭素中毒	1
溺水	17	手指骨折	4
薬物中毒	1	下肢切断	1
急性硬膜外血腫	2	鎖骨骨折	11
頭部打撲	2	頸椎損傷	1
頸髄損傷	23	顔面挫創	4
頭蓋骨骨折	5	外傷性脳出血	1
減圧症	7	異物誤飲	1
蜂刺症	1	脳振盪	10
外傷性気胸	1	肝損傷	1
下腿骨骨折	6	前腕挫創	1
頸椎骨折	7	胸部打撲	2
腹部外傷	3	外傷性消化管穿孔	1
顔面外傷	2	膝蓋骨骨折	3
多発外傷	3	胸部刺創	1
胸部外傷	6	手関節開放骨折	2
脾損傷	1	肩挫傷	1
熱傷	4	肩甲骨骨折	2
全身打撲	12	大腿骨骨折	7
熱中症	10	不明(外因)	7
頸椎捻挫	4	頸部打撲	2
外傷性心肺停止	7	上肢挫創	2
急性硬膜下血腫	8	手指挫滅創	1
臀部挫創	1	誤嚥性肺炎	1
肋骨骨折	35	手指切創	3
低体温	3	四肢打撲	3
腰部打撲	2	脊椎骨折	1
骨盤骨折	22	転落外傷	4
上腕骨骨折	4	足指挫創	1
外傷性くも膜下出血	17	足関節骨折・脱臼	2
上肢デグロービング	1	アナフィラキシー	12
股関節打撲	1	足部骨折	2
足指開放骨折	3	頭部挫創	15
心肺停止	9	足関節開放性骨折	1
足部打撲	1	四肢挫創	1
肋骨多発骨折	1	前腕骨折	2
挫滅症候群	1	擦過傷	2
下腿開放骨折	13	会陰部挫創	1
胸骨骨折	10	出血性ショック	1
脳挫傷	2	胸椎骨折	4
手指切断	18		
血気胸	2		
腰椎骨折	16		
肺挫傷	2		
手指挫創	3		
腹腔内損傷	1		
下肢挫創	9	外因性疾患 小計	475
上肢切断	2	内・外因性疾患 合計	1012

## 3-12 新生児センター

### 業務実績

総入院数と院内/院外出生の割合

	入院数
総入院数	378
院内出生	226
院外出生	152

出生体重別の入院数

	入院数
超低出生体重児 (1000g未満)	17
極低出生体重児 (1000g-1500g未満)	23

在胎週数別の入院数

在胎週数	入院数
22-23	2
24-27	11
28-33	35
34-36	73

新生児救急車

	出動件数
総出動件数	237
入院数	146
三角搬送	54

### 研究・教育活動

#### 学会発表

1. 大川夏紀, 西田江璃子, 池田奈帆, 東海林宏道, 清水俊明. 早産児未熟網膜症と尿中 $\beta$ 2microglobulinとの関連についての検討. 第66回日本新生児成育医学会・学術集会, 横浜. 2022.11.25
2. 渡邊晶子, 木村寛太郎, 高橋誉弘, 高岡優里, 岩原可名人, 谷本亮輔, 伊藤夏希, 栗田健太郎, 大川夏紀. 低血糖の管理 UPDATE ~新生児室での血糖測定プロトコールについて~. 第49回東部周産期研究会, Web開催. 2022.12.22
3. 岩原可名人, 羽根将之, 伊藤夏希, 木村寛太郎, 高橋誉弘, 成田知聡, 高岡優里, 大川夏紀. 頭部に限局する胎児水腫を合併した脂腺母斑症候群の1例. 第155回日本小児科学会静岡地方会, 静岡. 2022.11.6
4. 齊藤寛貴, 大川夏紀, 宮林和紀, 松田慎平, 遠藤佳子, 西田江璃子, 西山樹, 石田翔二, 山崎晋, 池田奈帆, 東海林宏道, 田久保憲行, 有井直人, 道上敏美, 清水俊明. 血清アルカリフォスファターゼ低値を契機にALPL遺伝子変異を同定した無症候性低ホスファターゼ症の新生児例. 第125回日本小児科学会学術集会, ハイブリッド開催(郡山). 2022.4.16

5. 齊藤寛貴, 東海林宏道, 村野弥生, 池田奈帆, 大川夏紀, 菅沼宏樹, 寒竹正人, 清水俊明. 早産児動脈管開存症と尿中プロスタグランジン代謝物との関連についての検討. 第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会, ハイブリッド開催 (横浜). 2022.7.11
6. 矢賀部彩音, 池田奈帆, 齊藤寛貴, 西田江璃子, 大川夏紀, 東海林宏道, 清水俊明. 未診断のフィブリノゲン低下症母体から出生し、周産期管理に難渋した新生児例. 第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会, ハイブリッド開催 (横浜). 2022.7.11
7. 松田慎平, 池田奈帆, 齊藤寛貴, 矢賀部彩音, 高岡優里, 西田江璃子, 伊藤夏希, 西山樹, 大川夏紀. 見逃してはいけない新生児の SOS ～先天性感染症編～. 第 47 回東部周産期研究会, Web 開催 2022.2.24

### 3-13 がん治療センター

#### 業務実績

【がん治療センター運営委員会】 6回/年

【がん診療委員会(カンサーボード・レジメン審査)】 12回/年

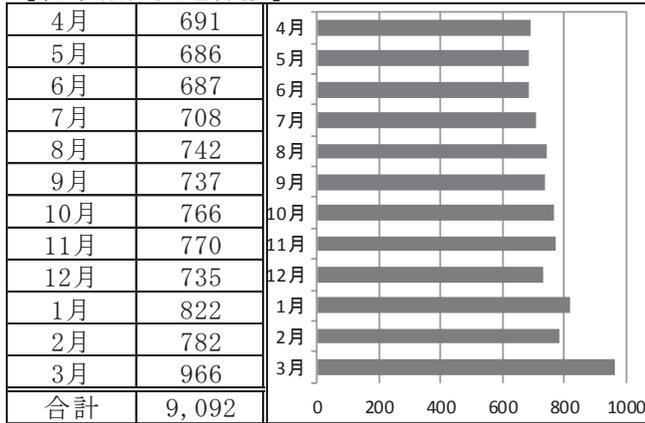
【周辺機関合同研修会・カンファレンス・連絡会等】

5月	がん治療研修会(動画配信) HPVワクチン・子宮頸がん予防ワクチン
6月16日	カンサーボードカンファレンス
8月	がん治療研修会(動画配信) がん薬物療法による副作用とそれに伴う支持療法
10月20日	カンサーボードカンファレンス
1月22日	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会
3月	がん治療研修会(動画配信) がん放射線療法の副作用対応

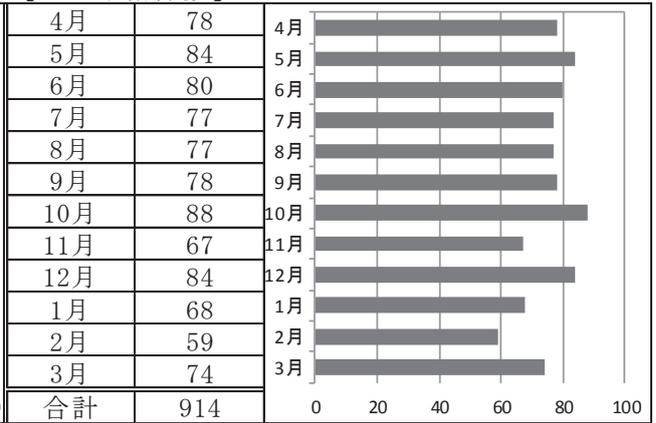
【がん登録件数】(2022.1.1～2022.12.31)

総登録数	5大がん内訳	肺がん	166	大腸がん	267	乳がん	119
1,754		胃がん	112	肝がん	43		

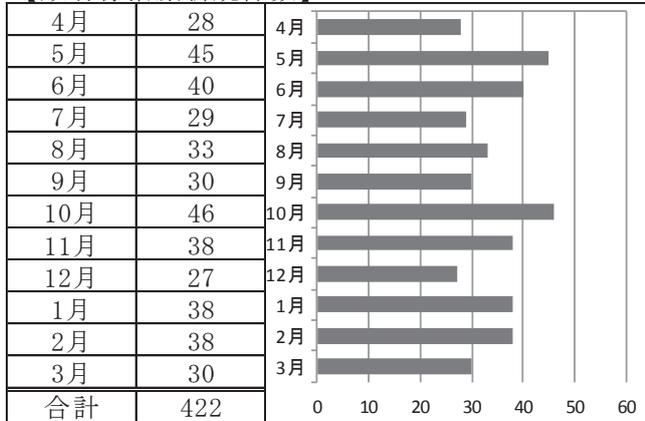
【化学療法実施件数】



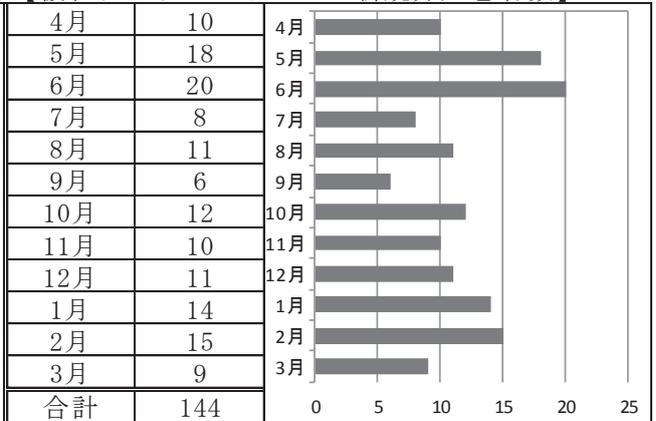
【がん手術件数】



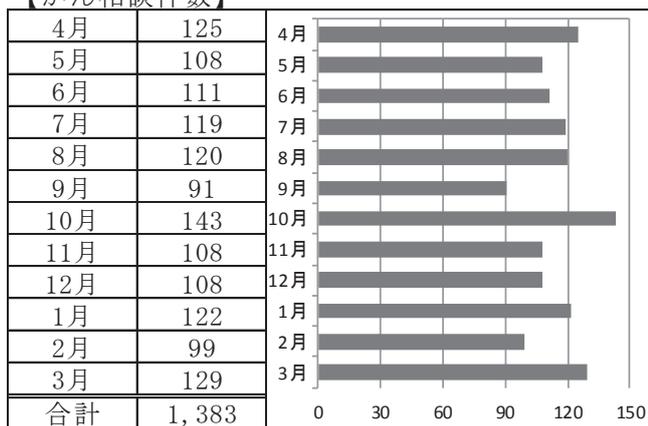
【放射線治療新規件数】



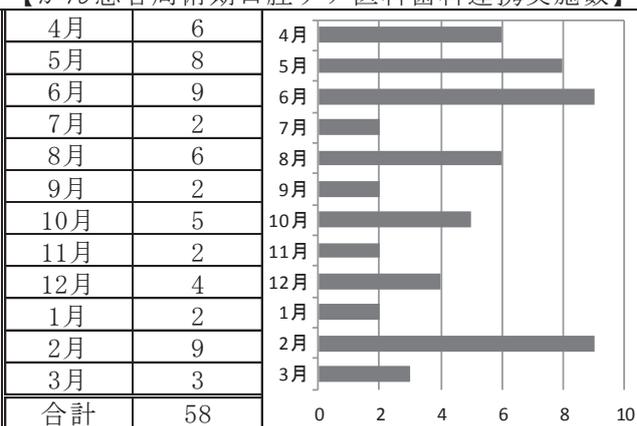
【緩和ケアサポートチーム新規介入患者数】



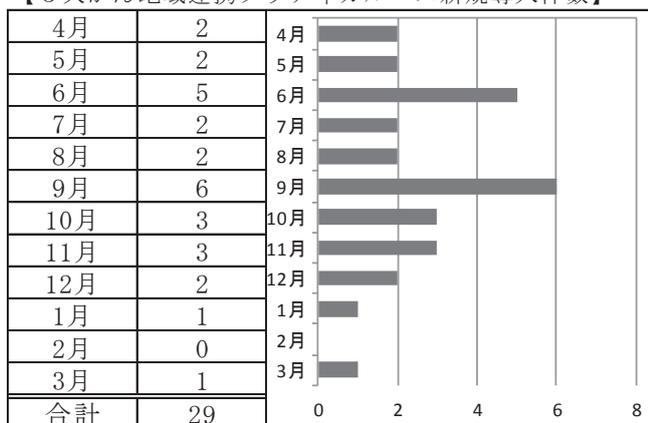
【がん相談件数】



【がん患者周術期口腔ケア医科歯科連携実施数】



【5大がん地域連携クリティカルパス新規導入件数】



連携届出施設数	
総施設数	126
肺がん	93
胃がん	108
大腸がん	104
肝がん	67
乳がん	37

### 3-14 予防医学センター

#### (1) 人間ドック集計(2022 年度)

(1)-1人間ドック男女別、月集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率(%)
日帰りコース	男	11	11	15	11	7	12	10	6	9	10	12	10	124	62.0%
	女	7	7	10	5	4	7	6	5	5	3	5	7	71	35.5%
	小計	18	11	25	16	11	18	16	24	14	13	17	17	200	
1泊2日コース	男	4	0	3	6	2	5	1	6	6	4	3	5	45	67.2%
	女	0	2	1	2	1	4	2	3	2	3	2	2	24	35.8%
	小計	4	0	4	8	3	9	3	3	8	7	3	7	67	
がんコース	男	0	0	0	0	2	0	2	0	1	1	1	2	9	56.3%
	女	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	5	31.3%
	小計	0	0	1	0	3	0	3	0	1	1	1	3	16	
PET-CTコース	男	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	6	60.0%
	女	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	4	40.0%
	小計	0	1	1	0	2	0	2	0	1	0	1	2	10	
脳ドックコース	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(1)-2 人間ドック年齢別、男女別集計表

区分		年齢							合計	比率(%)
		20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80以上		
総合日帰りコース	男	1	5	12	28	32	35	8	121	42.01%
	女	0	1	8	28	21	15	1	74	25.69%
	小計	1	6	20	56	53	50	9	195	67.71%
	比率(%)	0.35%	2.08%	6.94%	19.44%	18.40%	17.36%	3.13%	67.71%	
総合1泊2日コース	男	0	2	6	15	16	7	2	48	16.67%
	女	0	1	4	7	5	4	0	21	7.29%
	小計	0	3	10	22	21	11	2	69	23.96%
	比率(%)	0.00%	1.04%	3.47%	7.64%	7.29%	3.82%	0.69%	23.96%	
がんコース	男	0	0	0	2	5	0	0	7	2.43%
	女	0	0	2	3	1	1	0	7	2.43%
	小計	0	0	2	5	6	1	0	14	4.86%
	比率(%)	0.00%	0.00%	0.69%	1.74%	2.08%	0.35%	0.00%	4.86%	
PET-CTコース	男	0	0	0	2	4	1	1	8	2.78%
	女	0	0	0	0	0	2	0	2	0.69%
	小計	0	0	0	2	4	3	1	10	3.47%
	比率(%)	0.00%	0.00%	0.00%	0.69%	1.39%	1.04%	100.00%	3.47%	
脳ドックコース	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	比率(%)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
合計	男	1	7	18	47	57	43	11	184	64%
	女	0	2	14	38	27	22	1	104	36%
	小計	1	9	32	85	84	65	12	288	100.0%
	比率(%)	0.35%	3.13%	11.11%	29.51%	29.17%	22.57%	4.17%	100.0%	

## (1)-3 年齢別総合判定区分集計

区分	～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～60	61～65	66～	合計
A: 異常はありません	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B: わずかな変化を認めますが 日常生活上心配ありません	2	0	0	0	0	0	1	0	3
C: 経過観察を必要とします	0	1	8	2	8	6	5	8	38
D: 二次検査・精密検査を必要とします	0	2	0	8	6	4	7	6	33
E: 治療を必要とします	1	2	2	6	8	7	3	3	32
F: 治療・経過観察を継続してください	1	1	4	8	34	22	33	79	182
合 計	4	6	14	24	56	39	49	96	288

## 3-15 GCP センター

### 業務内容

当センターでは、治験が倫理的にまた安全に実施することができるか審査するために、治験審査委員会の運営をしています。治験の依頼者である製薬企業や実施者である医師等の相談にも対応しています。また治験が安全かつ円滑に実施されるために、治験コーディネーターが配置され実務や被験者をサポートしています

臨床研究に関しては順天堂大学医学部医学系研究倫理委員会の事務局をしています。臨床研究を予定している医師からの相談や申請のお手伝いをしています。

その他、製薬会社からの医薬品等の製造販売後調査の申請窓口も担当しています。

### 業務実績

#### 治験

#### 新規

治験を行う場合には、治験に参加される方々の安全と人権を守るために、国が定めた「医薬品の臨床試験の実施の基準（GCP といいます。）」を遵守しなければなりません。この GCP に従って、科学のおよび倫理的な観点から、治験の実施や継続について調査・審議するため、順天堂大学医学部附属静岡病院治験審査委員会を設置しています。本治験審査委員会により内容が審議され、病院長より許可された治験のみが実施されます。

	件数	予定症例数
治験	1 件	1 症例
製造販売後臨床試験	0 件	0 症例
合計	1 件	1 症例

治験審査委員会 毎月 1 回(8 月休会)、治験の倫理性・安全性・科学的妥当性について審査します。

	安全性 報告	内容変更	継続審査	重篤な 有害事象	逸脱 (除 緊急の 危険回避)	その他の 審議事項	報告事項
治験	122 件	80 件	19 件	4 件	10 件	13 件	68 件
製造販売後 臨床試験	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
合計	122 件	80 件	19 件	4 件	10 件	13 件	68 件

#### 終了

治験審査委員会に、治験が GCP に従って実施され、終了したことが報告されます。

	件数	実施症例数	同意取得数
治験	7 件	7 症例	10 症例
製造販売後臨床試験	0 件	0 症例	0 症例
合計	7 件	7 症例	10 症例

## 監査・モニタリング受け入れ回数

製薬メーカー及びCROのモニターが治験実施施設へ来訪し、治験の進行状況を調査し情報収集する。治験が治験実施計画書・標準業務手順書(SOP)・GCP及び適用される規制要件に従って、実施・記録及び報告されている事を保証する活動。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
治験	10回	3回	7回	5回	6回	5回	3回	3回	7回	5回	5回	4回	63回
製造販売後臨床試験	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回
合計	4回	5回	8回	5回	1回	0回	7回	5回	4回	4回	0回	6回	49回

## 製造販売後調査

医薬品が治験後に承認されて販売された後、引き続き医薬品の有効性・安全性について調査します。

新規契約 34件	使用成績調査・特定使用成績調査	16件
	副作用詳細調査	2件

## 医学系研究倫理委員会

病気の原因、病態の理解及び患者さんの生活の質の向上を目的として実施される医学系研究であって、人を対象とするもの。

8月を除く毎月1回開催されて、倫理性・安全性・科学的妥当性について審査します。

新規	内容変更	実施状況	その他	不適合報告	終了報告	C案件	P案件
31件	53件	68件	3件	1件	40件	31件	2件

## 倫理審査委員会

病気の原因、病態の理解及び患者さんの生活の質の向上を目的として実施される医学系研究であって、人を対象とするもの。

8月を除く毎月1回開催されて、倫理性・安全性・科学的妥当性について審査します。

特定臨床研究COI	特定臨床研究報告	製造販売後調査	侵襲的処置の新規案件	その他	医薬品の適応外使用
21件	39件	6件	6件	1件	1件

## 症例報告

他の医療従事者への情報共有を図るため、所属する機関内の症例検討会、機関外の医療従事者同士の勉強会や関係学会、医療従事者向け専門誌等で個別の症例を報告すること。及び既存の医学的知見等について患者その他一般の理解の普及を図るため、出版物・広報物等に掲載すること。

19件

## 3-16 臨床研修センター

### ■ 研修内容

#### <レクチャー>

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため臨床研修医を対象とした、基本的な勉強会である「モーニングレクチャー」の時間を変更し「イブニングレクチャー」として21回、各科長クラスによるレポート提出症例に沿った内容を講義いただく「研修医レクチャー」を17回実施し、救急診療科を研修した研修医から、研修症例をまとめ発表していただく「救急診療科レクチャー」12回実施した。

又、インタラクティブなレクチャーとして、レジデントアワーを実施しており、内容については学会発表を行った研修医数名が、発表した症例を他の研修医に向けレクチャーし、研修医同士でディスカッションを行う。更に学会発表の指導を行った各科医師にご協力いただき、補足等の意見を述べていただくというもので、活発な意見交換がなされた。

#### 【イブニングレクチャー】

	日	担当科	担当者		講義名
4月	7	呼吸器内科	片山 勇魚	大学院生	抗菌薬を理解しよう ペニシリン編
	14	感染制御チーム	鈴木 美沙子/長富 美恵子		血液培養採取の仕方/N95マスクの着脱
5月	12	脳神経外科	眞上 俊亮	助教	神経救急疾患の初期対応について
6月	2	消化器内科	野村 慧	助教	肝障害
	9	医療安全管理室	高橋 真紀子	師長	医療事故防止のために
7月	7	放射線科	入江 隆介	助教	コンサルトするべきか迷う画像
	14	脳神経内科	藤巻 基紀	助教	病棟で意識障害に出会ったら
8月	4	膠原病・リウマチ内科	岡田 隆	助手	副腎皮質ステロイドについて
	18	形成外科	池井 優香	助手	形成外科とは
9月	1	血液内科	松崎 紘佑	シニアレジデント	当直で遭遇する血液病
	8	メンタルクリニック	桐野 衛二	教授	不眠・せん妄・非薬物療法
10月	6	糖尿病・内分泌内科	野見山 崇	教授	糖尿病診療のミニマム・リクワイアメント
	13	臨床検査科	田内 一民	教授	検査データの読み方・考え方
11月	10	新生児科	粟田 健太郎	助手	墜落産症例
12月	8	皮膚・アレルギー科	長谷川 敏男	教授	アレルギー性皮膚疾患～アトピー性皮膚炎を中心に～
1月	5	麻酔科	山崎 翔	助教	麻酔科研修での頻用薬
	12	循環器内科	設楽 準	助教	循環器で使用する薬剤について
2月	2	小児科	秋庭 崇人	助手	実臨床に沿ったてんかん入門① てんかん発作のみかた、伝え方
	9	腎臓内科	長澤 肇	助手	腎臓内科で知っておいて欲しいこと(腎性貧血を中心に)
3月	2	呼吸器外科	市之川 英臣	助教	正しい胸部XPの見方、胸腔ドレーンの入れ方
	9	産婦人科	伊地知 航司	助手	妊娠と薬について

【研修医レクチャー】

	日	担当科	医師		講義名
5月	16	腎臓内科	清水 芳男	先任准教授	腎不全 Uremic toxinを中心に
	23	エテコン(縫合トレーニング)			
6月	13	産婦人科	田中 利隆	先任准教授	産婦人科でみられる腹痛 妊娠の診断・妊娠中の検査法を中心に
	20	呼吸器内科	原 宗央	准教授	呼吸困難
7月	25	脳神経外科	足立 知司	助手	頭痛
8月	22	循環器内科	園田 健人	助手	心停止
	29	緩和ケア室	中村 佳代子	看護師	ACP
9月	26	皮膚・アレルギー科	河井 正晶	准教授	発疹
10月	17	眼科	土至田 宏	先任准教授	結膜の充血
	24	小児科	馬場 洋介	准教授	小児の虐待
11月	21	外科	山本 陸	助手	腹痛、便通異常
12月	19	消化器内科	池田 裕至	大学院生	黄疸
1月	16	整形外科	神田 章男	准教授	関節痛
	23	糖尿病・内分泌内科	野見山 崇	教授	実践！非専門医が出来る血糖管理
2月	20	脳神経内科	石黒 雄太	助手	物忘れ
	27	救急診療科	竹内 郁人	助教	意識障害・失神〜とにかく病歴聴取にこだわりをもつ〜
3月	20	メンタルクリニック	桐野 衛二	教授	体重減少・るい瘦

【救急診療科セミナー】

	日	担当科	医師		症例発表名
4月	28	救急診療科	崔 美善	研修医	腫瘍崩壊症候群に類似した経過を辿ったPneumatosis intestinalisの一例
			保高 哲人	研修医	ステロイド長期内服による易感染症を背景とした敗血症で心停止した蘇生後の一例
5月	27	救急診療科	横地 郁哉	研修医	一酸化炭素中毒に虚血性大腸炎および脳・心筋虚血を合併した一例
			吉松 孝彦	研修医	墜落外傷患者の遅発性肋間動脈損傷
6月	24	救急診療科	吉田 華	研修医	顔面外傷を契機として発症した破傷風
			切明 大約	研修医	myelodysplastic syndromes (MDS) に合併しステロイドパルス施行後に急速な転機を辿った抗生剤治療抵抗性の眼窩蜂巣炎
7月	29	救急診療科	花川 翔太	研修医	マムシ咬傷
			鳥沢 規子	研修医	墜落を契機として発症した外傷性大動脈解離の一例
8月	26	救急診療科	檀 聡	研修医	重症くも膜下出血後に伴う神経原性肺水腫
			松原 颯	研修医	高地肺水腫
9月	30	救急診療科	前川 ちひろ	研修医	遅発性出血により広範な肝壊死をきたした外傷性肝損傷の一例
			中島 絵理	研修医(練馬)	突然の呼吸停止を契機に見つかった軸椎歯突起後方偽腫瘍の疑い例
10月	28	救急診療科	小野田 雄介	研修医	COVID-19感染後、高血糖高浸透圧症候群を発症した1例
11月	25	救急診療科	永合 浩己	研修医	重症妊娠悪阻を契機として低カリウム血症を発症した一例
			黄 奕達	研修医	重症頸髄損傷後、完全房室ブロックを発症した1例
12月	23	救急診療科	山口 哲朗	研修医	熱中症を契機に急性肝機能障害を起こした一例
			成田 遼	研修医	結石性腎盂腎炎に続発した電撃性紫斑病の一例
1月	27	救急診療科	太田 広天	研修医	リチウム中毒の一例
			水川 結貴	研修医	海水誤嚥に伴う溺水
2月		救急診療科	今村 達哉	研修医	後方循環系脳梗塞による神経原性ショックをきたした1例
			池谷 紗瑛	研修医	脊髄損傷に合併した薬剤耐性緑膿菌感染症の一例
			野田 健斗	研修医	交通事故をきっかけに洞不全症候群の診断に至った症例
3月		救急診療科	田代 大地	研修医	落馬して馬に踏まれたことによる外傷性脾損傷の一例
			山口 征大	研修医	糖尿病性ケトアシドーシス(DKA)と血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)を合併した一例

## 【レジデントアワー】

月	日	学会発表者	指導医	発表科	内容
12	17	崔 美善	柳川 洋一	救急診療科	腫瘍崩壊症候群に類似した経過を辿った劇症型気腫性腸炎の一例
		鳥沢 規子	柳川 洋一	救急診療科	墜落を契機として発症した外傷性大動脈解離の一例
		吉田 華	柳川 洋一	救急診療科	顔面外傷を契機として発症した破傷風
3	18	宮谷 和樹	柳川 洋一	救急診療科	心停止を来した巨大左房血栓が胸骨圧迫により多発性動脈塞栓に移行した症例
		栗山 充	渡邊 敬康	呼吸器内科	Mycobacterium porcinumによる菌血症の一例
		四蔵 祥吾	仁平 高翔	外科	Hemosuccus Pancreaticusを来した膵癌に対して膵体尾部切除術を施行した1例

## <CPC・CRCデスカンファレンス（臨床病理・臨床放射線合同カンファレンス）>

年3回開催した。

No.	開催日	担当科	医師		備考
第1回	10月17日	病理診断科	和田 了	教授	肝門部胆管癌による閉塞性黄疸・胆管炎の疑い
		放射線科	入江 隆介	助教	
		消化器内科	池田 裕至	大学院生	
第2回	12月19日	病理診断科	和田 了	教授	心筋梗塞、心タンポナーデ、心破裂疑い
		放射線科	入江 隆介	助教	
		循環器内科	小野里 匠也	専攻生	
第3回	2月20着	病理診断科	和田 了	教授	急性肝不全、肝原発の内分泌細胞癌（小細胞癌）（びまん性結節）、脾腫
		放射線科	入江 隆介	助教	

## <日本救急医学会認定 ICLS コース>

新型コロナの感染防止の観点より9月2日、16日の2日間に分散し、臨床研修医1年目全員参加にて実際に即したシミュレーション実習を行った。

## <臨床研修医のための学術集会>

7月2日 順天堂大学4基幹病院全研修医による学術集会がWEBにより開催され、静岡病院としてR1横地 郁哉 先生による「一酸化炭素中毒に虚血性大腸炎および脳・心筋虚血を合併した一例」の発表と救急診療科 竹内 郁人 先生による「一酸化炭素中毒診療の基本」のミニレクチャーを行った。

## <研修医・指導医のための研修会>

新型コロナウイルスの感染防止の観点より、中止となった。

## <臨床研修修了証書授与式>

令和5年3月16日 新型コロナウイルスの感染防止の観点より、順天堂大学4基幹病院合同で一部WEBにて行い、修了証書授与式は各附属病院での挙行となった。静岡病院では第一会議室にて研修医24名が授与された。

### ■研修管理委員会

令和5年3月1日 新型コロナウイルスの影響にて研修管理委員会は縮小し、令和4年度の研修報告が行われた。

### ■臨床研修病院合同説明会への参加

令和4年度は新型コロナの影響下であったがイベント開催行われ6回参加、WEB説明会は2回参加した。説明会では、医学生が当院研修医と、気軽に臨床研修について質問、相談できる雰囲気を作り、医学生に参加していただいた。

開催	場所	参加施設数	参加学生数	静岡病院 訪問者数
5月	レジナビFairオンライン6年生対象	不明	不明	14
5月	レジナビ金沢	67	106	8
6月	レジナビ東京	225	1308	52
7月	レジナビ大阪	208	944	19
7月	レジナビ福岡	140	379	27
10月	レジナビ仙台	84	178	8
2月	レジナビFairオンライン2022東日本Week	39	340	60
3月	レジナビフェア2023東京春	179	905	66
	マイナビフェア札幌	19	200	20

#### ■令和4年度 初期臨床研修医採用について

静岡県東部地域で地域医療の最前線で日々奮闘している順天堂大静岡病院で多くの研修医が研修することには大きな意義がある。しかし、現在の傾向として都会の順天堂の関連病院や母校以外のより優秀な研修医が集まる有名病院で研修する人達が増加してきている。

そうした現状の中で、静岡病院での研修を積極的に希望する研修医がしだいに増加しつつある。

静岡病院の特徴は、静岡県東部地区の基幹病院として、救急車やドクターヘリにより連日多くの患者が運ばれ、救急外来、病棟で多くの患者さんの治療を経験することができ、またその際に実践的に実技を習得することができる。科間の垣根が低く、迅速に全身の治療ができることにある。さらに指導医は専任のチューターを中心に、教育に力をいれており、レクチャー、症例発表会なども定期的に行った。その上、静岡病院では、研修医のための宿舎が整備され、部屋は広く、備品も整い、病院に近く、希望者全員が生活しているため、研修医同志の絆が形成し易く、相互に研鑽して有意義な研修生活を送っている。

#### <採用結果>

令和4年度医師臨床研修医は、基本プログラム28名、産婦人科・新生児・小児科プログラム2名、計30名を採用した。(令和5年度採用)

(マッチング結果)

定員	本学	他学	男子	女子	合計	マッチング率
32名	24	8	24	8	32	100.0%

### 3-17 看護師特定行為研修センター

#### ■業務内容

当院では厚生労働省から認可を得て、2020年4月に看護師特定行為研修センターを立ち上げ、特定看護師の育成を、5区分11行為（呼吸器（気道確保に係るもの）関連、呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連、創傷管理関連、動脈血液ガス分析関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連）で開始し、2021年度からは、血糖コントロールに係る薬剤投与関連を加え、7区分13行為となりました。

2022年度4月からは、術中麻酔管理領域、集中治療領域、救急領域の3パッケージを加え、7区分21行為（3パッケージ）となりました。また2023年度4月開講に向けて、「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」の区分追加申請を行いました。

当院以外の地域医療機関からも受講生を受け入れており、当研修センターの開設により、静岡県東部地域の看護師のレベルアップとともにキャリアアップにもつなげていきたいと考えております。

#### ■業務実績（2022年度）

受講生数：12名（院内10名、院外2名）

修了生：12名（院内10名、院外2名）

##### <看護師特定行為研修管理委員会>

開催日：2022年5月25日、9月21日、2023年3月6日

特定行為研修計画の作成、特定行為区分の相互間の調整、受講者の履修状況の管理、修了の際の評価等、特定行為研修の実施の統括管理が行われた

##### <看護師特定行為業務管理委員会>

開催日：2022年5月9日、9月12日、2023年2月22日

特定行為の実施の推進、特定看護師のフォローアップの統括管理が行われた

#### ■開講区分

特定行為区分	特定行為	定員	受講者数
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	5人	-
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更	5人	1人
	非侵襲的陽圧換気の設定の変更		
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整		
創傷管理関連	人工呼吸器からの離脱	3人	3人
	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 創傷に対する陰圧閉鎖療法		

創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去	5人	2人
動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血	5人	2人
	橈骨動脈ラインの確保		
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整	5人	2人
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	8人	7人
	脱水症状に対する輸液による補正		
術中麻酔管理領域パッケージ		3人	2人
救急領域パッケージ		3人	3人
集中治療領域パッケージ		2人	2人

## ■研修スケジュール

共通科目：2022年4月～9月

区分別科目：2022年10月～2023年3月

開講式：2022年4月1日（月） 16:00～

症例発表会：2023年2月27日（月） 16:45～

修了式：2023年3月16日（木） 14:30～

## ■研修内容

### <共通科目>

研修日	時限	科目	授業種別	学習内容	学習内容(細)	担当指導者
4月18日 (月)	2時限	臨床薬理学	演習	1.薬物動態の理論と演習	薬物動態の演習	勝又
	3時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	精神神経系 演習	芹澤
	5時限	臨床病態生理学	演習	4.臨床病態生理学 演習	エネルギー	清水
	6時限	臨床病態生理学	演習	4.臨床病態生理学 演習	炎症	清水
4月28日 (木)	1時限	臨床推論	演習	2.臨床推論(症候学を含む)の理論と演習	ケーススタディ(1)	岩神(真)
	2時限	臨床推論	演習	2.臨床推論(症候学を含む)の理論と演習	ケーススタディ(2)	岩神(真)
	3時限	臨床推論	演習	2.臨床推論(症候学を含む)の理論と演習	ケーススタディ(3)	岩神(真)
5月20日 (金)	1時限	臨床推論	演習	3.医療面接の理論と演習・実習	演習:ロールプレイ(1)	中尾
	2時限	臨床推論	演習	3.医療面接の理論と演習・実習	演習:ロールプレイ(2)	中尾
	3時限	臨床推論	実習	3.医療面接の理論と演習・実習	医療面接の実習	中尾
	4時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	心・血管系 演習	水口
	5時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	呼吸器系 演習	山口
5月24日 (火)	1時限	臨床推論	演習	4.各種臨床検査の理論と演習	各種臨床検査の演習	岩神(直)
	2時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	消化器系 演習	杉本
	3時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	内分泌・代謝系 演習	木下
6月2日 (木)	2時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	骨・関節系/腎・泌尿器系 演習	小林
	3時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	抗がん薬/抗菌薬 演習	杉本 磯
	4時限	フィジカルアセスメント	演習	5.身体診察基本手技の演習・実習/部位別身体診察手技と所見の演習・実習	問診	若林
	5時限	フィジカルアセスメント	実習	5.身体診察基本手技の演習・実習/部位別身体診察手技と所見の演習・実習	適切な問診、意識の評価	若林
	6時限	フィジカルアセスメント	実習	5.身体診察基本手技の演習・実習/部位別身体診察手技と所見の演習・実習	腹部、胸部のアセスメント	大林

研修日	時限	科目	授業種別	学習内容	学習内容(細)	担当指導者
6月10日 (金)	1時限	疾病・臨床病態概論	演習	主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	主要疾患の病態と臨床診断・治療の演習1	原
	2時限	疾病・臨床病態概論	演習	主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	主要疾患の病態と臨床診断・治療の演習2	中尾
	3時限	臨床薬理学	演習	4.主要薬物の安全管理と処方理論と演習	主要薬物の安全管理と処方の演習	菅尾
	4時限	フィジカルアセスメント	演習	5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	全身状態・緊急度の評価	神田
	5時限	フィジカルアセスメント	演習	5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	フィジカルアセスメント	神田
6月24日 (金)	1時限	疾病・臨床病態概論	演習	状況に応じた臨床診断・治療	1.救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 救急医療の臨床診断・治療の演習	中尾
	2時限	疾病・臨床病態概論	演習	状況に応じた臨床診断・治療	2.在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習 在宅医療の臨床診断・治療の演習	原
	5時限	臨床推論	演習	5.画像検査の理論と演習	画像検査の演習	大坂
	6時限	臨床推論	演習	6.臨床疫学の理論と演習	臨床疫学の演習	大坂
	7時限	臨床推論	実習	超音波装置の取扱手技など		大坂
7月7日 (木)	2時限	医療安全学／特定行為実践	演習	1.特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証(Quality Care Assurance)を学ぶ	(4)ケアの質保証 (4)法的側面とケアの質保証に関する判例を分析する	櫻田
	3時限	医療安全学／特定行為実践	実習	1.特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証(Quality Care Assurance)を学ぶ	(5)医療安全の実習 (1)特定行為実践に関連する医療安全の実習	荻島
7月15日 (金)	1時限	医療安全学／特定行為実践	演習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	(2)チーム医療の事例検討 (2)チームとしての最大を発揮する 演習	杉山裕貴
	2時限	医療安全学／特定行為実践	実習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	(5)チーム医療の実習と演習 (1)チーム医療の実習1	杉山裕貴
	3時限	医療安全学／特定行為実践	実習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	(5)チーム医療の実習と演習 (2)チーム医療の実習2	杉山裕貴
	4時限	医療安全学／特定行為実践	演習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	(5)チーム医療の実習と演習 (3)チーム医療の演習【実習の振り返り】1	杉山裕貴
	5時限	医療安全学／特定行為実践	演習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	(5)チーム医療の実習と演習 (4)チーム医療の演習【実習の振り返り】2	杉山裕貴
7月22日 (金)	1時限	医療安全学／特定行為実践	演習	3.特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ	(2)特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 演習	松尾
	2時限	医療安全学／特定行為実践	実習	3.特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ	(2)特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 実習	松尾
	3時限	医療安全学／特定行為実践	演習	3.特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ	(2)特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 演習【実習の振り返り】	杉山希
	4時限	医療安全学／特定行為実践	演習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ	(2)手順書の作成演習 ペーパーシミュレーションによる演習	神田
	5時限	医療安全学／特定行為実践	実習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ	(4)手順書の作成・評価・改良 演習(1) 作成	松尾多田
	6時限	医療安全学／特定行為実践	実習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ	(4)手順書の作成・評価・改良 演習(2) 評価	松尾多田
	7時限	医療安全学／特定行為実践	実習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ	(4)手順書の作成・評価・改良 演習(3) 改良	松尾多田
7月29日 (金)	1時限	医療安全学／特定行為実践	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査	(2)特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ 演習(1)	今西
	2時限	医療安全学／特定行為実践	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査	(2)特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ 演習(2)	堀込多田
	3時限	医療安全学／特定行為実践	演習	診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	(3)特定行為実践のアウトカム 演習1	今西
	4時限	医療安全学／特定行為実践	演習	診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	(3)特定行為実践のアウトカム 演習2	今西
9月2日 (金)	1時限	医療安全学／特定行為実践	実習	診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	(4)特定行為の実践 実習1	石井
	2時限	医療安全学／特定行為実践	実習	診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	(4)特定行為の実践 実習2	石井
	3時限	医療安全学／特定行為実践	演習	診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	(4)特定行為の実践 演習1【実習の振り返り】	堀込
	4時限	医療安全学／特定行為実践	演習	診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	(4)特定行為の実践 演習2【実習の振り返り】	堀込
9月9日 (金)	1時限	臨床病態生理学	筆記試験	5.科目修了試験		多田
	2時限	臨床推論	筆記試験	7.科目修了試験		多田
	3時限	フィジカルアセスメント	筆記試験	6.科目修了試験		多田
	4時限	臨床薬理学	筆記試験	5.科目修了試験		多田
	5時限	疾病・臨床病態概論	筆記試験	科目修了試験		多田
	6時限	医療安全学／特定行為実践	筆記試験	科目修了試験		多田

<区分別科目>

研修日	時限	科目	パッケージ	シラバス回	授業種別	S-Que動画教材 通し番号 マネージャー画面	演習 動画時間 (分)	学習内容	学習内容(細)	担当 指導者
9月30日 (金)	1時限 ~ 6時限	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	麻酔救急集中	第5回	筆記試験			(共通)呼吸器(気道確保に係るもの)関連の基礎知識	基礎知識 修了試験	多田
		呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	麻酔救急集中	第6回	筆記試験			(共通)呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連の基礎知識	基礎知識 修了試験	多田
		循環器関連	集中	第117回	筆記試験			(共通)循環器関連の基礎知識	基礎知識 修了試験	多田
		栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	集中	第79回	筆記試験			(共通)中心静脈カテーテル管理の基礎知識	基礎知識 修了試験	多田
		創傷管理関連	-	第13回	筆記試験			(共通)創傷管理関連の基礎知識	基礎知識 修了試験	多田
		創部ドレーン管理関連	-	第3回	筆記試験			(共通)創部ドレーン管理関連の基礎知識	基礎知識 修了試験	多田
		動脈血液ガス分析関連	麻酔救急集中	第6回	筆記試験			(共通)動脈血液ガス分析関連の基礎知識	基礎知識 修了試験	多田
		栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	麻酔救急	第7回	筆記試験			(共通)栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の基礎知識	基礎知識 修了試験	多田
		血糖コントロールに係る薬剤投与関連	-	第7回	筆記試験			(共通)血糖コントロールに係る薬剤投与関連の基礎知識	基礎知識 修了試験	多田
		術後疼痛管理関連	麻酔	第101回	筆記試験			(共通)術後疼痛管理関連の基礎知識	基礎知識 修了試験	多田
		循環動態に係る薬剤投与関連	麻酔集中	第120回	筆記試験			(共通)循環動態に係る薬剤投与関連の基礎知識	基礎知識 修了試験	多田
		精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	救急	第130回	筆記試験			(共通)精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の基礎知識	基礎知識 修了試験	多田
10月4日 (火)	1時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急-	第41回 第23回	演習	16	65	(B)非侵襲的陽圧換気の設定の変更	非侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベースシミュレーション)(1)	岩神(直)
	2時限		救急-	第42回 第24回	演習	17	60	(B)非侵襲的陽圧換気の設定の変更	非侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベースシミュレーション)(2)	岩神(直)
	4時限	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	-	第15回	演習	14	60	(A)インスリンの投与量の調整	病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(1)(ペーパーシミュレーションを含む)	野見山
	5時限		-	第16回	演習	15	60	(A)インスリンの投与量の調整	病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(2)(ペーパーシミュレーションを含む)	野見山
	6時限		-	第17回	演習	16	60	(A)インスリンの投与量の調整	病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(3)(ペーパーシミュレーションを含む)	野見山
10月11日 (火)	4時限	術後疼痛管理関連	麻酔	第105回	演習	18-8	60	(A)硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	ペーパーシミュレーション(硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整)	山崎
	5時限	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	麻酔	第11回	演習		60	(A)経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整 <術中麻酔パッケージVer>	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整(OSCE前演習)<術中麻酔パッケージVer>	山崎
10月12日 (水)	3時限	循環動態に係る薬剤投与関連	集中	第121回	演習	19-12	60	(A)持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	園田
	4時限	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	救急集中	第12回 第11回	演習		60	(A)経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整(OSCE前演習)	大坂
	7時限	栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	集中	第84回	演習		60	(A)中心静脈カテーテルの抜去		梶本
10月13日 (木)	2時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	麻酔	第41回	演習	2-28	65	(D)人工呼吸器からの離脱 <術中麻酔パッケージVer>	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベースシミュレーション)(1) <術中麻酔パッケージVer>	洪
	3時限		麻酔	第42回	演習	2-29	60	(D)人工呼吸器からの離脱 <術中麻酔パッケージVer>	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベースシミュレーション)(2) <術中麻酔パッケージVer>	洪
10月14日 (金)	1時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	救急	第135回	演習	20-19	65	(A)抗けいれん剤の臨時的投与	病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)(1)	中尾
	2時限		救急	第136回	演習	20-20	45	(A)抗けいれん剤の臨時的投与	病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)(2)	中尾

研修日	時限	科目	パッケージ	シラバス回	授業種別	S-Que動画教材 通し番号 マネージャー画面	演習 動画時間 (分)	学習内容	学習内容(細)	担当 指導者
10月20日 (木)	3時限	創傷管理関連	-	第28回	演習	独自設定の為 動画教材無し	60	(A)褥瘡又は慢性創傷の治療における 血流のない壊死組織の除去	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流 のない壊死組織の除去(OSCE前演習)	苅部
	6時限		-	第44回	演習	独自設定の為 動画教材無し	60	(B)創傷に対する陰圧閉鎖療法	創傷に対する陰圧閉鎖療法の実施	苅部
	4時限	動脈血液ガス分析関連	救急	第11回	演習	独自設定の為 動画教材無し	60	(A)直接動脈穿刺法による採血	直接動脈穿刺法による採血(OSCE前 演習)	日域
	5時限		救急	第23回	演習	独自設定の為 動画教材無し	60	(B)橈骨動脈ラインの確保	橈骨動脈ラインの確保(OSCE前演習)	日域
	1時限	動脈血液ガス分析関連	麻酔	第59回 第11回	演習	独自設定の為 動画教材無し	60	(A)直接動脈穿刺法による採血 〈術中麻酔パッケージVer〉	直接動脈穿刺法による採血(OSCE前 演習) 〈術中麻酔パッケージVer〉	八子
	2時限		麻酔 集中	第71回 第101回	演習	独自設定の為 動画教材無し	60	(B)橈骨動脈ラインの確保 〈術中麻酔パッケージVer〉	橈骨動脈ラインの確保(OSCE前演習) 〈術中麻酔パッケージVer〉	八子
	3時限	呼吸器(人工呼吸療法に 係るもの)関連	麻酔	第29回	演習	2-10	60	(A)侵襲的陽圧換気の設定の変更 〈術中麻酔パッケージVer〉	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペー パーベシエント)(1) 〈術中麻酔パッケージVer〉	八子
	4時限		麻酔	第30回	演習	2-11	60	(A)侵襲的陽圧換気の設定の変更 〈術中麻酔パッケージVer〉	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペー パーベシエント)(2) 〈術中麻酔パッケージVer〉	八子
	5時限	循環動態に係る薬剤 投与関連	麻酔	第124回	演習	19-24	60	(D)持続点滴中の糖質輸液又は電解質 輸液の投与量の調整	病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の 調整の判断基準(ペーパーシミュレーシ ョンを含む)	八子
	6時限	循環器関連	集中	第69回	演習	4-8	60	(A)一時的ペースメーカの操作及び管理	一時的ペースメーカの操作及び管理方 法(ペーパーシミュレーション)	設楽
10月24日 (月)	2時限	呼吸器(人工呼吸療法に 係るもの)関連	救急 集中	第53回 第41回 第35回	演習	22	65	(C)人工呼吸管理がなされている者に対 する鎮静薬の投与量の調整	人工呼吸管理がなされている者に対 する鎮静薬の投与量の調整(ペーパーベ シエント)(1)	久米村 ME
	3時限		救急 集中	第54回 第42回 第36回	演習	23	60	(C)人工呼吸管理がなされている者に対 する鎮静薬の投与量の調整	人工呼吸管理がなされている者に対 する鎮静薬の投与量の調整(ペーパーベ シエント)(2)	久米村 ME
	4時限		救急 集中	第29回 第29回 第11回	演習	10	60	(A)侵襲的陽圧換気の設定の変更	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペー パーベシエント)(1)	竹内 ME
	5時限		救急 集中	第30回 第30回 第12回	演習	11	60	(A)侵襲的陽圧換気の設定の変更	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペー パーベシエント)(2)	竹内 ME
11月4日 (金)	4時限	呼吸器(人工呼吸療法に 係るもの)関連	救急 集中	第65回 第53回 第47回	演習	28	65	(D)人工呼吸器からの離脱	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベ シエント)(1)	石川
	5時限		救急 集中	第66回 第54回 第48回	演習	29	60	(D)人工呼吸器からの離脱	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベ シエント)(2)	石川
	6時限	循環動態に係る薬剤 投与関連	集中	第141回	演習	19-20	75	(C)持続点滴中の降圧剤の投与量の調 整	病態に応じた降圧剤の投与量の調整の 判断基準(ペーパーシミュレーションを 含む)	園田
11月10日 (木)	1時限	創部ドレーン管理関連	-	第7回	演習	独自設定の為 動画教材無し	60	(A)創部ドレーンの抜去	創部ドレーンの抜去(実習前の演習)	伊藤
	2時限	栄養及び水分管理に 係る薬剤投与関連	-	第12回	演習	<選択式> 11A、11B	65	(A)持続点滴中の高カロリー輸液の投与 量の調整	<選択式>高カロリー輸液の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)	伊藤
	3時限	栄養及び水分管理に 係る薬剤投与関連	麻酔 救急	第90回 第109回 第23回	演習	<選択式> 16A、16B	64	(B)脱水症状に対する輸液による補正	<選択式>脱水症状に対する輸液によ る補正の判断基準(ペーパーシミュレー ションを含む)	伊藤
	4時限	循環動態に係る薬剤 投与関連	集中	第131回	演習	19-16	60	(B)持続点滴中のナトリウム、カリウム 又はクロールの投与量の調整	病態に応じた持続点滴によるナトリウ ム、カリウム又はクロールの投与の調整 の判断基準(ペーパーシミュレーションを 含む)	設楽
11月1日 (火)	1時限	創傷管理関連	-	第29回	OSCE	動画教材無し スライド資料		(A)褥瘡又は慢性創傷の治療における 血流のない壊死組織の除去	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流 のない壊死組織の除去(OSCE)	苅部 中川(外部) 浦岡、多田
	2時限		-							
11月16日 (水)	4時限	呼吸器(気道確保に 係るもの)関連	麻酔 救急 集中	第12回 第12回 第12回	OSCE	動画教材無し スライド資料		(A)経口用気管チューブ又は経鼻用気管 チューブの位置の調整	経口用気管チューブ又は経鼻用気管 チューブの位置の調整(OSCE)	久米村 大坂 吉田(外部) 多田
11月24日 (木)	2時限	動脈血液ガス分析関連	麻酔	第60回	OSCE	動画教材無し スライド資料		(A)直接動脈穿刺法による採血	直接動脈穿刺法による採血(OSCE)	櫻庭 神谷(外部) 多田
	3時限	動脈血液ガス分析関連	麻酔 集中	第72回 第101回				(B)橈骨動脈ラインの確保	橈骨動脈ラインの確保(OSCE)	
	4時限	動脈血液ガス分析関連	救急	第84回 第12回	OSCE	動画教材無し スライド資料		(A)直接動脈穿刺法による採血	直接動脈穿刺法による採血(OSCE)	大坂、 神谷(外部) 多田
	5時限	動脈血液ガス分析関連	救急	第96回 第24回				(B)橈骨動脈ラインの確保	橈骨動脈ラインの確保(OSCE)	

実習期間：2022年11月28日～2023年2月28日

## ■広報活動

<看護師特定行為研修センター募集要項、パンフレットの作成、配布>

2022年8月 駿東田方医療圏、賀茂医療圏、熱海伊東医療圏、富士富士宮医療圏の49病院、訪問看護ステーション61施設に受講生募集要項、パンフレットを配布

<2023年度看護師特定行為研修オンライン説明会（Web開催）>

診療看護師 多田、特定看護師 山崎、事務局

2022年10月18日（火）16：45 ～ 18：00 （第2会議室）

## ■次年度受講生募集活動（2023年度受講生）

願書受付期間：2022年10月18日（火）～2022年10月31日（月）

二次募集期間：2022年11月1日（火）～2022年11月22日（火）

筆記試験・面接：2022年12月9日（金）

## ■その他の活動

<特定行為研修指導者講習会> （Web開催）

受講：特定看護師 山崎

2022年10月22日（土）13：00 ～ 16：45

主催：静岡県、公益社団法人静岡県看護協会

<令和4年度特定行為研修に係る交流会> （Web開催）

参加：特定看護師 松尾（発表）、特定看護師、管理者多数聴講

2022年11月2日（水）14：00 ～ 16：00

主催：厚生労働省

<令和4年度特定行為研修意見交換会>

参加：看護教育課 堀込、診療看護師 多田、特定看護師 山崎

2023年2月7日（火）14：00 ～ 16：00

主催：静岡県、公益社団法人静岡県看護協会

<第7回 看護師の特定行為に係る指定研修機関連絡会総会> （Web開催）

参加：診療看護師 多田、事務局

2023年2月15日（水）10：30 ～ 11：30

主催：看護師の特定行為に係る指定研修機関連絡会

<2022年度指定研修機関のための研修会> （Web開催）

参加：診療看護師 多田、事務局

2023年2月15日（水）11：40 ～ 13：10

主催：看護師の特定行為に係る指定研修機関連絡会、日本看護協会

<2022年度 特定行為研修シンポジウム> (Web開催)

参加：診療看護師 多田、事務局

配信期間：2023年2月24日(金) ～ 2023年3月10日(金)

主催：2022年特定行為研修シンポジウム事務局

<千葉大学特定行為研修シンポジウム> (Web開催)

参加：特定看護師

2023年3月10日(金) 17:00 ～ 19:15

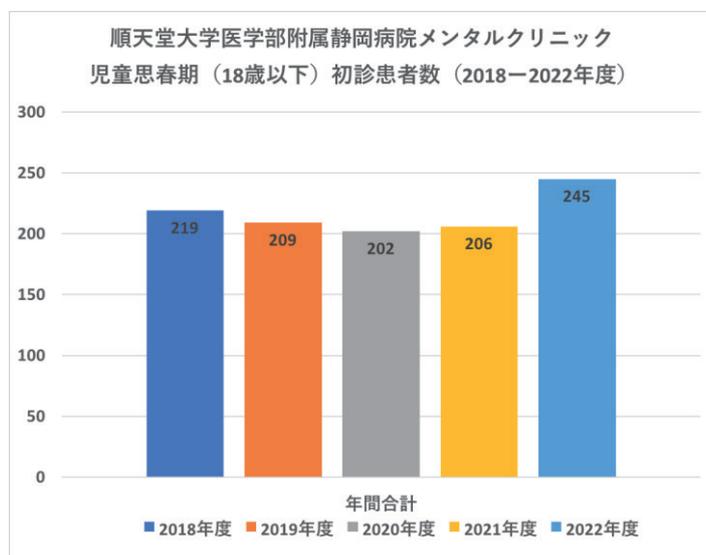
主催：千葉大学大学院看護学研究院

## 3-18 こどものこころのケアセンター

### 業務内容

発達障害・不登校など児童・思春期のメンタル面でのケアを求めるニーズはますます高まっています。当院メンタルクリニックでも児童思春期の患者が増加傾向にあります。静岡県東部地区では児童精神科を標榜している医療機関は少なく、どこを受診してよいかわからない保護者や教育関係者が多かったようです。当センターでは「こどもの支援」・「親への支援」・「学校地域支援」を3つの軸としています。従来行っていた遊戯療法・ペアレントトレーニング・学習障害支援プログラムなどの治療プログラムに加えて、デイケア・ソーシャルスキルトレーニング（SST）・ストレスマネジメント・親のための心理教室などのプログラムを開設しています。

### 業務実績



グラフに示すように児童思春期の初診患者数はセンター開設後増加しています。ホームページやパンフレットなどの広報活動により、教育・行政機関からの問い合わせが連日あります。またセンター長は地域自治体のいじめ問題対策専門委員会委員を務めており、行政機関・教育機関・各市町の発達障害支援センターと連携している。センター設立によりこれらの連携がさらにスムーズになっています。

### 次年度目標

診療・広報をより充実し、児童・思春期精神医療の全国的な中核病院となることを目指します。教育・研修をさらに充実し、研修機関として全国から研修医・臨床心理士・コメディカルが集まることを目指します。大学病院にある利点を生かして研究活動をより発展させ、センターの臨床を基盤とした論文の発表を増やしていきます。

### 3-19 (1) 地域医療連携室

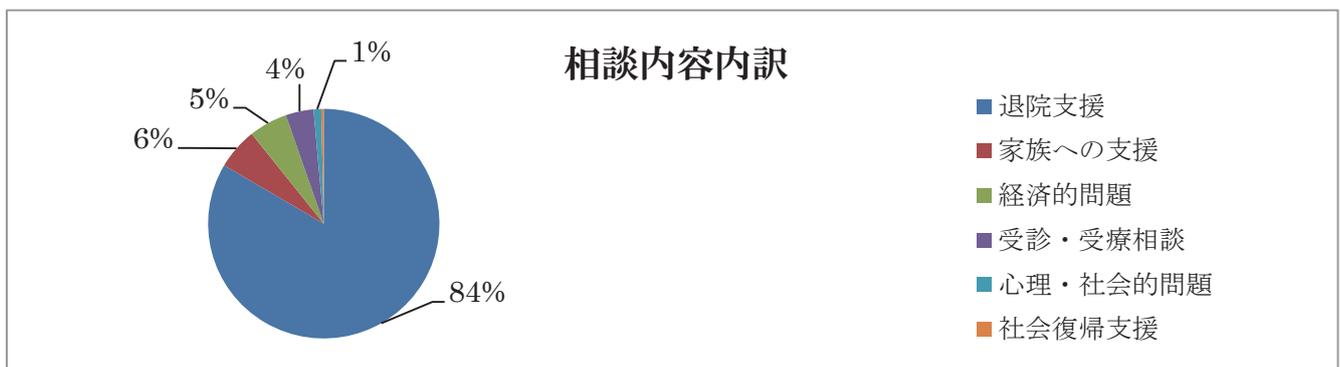
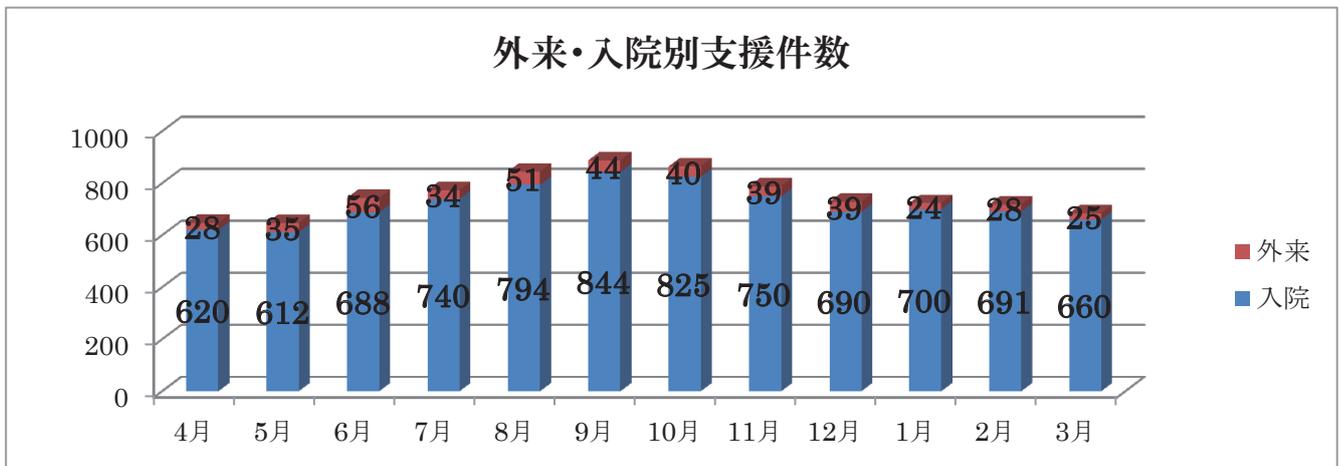
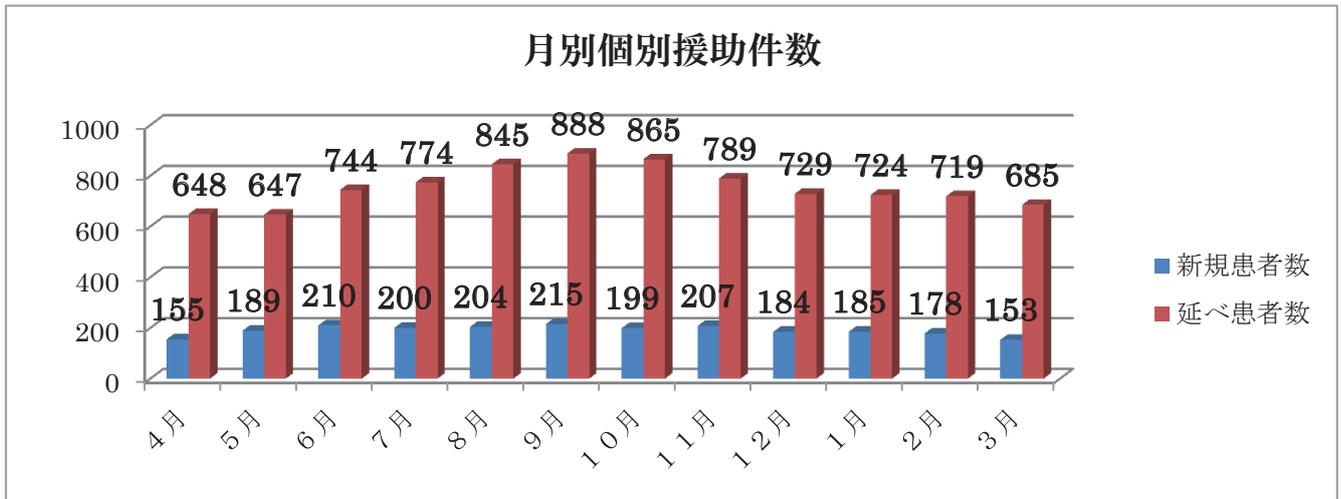
#### 地域別紹介患者数

	2次保健医療圏	市町村	2020年度	2021年度	2022年度
静岡県	賀茂	下田市	598	688	868
		賀茂郡東伊豆町	193	228	240
		賀茂郡河津町	362	343	433
		賀茂郡南伊豆町	44	43	52
		賀茂郡松崎町	33	26	24
		賀茂郡西伊豆町	405	507	477
		小計	1,635	1,835	2,094
	熱海伊東	熱海市	538	518	566
		伊東市	1,946	2,032	2,186
		小計	2,484	2,550	2,752
	駿東田方	沼津市	2,085	2,292	2,554
		三島市	2,445	2,777	3,030
		御殿場市	866	1,150	1,202
		裾野市	698	783	741
		伊豆市	1,792	2,195	1,972
		伊豆の国市	2,794	3,033	3,047
		田方郡函南町	1,652	1,879	1,869
		駿東郡清水町	643	816	874
		駿東郡長泉町	663	758	860
		駿東郡小山町	33	41	48
		小計	13,671	15,724	16,197
	富士	富士宮市	93	96	122
		富士市	297	393	479
		小計	390	489	601
	その他		349	382	362
		県内合計	18,529	20,980	22,006
		県外	749	817	823
	総計	19,278	21,797	22,829	

### 3-19 (2) 医療福祉相談室 (社会福祉士)

社会福祉士（ソーシャルワーカー）7名にて、入院・外来患者家族・地域の各種機関からの相談や調整業務を行っている。入退院支援において退院支援看護師と社会福祉士が協働し病棟別に対応している。主な業務は、転院・退院支援（地域連携パス含む）・外来相談、各種福祉制度・社会保障制度の紹介、経済的な問題についての相談・助言、治療と仕事の両立支援である。心理的・社会的背景や傷病によって生じる生活上の課題を把握し、社会資源を活用しながら個別に支援を行っている。

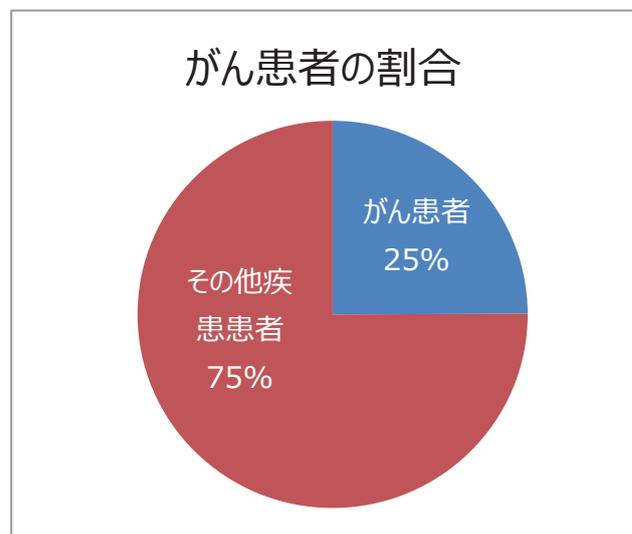
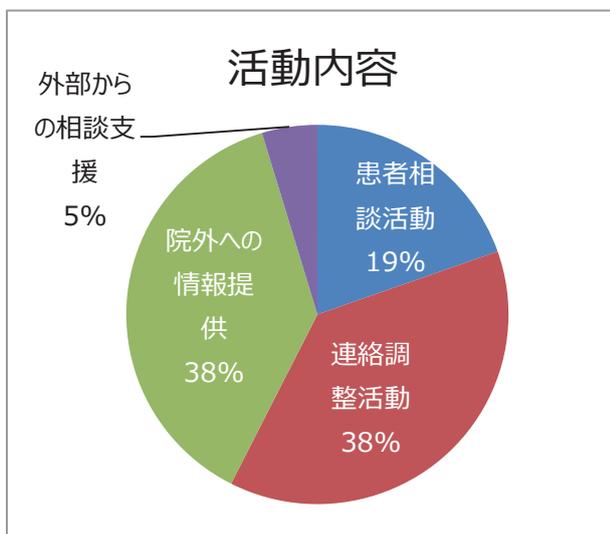
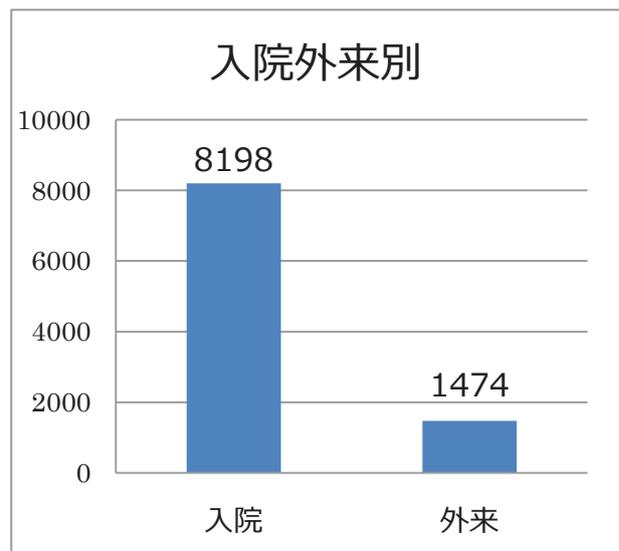
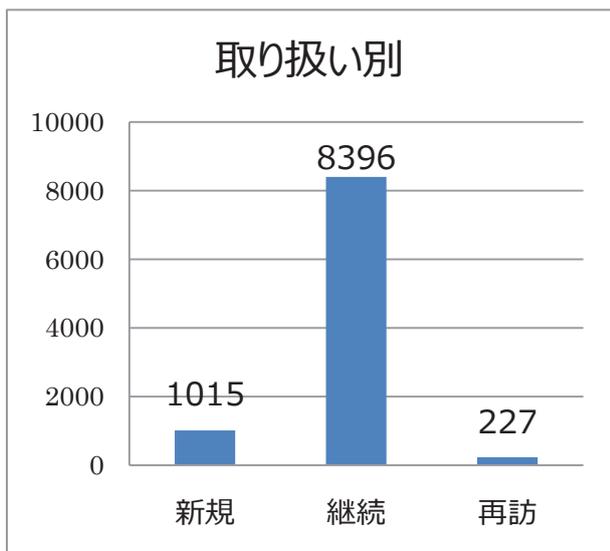
#### 2022 年度業務実績



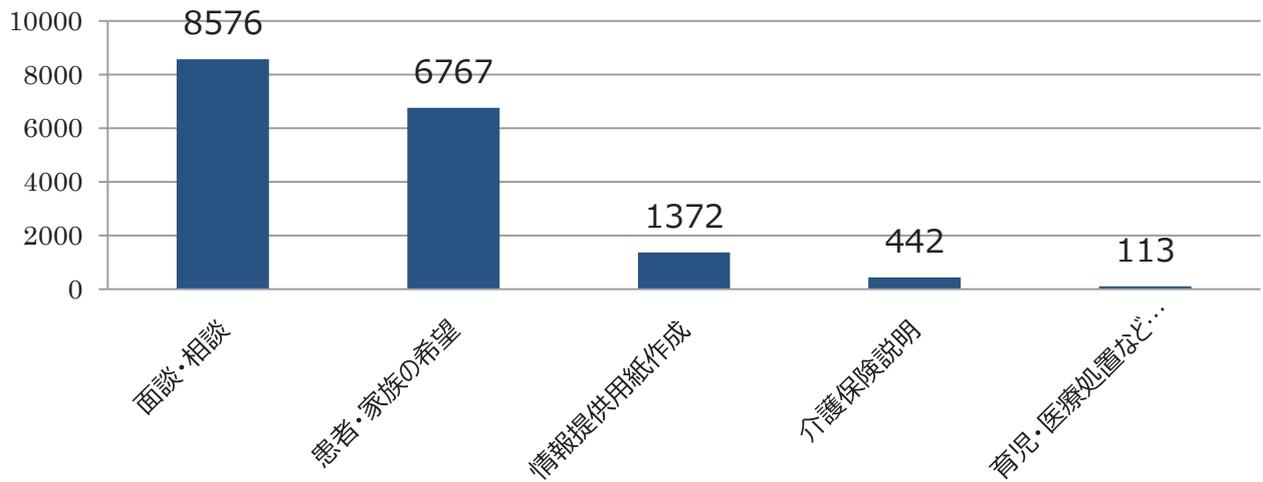
### 3-19 (3) 入退院支援室（入退院支援看護師）

2022年度は前年度に続き地域連携機関との情報交換や意思の疎通はコロナ禍での対応であったため、対面での面談の制約や家族の面会制限が続く環境下においてリモートでの交流が主となった年であった。特に、地域連携の推進においては、入院時及び退院前の Zoom カンファレンスが定着し習慣化されたことにより、929件（月平均77件）の実施に至ることができた。また院内外の多職種への参加を促した結果、院内から2790名（10職種）、地域から2047名（9職種）と多くの多職種参加を得ることができたが、これは支援の質の向上に繋がるため、2023年度も継続していきたい。外来患者においても、訪問看護師や行政保健師・ケアマネジャーなど地域の支援者から、在宅での困難ケースについて Zoom カンファレンス開催の要望があり実施に至ったケースが少なくない状況であった。今後は「ときどき入院、ほぼ在宅」の実現に向けた体制づくりのためにも、外来患者の困難ケースに対して外来と地域とのカンファレンスを積極的に開催していくことが課題であるため、入退院支援看護師としても積極的な介入に努めたい。

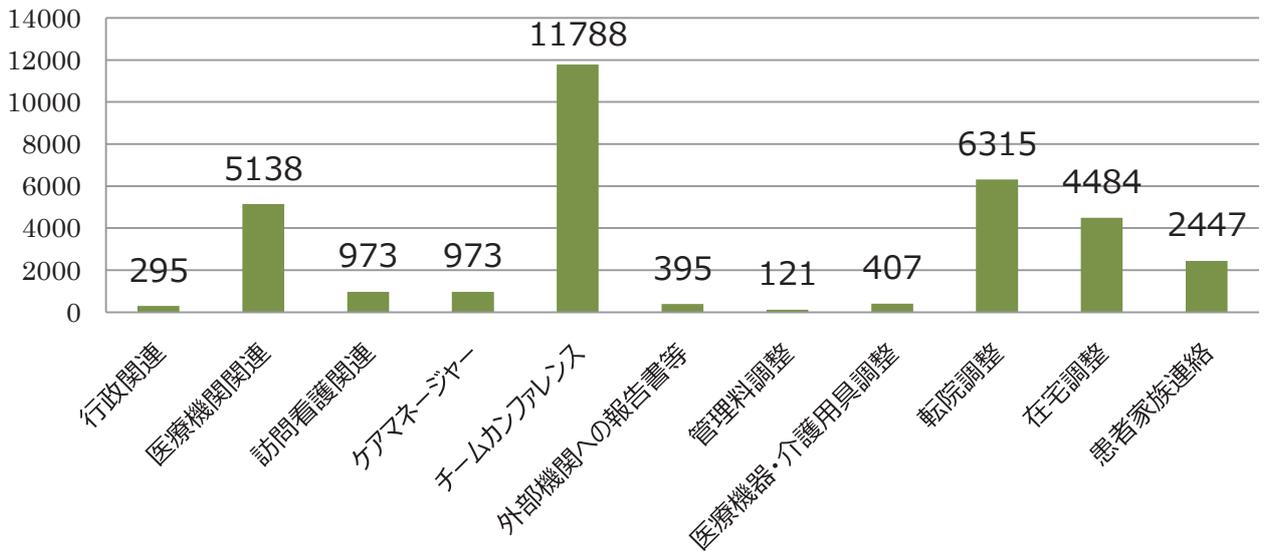
#### 業務実績



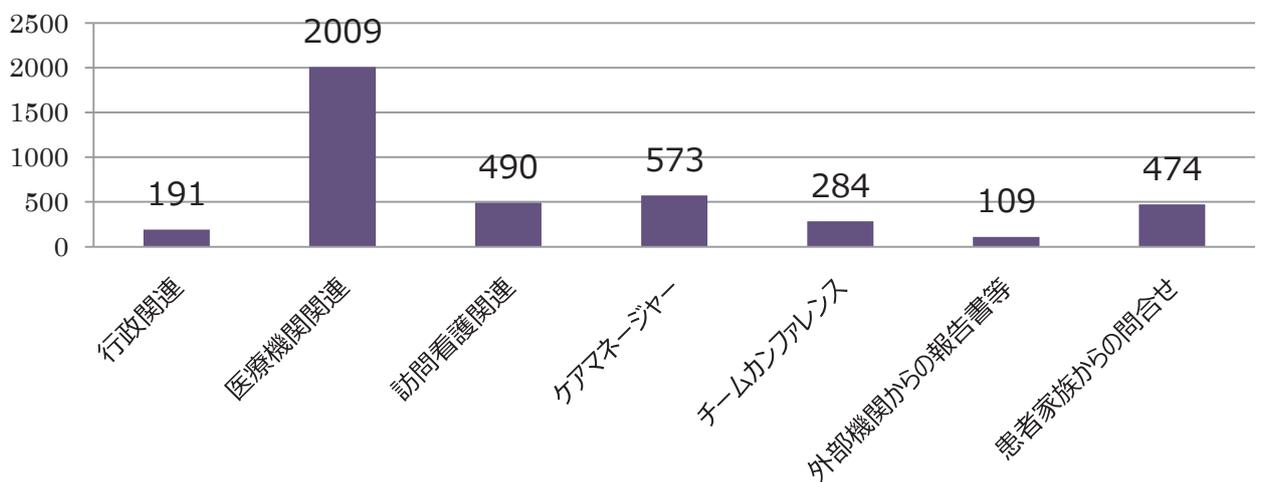
### 患者相談活動



### 院外への情報提供

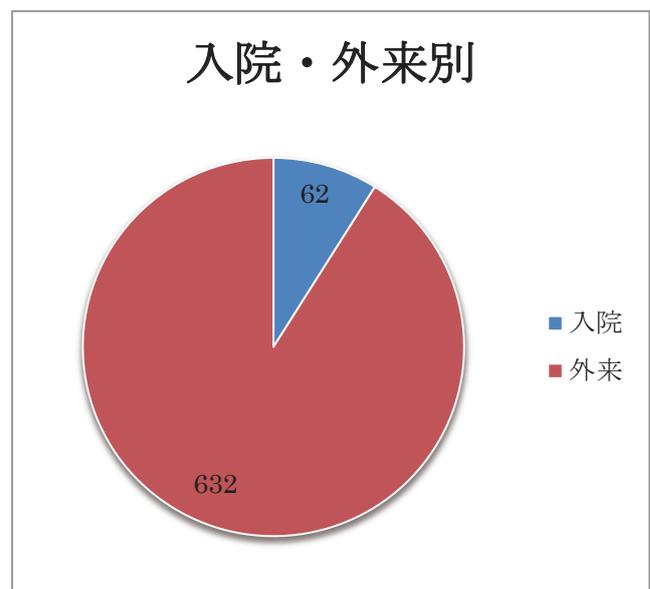
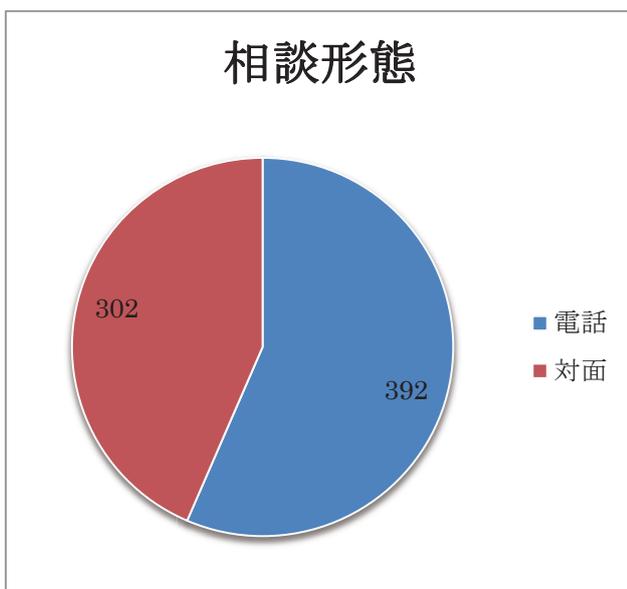
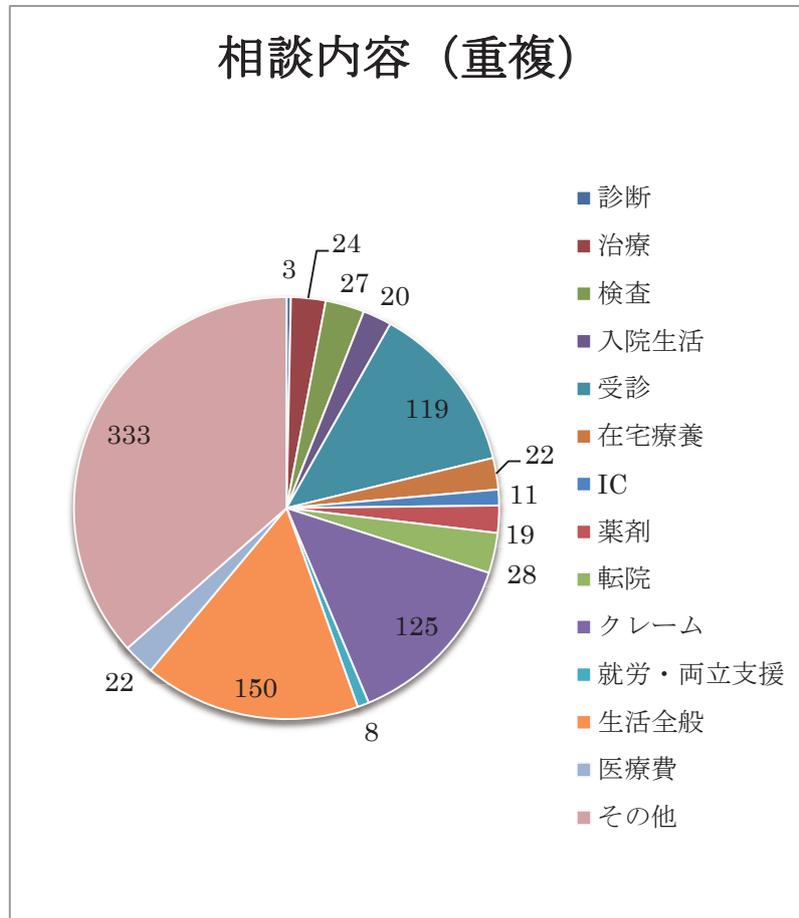


### 外部からの相談支援



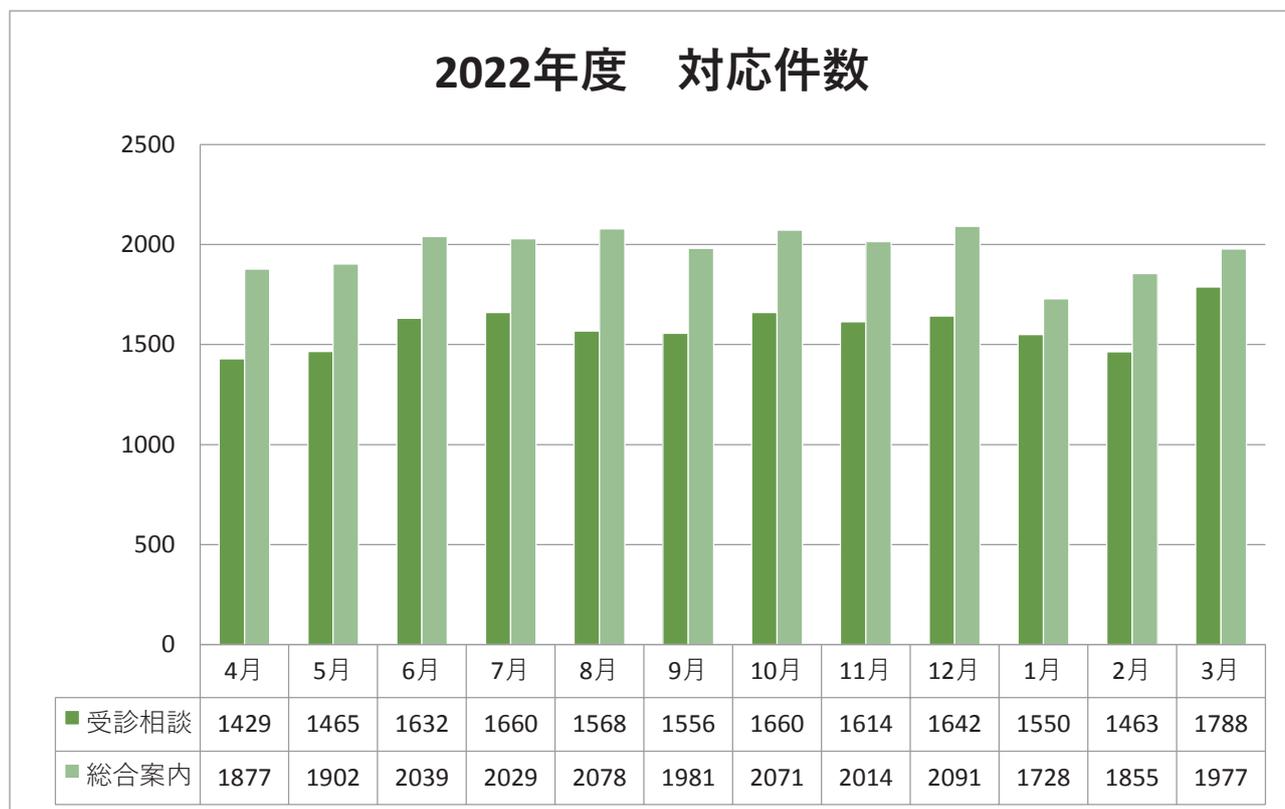
3-19 (4) 患者・看護相談室

業務実績



### 3-19 (5) 受診相談・総合案内

#### 業務実績



内訳		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
受診相談	受診相談	221	260	295	294	276	282	254	274	251	197	230	221
	電話相談	197	165	179	365	481	212	138	193	198	236	162	153
	院内案内	342	352	366	311	251	325	356	373	371	331	313	409
	面会者対応	75	85	106	89	80	93	99	97	121	101	100	124
	受付	184	222	231	189	151	190	241	198	243	229	215	299
	その他の相談等	410	381	455	412	329	454	572	479	458	456	443	582
総合案内	院内案内	972	886	988	961	977	951	1070	982	1021	818	941	980
	面会者対応	222	225	251	232	242	218	265	248	292	260	271	292
	受付	654	783	789	806	835	812	720	762	750	644	620	691
	その他の相談等	29	8	11	30	24	0	16	22	28	6	23	14

### 3-20.医療安全管理室

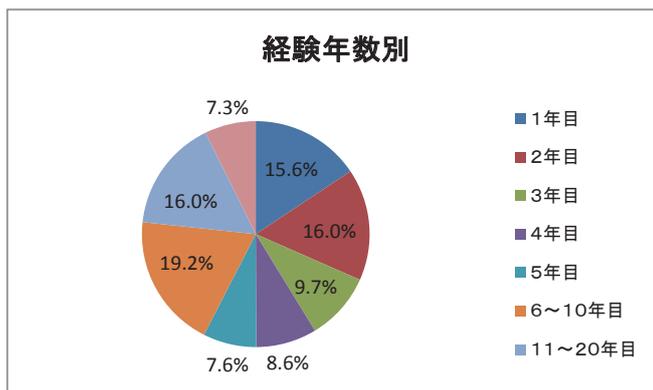
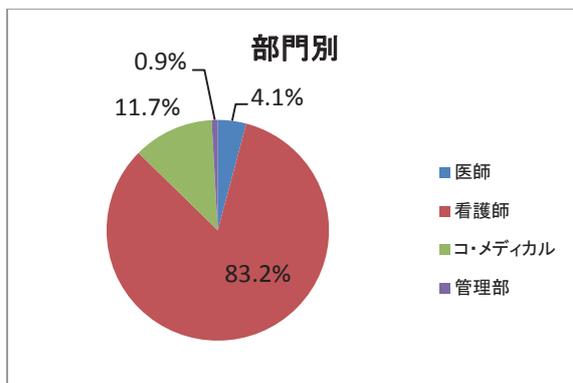
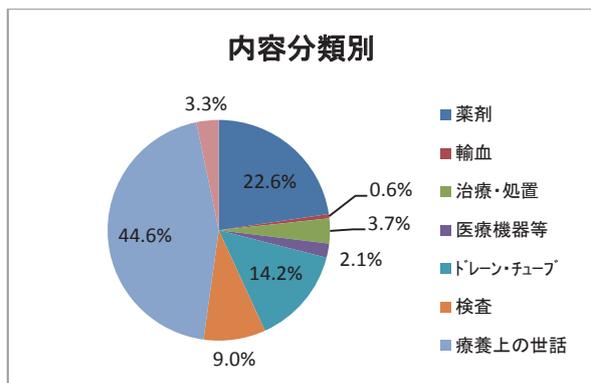
#### 主な活動と実績

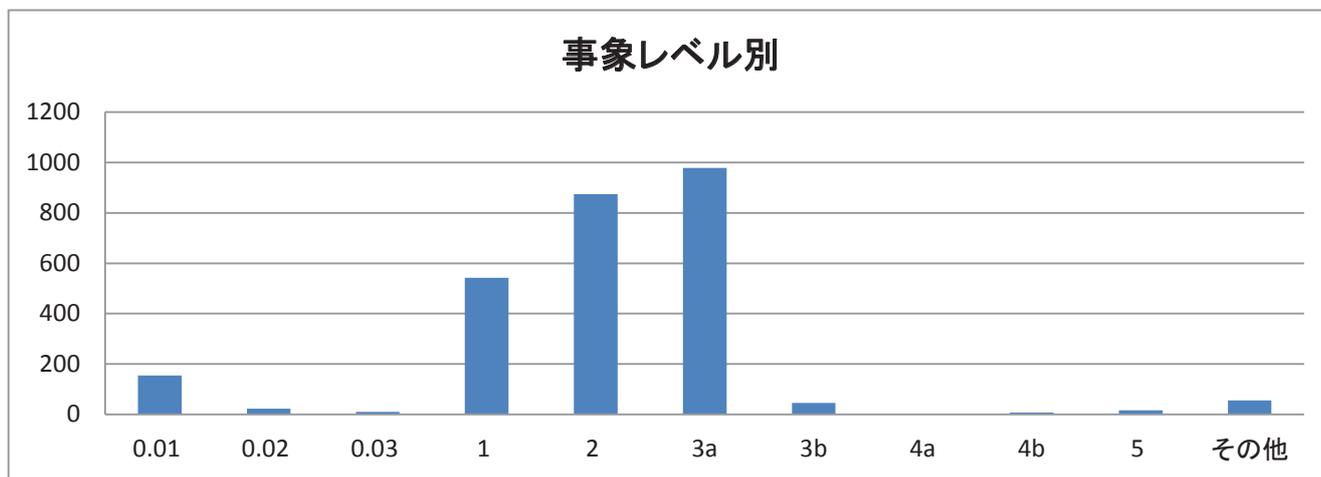
医療安全管理室では、安全で質の高い医療を提供するため医師2名、看護師1名、薬剤師1名、臨床工学技士1名、事務2名を配置し、①医療の安全を確保するための改善方策に関すること ②医療安全管理のための職員への企画・運営および院内広報等の企画・実施 ③医療事故発生時の対応に関すること ④医療安全・危機管理委員会の円滑な運営に関すること ⑤医療安全管理に関する院内の連絡調整 ⑥医療安全に係るカンファレンスを週1回程度開催 ⑦その他医療安全管理に関する業務に取り組んでいる。

このほか、医療安全危機管理委員会を毎月、医療安全研修会を6回開催した。なお、コロナ禍のため委員会はWEB方式、研修会はDVD視聴による研修方式として、感染予防等の安全対策を行ったうえでの開催とした。医療安全に関する院内広報誌（リスクマネジメントニュースレター）を毎月発行し医療場面での注意喚起を行った。苦情・クレーム対応では公平中立な立場で対応し、適正な接遇への指導及び信頼回復に努めた。

2022年度 インシデント・アクシデントレポート報告

部門	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	合計	部門別率	
医師	17	0	35	1	9	19	7	6	24	112	4.1%
看護師	415	13	45	45	357	149	1176	449	53	2253	83.2%
コメディカル	180	4	18	9	18	70	13	9	6	318	11.7%
管理部	1	0	1	1	0	6	10	0	5	24	0.9%
合計	613	17	99	56	384	244	1206	464	88	2707	
項目別率	22.6%	0.6%	3.7%	2.1%	14.2%	9.0%	44.6%	3.3%			





#### 2022 年度 医療安全研修会

全体受講率：98.7%

医師：90.9%、コメディカル：100%、看護部：98.6%、事務部：100%、委託業者：100%、

独立部署：100%

#### 2022 年度 医療安全対策研修会

No	研修テーマ	対象	開催日	主催
1	『医療業界のセキュリティ事情』	全職員	7月5日	NEC
2	『輸血療法について』	医師&看護師	7月5日	薬剤科
3	『個人情報の取り扱いについて』	全職員	8月23日	医療安全管理室
4	『二層式バッグ製剤の開通忘れを防ぐ』	医師&看護師	11月15日	薬剤科
5	『採血時の検体取扱い注意点について』	医師&看護師& コメディカル	12月15日	検査室
6	「医療ガス安全管理について」	医師&看護師& コメディカル	2023年 1月15日	関東エアウォーター 株式会社 吉田 佑

## 3-21 感染対策室

感染対策室では以下のような活動を行っている。

1. 患者に対しては安全な医療環境を提供するために、診療上問題となる病原微生物が発生・伝播・拡散することを防ぐ活動。
  - 病原微生物の感染経路に応じて感染拡大を防止する対策を行う。
  - 手指衛生モニタリングを行い、アルコールゲルなどの使用状況に応じて各部署に指導を行う。
  - 耐性菌の発生率を減少させるために、広域抗菌薬や抗MRSA薬の使用に際して適正な使用状況にあるか、週1回程度のラウンドを行う。
  - 年間計画に沿って院内のいずれかの部署の環境ラウンドを週1回程度行い、病原微生物が繁殖する温床がないかチェックを行う。ハイリスク病棟は1回/週、他の病棟も1回/月、ハイリスク部署は1回/2ヶ月の頻度で行う。
  - 細菌検査室が耐性菌を中心とした報告書を週1回感染対策室に提出し、各病棟で問題となる病原微生物のアウトブレイクがないかチェックを行う。もし、アウトブレイクと判断した場合は、当該部署に指導を行う。
2. 職員を感染曝露から防ぐための活動。
  - 安全衛生管理室と連携して針刺し、切創、粘膜曝露予防策及び発生時の対応方法を職員に指導している。
  - 安全衛生管理室と連携して職業感染予防のためのワクチン接種を推進している。
3. 院内感染対策の広報活動。
  - 院内感染対策を職員に浸透させるための定期的な研修会(e-ラーニング)を開催している。
  - 「新型コロナウイルス」「VRE」に関する対策等は院内通達を通し適時更新。
4. 近隣病院・施設との連携。
  - 連携をしている近隣病院との合同カンファレンス及び訪問指導を通して、各施設が抱えている問題点を提示し、それに対する対策に関して意見交換を行う。
  - 連携病院と相互に院内ラウンドを行い、第三者の目から改善点を指摘しあう。
5. COVID-19 感染症への対応
  - 静岡県が設置している新型コロナウイルス感染症対策チーム(ふじのくに感染症専門医協働チーム)へ応援要員として参加し、施設等の感染対策に対する指導を実践する。
  - 静岡県病院協会と連携し、近隣の社会福祉施設へ感染対策に関連する指導を実施する。

### 業務実績

月	日(曜日)	
4月	1日(金)	新入職員オリエンテーション
	5日(火)	1年目臨床研修医オリエンテーション
	14日(木)	研修医イブニングレクチャー(PPE着脱・N95マスクフィットテスト)
	22日(金)	感染対策委員会

5月	23日(月) 27日(金)	東部地区 感染管理対策担当看護師連絡会議 感染対策委員会
6月	24日(金) 27日(月)	感染対策委員会(配布資料) 東部地区 感染管理対策担当看護師連絡会議
7月	23日(土) 27日(水) 29日(金)	私立医科大学病院感染対策協議会(第13回) J-ICT 感染対策加算合同カンファレンス、感染対策委員会
8月	26日(金)	感染対策委員会
9月	26日(月) 30日(金)	東部地区 感染管理対策担当看護師連絡会議 感染対策加算合同カンファレンス、感染対策委員会
10月	28日(金) 31日(月)	感染対策委員会東部地区 感染管理対策担当看護師連絡会議
11月	4日(金) 18日(金) 24日(木)	地域連携加算相互ラウンド受入(静岡医療センター) 感染対策加算1・2合同カンファレンス、感染対策委員会 静岡県病院協会主催研修会(施設内リーダー育成研修の講師)
12月	7日(水) 15日(木)～ 22日(木) 20日(火)	国立感染症研究所の立ち入り調査打合せ 国立感染症研究所立ち入り調査 ↓ 指導強化加算訪問指導(伊豆赤十字病院)
1月	23日(月) 24日(火) 27日(金)	東部地区 感染管理対策担当看護師連絡会議 第1回VRE対策委員会 感染対策加算合同カンファレンス、感染対策委員会
2月	7日(火) 15日(水) 17日(水) 24日(金) 28日(火)	指導強化加算訪問指導(リハビリテーション中伊豆温泉病院) 地域連携加算相互ラウンド訪問(沼津市立病院) 研修医研修(PPE着脱) 感染対策委員会 指導強化加算訪問指導(村田内科クリニック) 第2回VRE対策委員会
3月	1日(水) 6日(月) 18日(金) 29日(水)	指導強化加算訪問指導(伊豆保健医療センター) 東部地区合同カンファレンス 感染防止対策加算1・2合同カンファレンス 感染対策委員会(配布資料) 第3回VRE対策委員会
年間		感染対策研修会・抗菌薬研修会をDVD等で実施 COVID-19チーム担当医師への防護具着脱訓練及びフィットテスト実施

## 次年度目標(2022年度の総括と次年度の目標)

### 1. 2022年度の総括

- VRE アウトブレイクが常態化し、多数の病棟へと広がりを見せたため、国立感染症研究所の立ち入り調査を受入、VRE 対策委員会を設置し、対策を強化している。
- MRSA アウトブレイクは3件の発生を認め対応した。
- COVID-19 感染症の各部署で発生したクラスターに対応した。
- 抗菌薬ラウンド及び抗菌薬適正使用支援チームの活動を通し、広域抗菌薬や抗 MRSA 薬の使用適正化を進めた。
- 手指衛生は看護部と連携し、アルコール使用量は 28.09 回/患者/日程度とやや減少傾向にある。手指衛生実施率・遵守率は医師・看護職員・コメディカルとも変化は見られない。
- 環境衛生については ICT ラウンドの実施、看護部リンクナースと協働し衛生的な病院環境の提供に努め、再ラウンド時に改善を確認している。特に点滴に関する環境とトイレや汚物室の環境改善が継続して課題となっている。
- CLA-BSI/CA-UTI サーベイランスでは、ほとんどの部署で感染率が横ばい状態。
- SSI サーベイランスを新たに開始した。

### 2. 2023年度の目標

- VRE の新規発生を「ゼロ」にする
- 抗菌薬ラウンドと血液培養陽性症例のラウンドを行い、抗菌薬の適正使用の更なる推進を図る。
- CLA-BSI/CA-UTI 感染率は 2019 年度データを下回る。
- アウトブレイクマニュアルを活用し、各部署が耐性菌等の対策遵守を自主的に実施できるよう活動を促し、実践能力の向上を目指すための支援を行う。また、耐性菌のアウトブレイクや COVID-19 感染症を始めとした新興感染症等のクラスターの発生を未然に防ぐための広報活動を実施する。

### 3-22 健康安全推進センター

#### 2022年度 安全衛生管理室行事

年 月	日	曜 日	行 事
2022年	1	金	新入職員オリエンテーション
4月	27	水	安全衛生委員会
5月	23～	月～	胃検診(胃内視鏡検査)
	23～25	月～水	B型肝炎ワクチン接種
	25	水	安全衛生委員会
	中旬～下旬	月～金	新入職員面談
6月	6～30	月～金	春季健康診断、ストレスチェック
	上旬	月～金	新入職員面談
	1～30	火～水	胃検診(胃内視鏡検査)
	27～29	月～水	B型肝炎ワクチン接種
	29	水	安全衛生委員会
7月	～8	～金	胃検診(胃内視鏡検査)
	27	水	安全衛生委員会
8月	24	水	安全衛生委員会
9月	28	水	安全衛生委員会
10月	24～26	月～水	B型肝炎ワクチン接種
	26	水	安全衛生委員会
	28	金	校医会・法人安全衛生委員会
	31～	月～	インフルエンザ予防接種
11月	～4	～金	インフルエンザ予防接種
	30	水	安全衛生委員会
12月	5～9	月～金	秋季健康診断
	28	水	安全衛生委員会
2023年	25	水	安全衛生委員会
1月			
2月	13～15	月～水	流行性ウイルス性疾患(麻疹・風疹・ムンプス・水痘)ワクチン接種
	22	水	安全衛生委員会
3月	13～15	月～水	流行性ウイルス性疾患(麻疹・風疹・ムンプス・水痘)ワクチン接種
	22	水	安全衛生委員会

【月毎定例行事】 飲食物取扱従事者検便《毎月第2火曜日》  
 ※6月～9月は、第2・4火曜日(月2回)実施  
 託児所業務従事者検便《毎月第2火曜日》

【随 時】 雇い入れ時健康診断

## 業務実績

### 定期健康診断受診率

	春 季			秋 季		
実施期日	2022年6月6日～6月30日			2022年12月5日～12月9日		
実施項目	身体測定、血液検査、尿検査、血圧測定、視力検査、聴力検査、心電図検査、胸部X線、胃透視検査(40歳以上希望者)、内科診察			身体測定、血液検査、尿検査、血圧測定、視力検査、聴力検査、内科診察		
受 診 率	全 体	1,342/1,342	(100.0%)	全 体	816/816	(100.0%)
	医 師	263/263	(100.0%)	医 師	192/192	(100.0%)
	コメディカル	205/205	(100.0%)	コメディカル	61/61	(100.0%)
	看護部	755/755	(100.0%)	看護部	561/561	(100.0%)
	事務部	119/119	(100.0%)	事務部	2/2	(100.0%)

## 4. 統計



#### 4-1 病床利用率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度
病 床 数	602	602	602	602	602	602	602	602	602	602	602	602	602
病 床 利 用 率	95.5%	91.7%	95.4%	92.7%	82.9%	91.9%	93.2%	91.4%	93.7%	93.6%	96.5%	94.2%	92.7%

#### 4-2 在院日数

(単位:日)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度
診療科													
内 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠 原 病 内 科 ・ リウマチ科	10.8	8.4	14.9	15.6	17.0	17.5	18.6	11.5	12.1	14.4	10.4	9.0	12.9
血 液 内 科	21.4	19.9	16.9	21.7	17.0	21.1	19.5	19.5	15.3	20.5	15.2	18.3	18.6
消 化 器 内 科	8.6	8.8	8.1	12.3	10.6	10.9	10.1	9.1	8.8	10.2	11.2	10.7	9.8
呼 吸 器 内 科	12.8	16.0	14.6	13.1	18.2	16.6	18.1	18.2	15.6	13.8	13.1	13.6	15.1
腎 臓 内 科	28.6	19.9	15.7	13.0	15.6	21.7	13.7	15.4	16.6	20.8	20.8	20.0	17.2
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科	16.7	10.2	8.9	14.6	12.1	13.2	11.8	11.5	9.2	7.7	7.4	10.5	10.9
循 環 器 内 科	8.6	10.0	8.3	8.1	9.9	8.1	9.5	8.5	10.6	10.4	9.9	10.5	9.3
小 児 科	6.5	4.2	5.1	4.5	4.8	4.3	5.9	5.2	5.3	4.6	4.9	4.5	4.9
小 児 外 科	2.4	5.1	4.1	6.8	2.9	5.3	3.7	3.3	5.4	4.0	4.0	5.0	4.3
新 生 児 科	20.3	27.1	20.0	23.1	17.6	19.5	24.8	34.1	28.7	24.0	27.5	31.2	24.0
外 科	9.7	11.5	10.3	11.8	11.2	9.9	9.4	10.9	9.4	9.7	11.3	10.9	10.5
脳 神 経 外 科	18.8	19.8	15.8	16.7	19.3	16.7	15.5	23.5	15.4	24.1	20.3	18.2	18.4
整 形 外 科	30.4	18.0	18.7	18.7	23.1	16.5	18.0	17.9	18.9	19.3	19.7	17.4	19.2
脳 神 経 内 科	21.8	24.5	18.3	18.5	27.7	16.9	18.6	20.9	18.5	19.7	25.3	18.8	20.4
心 臓 血 管 外 科	15.0	15.7	16.8	12.0	14.2	13.8	12.9	11.8	16.1	11.7	14.6	12.3	13.7
呼 吸 器 外 科	10.0	10.8	12.3	13.1	10.4	11.6	10.7	11.2	11.5	13.2	11.5	12.2	11.5
形 成 外 科	12.1	19.0	15.1	24.6	30.9	14.8	24.8	24.9	14.2	21.1	22.2	14.6	18.8
眼 科	5.4	5.4	5.6	5.8	5.1	5.9	5.3	5.4	5.8	5.2	5.2	5.3	5.5
耳 鼻 咽 喉 科	10.6	8.1	10.2	8.9	9.3	7.7	7.5	7.7	9.0	8.5	9.5	9.6	8.8
麻 酔 科 ・ ペインクリニック	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
放 射 線 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メ ン タ ル ク リ ニ ッ ク	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
皮 膚 ・ ア レ ル ギ ー 科	7.6	7.1	5.8	5.3	6.7	8.3	6.0	7.9	5.2	7.4	8.1	6.5	6.7
泌 尿 器 科	8.4	8.0	7.6	7.9	8.0	7.2	6.4	7.8	6.4	6.6	6.9	7.0	7.3
産 婦 人 科	7.5	6.4	6.0	7.6	6.6	7.0	7.2	7.0	6.4	6.6	6.5	6.7	6.8
救 急 診 療 科	8.5	16.7	9.8	9.3	12.1	12.0	9.2	11.8	11.2	14.3	11.4	11.6	11.2
合 計	11.4	11.4	10.5	11.2	11.8	10.9	10.9	11.5	11.0	11.7	11.5	11.1	11.2

※2022年2月より、小児外科開設

### 4-3 診療科別延患者数(外来)

(単位:人)

診療科	月												月平均	当年度計	前年度計	前年比	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
内科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
膠原病・リウマチ	1,547	1,407	1,581	1,616	1,669	1,540	1,548	1,542	1,579	1,485	1,473	1,672	1,555	18,659	17,423	107.1%	
血液内科	1,290	1,309	1,359	1,452	1,512	1,556	1,515	1,414	1,465	1,469	1,428	1,603	1,448	17,372	16,013	108.5%	
消化器内科	1,935	1,803	2,045	2,094	2,087	2,236	1,994	2,040	2,179	1,952	1,878	2,253	2,041	24,496	23,632	103.7%	
呼吸器内科	2,000	1,768	1,923	1,851	1,879	1,920	1,814	2,014	1,933	1,761	1,730	1,879	1,873	22,472	22,444	100.1%	
腎臓内科	1,105	1,036	1,150	1,165	1,158	1,171	1,078	1,079	1,073	1,098	1,065	1,230	1,117	13,408	12,308	108.9%	
糖尿病・内分泌内科	2,455	2,310	2,377	2,416	2,450	2,382	2,352	2,308	2,406	2,239	2,228	2,529	2,371	28,452	28,080	101.3%	
循環器内科	4,280	3,916	4,315	4,063	4,270	4,397	4,202	4,088	4,300	3,967	4,024	4,386	4,184	50,208	48,248	104.1%	
小児科	1,221	1,231	1,317	1,541	1,599	1,419	1,420	1,369	1,465	1,399	1,417	1,585	1,415	16,983	15,280	111.1%	
小児外科	19	54	58	47	66	69	76	102	76	81	103	103	1	834	13	6569.2%	
新生児科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
外科	2,235	2,175	2,494	2,336	2,331	2,505	2,379	2,395	2,350	2,160	2,176	2,474	2,334	28,010	27,169	103.1%	
脳神経外科	2,030	1,987	2,048	2,017	2,037	2,108	2,077	1,968	2,064	1,881	1,855	2,154	2,019	24,226	24,016	100.9%	
整形外科	2,955	2,762	3,179	2,848	2,915	2,840	2,727	2,597	2,793	2,579	2,507	2,898	2,800	33,600	34,412	97.6%	
脳神経内科	2,031	1,921	2,115	2,034	2,181	2,226	2,108	2,107	2,109	2,017	1,953	2,230	2,087	25,042	23,525	106.4%	
心臓血管外科	333	303	351	319	345	344	312	355	319	330	286	353	329	3,950	3,426	115.3%	
呼吸器外科	264	248	303	248	255	258	279	236	264	256	231	279	260	3,121	3,006	103.8%	
形成外科	429	400	425	359	369	330	319	359	354	361	362	388	371	4,455	4,355	102.3%	
眼科	2,852	2,720	2,990	2,876	2,922	2,947	2,861	2,934	3,060	2,825	2,806	3,388	2,932	35,181	34,622	101.6%	
耳鼻咽喉科	1,355	1,292	1,411	1,377	1,410	1,351	1,336	1,296	1,301	1,259	1,262	1,531	1,348	16,181	15,320	105.6%	
麻酔科	144	133	161	152	166	160	147	152	139	140	131	174	150	1,799	1,864	96.5%	
放射線科	278	368	510	394	281	334	494	408	257	335	396	415	373	4,470	3,557	125.7%	
メソナルクリニック	2,314	2,369	2,431	2,398	2,621	2,454	2,331	2,506	2,402	2,322	2,276	2,618	2,420	29,042	28,505	101.9%	
皮膚・アレルギー科	2,523	2,494	2,474	2,808	2,970	2,803	2,772	2,559	2,615	2,410	2,427	2,781	2,636	31,636	30,438	103.9%	
泌尿器科	1,827	1,788	1,850	1,894	1,847	1,861	1,772	1,775	1,954	1,825	1,747	1,993	1,844	22,133	22,680	97.6%	
産婦人科	2,631	2,605	2,952	2,774	2,726	2,851	2,853	2,784	2,803	2,621	2,579	3,069	2,771	33,248	32,090	103.6%	
救急診療科	66	81	62	96	115	78	88	99	91	69	54	64	80	963	932	103.3%	
リハビリテーション科	29	20	26	24	38	29	19	20	27	21	27	37	26	317	395	80.3%	
計	40,148	38,500	41,907	41,199	42,219	42,179	40,873	40,506	41,378	38,862	38,421	44,086	40,857	490,278	473,753	103.5%	

※2022年2月より、小児外科開設

#### 4-4 診療科別延患者数(入院)

(単位:人)

診療科	月												月平均	当年度計	前年度計	前年比		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3						
膠原病内科	147	242	333	331	344	305	314	315	314	315	275	276	262	290	286	3,434	2,185	157.2%
血液内科	573	534	608	605	514	509	673	594	673	594	646	687	624	637	600	7,204	6,102	118.1%
消化器内科	832	958	764	801	1,016	972	980	844	883	844	883	911	847	900	892	10,708	10,192	105.1%
呼吸器内科	609	679	718	626	633	563	759	760	907	907	998	998	664	730	721	8,646	9,323	92.7%
腎臓内科	503	451	465	340	313	498	386	344	423	491	491	461	424	424	425	5,099	4,418	115.4%
糖尿病・内分泌内科	204	196	164	193	152	203	188	210	136	145	152	152	187	178	178	2,130	2,170	98.2%
循環器内科	1,588	1,793	1,754	1,476	1,133	1,549	1,714	1,465	1,832	1,766	1,832	1,766	1,633	1,773	1,623	19,476	18,598	104.7%
小児科	262	222	263	305	342	286	314	353	322	285	322	285	289	286	294	3,529	3,287	107.4%
小児外科	18	50	44	85	55	70	70	71	74	66	60	60	60	90	0	753	4	18825.0%
新生児科	724	815	797	683	726	779	799	736	860	862	755	821	821	780	780	9,357	9,230	101.4%
脳神経外科	1,933	1,978	2,076	2,235	1,799	1,813	1,794	1,869	1,926	1,860	1,926	1,860	1,837	2,022	1,929	23,142	23,515	98.4%
脳神経内科	1,974	2,012	1,836	1,899	1,878	2,021	1,960	2,032	1,916	2,261	1,916	2,261	1,956	1,893	1,970	23,638	20,490	115.4%
整形外科	1,673	1,798	1,815	1,875	1,584	1,706	1,872	1,862	1,944	1,896	1,944	1,896	1,631	1,763	1,785	21,419	21,556	99.4%
脳神経内科	730	765	648	712	633	627	736	779	668	505	668	505	697	765	689	8,265	8,065	102.5%
心臓血管外科	438	410	561	544	369	474	469	367	424	415	424	415	478	512	457	5,481	4,663	117.5%
呼吸器外科	189	211	249	248	210	207	187	159	221	155	201	155	201	206	204	2,443	1,850	132.1%
形成外科	191	209	194	281	257	150	247	179	217	219	222	222	222	281	221	2,647	2,837	93.3%
眼科	729	698	795	782	427	666	776	775	695	647	723	754	723	754	706	8,467	8,356	101.3%
耳鼻咽喉科	329	299	339	223	319	334	327	318	406	366	308	366	308	420	332	3,988	4,000	99.7%
麻酔科	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	1	7	4	—
放射線科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
メソナルクリニック	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
皮膚・アレルギー科	227	233	198	249	155	214	235	142	158	193	251	251	220	206	206	2,475	3,122	79.3%
泌尿器科	672	601	600	543	583	605	631	524	492	536	574	649	649	584	584	7,010	6,694	104.7%
産婦人科	1,560	1,421	1,399	1,581	1,283	1,390	1,436	1,210	1,312	1,222	1,217	1,376	1,376	1,367	1,367	16,407	19,129	85.8%
救急診療科	413	560	632	712	778	687	550	617	753	710	428	588	588	619	619	7,428	7,946	93.5%
リハビリテーション科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	16,538	17,135	17,252	17,329	15,503	16,628	17,423	16,526	17,490	17,472	16,270	17,587	16,929	16,929	203,153	197,736	102.7%	

※2022年2月より、小児外科開設

198

#### 4-5 新患者数(外来)

(単位:人)

診療科	月													月平均	当年度計	前年度計	前年比
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
内科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠原病内科 ・リウマチ科	48	38	58	93	87	47	38	49	61	41	36	50	54	646	415	155.7%	
血液内科	45	50	62	53	50	42	61	37	71	59	48	52	53	630	563	111.9%	
消化器内科	75	83	93	112	131	108	82	95	87	108	104	122	100	1,200	1,040	115.4%	
呼吸器内科	203	164	153	145	162	121	168	204	134	112	90	108	147	1,764	925	190.7%	
腎臓内科	31	28	46	43	44	41	36	36	38	43	31	44	38	461	391	117.9%	
糖尿病 ・内分泌内科	43	47	37	62	44	33	30	32	32	36	40	49	40	485	363	133.6%	
循環器科	93	92	105	86	89	92	101	97	85	90	99	116	95	1,145	976	117.3%	
小児科	82	94	124	224	175	123	117	83	104	89	79	106	117	1,400	1,148	122.0%	
小児外科	4	14	8	8	14	10	11	11	3	6	10	10	9	109	0	-	
新生児科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
外科	57	69	108	88	99	110	107	120	86	78	87	70	90	1,079	963	112.0%	
脳神経外科	87	98	93	88	107	85	95	94	101	78	82	94	92	1,102	1,007	109.4%	
整形外科	229	241	272	229	208	201	218	181	205	187	192	219	215	2,582	2,219	116.4%	
脳神経内科	64	66	77	57	89	63	60	47	49	52	51	67	62	742	600	123.7%	
心臓血管外科	18	19	18	16	25	12	10	23	14	20	16	10	17	201	142	141.5%	
呼吸器外科	2	2	4	6	5	3	8	4	5	12	6	6	5	63	68	92.6%	
形成外科	51	41	40	39	43	38	30	50	38	35	35	36	40	476	373	127.6%	
眼科	133	158	162	142	134	146	147	130	137	151	134	149	144	1,723	1,270	135.7%	
耳鼻咽喉科	91	106	105	116	91	101	95	103	70	90	89	103	97	1,160	1,048	110.7%	
麻酔科	3	4	2	5	3	2	1	3	-	1	1	6	3	31	50	62.0%	
放射線科	4	26	13	16	18	9	21	20	15	13	7	16	15	178	154	115.6%	
メンタル クリニック	53	69	69	63	61	60	61	70	57	53	44	69	61	729	620	117.6%	
皮膚 ・アレルギー科	104	126	158	169	169	141	129	107	108	108	113	144	131	1,576	1,295	121.7%	
泌尿器科	69	60	70	82	66	60	58	68	80	57	60	59	66	789	662	119.2%	
産婦人科	174	147	154	147	183	167	145	126	119	149	148	169	152	1,828	1,591	114.9%	
救急診療科	41	49	33	52	70	53	52	59	56	48	28	44	49	585	495	118.2%	
リハビリ テーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	1,804	1,891	2,064	2,141	2,167	1,868	1,881	1,849	1,755	1,716	1,630	1,918	1,890	22,684	18,378	123.4%	

※2022年2月より、小児外科開設

## 4-6 新患者数(入院)

(単位:人)

診療科	月												月平均	当年度計	前年度計	前年比	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
内 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%
膠原病内科 ・リウマチ科	16	16	16	16	13	21	14	19	11	8	16	8	15	174	165	105.5%	
血液内科	22	25	19	28	21	26	21	22	19	23	22	26	23	274	258	106.2%	
消化器内科	85	94	83	82	96	88	76	75	75	88	77	79	83	998	1,010	98.8%	
呼吸器内科	34	47	47	62	61	48	34	33	44	57	46	46	47	559	458	122.1%	
腎臓内科	26	29	23	27	25	17	23	19	29	19	13	22	23	272	225	120.9%	
糖尿病・ 内分泌内科	10	12	11	13	19	14	13	11	9	16	13	15	13	156	148	105.4%	
循環器科	146	149	159	152	141	149	180	177	154	171	132	168	157	1,878	1,703	110.3%	
小児科	45	41	33	50	35	27	51	36	49	47	35	49	42	498	467	106.6%	
小児外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0	2	0	-	
新生児科	35	29	24	31	31	34	43	31	30	33	23	33	31	377	420	89.8%	
外 科	165	146	162	192	182	186	183	180	180	178	110	196	172	2,060	1,985	103.8%	
脳神経外科	95	82	99	72	83	90	106	103	103	85	80	95	91	1,093	1,073	101.9%	
整形外科	92	100	107	101	95	91	89	98	92	103	80	99	96	1,147	1,046	109.7%	
脳神経内科	39	30	35	37	40	41	38	45	42	37	24	35	37	443	419	105.7%	
心臓血管外科	22	27	18	20	18	23	28	20	26	20	24	22	22	268	184	145.7%	
呼吸器外科	14	12	7	11	8	14	12	16	16	18	11	10	12	149	170	87.6%	
形成外科	9	9	13	10	13	8	13	9	7	12	7	10	10	120	135	88.9%	
眼 科	99	120	102	92	93	101	105	130	100	98	70	118	102	1,228	1,052	116.7%	
耳鼻咽喉科	32	25	30	36	32	35	35	32	29	39	25	43	33	393	381	103.1%	
麻 酔 科	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%	
放射線科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%	
メンタル クリニック	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%	
皮 膚 ・アレルギー科	33	37	44	30	34	26	28	30	32	26	24	27	31	371	299	124.1%	
泌尿器科	69	56	66	60	69	59	58	54	50	55	60	81	61	737	710	103.8%	
産婦人科	180	173	169	160	165	176	181	184	170	190	157	195	175	2,100	2,052	102.3%	
救急診療科	48	77	76	76	78	57	72	57	59	54	61	57	64	772	834	92.6%	
リハビリ テーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%	
合 計	1,316	1,336	1,343	1,359	1,352	1,332	1,403	1,381	1,326	1,377	1,110	1,436	1,339	16,071	15,194	105.8%	

※2022年2月より、小児外科開設

## 4-7 退院患者数

(単位:人)

診療科	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
内科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠原病内科 ・リウマチ科	14	18	17	16	13	23	21	14	12	7	16	11	15	182	175	104.0%
血液内科	21	27	26	27	22	24	26	21	26	21	21	26	24	288	279	103.2%
消化器内科	82	84	91	83	85	90	85	75	91	70	80	85	83	1,001	1,006	99.5%
呼吸器内科	42	44	48	52	63	47	49	34	37	46	50	42	46	554	461	120.2%
腎臓内科	23	26	27	24	29	23	16	21	28	18	16	27	23	278	248	112.1%
糖尿病 ・内分泌内科	11	13	9	11	19	14	15	10	11	13	15	12	13	153	139	110.1%
循環器科	148	135	156	143	141	142	184	161	164	144	149	153	152	1,820	1,662	109.5%
小児科	44	41	33	52	35	29	46	39	46	50	32	53	42	500	468	106.8%
小児外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1	0	-
新生児科	35	26	30	32	29	25	44	32	35	29	21	37	31	375	431	87.0%
外科	171	144	154	195	182	180	188	173	192	168	127	184	172	2,058	1,999	103.0%
脳神経外科	98	89	97	88	80	84	96	101	104	82	75	88	90	1,082	1,051	102.9%
整形外科	106	96	114	106	108	103	104	94	117	98	84	103	103	1,233	1,145	107.7%
脳神経内科	35	27	43	37	36	37	38	45	48	43	23	33	37	445	435	102.3%
心臓血管外科	24	29	18	25	20	26	22	29	30	21	20	28	24	292	201	145.3%
呼吸器外科	14	12	10	12	6	13	15	13	23	12	16	15	13	161	181	89.0%
形成外科	13	10	14	16	15	9	12	14	14	8	10	14	12	149	153	97.4%
眼科	97	120	108	85	101	91	112	121	115	84	84	106	102	1,224	1,046	117.0%
耳鼻咽喉科	34	28	30	36	29	33	39	25	37	35	32	35	33	393	374	105.1%
麻酔科	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
放射線科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メンタル クリニック	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮膚 ・アレルギー科	25	40	41	31	29	34	27	29	33	28	17	32	31	366	294	124.5%
泌尿器科	68	58	73	63	70	64	66	52	55	52	54	76	63	751	713	105.3%
産婦人科	167	165	169	160	179	165	178	184	195	178	153	196	174	2,089	2,086	100.1%
救急診療科	42	63	59	60	72	45	60	45	43	43	52	51	53	635	681	93.2%
リハビリ テーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,314	1,295	1,367	1,355	1,363	1,302	1,443	1,332	1,456	1,250	1,147	1,408	1,336	16,032	15,228	105.3%

※2022年2月より、小児外科開設

### 4-8 年齢別延患者数(外来)

(単位:人)

年齢	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
0 歳	歳	412	475	432	497	510	522	500	463	426	464	418	393	459	5,512	4,837	114.0%
1-6 歳	歳	670	651	743	823	819	684	783	766	806	720	763	905	761	9,133	7,665	119.2%
0-9 歳	歳	1,324	1,339	1,411	1,564	1,618	1,453	1,497	1,458	1,496	1,447	1,388	1,602	1,466	17,597	15,069	116.8%
10-19 歳	歳	1,010	1,013	1,176	1,217	1,417	1,151	1,079	1,081	1,274	1,064	1,117	1,430	1,169	14,029	13,513	103.8%
20-29 歳	歳	1,682	1,615	1,720	1,734	1,870	1,675	1,645	1,718	1,655	1,580	1,565	1,812	1,689	20,271	20,589	98.5%
30-39 歳	歳	2,449	2,397	2,507	2,609	2,642	2,393	2,381	2,341	2,318	2,350	2,254	2,526	2,431	29,167	52,050	56.0%
40-49 歳	歳	3,487	3,422	3,709	3,585	3,663	3,575	3,470	3,471	3,627	3,301	3,263	3,731	3,525	42,304	42,369	99.8%
50-59 歳	歳	5,144	4,727	5,231	5,177	5,280	5,400	5,233	5,200	5,360	5,013	4,933	5,587	5,190	62,285	57,704	107.9%
60-64 歳	歳	2,738	2,719	2,971	2,798	2,785	2,990	2,803	2,762	2,919	2,758	2,646	3,027	2,826	33,916	32,506	104.3%
65-74 歳	歳	9,972	9,301	10,059	9,595	9,915	10,007	9,899	9,543	9,477	9,025	8,958	10,123	9,656	115,874	119,460	97.0%
75 歳以上	歳	12,342	11,967	13,314	12,920	13,029	13,535	12,866	12,932	13,252	12,324	12,297	14,198	12,915	154,976	142,793	108.5%
合計	計	40,148	38,500	42,098	41,199	42,219	42,179	40,873	40,506	41,378	38,862	38,421	44,036	40,868	490,419	496,053	98.9%

### 4-9 年齢別延患者数(入院)

(単位:人)

年齢	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
0 歳	歳	866	971	889	787	894	979	958	881	983	998	888	912	917	11,006	10,391	105.9%
1-6 歳	歳	175	124	210	258	219	181	248	278	259	238	209	195	216	2,594	1,922	135.0%
0-9 歳	歳	1,057	1,127	1,138	1,059	1,145	1,195	1,242	1,195	1,286	1,257	1,116	1,183	1,167	14,000	12,610	111.0%
10-19 歳	歳	185	96	185	237	289	250	185	173	196	118	110	226	188	2,250	2,153	104.5%
20-29 歳	歳	584	475	568	604	457	532	435	477	448	342	456	458	486	5,836	6,922	84.3%
30-39 歳	歳	964	759	939	864	902	900	877	707	750	828	734	709	828	9,933	12,228	81.2%
40-49 歳	歳	834	957	866	906	849	797	797	815	946	963	781	1,071	882	10,582	11,615	91.1%
50-59 歳	歳	1,484	1,507	1,546	1,475	1,490	1,668	1,851	1,808	1,711	1,687	1,447	1,763	1,620	19,437	18,799	103.4%
60-64 歳	歳	951	934	1,110	1,167	807	790	1,002	932	914	1,005	1,014	1,106	978	11,732	12,977	90.4%
65-74 歳	歳	3,977	4,258	4,135	4,503	3,786	4,007	3,734	3,769	4,026	3,952	3,963	4,474	4,049	48,584	48,016	101.2%
75 歳以上	歳	6,502	7,022	6,765	6,514	5,778	6,489	7,300	6,650	7,213	7,320	6,649	6,597	6,733	80,799	72,416	111.6%
合計	計	16,538	17,135	17,252	17,329	15,503	16,628	17,423	16,526	17,490	17,472	16,270	17,587	16,929	203,153	197,736	102.7%

### 4-10 地区別延患者数(外来)

(単位:人)

市町村	月												月平均	当年度計	前年度計	前年比
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
下田市	976	920	1,013	962	961	1,038	1,039	1,019	993	895	874	1,124	985	11,814	10,786	109.5%
東伊豆町	732	678	748	773	749	785	743	700	697	646	660	845	730	8,756	8,245	106.2%
河津町	471	456	492	450	456	466	431	450	448	398	393	500	451	5,411	5,445	99.4%
南伊豆町	445	399	474	417	398	469	447	428	464	424	385	533	440	5,283	4,690	112.6%
松崎町	343	311	380	341	327	355	326	301	364	334	303	388	339	4,073	4,012	101.5%
西伊豆町	598	578	573	576	547	593	528	536	546	488	510	604	556	6,677	6,861	97.3%
熱海市	850	823	987	815	902	843	845	819	884	809	769	888	853	10,234	10,619	96.4%
伊東市	3,510	3,411	3,676	3,538	3,662	3,893	3,578	3,562	3,590	3,430	3,388	3,823	3,588	43,061	41,354	104.1%
沼津市	4,312	4,163	4,518	4,505	4,625	4,624	4,409	4,425	4,517	4,251	4,137	4,860	4,446	53,346	50,941	104.7%
三島市	4,382	4,124	4,454	4,461	4,641	4,614	4,479	4,367	4,376	4,240	4,236	4,826	4,433	53,200	51,411	103.5%
御殿場市	1,233	1,193	1,411	1,258	1,399	1,326	1,337	1,274	1,313	1,310	1,264	1,436	1,313	15,754	14,643	107.6%
裾野市	943	950	1,016	981	1,009	981	992	975	1,042	952	964	1,077	990	11,882	11,188	106.2%
伊豆市	4,524	4,338	4,823	4,734	4,681	4,725	4,478	4,538	4,691	4,311	4,290	4,838	4,581	54,971	53,757	102.3%
伊豆の国市	9,114	8,964	9,798	9,939	9,986	9,814	9,591	9,586	9,721	8,991	8,920	9,947	9,531	114,371	111,068	103.0%
函南町	3,548	3,359	3,643	3,427	3,643	3,534	3,468	3,459	3,574	3,408	3,374	3,797	3,520	42,234	41,505	101.8%
清水町	942	843	880	848	894	908	857	865	925	921	885	984	896	10,752	10,046	107.0%
長泉町	739	720	814	779	884	823	850	804	822	839	870	938	824	9,882	8,588	115.1%
小山町	202	217	265	239	215	212	228	217	216	213	215	239	223	2,678	2,669	100.3%
富士宮市	232	173	223	200	241	241	224	205	227	232	235	248	223	2,681	2,727	98.3%
富士市	568	532	543	545	545	535	553	545	557	540	518	627	551	6,608	6,234	106.0%
県内その他	384	352	383	404	384	393	440	410	418	373	347	405	391	4,693	4,179	112.3%
県外	1,100	996	984	1,007	1,070	1,007	1,030	1,021	993	857	884	1,109	1,005	12,058	12,785	94.3%
合計	40,148	38,500	42,098	41,199	42,219	42,179	40,873	40,506	41,378	38,862	38,421	44,036	40,868	490,419	473,753	103.5%

### 4-11 地区別延患者数(入院)

(単位:人)

市町村	月												月平均	当年度計	前年度計	前年比
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
下田市	641	547	505	602	426	707	725	622	804	782	715	592	639	7,668	6,356	120.6%
東伊豆町	498	437	519	395	362	317	228	425	446	424	331	380	397	4,762	4,669	102.0%
河津町	220	223	212	147	128	163	232	208	117	272	241	274	203	2,437	2,569	94.9%
南伊豆町	151	474	223	274	191	312	362	350	229	280	168	175	266	3,189	2,563	124.4%
松崎町	151	221	285	211	147	255	237	180	254	290	287	177	225	2,695	1,740	154.9%
西伊豆町	295	388	385	272	352	276	238	235	152	240	259	253	279	3,345	3,452	96.9%
熱海市	153	202	205	426	275	394	430	467	409	387	341	543	353	4,232	3,862	109.6%
伊東市	1,956	1,838	1,903	1,609	1,407	1,829	1,930	1,692	1,671	1,575	1,872	1,803	1,757	21,085	18,437	114.4%
沼津市	1,891	1,883	1,906	1,872	1,867	1,774	1,724	1,656	1,662	1,848	1,747	2,136	1,831	21,966	21,870	100.4%
三島市	1,703	1,917	1,626	1,780	1,618	1,685	1,706	1,477	1,955	2,023	1,723	1,694	1,742	20,907	20,587	101.6%
御殿場市	596	841	858	745	772	887	966	886	1,132	971	753	844	854	10,251	11,889	86.2%
裾野市	653	515	614	572	431	603	563	525	551	461	446	526	538	6,460	5,870	110.1%
伊豆市	1,611	1,732	1,707	1,847	1,599	1,739	1,843	1,720	1,687	1,601	1,536	1,648	1,689	20,270	19,872	102.0%
伊豆の国市	2,488	9,798	2,615	2,756	2,212	2,283	2,731	2,749	2,829	2,685	2,346	2,643	3,178	38,135	31,958	119.3%
函南町	1,291	1,112	1,115	1,358	1,468	1,163	1,189	1,255	1,367	1,409	1,403	1,360	1,291	15,490	14,981	103.4%
清水町	399	368	396	375	417	284	264	317	308	425	379	321	354	4,253	4,243	100.2%
長泉町	418	315	519	554	451	463	504	452	434	410	528	444	458	5,492	5,127	107.1%
小山町	134	178	148	134	168	160	190	141	158	142	176	236	164	1,965	2,444	80.4%
富士宮市	93	132	149	107	143	79	74	119	194	122	192	179	132	1,583	1,550	102.1%
富士市	400	222	267	280	265	309	355	234	306	210	196	471	293	3,515	4,084	86.1%
県内その他	241	215	356	210	210	371	315	238	257	285	291	242	269	3,231	2,543	127.1%
県外	555	778	739	803	594	575	587	578	568	630	340	646	616	7,393	7,071	104.6%
合計	16,538	24,336	17,252	17,329	15,503	16,628	17,393	16,526	17,490	17,472	16,270	17,587	17,527	210,324	197,737	106.4%